定形性の観点から見た現代朝鮮語の副詞節

東京外国語大学 大学院総合国際学研究科

黒島 規史

目次

略号一覧 vii

朝鮮語例文について viii

第 1 章　序論 1
1.1　研究の目的と対象 1
1.2　本稿の構成 3
1.3　本稿で用いる術語について 5
1.4　研究方法とデータ 6
1.5　朝鮮語の副動詞に関する先行研究 7
1.6　副詞節の構造的分類 11
1.6.1　副詞節の階層構造，独立性 11
1.6.2　副詞節の定形性 13
1.6.3　節間の同主語／異主語 16
1.7　副動詞の意味の概略 17
1.8　第 1 章のまとめ 22

第 2 章　副動詞と他の文法要素との連続性 23
2.1　副動詞と複合動詞の前部要素との連続性 26
2.2　副動詞と迂言的形式の前部要素との連続性 27
2.3　副動詞と助詞との連続性 30
2.4　副動詞と複合格助詞との連続性 42
2.5　副動詞と補文節との連続性 45
2.6　副動詞と副詞との連続性 46
2.7　副動詞と接続副詞との連続性 49
2.8　第 2 章のまとめ 50

第 3 章　副動詞と用言の語彙的性質 52
3.1　副動詞接辞と結合する用言の偏り 53
3.2　-key と用言の語彙的性質 54

3.3 -myense と用言の語彙的性質 58
3.4 -taka と用言の語彙的性質 62
3.5 -ko, -(a/e)se と用言の語彙的性質 65
3.5.1 -(a/e)se, -ko の先行研究 65
3.5.2 自動詞と結合した -ko, -(a/e)se の意味 69
3.5.3 他動詞と結合した -ko, -(a/e)se の意味 70
3.5.4 -(a/e)se, -ko と結合する動詞と他動性の意味特徴 79
3.5.5 -(a/e)se, -ko と結合する動詞の他動性と前景／背景 80
3.5.6 -ko, -(a/e)se と用言の語彙的性質のまとめ 82
3.6 -teni と用言の語彙的性質 82
3.7 -nikka と用言の語彙的性質 83
3.8 第 3 章のまとめ 85

第 4 章 「副動詞 + 焦点助詞」の形態，統語，意味 86
4.1 副動詞と焦点助詞の結合可能性 87
4.2 朝鮮語の焦点助詞の意味 90
4.3 「副動詞 + 焦点助詞」の統語，意味的な特徴 91
4.3.1 「-key + 焦点助詞」の統語，意味 91
4.3.2 「-myense + 焦点助詞」の統語，意味 100
4.3.3 「-taka + 焦点助詞」の統語，意味 107
4.3.4 「-(a/e)se + 焦点助詞」の統語，意味 111
4.3.5 「-ko + 焦点助詞」の統語，意味 122
4.3.6 「-nikka + 焦点助詞」の統語，意味 135
4.3.7 「-myen + 焦点助詞」の統語，意味 136
4.3.8 「-nuntey/-ntey + 焦点助詞」の統語，意味 137
4.4 条件／逆条件を表す「副動詞 + 焦点助詞」 139
4.4.1 条件を表す「副動詞 + =nun/=un」の統語，意味 139
4.4.2 逆条件を表す「副動詞 + =to」の統語，意味 144
4.4.3 「副動詞 + =nun/=un」と「副動詞 + =to」の関係 147
4.4.4 なぜ「副動詞 + 焦点助詞」が条件／逆条件を表すのか 148
4.4.4.1 時間的関係と条件の連続性 148
4.4.4.2 条件，逆条件の意味と焦点助詞 =nun, =to の関係 153
4.4.4.3 条件，逆条件の意味とアスペクトの関係 155
4.5 第 4 章のまとめ 155

第 5 章 「副動詞 + TAM」の形態，統語，意味 157
5.1 「副動詞 + アスペクト」の統語的制約 159

5.2 「副動詞 + 過去接辞」のテンス解釈 162
5.3 「副動詞 + ムード」の意味，ムードの認識主体 178
5.3.1 「副動詞 + [ADN kes kath-]」の統語，意味 179
5.3.2 「副動詞 + -keyss-」におけるムード接辞の意味，認識主体 185
5.3.2.1 -keyss- の意味 185
5.3.2.2 -keyss- の認識主体に関する先行研究 187
5.3.2.3 「副動詞 + -keyss-」におけるムードの意味，認識主体 . . . 188
5.3.3 「副動詞 + -l kes=i-」におけるムード形式の意味，認識主体 197
5.3.3.1 -l kes=i- の意味 198
5.3.3.2 「副動詞 + -l kes=i-」におけるムードの意味，認識主体 . . 198
5.4 第 5 章のまとめ 203

第 6 章 副詞節の主節用法 205
6.1 従属節の主節化 (insubordination) 205
6.2 朝鮮語の従属節の主節化に関する先行研究 206
6.3 主節化した節の定形性 207
6.4 副詞節の主節用法 208
6.4.1 定形性の観点から見た副詞節の主節用法 208
6.4.2 感情モダリティ 221
6.4.3 副詞節の定形性と主節化 222
6.5 その他の主節化 222
6.5.1 引用副詞節の主節用法 223
6.5.2 接続副詞の主節用法 226
6.6 主節化した節に付加できる要素 227
6.7 第 6 章のまとめ 228

第 7 章 結論 230
7.1 本研究のまとめ 230
7.2 節の定形性から見た朝鮮語の副動詞 232
7.3 今後の課題と展望 234

参照文献 236

謝辞 244

表目次

1 異なる語類的な性格を持つ動詞の派生形 5
2 本研究で用いた言語資料と語節数 7
3 日本における副動詞接辞の主要な研究 8
4 従属節内に含まれうる要素 11
5 朝鮮語における副詞節の定形性 16

6 朝鮮語の補助動詞とその下位分類 28
7 助詞の識別表：用言の活用形／助詞 31
8 ‘(i)lamyen’ の助詞化 37
9 ‘kathumyen’ の助詞化 39

10 副動詞接辞と結合する用言の種類 54
11 動詞，形容詞との結合による -key の意味，統語的差異 58
12 動詞のアスペクト的意味による -myense の意味 59
13 動詞のアスペクト的特徴による -ko の意味 67
14 動詞のアスペクト的特徴による -(a/e)se の意味 67
15 他動性の 10 の意味的特徴 71
16 二項述語階層 71
17 他動詞における -ko と -(a/e)se の数と割合 78
18 -ko, -(a/e)se が他動詞と結合したときの意味 81
19 副動詞接辞 -ko, -(a/e)se の意味と関連する用言のタイプ 82
20 副動詞接辞と関連のある用言タイプ 85

21 接続語尾と特殊助詞の結合可否 88
22 活用語尾と特殊助詞の結合可否 88
23 基礎資料の調査による副動詞接辞と焦点助詞の結合可否 89
24 朝鮮語の焦点助詞の分類 90
25 「-key + 焦点助詞」の出現頻度 92
26 基礎資料に現れた -key=to と結合する形容詞 99
27 「-key + 焦点助詞」と結合することの多い用言 100

28 「-myense+ 焦点助詞」の出現頻度 101
29 基礎資料に現れた -myense=pwuthe と結びついた動詞 105
30 -myense の意味と焦点助詞 107
31 「-(a/e)se + 焦点助詞」の出現頻度 112
32 「-ko + 焦点助詞」の出現頻度 123
33 条件の「ては」と -(a/e)se=nun 141
34 「副動詞 + =nun」と「副動詞 + =to」の関係 148
35 概念空間図 149
36 副動詞における条件と継起の連続性 150

37 副詞節の述語がどのような文法要素を持ちうるか 157
38 副動詞と TAM マーカーの結合可否 159
39 「副動詞 + 過去接辞 -(a/e)ss-」のテンス解釈 163
40 -myen の意味と過去接辞の結合可否 168
41 -(a/e)to の意味と過去接辞の結合可否 171
42 「副動詞 + 過去接辞」のテンス解釈 178
43 「副動詞 +[ADN kes kath-]」の出現頻度 180
44 基礎資料における「副動詞 +[ADN kes kath-]」の出現頻度 180
45 文類型による -keyss- の主体 188
46 基礎資料における「副動詞 + -keyss- 」の出現頻度 188
47 副動詞と結合したときの -keyss- の意味 197
48 副動詞と結合したときの -keyss- の主体 197
49 基礎資料における「副動詞 + -l kes=i-」の出現頻度 198
50 副動詞と結合したときの -l kes=i- の意味 203
51 副動詞と結合したときの -l kes=i- の主体 203

52 形態的観点から見た副詞節の主節用法 221
53 引用副詞節の主節用法 226

54 副詞節の定形性と関連する文法現象 233

図目次

1 各章で扱う副動詞と，副詞節の従属度の関係 4

2 複文タイプの連続体 25

3 副動詞接辞 -myense による動詞分類 61

4 朝鮮語の用言のアスペクト的クラス 63

5 -ko : -(a/e)se の割合 79

略号一覧

ABL	ablative（奪格）
ACC	accusative（対格）
ADM	admirative（感嘆）
ADN	adnominal form（連体形）
ADV	adverbial form（副動詞形）
ADVLZ	adverbializer（副詞化）
ALL	allative（沿格）
ALT	alternative（選択）
AND	andative（遠心）
ASS	assertive（確言）
AVS	adversative（逆接）
BEN	benefactive（受益）
CAUS	causative（使役）
CMPL	completive（完遂）
CMPR	comparative（比較格）
CNT	conative（試行）
COHR	cohortative（勧誘）
COM	comitative（共格）
COMP	complementizer（補文標識）
CONC	concessive（譲歩）
COND	conditional（条件）
COP	copula（コピュラ）
CSL	causal（原因・理由）
DAT	dative-locative（与位格）
DECL	declarative（叙述）
DESI	desiderative（願望）
DISC	discontinuous（中断）
DUR	durative（結果状態）
EQU	equative（様態格）
EXPL	explanative（説明）
F	feminine（女性）
FCTC	factual conditional（事実条件）
GEN	genitive（属格）
HAB	habitual（習慣）
HON	honorific（尊敬）
HUM	humble（謙譲）
IMMD	immediate（即時）
IMPF	imperfective（未完了）
IMPR	imperative（命令）
IMPS	impossible（不可能）
INDF	indefinite（不定）
INDQ	indirect question（間接疑問）
INST	instrumental（具格）
INTJ	interjection（間投詞）
INTRR	interrogative（疑問）
INTRZ	intransitivizer（自動詞化）
IRR	irrealis（非現実）
LOC	locative（位格）
M	masculine（男性）
MNN	manner（様態）
NCOP	negative copula（否定のコピュラ）
NEG	negative（否定）
NEGQ	negative question（否定疑問文）
NMLZ	nominalizer（名詞化）
NOM	nominative （主格）
NPOL	non polite（非丁寧）

NPST	non past（非過去）	SPEC	speculative（推量）
OBLG	obligation（義務）	TOP	topic（主題）
PL	plural（複数）	UNCT	uncertainty（不確実）
PLPF	pluperfect（大過去）	VBLZ	verbalizer（動詞化）
POL	polite（丁寧）	VEN	venitive（求心）
PREP	preparation（準備）	VOC	vocative（呼格）
PROB	probability（蓋然性）	VOL	volitive（意志）
PROG	progressive（進行）	WIT	witness（目撃）
PROM	promissive（約束）	1	1 人称
PST	past（過去）	2	2 人称
PURP	purposive（目的）	3	3 人称
QUOT	quotative（引用）	-	接辞境界
RDP	reduplication（反復）	=	接語境界
REG	regretive（後悔）	#	複合語境界
SEQ	sequential（継起）	~	反復境界
SMBL	semblative（様相）	:	形態素境界非表示

朝鮮語例文について

朝鮮語例文はハングル表記とともに，Yale 式のラテン文字転写をして提示する．ラテン文字転写には淺尾仁彦氏が作成した「ハングル→イェール式ローマ字変換」(http://asaokitan.net/tools/hangul2yale/) を利用した．ただし，両唇音 (p, pp, ph, m) に付く wu は u で表記せず，そのまま wu で転写している．

形態素境界について，接語 (clitic) の判断基準は，音韻的な基準によらず，あくまで形態的な基準によっている．つまり，接語は独立性を持たないという点では接辞と共通しているが，接語のホストは一つの語類に留まらず，ある程度幅のあるホストを許容するところに接辞との差異があると見る．

グロスは略号一覧を参照されたい．朝鮮語は一部の接尾辞が語幹に接続するときに媒介母音 -u- が入る場合があるが，これについてはグロスが煩雑になるのを避けるため，接尾辞などの一部としている．迂言的形式の一部になる副動詞接辞 -a/e, -ko は単に ADV (adverbial) と表記することにする．

第 1 章

序論

1.1　研究の目的と対象

現代朝鮮語（以下，単に「朝鮮語」と称する）は用言 (verbal) の屈折形として多くの副動詞を有し，副動詞は述語修飾機能および副詞節述語を基本的な機能としながら，様々な機能を持つ．副動詞は形態，統語，意味の観点から研究の蓄積があり明らかになっている点は多い．しかし，副動詞の形態，機能と意味の関連，各副動詞間の関係をめぐる問題についてはまだ研究の余地がある．副動詞には種々の接辞や助詞が結合するが，その結合体の意味は 1+1 のように単純に求められるわけではなく，詳細な研究が必要である．副動詞に接辞や助詞が結合しうるという事実は，朝鮮語の膠着的な形態法の特徴がよく現れている部分であり，解決されるべき重要な課題であるといえる．また，これまで個々の副動詞，あるいは類似した意味を表す副動詞をいくつかのグループにまとめ，その意味や統語に着目した研究は多かったが，一部の副動詞にとどまらずより広く副動詞を見渡し，その全体像を描く研究も必要である．

本研究は朝鮮語の副詞節に関わるいくつかの問題，(i) 副動詞接辞と結合する用言の語彙的性格と副動詞の意味の関連，(ii) 副動詞接辞に焦点助詞が後接する場合の統語と意味，(iii) 副動詞がテンス，アスペクト，ムード (TAM) マーカーと結びつく場合の副動詞，TAM マーカーの意味，(iv) 副詞節が主節として現れる場合の意味と，主節としての現れやすさの 4 点について，副詞節の定形性という観点から，副動詞の形態的特徴と，それが表す意味の関係を明らかにすることを目的とする．あわせて，網羅的ではないものの，朝鮮語の副動詞について，それぞれの副動詞間の関係を体系的に記述することも目的である．これまでの現代朝鮮語の副動詞の研究においては，個々の副動詞の統語的特徴や意味が対象になる，あるいは類似形式間の差異を問題にする研究が多かったのに対し，各副動詞間の関係を明らかにしようとする研究は少なかった．副動詞を扱った代表的な研究としてはクォン・ジェイル (1985), イ・ウンギョン (2000), ユン・ピョンヒョン (2005) などがあり，副詞節の階層性について論じた野間 (1997) などの研究があった．本研究ではこれらの先行研究を参考にしつつも，これまであまり扱われてこなかった上記 (i) から (iv) の問題について，各副動詞の関係を論じていく．

本研究では朝鮮語において書きことば，話しことばの別なく頻繁に用いられる副動詞接

辞を研究対象とする．対象は -key, -myense, -taka, -teni, -(a/e)se, -ko, -nikka, -myen, -(a/e)to, -nuntey/-ntey[1], -ciman の 11 個である．考察対象はイ・ウンギョン (1994) の調査を参考にした．イ・ウンギョン (1994: 290) は短編小説を対象に，そこで用いられた副動詞接辞の頻度を調査している．10 回以上現れた副動詞接辞は，多い方から順に，-ko, -(a/e)se, -myen, -nuntey/-ntey, -ciman, -ni(kka), -myense, -taka, -(a/e)to, -ci であるという．本研究ではイ・ウンギョン (1994: 290) の挙げている副動詞接辞から -ci を除いたうえで，-key と -teni を追加している．-key については特に副詞節の主節化において様々な意味を表し，この現象を考察するうえで欠かせない対象であるためである．また -teni に関しては先行研究では回想を表すとされる -te- と副動詞接辞 -ni が結合したものとして扱われることが多いが，意味的にも一つの副動詞接辞として見るべきであり，用いられる頻度も高いからである．前後の内容が相対することを表す -ci に関しては，イ・ウンギョン (1994: 314) が述べるとおり，多く現れたのは例文を収集した資料の持つ傾向とも考えられ，それほど頻繁に用いられるとも考えられないため，ひとまず対象から除外した．同時的時間関係を表す -myense と理由を表す -nikka にはそれぞれ類似した意味機能を持つ -mye, -ni という副動詞接辞もあるが，これらはどちらかというと書きことばで用いられることが多いため，考察対象とはしない．同じ理由で日本語の連用形に当たる -a/e も対象から除外した．本研究で対象とするのは上に挙げた 11 個の副動詞接辞であるが，本稿の各章において全ての副動詞接辞が必ずしも中心的な考察対象となるわけではなく，扱う問題によって考察対象外となる副動詞接辞もある．詳しくはそれぞれの章で後述する．

朝鮮語の副動詞は，(1-1) のように他の述語を修飾する機能を果たす場合もあれば，(1-2) のように副詞節述語として機能することもある．

(1-1) na=nun nyusu=lul po-**myense** achim#pap=ul mek-nunta.
1SG=TOP ニュース=ACC 見る-ADV.SIM 朝#ご飯=ACC 食べる-DECL.NPST
나는 뉴스를 보면서 아침밥을 먹는다.
「私は，ニュースを見ながら朝ご飯を食べる．」(国立国語院 2005: 708; 韓国・国立国語院 2012: 798)

(1-2) onul sikan=i eps-**umyen** taum=ey manna=yo.
今日 時間=NOM ない-ADV.COND 次=DAT 会う:COHR=POL
오늘 시간이 없으면 다음에 만나요.
「今日時間がなければ，また今度会いましょう．」(国立国語院 2005: 703; 韓国・国立国語院 2012: 793)

副動詞は (1-1), (1-2) のような機能を主としながらも，(1-3) のように等位的に節を繋ぎ，事柄を列挙する場合もある．列挙の場合は，必要であれば一つの文の中で，同じ節を何度も繰り返すことができるのが特徴である．(1-3) の他には，(1-4) のように固定化した表現として挿

[1] 動詞と存在詞 (iss-「ある，いる」, eps-「ない，いない」) に結合するときは -nuntey となり，形容詞と指定詞 (=i-「〜である」, ani-「〜でない」) に結合するときは -ntey となる．本研究ではこれらを一つの形態素と見なし -nuntey/-ntey のように表記することとする．

入句のように用いられる場合もある．

(1-3) say=ka wul-**mye** kkoch=i phi-**ko** palam=i pwul-**ko** pyeth=i
鳥=NOM 泣く-ADV.SIM 花=NOM 咲く-ADV.SEQ 風=NOM 吹く-ADV.SEQ 日差し=NOM
na-nta.
出る-DECL.NPST
새가 울며 꽃이 피고 바람이 불고 볕이 난다.
「鳥が鳴き，花が咲き，風が吹き，日が出る．」(ソ・ジョンス 1994: 1018)

(1-4) yey=lul tul-**ese** ney=ka haksayng=ila-ko hay po-ca.
例=ACC 挙げる-ADV.SEQ 2SG=NOM 学生=COP:DECL.QUOT-COMP する:ADV CNT-COHR
예를 들어서 네가 학생이라고 해 보자.
「例えば，君が学生だとしてみよう．」(国立国語院 2005: 530; 韓国・国立国語院 2012: 590)

本研究では，基本的には (1-1), (1-2) のような，副動詞が述語修飾機能および副詞節述語として機能する場合を対象として扱う．その他，副動詞形は様々な機能を有する．副動詞形の多様な機能については本稿の第 2 章で詳しく述べる．

1.2 本稿の構成

本稿の第 2 章から第 6 章までは，各章で扱う副動詞 (節) の従属度が高い方から低い方まで順に配置する．つまり，副動詞形が助詞や複合動詞の一部として振る舞う場合が最も従属度が高いため先に，第 6 章で考察する副詞節の主節化については，そもそも副詞節が主節として振る舞うわけなので，最も従属度が低いため後に配置される．第 3 章では副動詞接辞になにも付加要素がない場合について考察するため第 2 章の次に配置することにする．第 4 章で論じる，副動詞接辞に焦点助詞が後接する例は，必ずしも第 3 章で扱う対象より副詞節の従属度が低いとは言えない場合もあるが，時間的関係を表す副動詞接辞に主題を表す =nun/=un が後接することで条件を表す場合などは，より拡大された節について扱うことになるので，第 3 章の後に論じる．第 5 章で扱う問題は，例えば副詞節が独自にテンスやムードを持つ場合にはそれだけ定形性を持ち従属度が低いと考えられるため，第 4 章の次に配置する．この本稿の構成と，各章で扱われる現象における副詞節の従属度との関係を示すと次の図 1 のとおりである．

以下で第 2 章以降で論じていくことを簡単に整理しておく．

第 2 章では副動詞が広い意味で文法化し，助詞や副詞として機能する例について，その連続性を概観する．助詞や副詞としての例は本研究の対象にはならないものの，第 3 章以降の問題を論じていくうえでも，対象を限定する意味でも重要である．また，副動詞が助詞や副詞としての機能を果たす場合というのは TAM マーカーなどが結合しないため最も定形性の度合いが低いと考えることができる．副詞節の定形性と関連して第 3 章から第 6 章までの問

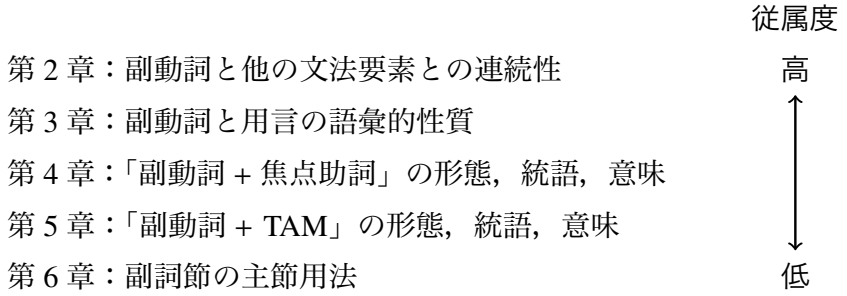


図 1　各章で扱う副動詞と，副詞節の従属度の関係

題を論じていくに際しても，朝鮮語の副動詞の多様なあり方を考えるうえでも欠かせない観点である．

第 3 章では副動詞接辞と結合する用言の語彙的な性格と副動詞の意味の関連について論じる．副動詞接辞の一つ -key は，例えば形容詞と結合するか動詞と結合するかで大きく意味が異なってくる．形容詞の場合，副詞句として主に動作の様態を表す一方，動詞の場合は目的や程度などを表す．このように，本研究で対象とする副動詞接辞の中でも最も定形性の低い -key は，おおまかに言えば状態性述語か動作性述語かという語彙的な性格に意味が左右される．その他の副動詞接辞で比較的定形性の高い -nikka「〜から」, -myen「〜たら，〜れば」, -(a/e)to「〜ても」, -nuntey/-ntey「〜けど」, -ciman「〜が」は，-key と異なり，副動詞接辞自体の意味は用言の語彙的特性には左右されない．このように，副詞節の定形性によって，どの程度述語の語彙的な特性が影響するかが異なってくるのである．中心的な考察対象となる副動詞接辞は -key, -myense, -taka, -teni, -(a/e)se, -ko である．ここではまた，主に時間的先行を表す -(a/e)se, -ko の意味が，これらの接尾辞と結合する動詞の他動性と関連があるということを詳しく論じる．

第 4 章では副動詞接辞に =nun/=un「〜は」, =to 「〜も」, =kkaci「〜まで」, =pwuthe「〜から」などの焦点助詞が後接する場合について考察する．副動詞接辞には種々の焦点助詞が後接することができる．例えば -myense「〜ながら」の場合，-myense=nun, -myense=to, -myense=kkaci, -myense=pwuthe のように様々な焦点助詞が付く．一方，-nikka「〜から」, -myen「〜たら，〜れば」, -(a/e)to「〜ても」, -nuntey/-ntey「〜けど」, -ciman「〜が」など比較的定形性の高い副詞節の場合は後接する焦点助詞が限られる．このように，副詞節の定形性と，副動詞接辞に後接する焦点助詞の種類には関連があるのである．さらに，副動詞接辞に同じ =nun/=un が付いたとしても，定形性の低い副詞節と高い副詞節では，節全体が表す意味が異なってくる．さらに，この問題に関連して，=nun/=un, =to が付くことで継起的な時間関係を表す副動詞接辞が条件の意味で用いられる場合について，条件の意味を表す統語的環境や，なぜ条件の意味を表すことができるかという点について明らかにする．

第 5 章は副詞節がテンス，アスペクト，ムード形式を含む場合に，副動詞の定形性によっ

て，これら TAM マーカーが表す意味がどのように制限されるのかについて論じる．すでに先行研究でも指摘されているように，副詞節の定形性によって，節内部に生起可能な TAM マーカーには異なりがある．副動詞がテンス形式と結合する場合については，副詞節のテンスが相対テンスとして解釈されるか，絶対テンスとして解釈されるかを明らかにしていく．ムード形式と結合する場合については，主にムード形式の意味，ムードの認識主体がどのように制限されるかについて考察する．

第 6 章は本来的な副詞節が主節として用いられる従属節の主節化 (insubordination) について扱い，副詞節の定形性と主節としての現れやすさの関連について述べる．本研究では，副詞節が定形性を備えていれば主節として現れやすく，かつ副詞節の意味を変えずに主節化することができることを明らかにする．そのうえで，定形性の高い副動詞は副詞節の主節用法において丁寧さを表す =yo が付加されない感情モダリティが表しにくいということを主張する．

最後に，第 7 章は第 3 章から第 6 章までのまとめと，今後の課題について述べる．

1.3　本稿で用いる術語について

本稿では，用言に接続され主に副詞的機能を示す屈折形を副動詞 (converb) と呼ぶことにする．Haspelmath (1995: 4) は converb を “a nonfinite verb form whose function is to mark adverbial subordination”（副詞的な従属関係を示す機能を持つ，非定形の動詞形）と定義し，副動詞を含めた動詞の三つの派生形を次の表 1 のように整理している．

表 1　異なる語類的な性格を持つ動詞の派生形 (Haspelmath 1995: 4)

Word class:	Noun	Adjective	Adverb
Derived verb form:	masdar [2]	participle	converb
	(= verbal noun)	(= verbal adjective)	(= verbal adverb)
Syntactic function:	argument	adnominal modifier	adverbial modifier

副動詞はその名のとおり副詞的機能を持つ動詞の屈折形である．朝鮮語の副動詞は動詞に限らず形容詞，存在詞，指定詞 (コピュラ) なども形態的に同様の屈折をするため，そういった意味では適切な術語とは言えないかもしれない．ただ，朝鮮語の述語形式は一部の屈折形に差異が見られるのみであるため，形容詞などを別に立てず，その名付けはどうであれ用言 (verbal) と一括りにする考え方もできる．本稿では副詞的機能を持つ用言の屈折形を便宜的に副動詞と呼ぶことにする．韓国の研究では「連結語尾」「接続語尾」などと呼ぶことが多いが，本稿ではより広く言語記述に使用されている副動詞という術語を採用することとする．副動詞という術語を採用するに際しては，もう一つ問題がある．それは，副動詞を屈折形と見る

[2] Haspelmath (1995: 48, fn. 2) によると，masdar という術語はアラビア語文法から来ており，広く西アジアや北アフリカの言語の記述に用いられているという．

か，派生形と見るかという問題である．Haspelmath (1995: 4) が派生形と述べているとおり，副動詞は一種の品詞転換という側面がある．Haspelmath (1996) はそのような品詞転換的屈折を word-class-changing inflection と呼んでいる．word-class-changing inflection (品詞転換的屈折) と word-class-changing derivation (品詞転換的派生) との違いは，項構造が維持されるかにあり，通常前者では項構造が維持され，後者では項構造が維持されない．Haspelmath (1996: 50) でカンナダ語の副動詞を品詞転換的屈折の例として挙げているように，朝鮮語の副動詞も副詞的に振る舞いつつも項構造をよく維持するため，品詞転換的屈折の一例と見ることができる．

朝鮮語の節の構造に関して，野間 (1997: 105) は朝鮮語の節の種類を次のように分類している．

主節＝文を最終的に統合する述語を持つ節
並列節（対等節あるいは等位節）＝主節と同等の資格を持つ節
従属節（従位節あるいは複文）＝上位文に従属する節
　連体節（形容詞節あるいは冠形節）＝体言を修飾する節
　連用節（副詞節あるいは状況節）＝用言を修飾する節
　名詞節＝名詞の機能を果たす節
　引用節＝引用された節

(野間 1997: 105)

他の述語を修飾する節に関しては，連用節とも呼べるが，これは主に日本語学の用語であるため，本研究ではより一般的に用いられている副詞節 (adverbial clause) を採用することとする．

1.4　研究方法とデータ

本研究では既存のコーパスとドラマのスクリプトから用例を抽出し，その用例から帰納的に考察する手法を取る．必要に応じていくつか朝鮮語例文を作成したところもある．用例の自然さに関しては朝鮮語母語話者[3]の方に対するエリシテーションを行った．

コーパスは 2007 年に公開された “21 세기 세종계획 최종 성과물”（21 世紀世宗計画最終成果物）の문어（書き言葉 ）の中から，現代語を対象とするために 1990 年代以降の作品に限定し，ジャンルは상상적 텍스트（想像的テクスト）, 상상（想像）を含めた소설（小説），시나리오（シナリオ），드라마 극본（ドラマ脚本），희곡（戯曲），방송국 (대본)（放送局（台本））を選んだ．“21 세기 세종계획 최종 성과물” から作品を選定する際には，ソウル方言以外の方言が大量に混ざった作品と歴史小説は除外した．このコーパスのデータでは小説が大部分を占めるため，話し言葉のデータを補う目的で，KBS 公式サイトにて公開されているドラマ台

[3] 本研究を行うにあたっては，主に 2 名の方（ソウルと大邱出身）に例文の自然さの判断などを尋ねた．どちらも筆者と同じ 30 代の方である．

本 9 作品，방송대본열람（放送台本閲覧）[4]のサイトにて台本を公開しているドラマ台本 1 作品から収集した．本稿ではこれらの言語資料を便宜的に基礎資料と呼ぶことにする．ドラマ中のセリフは疑似会話体とも呼べるものであり，実際に話された言葉とは異なる面があるため，この点については本研究の限界と言わざるを得ない．しかし，第 6 章で考察する副詞節の主節化に関する例の中には，言い争いや独り言の場面で使用される言葉もあるため，そのような例は実際の会話のデータを採集しても，まとまった数の例を集めることは難しいと考えられる．この点においては，ドラマのスクリプトを使用することの利点があると言える．

本研究で利用する言語資料のおおまかな内容を整理すると以下の表 2 のようである．

表 2　本研究で用いた言語資料と語節数

ジャンル	語節数[5]
小説	8,059,518
ドラマ・映画スクリプト	1,627,164
戯曲	84,001
放送局台本	214,318
合計	9,985,001

コーパスの規模は，表 2 に示したように，およそ 1000 万語節である．

ドラマ作品名は末尾に示す．用例を引用する際，「21 世紀世宗計画最終成果物」からの引用であればファイル番号を，その他のドラマ台本の場合，ドラマ作品名と話数をアラビア数字で表記する．

1.5　朝鮮語の副動詞に関する先行研究

朝鮮語の副動詞接辞に関する研究は，イ・ウンギョン (2015c) も述べるように，各々の副動詞接辞の意味範疇を設定したうえで，例えば条件なら条件に属する副動詞接辞の意味や統語的特性について記述するというのが主流であった．1980 年代までの副動詞接辞の先行研究についてはクォン・ジェイル (1991) にまとまっている．その後の研究については，意味に的を絞った論考ではあるがイ・ウンギョン (2015c) がある．副動詞接辞に関する研究は数多く成されているものの，朝鮮語の副動詞接辞を広く扱い，体系的に論じた論考は多くない．主要な副動詞接辞を体系的に扱った研究としてはキム・ジンス (1987), ユン・ピョンヒョン (1989), チェ・ジェヒ (1991), イ・ウンギョン (2000), ユン・ピョンヒョン (2005) などを挙げることができる．研究方法としては作例中心の研究が多いなか，四つの副動詞接辞のみではあるものの実際の言語資料を分析したナム・ギシム (1994) は貴重である．また，副動詞接辞の研究は日本においても発展した．特に日本においては，理由を表す副動詞接辞 -nikka についての権

[4] サイトの URL は末尾の「用例収集に用いた資料」に記載した．

[5] 語節は朝鮮語の分かち書きの単位に相当する．日本語の文節に似た単位である．

(1992) の研究が重要である．権 (1992) は実際の言語資料に基づいて用例を分析した点，出現頻度を示した点，用言のタイプと副動詞が表す意味との関連を明らかにした点において画期的であった．その後も権 (1992) のように，実際の言語資料に基づき副動詞接辞を考察した研究が多く現れた．本研究と関わりのある研究で主なものを表 3 に挙げる．

表 3　日本における副動詞接辞の主要な研究

副動詞接辞	先行研究
-myense「〜ながら」	柴 (1994)，鄭 (2005)
-taka「〜ている途中で」	野間 (1993)，内山 (2004)
-ko「〜て」	鄭 (1996)
-(a/e)se「〜て」	権 (1994)
-nikka「〜から」	権 (1992)
-teni「〜すると，〜したところ」	松尾 (1997)
-nuntey/-ntey「〜けど」	池 (2013, 2018)
-ciman「〜が」	池 (2017, 2018)
-ko, -(a/e)se「〜て」	内山 (1999)，鄭 (2002)
-(a/e)se, -nikka「〜ので，〜から」	五十嵐 (1997)

表 3 に挙げた先行研究では，それぞれの副動詞接辞の意味，統語的特徴が詳細に明らかにされている．しかし，各研究では対象を限定し，論じられる問題が混同しないようにするために，副動詞接辞に焦点助詞が付いた例や，副動詞が TAM マーカーを含む例を対象から除外する場合が多かった．また，権 (1992) においては -nikka が文末に生起する例を扱っているものの，他の研究ではほとんど扱われていない．これらの問題が扱われていなかったことについては，先行研究の問題点というよりも，その後解決されるべき課題として積み残されていたということができる．韓国の研究ではこれらの問題を扱った研究はあったものの，やはり副動詞接辞を広範に扱った体系的な研究には乏しかった．

次に，本研究の各章のテーマに関する先行研究と，明らかにされるべき問題点について論じ，最後に本研究の意義について述べる．

まず第 2 章では朝鮮語において副動詞が文法化して助詞になったり，迂言的形式の一部を成す例について，その連続性を検討したうえで考察対象を限定する．ここで扱う例は，菅野 (2006b) が分析的な形と呼ぶものを多く含んでいる．副動詞か，助詞かという問題についてはナム・ユンジン (2000) で論じられており，任 (2006) がさらに検討を加えている．また，しばしば後置詞などと呼ばれる複合格助詞については塚本 (2012) の研究がある．副動詞形が副詞となっている例については李錦姫 (2011)[6]に語構成のパターンごとに詳しいリストが挙げられている．これまで様々な研究において，副動詞形と他の語や文法形式の構成要素との連続性

[6] 朝鮮語の姓名の表記に関しては，著者に従うこととする．漢字の場合は漢字で，ハングルの場合はハングルで表記する．姓名の読み方は漢字，ハングル表記に関わらず参照文献のところに示した．

が扱われることがあったが，それぞれのケースについて，まとめて論じた研究や，どのような副動詞接辞が利用されているかに注目した研究はなかったようである．そのため，本研究では副詞節の定形性の観点から，どのような副動詞接辞が他の構成要素になりやすいのかということにも着目する．

次に第 3 章では，副動詞の意味と，副動詞接辞と結合する用言の性質との間の関連について論じる．このテーマに関わりのある研究は，権 (1992) 等，主に日本の研究が中心となってきた．朝鮮語の動詞のアスペクト的クラスが浜之上 (1991) によって提示されてから，この動詞分類を援用した研究が現れた．それが，同時的関係を表す -myense の研究である鄭 (2005)，中断を表す -taka の研究である内山 (2004)，そして継起を表す -ko と -(a/e)se の研究である内山 (1999)，鄭 (2002) である．内山 (2004) と鄭 (2005) に関しては，これらの研究が対象としている副動詞接辞 -myense と -taka がアスペクト的意味を表す接尾辞であるために，浜之上 (1991) のアスペクト的クラスを援用した研究が功を奏していると考えられる．しかし，-ko と -(a/e)se は継起的意味を表すといっても，実際の意味はさらに複雑であり，単純にアスペクト的な意味を表すとは言いがたい．したがって，-ko と -(a/e)se に関しては既存の動詞分類によらず，これらが結合する用言のどのような特徴によって副動詞全体の意味が決まるのかを再検討する必要があると考えられる．本研究では主に -ko と -(a/e)se が用言のどのような特徴と大きく関連するのかを明らかにする．さらに， 野間 (1996) が節の階層構造と，節内の用言の性質との関係に言及しているものの，詳しい研究はその後現れなかった．本研究では -myense, -ko と -(a/e)se 以外は先行研究に依拠しつつも，改めて副詞節の定形性が低いほど，副動詞接辞と結合する用言の制約が大きいということを示す．

第 4 章では副動詞に焦点助詞が結合した例を扱う．副詞節の定形性が低いほど多くの焦点助詞が結合可能なことを示したうえで，各々の結合例について意味，統語的特徴を記述していく．さらに，「副動詞 + 焦点助詞」が条件，逆条件を表す例については，なぜ時間的な関係を表す副動詞接辞が焦点助詞と結合することで条件のような意味を表すのかにまで踏み込んで論じる．韓国の研究では，ペク・ナクチョン (2003) 等，共時的には副動詞接辞と焦点助詞に分離不可能な一形式を「統合形」として論じているため，本研究の対象とは重ならない場合が多い．歴史的には副動詞接辞に様々な焦点助詞が結合し，共時的に一つの副動詞接辞になっている例は条件の -myen をはじめいくつかあるが，本研究ではそのような副動詞接辞を「副動詞 + 焦点助詞」とは見ない．共時的に一つの形式と考えられる副動詞接辞を対象にした研究を除くと，イ・ギガプ (2001), キム・チャンファ (2008), ユ・ユヒョン (2014) 等，副動詞接辞に =nun/=un, =to が結合した場合の例を対象とした研究はいくつかあるものの，対象となっている例の範囲は限られている．そのため，本研究では少しでも広い範囲を見渡せるように，11 個の副動詞接辞と 15 個の焦点助詞を対象として，それぞれの結合例を考察する．「副動詞 + 焦点助詞」が条件，逆条件を表す例についても，焦点助詞 =nun/=un, =to 両方の結合例を見ることによって，より体系的にこの現象が捉えられると考えられる．

続いて第 5 章では，副詞節の述語がテンス，アスペクト，ムード (TAM) のマーカーを含む例について，意味，統語的な特徴を示す．1.6 でも後述するように，主節に生起可能な TAM マーカーが副詞節で制限されれば，その節はそれだけ文から遠く，定形性が低いということができる．この第 5 章ではさらに，TAM マーカーが生起できるか，できないかだけでなく，TAM マーカーの意味がどのように制限されるかについて考察する．テンスに関しては，主節時を基準とした相対テンスなのか，発話時を基準とした絶対テンスなのか，ムードに関しては，その意味が意志なのか推量なのかということまで，節の定形性が関わってくる．韓国の研究では副動詞接辞の研究および TAM の研究において一部扱われており，テンスに関しては崔東柱 (1994), ハン・ドンワン (1996) など，ムードに関してはナム・ギリム (1998), パク・チェヨン (2006) らの研究があったほか，野間 (1996) にも全体的な見取り図は提示されていたが，まとまった研究は見られなかった．そこで，本研究では，それぞれの副詞節と TAM マーカーの結合可否だけでなく，特にテンス，ムードマーカーの意味が節の定形性と相関しどのように制限されるかについて明らかにする．

最後に第 6 章では副詞節が主節を伴わず，副動詞で統合された節自体が主節として現れる insubordination について考察する．考察する際にはまず定形性に関わる形態的な観点から，主節化した節が過去接辞，丁寧さの =yo と結合可能かということを基準にする．そして，元々副詞節の定形性が高いほど意味変化をこうむらずに主節として現れることができるということを主張する．さらに，定形性が高い節は丁寧さが付加されない感情モダリティを表しにくいことを明らかにする．これまでの研究では，主節用法の個別の意味や，それぞれの主節用法がどのように文法化してきたかという観点からの研究が多かった．日本語の insubordination の研究では白川 (2009, 2015) が主節用法のモダリティ的意味について考察しているが，朝鮮語においては，そのような観点からの研究は見られず，節の定形性との関係への言及もなかった．本研究ではこのような点を補完し，節の定形性という観点から朝鮮語の副詞節の主節用法について記述する．

ここで述べてきたように，本研究では副詞節の定形性が研究全体を貫く重要な観点になっている．次節では，副詞節の定形性に関する先行研究について概観しながら，それらを参考にして本研究で前提とする副詞節の定形性を提示する．

1.6　副詞節の構造的分類

1.6.1　副詞節の階層構造，独立性

日本語においては南 (1974, 1993) の研究がはやい段階で副詞節の構造的性格を論じた．これらの研究は「南モデル」としても知られている．南 (1974) は副詞節[7]が含みうる様々な文法要素に従って，日本語の副詞節を A 段階，B 段階，C 段階に分けた．それぞれの段階は文らしさの度合いを反映しているとされる．A 段階には -ナガラ，B 段階には -ナラ，C 段階には -カラなどが含まれる．南 (1974) はそれぞれの副詞節が抱える要素として，主に次の三つ，(i) 他の副詞節，(ii) 主題標識や格成分，(iii) 述語に結びつくテンスやムードを調査している．

朝鮮語の研究においては，野間 (1996), 野間 (1997) が，従属節の階層構造を扱っている．これらの研究は，直接の言及はないものの，南不二男氏の研究に影響を受けていると考えられる．野間 (1996) でも南 (1974) の研究と同様に，朝鮮語の副詞節が互いにどのような他の節を含みうるか，副詞節内に格成分等どのような要素を含むか，述語がテンス接辞等どのような文法要素と結合可能かということを調査し，その結果を示している．具体的な例として，表 4 に節内にどのような要素が含まれるかということを調査した結果を引用する．

表 4　従属節内に含まれうる要素 (野間 1997: 114)

		←相対的に客観的な要素 (非 modal な要素)							相対的に主観的な要素 (modal な要素) →		
含まれる要素 → 含む従属節 ↓		対格 対象語 kukes=ul それを	与格 対象語 ku=eykey 彼に	様態 副詞 chenchenhi ゆっくり	否定 呼応副詞 cenhye 全然	場所 状況語 cip=eyse 家で	主語 tongsayng=i 弟が	時間 状況語 cikum 今	主題 =nun/=un 非対比 -は	評価 副詞 taytanhi とても	陳述 副詞 ama たぶん
様態	-myense	+	+	+	-	-	-	-	-	-	-
様態	-taka	+	+	+	+	-	-	-	-	-	-
様態	-(a/e)se	+	+	+	+	-	-	-	-	-	-
条件	-myen	+	+	+	+	+	+	+	-	-	-
理由	-(a/e)se	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-
理由	-nikka	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-
譲歩	-(a/e)to	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-
反意	-ciman	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-
反意	-nuntey	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-

野間 (1997: 115) が述べるように，表 4 は，朝鮮語の副詞節には様態節のように節内に含める要素が少なく節としては不十分なものから，反意節のように主節に近いものまで段階があるということを示している．

野間 (1997) が節内に含むことができる要素によって，節の構造的性格を論じていたのに対し，イ・ウンギョン (2000) では次の (1-5) から (1-7) の形態，統語的特性により，従属節の独立性と依存性を判断している．

[7] 南 (1974, 1993) では「従属句」と呼んでいる．

(1-5)　主語の独立性

(1-6)　先語末語尾[8]の結合の独立性

　a. 主体尊待素の結合の独立性

　b. 時制素の結合の独立性

　　i. 未来時制素の結合の独立性

　　ii. 過去時制素の結合の独立性

(1-7)　その他の特性

　a. 否定素の結合の独立性

　b. 分裂文の形成

　c. 先行節と後行節の分離性

イ・ウンギョン (2000) は朝鮮語の副詞節を (1-8a) のように意味ごとに分類している．ボールドは引用者が付したものであり，ボールドになっている副動詞接辞は本研究の対象であることを意味している．イ・ウンギョン (2000) は (1-5) から (1-7) の統語的なテストをとおして，副詞節の独立性を (1-8b) のように提示している．(1-8b) では ‘>’ の左にある意味範疇ほど独立性が高いことを表している．

(1-8)　a. 副動詞接辞の意味分類 (イ・ウンギョン 2000)

　対照：**-ciman**, -na, -toy

　羅列：**-ko**, -mye

　選択：-kena, -tunci

　背景：**-nuntey/-ntey**

　原因：**-(a/e)se**, **-nikka**, -mulo, -kiey, -nulako

　条件：**-myen**, -(a/e)ya, -ketun

　譲歩：**-(a/e)to**, -telato, -ntul

　結果：**-key**, -tolok

　時間：-kose, **-(a/e)se**, **-taka**, etc.

　b. 副詞節の独立性 (イ・ウンギョン 2000)

　対照 > 羅列 > 選択 > 背景 > 原因 > 条件 > 譲歩 > 結果 > 時間

野間 (1997), イ・ウンギョン (2000) は形態的あるいは統語的なテストによって客観点に朝鮮語の副詞節の節らしさ，独立性を明らかにしている点が重要である．ただ，両先行研究には解決されるべき課題も残っているといえる．まず，どちらの研究でも一つの副動詞接辞が

[8] 先語末語尾 (선어말어미) とは，語末語尾 (어말어미)，つまり文を終結させる語尾類に対して，この語尾で文を終結させることができず，語末語尾に先立つ接辞のことをいう．先語末語尾には尊敬を表す接辞 -si- や過去接辞 -(a/e)ss- などがある．

形態，統語的性格によって区別され多義性を示す場合に，一部しか区別が行われていないという問題を挙げることができる．いずれの研究においても時間的関係を表す -(a/e)se と原因，理由を表す -(a/e)se が区別されていものの，例えば -nikka が契機と理由の意味を表す場合については区別されていない．また，どちらの研究も複数の観点から朝鮮語の副詞節を分類しているという問題がある．イ・ウンギョン (2000) では副詞節相互の包含関係については調査していないものの，どちらの研究でも節内に抱える要素と，述語に結合する文法要素によって分類を行っている．ただし，野間 (1997) で考察されている三つの観点が，それぞれどのような関係があるか，あるいは関係がないのかについては言及がないためはっきりしたことはわからない．この問題については，いわゆる南モデル (南 1974, 1993) について批判的に検討した尾上 (1999a, 1999b) で明確に指摘されている．

尾上 (1999a) は，(i) 他のどのような副詞節を含むか，(ii) どのような主題標識や格成分を含むか，(iii) 述語にどのようなテンス，ムードマーカーが結びつくかということを基準にした場合，(i) から (iii) のどの基準に立つかによって，副詞節の序列の逆転さえ起きかねないということを指摘している．さらに，尾上 (1999b) では (i) から (iii) はあくまで異なった観点なのであり，南モデルで主張される副詞節の文らしさの度合いを反映していると解釈できるのは，(iii) の観点のみであると述べている．ただし， 尾上 (1999b: 81) が指摘するとおり，文らしさの度合いというのはあくまで副詞節の内部構造（袋の中身）という注釈付きでのことである．尾上 (1999a, 1999b) の指摘は日本語についてであるが，これは朝鮮語の場合にも当てはまると考えられる．

本研究では尾上 (1999a, 1999b) の指摘を参考に，単一の基準を持って朝鮮語の副動詞を分類する．本研究で採用するのは，尾上 (1999b: 81) で文らしさの度合いの問題として解釈できると述べられていた，用言に結合する要素によって副動詞を分類する方法である．このような分類方法は，同じく日本語の研究である野田 (1989) においても見られる．野田 (1989: 90-92) は日本語の副詞節内にヴォイス（(ら) れる），アスペクト（ている），肯否（ない），テンス（た），事態に対するムード（だろう），聞き手に対するムード（ね）が含まれるかどうかを基準として，いくつかの副詞節の分類を行った．そして，ヴォイスしか含めず，最も語に近く文から遠い「-ながら」から，事態に対するムードまで含むことができ，最も語から遠く文に近い「-が」まで，副詞節の連続性を示している．

1.6.2　副詞節の定形性

Bisang (2007: 115-116) が “finiteness will be defined in terms of morphosyntactic indicators of sentencehood” (定形性は文らしさの形態統語的指標として定義されるだろう) と述べているとおり，文らしさは定形性として定義しなおすことができる．Nikolaeva (2007: 1) によれば，finite という用語はラテン語の記述において人称と数で屈折する動詞形に用いられており，finite ではない動詞形は不定詞 (infinitive) や分詞 (participle) などを含む．このような伝統的な二分法に対して，Givón (1990: 853) は定形性 (finiteness) を連続的なものと捉え，「節の定形

性は典型的な他動詞を述語とする主節への近似度によって表される」と述べている．Givón (1990: 853) は動詞の屈折によって表される定形性の特徴として，(i) テンス・アスペクト・モダリティ，(ii) 代名詞的（文法的）一致，(iii) 名詞化接辞を挙げている．特に (i) テンス・アスペクト・モダリティに関しては定形性の高いものから低いものまで (1-9) のようなランキングを提示している．

(1-9) Finiteness ranking of tense-aspect-modality (Givón 1990: 854)

most finite

TENSE

MODALITY

ASPECT

NEGATION

less finite

Givón (1990: 861) は副詞節において TAM マーカーの出現が制限される例をスワヒリ語から挙げている．(1-10) のように，主節では様々な TAM マーカーが出現することができるが，(1-11) のような非現実の ‘if/when‘ 節では ki という接辞しか現れることができない．

(1-10) a. **Past**:
ni-li-soma
I-PAST-read
‘I read‘

b. **Perfect**:
ni-me-soma
I-PERF-read
‘I have read‘

c. **Future**:
ni-ta-soma
I-FUT-read
‘I will read‘

d. **Habitual**:
n-a-soma
I-HAB-read
‘I read‘

e. **Progressive**:
ni-na-soma
I-PROG-read
‘I am reading‘

(Givón 1990: 861-862)

(1-11) ni-*ki*-some...
I-SUB-read
‘If/when I read...‘ (Givón 1990: 862)

朝鮮語の場合はスワヒリ語のように副詞節においても極端に TAM マーカーが制限されず，副詞節の種類や TAM マーカーの意味によっても様々な制限のされ方を見せる．

朝鮮語における副詞節の定形性を設定する際，ヴォイスは -i-, -hi-, -li-, -ki- 等の接辞によって表されるが語彙的な性格が強いため，これは除いて基準を設定する．本研究ではひとまずアスペクト（進行アスペクト：-ko iss-），否定（-ci anh-），テンス（過去テンス：-(a/e)ss-），ムード（蓋然性：-keyss-, 推量：-l kes=i-），証拠性（目撃：-te-）を基準としておく．これらの要素は全てが現れることはまれだが，基本的に (1-12) のような順で接続される．

(1-12)	-ko iss	-ci anh	-ass	-keyss	-tela
	-PROG	-NEG	-PST	-PROB	-WIT
	アスペクト	否定	テンス	ムード	証拠性

アスペクトから証拠性までの要素を含みうるかどうかを基準として，本研究の対象である副動詞を分類したのが表 5 である．表 5 中で，‘○’ は該当要素を含みうることを，‘×’ は含みえないことを表し，‘△’ は含みうるものの，頻度が低くなんらかの制限があることを表す．それぞれの副詞節は内部構造の定形性の程度によって，いくつかに分かれることがある．ここでは副動詞接辞の右に数字を付して区別した．最も左の列は，副動詞接辞がいくつかに区別される場合に，それがどのような意味を表すか示すために，便宜的にラベルを付したものである．この表 5 では該当の文法要素を含むか，含まないかで分類しているだけである．ここにはそれぞれの文法要素がどのような意味を表すかという情報は反映されていない．例えば，-taka や -teni が過去接辞と結合したときは，純粋に時制的な意味では解釈されない．上述したように副詞節内の TAM マーカーの意味に関する問題は，第 5 章で詳しく扱うことになる．

表 5 の結果は，一部順番が逆転しているところもあるものの，イ・ウンギョン (2000) が副詞節の独立性 (1-8b) を示した結果とも類似している．

-key$_1$ と否定の交点が ‘×$^{?}$’ となっているのは，基本的にはこの副動詞接辞は否定と結合することはないが，ponuy ani-key (本意 NCOP-ADV.MNN)「不本意ながら」という副詞句では，否定のコピュラと結合することが可能である．このような否定との結合例は一部の決まった言い方にあるのみであるため，ここでは否定との結合はないと考えておく．

表 5　朝鮮語における副詞節の定形性

ラベル	副動詞接辞	アスペクト	否定	テンス	蓋然性	推量	証拠性	定形性
様態	-key$_1$	×	×?	×	×	×	×	低
継起	-(a/e)se$_1$	×	×	×	×	×	×	↑
同時	-myense$_1$	△	△	×	×	×	×	↑
時間	-(a/e)se$_2$	×	○	×	×	×	×	↑
目的	-key$_2$	×	○	×	×	×	×	
継起	-ko	×	○	×	×	×	×	
契機	-myense$_2$	×	○	×	×	×	×	
契機	-nikka$_1$	○	△	×	×	×	×	
中断	-taka	○	○	○	×	×	×	
契機	-teni	○	○	○	○	×	×	
譲歩	-(a/e)to	○	○	○	○	×	×	
逆接	-myense$_3$	○	○	○	×	○	×	
原因	-(a/e)se$_3$	○	○	○	○	○	×	
条件	-myen	○	○	○	○	○	×	↓
理由	-nikka$_2$	○	○	○	○	○	×	↓
逆接	-ciman	○	○	○	○	○	×	↓
逆接	-nuntey/-ntey	○	○	○	○	○	○	高

1.6.3　節間の同主語／異主語

イ・ウンギョン (1994) は 10 個の副動詞について，副詞節と上位節間の主語が同一なのか，異なるのかということを短編小説を対象に調査している．同一主語で現れた比率を示すと，以下の (1-13) のようになる．すでに言及したように，-ci に関しては本研究では対象としていない．

(1-13)　節間の同主語の割合 (イ・ウンギョン 1994: 316)
-myense, -taka (100%) > -ko (81%), -(a/e)se (61%) > -myen (50%) > -nuntey/-ntey (43%) > -ni(kka) (42%) > -ciman (38%) > -(a/e)to (36%), -ci (31%)

イ・ウンギョン (1994) ではそれぞれの副動詞について，それが表す意味別に同主語，異主語の割合を算出しているが，(1-13) では全てをまとめて示している．しかし，この (1-13) だけを見ても，定形性が低い方の副動詞は同主語になりやすく，定形性が高い方の副動詞は異主語になりやすいことがわかる．例えば，本研究と意味分類はやや異なるものの先行的意味を表す -ko は 100% の割合で同主語として現れたという (イ・ウンギョン 1994: 302).

1.7　副動詞の意味の概略

第 2 章以降で研究対象の副動詞接辞の詳しい意味，統語的特徴については述べるが，ここでそれぞれの副動詞接辞の表す意味を具体例とともに概観しておく．

■ -key$_1$ (様態), -key$_2$ (目的)

副動詞接辞 -key は，結合可能な文法要素から様態の -key$_1$ と目的の -key$_2$ に大別することができる．-key$_1$ は (1-14) のように主に形容詞と結合することで，ある動作の様態，結果を表し，文法要素との結合は見られない．-key$_2$ は動詞とも結合可能で，動作の目的などを表す．(1-15) のように否定要素との結合が可能である．

(1-14)　na=nun　meli=lul ccalp-**key**　call-ass-ta.
1SG=TOP 髪=ACC　短い-ADV.MNN 切る-PST-DECL
나는 머리를 짧게 잘랐다.
「私は髪を短く切った．」(国立国語院 2005: 20; 韓国・国立国語院 2012: 21)

(1-15)　chwup-ci anh-**key**　os=ul　te　ip-usey=yo.
寒い-NMLZ NEG-ADV.MNN 服=ACC さらに 着る-HON:IMPR=POL
춥지 않게 옷을 더 입으세요.
「寒くないように，服をもっと着てください．」(国立国語院 2005: 20; 韓国・国立国語院 2012: 20)

■ -myense$_1$ (同時), -myense$_2$ (契機), -myense$_3$ (逆接)

副動詞接辞 -myense は結合可能な文法要素によって三つに分けることができる．(1-16) に示したように上位節の事態と時間的な同時関係を表す -myense$_1$ は，結合可能な要素はアスペクトと否定があるものの，アスペクトマーカーと結合するとき用言の種類は限られるようである．(1-17) のように否定と結合する例もあるものの数は少なく，否定と結合するときは逆接を表す -myense$_3$ となる場合が圧倒的に多い．-myense$_1$ とアスペクトの結合については第 5 章で後述する．同時の -myense$_1$ と契機の -myense$_2$ を比較すると，前者は結合可能な要素が後者より多い．しかし， -myense$_1$ の主語は上位節と同一である反面，-myense$_2$ は副詞節に独自の主語を持つことができるため，節の独立度としては -myense$_2$ の方が高いと考えることもできる．

(1-16)　na=nun　nyusu=lul　po-**myense**　achim#pap=ul mek-nunta.
1SG=TOP ニュース=ACC 見る-ADV.SIM 朝#ご飯=ACC　食べる-DECL.NPST
나는 뉴스를 보면서 아침밥을 먹는다.
「私は，ニュースを見ながら朝ご飯を食べる」(国立国語院 2005: 708; 韓国・国立国語院 2012: 798) = (1-1)

(1-17) kuliko nam=eykey phyey=lul kkichi-ci anh-**umyense** sal-a ka-ki wihay
そして 他人=DAT 迷惑=ACC 及ぼす-NMLZ NEG-ADV.SIM 生きる-ADV AND-NMLZ ためだ:ADV
pwucilenhi kul=ul ss-ess-ta.
せっせと 文章=ACC 書く-PST-DECL
그리고 남에게 폐를 끼치지 않으면서 살아가기 위해 부지런히 글을 썼다.
「そして，他人に迷惑をかけないで生きていくために，せっせと文章を書いた.」
[2BEXXX10]

(1-18) のように副詞節の事態が開始したことを契機として上位節の事態が開始されることを表す -myense$_2$ は，結合可能な文法要素は否定しか見られなかった.

(1-18) mwe=l chac-ta~chac-ta an nao-myen enu swunkan mwe=l chac-ko
なにか=ACC 探す-ADV.DISC~RDP NEG 出る-ADV.COND ある 瞬間 なに=ACC 探す-ADV
iss-ess-nunci=cocha sayngkak=na-ci anh-key toy-**myense** motun sayngkak=i
PROG-PST-INDQ=さえ 考え=出る-NMLZ NEG-ADV.MNN なる-ADV.SIM 全ての 考え=NOM
cengcitoy-nun ilcong=uy chimay hyensang=i o-l cek=to iss-ess-ta.
停止する-ADN.NPST 一種=GEN 痴呆 現象=NOM 来る-ADN.IRR とき=も ある-PST-DECL
뭘 찾다찾다 안 나오면 어느 순간 뭘 찾고 있었는지조차 생각나지 않게 되면서 모든 생각이 정지되는 일종의 치매 현상이 올 적도 있었다.
「なにかを探していて（それが）出てこないと，ある瞬間，なにを探していたのかさえ思い出せなくなり全ての考えが停止する，一種の痴呆現象になるときもあった.」
[BREO0084]

「～くせに」という逆接を表す -myense$_3$ は推量のムード形式まで結合することができる. (1-19) は過去接辞と結合した例である.

(1-19) caki=ka calmos=ul hay-ss-**umyense** kkuth=kkaci anila-ko wuki-ney.
自分=NOM 間違い=ACC する-PST-ADV.SIM 最後=まで NCOP:DECL.QUOT-COMP 言い張る-ADM
자기가 잘못을 했으면서 끝까지 아니라고 우기네.
「自分が過ちを犯しながら，最後まで違うと言い張るね.」(国立国語院 2005: 708; 韓国・国立国語院 2012: 798)

■ -(a/e)se$_1$ (継起), -(a/e)se$_2$ (時間), -(a/e)se$_3$ (原因)

-(a/e)se も結合可能な文法要素によって三つに分類することができる. -(a/e)se$_1$ は (1-20) のように時間的な先行を表し，アスペクト，テンスマーカーとの結合もなく，副詞節の主語は上位節と一致していなければならない.

(1-20) hyeng=un tosekwan=ey ka-**se** kongpwuha-ni?
兄=TOP 図書館=DAT 行く-ADV.SEQ 勉強する-INTRR
형은 도서관에 가서 공부하니?
「兄さんは図書館に行って，勉強するの？」(国立国語院 2005: 528; 韓国・国立国語院 2012: 588)

-(a/e)se$_2$ は主に時間を表す語とともに用いられ，上位節の起こる時を表す用法である．(1-21) のように否定要素との結合がありえる．

(1-21) chelswu=nun pwunmyeng elma an ka-**se** hankwuk=ey
PN=TOP たしかに いくら NEG 行く-ADV.SEQ 韓国=DAT
tolao-l ke=ya.
帰ってくる-SPEC=COP:DECL.NPOL
철수는 분명 얼마 안 가서 한국에 돌아올 거야.
「チョルスはきっと，いくらもたたずに，韓国に帰ってくると思う．」(国立国語院 2005: 529; 韓国・国立国語院 2012: 589)

-(a/e)se$_3$ は上位節に対する原因を表す用法であり，この場合は推量を表すムードマーカーとの結合も可能である．(1-22) は蓋然性を表す -keyss- と結合した例である．また，原因を表す場合は副詞節の主語が上位節と同一でなくともよい．

(1-22) etteh-key=to mos ha-keyss-**ese** cip=ey iss-ten swul=ul kkenay
どうだ-ADV.MNN=も IMPS する-PROB-ADV.SEQ 家=DAT ある-ADN.IMPF 酒=ACC 取り出す:ADV
masy-ess-e.
飲む-PST-DECL.NPOL
어떻게도 못하겠어서 집에 있던 술을 꺼내 마셨어.
「どうしようもなくて家にあった酒を出して飲んだんだ．」[BREO0293]

■ -ko (継起)

副動詞接辞 -ko は，継起の意味を基本に，先行動作の結果状態など多様な意味に解釈される．すでに述べたように，(1-3) で見たような -ko が列挙を表す例については対象としない．継起の -ko は (1-23) のように否定要素とは結合が可能である．

(1-23) achim=ey nao-l ttay kasu=lul an camku-**ko** naw-ass-e.
朝=DAT 出る-ADN.IRR とき ガス=ACC NEG しめる-ADV.SEQ 出る-PST-DECL.NPOL
아침에 나올 때 가스를 안 잠그고 나왔어.
「朝出てくるときガスをしめないで出てきたの．」[2BEXXX10]

■ -nikka$_1$ (契機), -nikka$_2$ (理由)

副動詞接辞 -nikka は結合可能な文法要素によって二つに分けることができる．一つが契機の -nikka$_1$ で，もう一つが理由の -nikka$_2$ である．契機の -nikka$_1$ は (1-24) のように副詞節の動作を行ったところ，上位節の事態を発見したという場合に用いられる．-nikka は，権 (1992: 45) が否定形，不可能形の場合は基本的に理由の意味を表すと述べているように，基礎資料からも -nikka$_1$ が否定要素と結合した例は見付からなかった．ただし，(1-25) のような例を作ることができることから，頻度は低いながら -nikka$_1$ も否定要素と結合可能と考えておく．

(1-24) ecey hakkyo=ey ka-**nikka** yecenhi hakkyo=nun kongsa cwung=i-ess-e=yo.
昨日 学校=DAT 行く-ADV.FCTC 相変わらず 学校=TOP 工事 中=COP-PST-DECL=POL

어제 학교에 가니까 여전히 학교는 공사 중이었어요.
「昨日学校に行ったら，相変わらず学校は工事中でした.」(国立国語院 2005: 708; 韓国・国立国語院 2012: 693)

(1-25) myechil thanswuhwamwul an mek-**unikka** sal ppaci-tela.
何日か 炭水化物 NEG 食べる-ADV.FCTC 肉 落ちる-WIT
며칠 탄수화물 안 먹으니까 살 빠지더라.
「何日か炭水化物食べなかったら痩せたよ.」

(1-26) のような理由を表す -nikka$_2$ は，ムードマーカーとも自由に結合することができる.

(1-26) wuli cenyek mek-ul ke-**nikka** cwunpihay cw-e=yo.
1PL 夕飯 食べる-SPEC-ADV.CSL 準備する:ADV BEN-IMPR=POL
우리 저녁 먹을 거니까 준비해줘요.
「わたしたち夕飯を食べるから準備してちょうだい.」[시크릿가든 7]

■ -taka (中断)

副動詞接辞 -taka は過去接辞が結合するか否かでアスペクト的な解釈が変わるが，ここでは特に他の副動詞接辞のように区別を付けないでおく．過去接辞が結合しない場合，-taka は (1-27) のように副詞節の事態の途中で上位節の事態が起こることを意味する．-taka は否定要素とも結合可能である．一方，過去接辞が結合すると，-taka は (1-28) のように副詞節の事態が完了したあとに上位節の事態が起こることを表す．これまで見てきた他の副動詞接辞のように (1-27) と (1-28) をそれぞれ -taka$_1$, -taka$_2$ として区別することも考えられるが，(1-28) の場合の過去接辞は，過去の意味を表すというよりは，事態の完了性を表しており，(1-27) と (1-28) はそれぞれ中断という中心的意味を持つと考え，各々を区別しないこととする.

(1-27) o-ssi=nun hancham tongan taykkwu=lul ha-ci anh-**taka** kapcaki pwulsswuk
PN-氏=TOP しばらく 間 返事=ACC する-NMLZ NEG-ADV.DISC 突然 急に
malhay-ss-ta.
言う-PST-DECL
오씨는 한참 동안 대꾸를 하지 않다가 갑자기 불쑥 말했다.
「オ氏はしばらくの間，返事をしなかったが，突然言った.」[BREO0308]

(1-28) nayil achim=ey hakkyo=ey ka-ss-**taka** sinay=ey ka-lyeko hay=yo.
明日 朝=DAT 学校=DAT 行く-PST-ADV.DISC 市内=DAT 行く-ADV.VOL する:DECL.NPST=POL
내일 아침에 학교에 갔다가 시내에 가려고 해요.
「明日の朝，学校に行ってから，市内に行くつもりです.」(国立国語院 2005: 279; 韓国・国立国語院 2012: 303)

■ -teni (契機)

副動詞接辞 -teni は，「～すると，～したら」のように，副詞節の事態に続いて起こる上位節の事態を発見するという場合に用いられる．-teni は (1-29) のように過去接辞と結合すると，

副詞節述語の主体は 1 人称になり，結合しない場合，基本的には 3 人称となる．-taka の場合と同様に，過去接辞の結合の有無で -teni を二つに分類することも考えられるが，ここでは分類しないでおく．やはり，-teni と結合する過去接辞は過去の意味を表さず，主体が異なるのみで，-teni 自体の意味は変わらないと考えるからである．-teni は (1-30) のように蓋然性を表すムードマーカーとも結合し，この場合は副詞節述語の主体は 3 人称である．

(1-29) achim=ey ilccik ka-ss-**teni** amwu=to eps-tela.
朝=DAT 早く 行く-PST-ADV.FCTC 誰=も いない-WIT
아침에 일찍 갔더니 아무도 없더라.
「朝早く行ったら，誰もいなかったよ．」(国立国語院 2005: 550; 韓国・国立国語院 2012: 614)

(1-30) akka=nun pi=ka o-keyss-**teni** nalssi=man coh-ta.
さっき=TOP 雨=NOM 来る-PROB-ADV.FCTC 天気=だけ よい-DECL
아까는 비가 오겠더니 날씨만 좋다.
「さっきは雨が降りそうだったのに，(今は) とても良い天気だ」(国立国語院 2005: 352; 韓国・国立国語院 2012: 384)

■ -(a/e)to (譲歩)

副動詞接辞 -(a/e)to は「〜ても」というように，副詞節の事態に関わらず上位節の事態が起こるという譲歩，逆条件の意味を表す．-(a/e)to は蓋然性を表すムードマーカーまで結合しうる．(1-31) は過去接辞と結合した例である．

(1-31) hakiya nay=ka ku=uy ipcang=i-ess-**eto** kulay-ss-ul
もっとも 1SG=NOM 3SG.M=GEN 立場=COP-PST-ADV.CONC そうする-PST-ADN.IRR
il=i-ess-ta.
こと=COP-PST-DECL
하기야 내가 그의 입장이었어도 그랬을 일이었다.
「もっともわたしが彼の立場だったとしても，そうしたであろう案件だった．」[3BE00001]

■ -myen (条件)

副動詞接辞 -myen は条件を表す．一般的な事実の仮定から反事実仮定まで幅広い意味を表し，日本語の「〜なら」のように既定的な事実を条件として述べることもできる．-myen は (1-32) のように推量のムードマーカーまで結合することが可能である．

(1-32) kyelsekkyey tto an ss-e o-l ke-**myen** hakkyo o-ci=twu ma.
欠席届 また NEG 書く-ADV VEN-SPEC-ADV.COND 学校 来る-NMLZ=も PROH:IMPR.NPOL
결석계 또 안 써올 거면 학교 오지두 마.
「欠席届また書いてこないつもりなら，学校には来ないで．」[CJ000259]

■ -ciman (逆接)

副動詞接辞 -ciman は逆接を表す．文法要素は推量のムードマーカーまで結合することが可能である．(1-33) は蓋然性を表すムードマーカーと結合した例である．

(1-33) mit-eci-ci anh-keyss-**ciman** sasil=i-ess-e=yo.
信じる-INTRZ-NMLZ NEG-PROB-ADV.AVS 事実=COP-PST-DECL=POL
믿어지지 않겠지만 사실이었어요.
「信じられないでしょうけど，事実だったんです．」[BREO0075]

■ -nuntey/-ntey (逆接)

-nuntey/-ntey は (1-34) のように逆接を表すこともあれば，(1-35) のように副詞節が上位節に対する前提となっている場合もある．本稿では便宜的に -nuntey/-ntey のラベルを逆接とし，グロスも一貫して AVS (adversative) とするが，-nuntey/-ntey は逆接から理由，前提のような広い意味を表すということを否定するものではない．-nuntey/-ntey は (1-35) に見るように証拠性のマーカーである -te- とも結合することができ，朝鮮語の副詞節の中で，最も主節に近い構造を持っている．

(1-34) kongpwu=lul yelsimhi hay-ss-**nuntey** sihem=ul cal mos pw-ass-ta.
勉強=ACC 熱心に する-PST-ADV.AVS 試験=ACC よく IMPS 見る-PST-DECL
공부를 열심히 했는데 시험을 잘 못 봤다.
「勉強をがんばったが，試験の結果はよくなかった．」(国立国語院 2005: 239; 韓国・国立国語院 2012: 258)

(1-35) ku salam kwaynchanh-a poi-te-**ntey** hanpen mann-a pw-ala.
その 人 結構だ-ADV 見える-IMPF-ADV.AVS 一度 会う-ADV CNT-IMPR.NPOL
그 사람 괜찮아 보이던데 한번 만나 봐라.
「あの人，良さそうに見えたんだけど，一度会ってみなさい．」(国立国語院 2005: 368; 韓国・国立国語院 2012: 401)

1.8 第 1 章のまとめ

この章ではまず，本研究で対象とする 11 個の副動詞について，結合する文法要素によって定形性を調査し，結果を表 5 に示した．いくつかの副動詞はその意味と定形性によって，いくつかに分類した．第 2 章以降は，表 5 の副詞節の定形性を基準に，朝鮮語の副動詞間の関係を探っていく．続く第 2 章では，第 3 章からの本格的な考察に入る前に，朝鮮語の副動詞接辞が広義の意味で文法化して様々な機能を果たしたり，語彙化した例について整理し，本研究の対象を明確にする．そして，副動詞形が文法化する場合にも副詞節の定形性が関連していることを指摘する．

第 2 章

副動詞と他の文法要素との連続性

朝鮮語の副動詞形は，助詞へと機能的な変化を遂げたり，他の文法的要素の一部になったりと，副詞節として述語修飾の機能を果たさない場合がある.[1]本研究で対象とする副動詞接辞は，前述したように -key, -myense, -taka, -teni, -(a/e)se, -ko, -nikka, -myen, -(a/e)to, -nuntey/-ntey, -ciman であるが，次の第 3 章から本論に入る前に，本研究で対象とする副動詞の範囲を限定しておくと同時に，副動詞形と様々な機能とその連続性について整理しておきたい．ここで検討するのは，(i) 副動詞形が複合動詞の前部要素になる場合，(ii) 副動詞形が補助用言を導き，迂言的形式を形成する場合，(iii) 副動詞形が助詞として機能する場合，(iv) 補文節（引用節）を形成する場合，(v) 副詞として語彙化している場合の五つである．

(i) 副動詞形が複合動詞の前部要素になる場合

朝鮮語の「動詞 + 動詞」複合語には，動詞の語根動詞が直接結合する場合と，前部要素の動詞が副動詞形となって結合する場合とがある．前者の場合には o#ka- (来る#行く-)「行き来する」のようないくつかの動詞があり，このような語根同士が接続された複合動詞は現代朝鮮語よりも中期朝鮮語[2]においてより生産的だった．ここで検討する必要があるのは後者の場合で，特に本研究の対象である副動詞接辞 -ko が前部要素の動詞に接続する場合が考察対象となる．つまり，二つの動詞が副動詞接辞 -ko によって接続されているとき，それが複文なのか，複合動詞なのかということが問題になるのである．

(ii) 副動詞形が補助用言を導き，迂言的形式を形成する場合

日本語の「〜ている」のように副動詞接辞と動詞が文法化し，迂言的形式となる場合がある．朝鮮語の場合は，進行を表すアスペクト形式 -ko iss- (-ADV いる-)「〜ている」をはじめ，

[1] 日本語でこのテーマについて詳しく扱っている研究に高橋 (2003) がある．ここでは「動詞が動詞らしさをうしなうとき」として，動詞が他の品詞となる例を挙げている．

[2] 朝鮮語の時代区分に関しては河野 (1979) に従う．河野 (1979: 67) は朝鮮語の時代区分を古代朝鮮語（ハングルが発明された 1443 年以前）と，中期朝鮮語（1443 年から壬辰（文禄）の役の 1592 年まで）と，近世朝鮮語（それ以降現代まで）に区分している．なお，この区分は一般に韓国で行われる朝鮮語の時代区分とは重ならない部分がある．

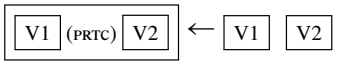
他の補助用言を導く場合も前部要素が副動詞形となっている．さらに，後部要素である補助用言も副動詞形の場合しか存在しない -ko na-se (-ADV 出る-ADV.SEQ)「〜し終わってから」, -ko na-ni (-ADV 出る-ADV.FCTC)「〜し終わると」, -ko na-myen (-ADV 出る-ADV.COND)「〜し終わったら」の場合にも前部要素が副動詞形となっており，このような場合，前部要素が単なる副動詞形なのかどうかが問題となる．

(iii) 副動詞形が助詞として機能する場合

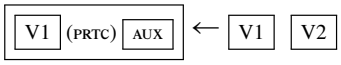
英語の ‘considering’ や日本語の「〜について」のように，非定形動詞が接置詞 (adposition) として機能する場合がある．Haspelmath (1995: 38) はその他にも，副動詞から接置詞へと機能変化した例として，ドイツ語の entsprechend ‘according to’ (entsprechen ‘correspond’ から), ロシア語の spustja ‘after’ (spustit’ ‘let down’ から) やトルコ語の göre ‘according to’ (gör- ‘see’ から) のような例を挙げている．朝鮮語もこのように動詞の副動詞形に由来する助詞を有しており，これが単に動詞の副動詞形なのか，助詞なのかの区別が問題となる．このような助詞として機能する動詞の副動詞形には菅野 (2006b) が「分析的な形」と呼ぶものが多く含まれる．形態的には「格助詞 + 動詞の副動詞形」が助詞として機能する場合と，動詞の副動詞形のみが助詞として機能する場合がある．前者には =ey tayhay-se/tayha-ye (=DAT + 対する-ADV.SEQ)「…について／対して」, =lul/=ul wihay-se/wiha-ye (=ACC + ためだ-ADV.SEQ)「…のために」などが，後者には -∅ po-ko (-∅ 見る-ADV.SEQ)「…（人に）向かって」, -∅ chi-ko (-∅ 見なす-ADV.SEQ)「…として」などがある (菅野 2006b: 116-118).「格助詞 + 動詞の副動詞形」は副動詞形だけでなく形動詞（連体）形になる場合もある．本研究では「格助詞 + 動詞の副動詞形」の場合を複合格助詞と呼んで，格助詞と区別しておく．

これまでに挙げた三つの場合の構造を提示すると，(2-1) のようになる.[3]ここで，V は動詞，PRTC は助詞，AUX は助動詞を表す．(i) 複合動詞は，(2-1a) に示したように，二つの動詞が一つの述語として振る舞う．(ii) 補助動詞も (2-1b) のように二つの動詞が一つの述語として振る舞い，V1 と V2 の間に入ることができるのは一部の焦点助詞だけである点は複合動詞と同様だが，V2 が文法化しているという点で異なる．(ii) 補助動詞と (iii) 助詞を比べると，(2-1b, 2-1c) に見るように V1, V2 のうちどちらが文法化しているかという点で違いがある． (2-1c) では，述語として機能するのは V2 のみである．

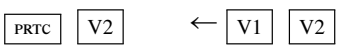
(2-1) a. 複合動詞



b. 補助動詞



c. 助詞



[3] 大堀 (2002: 191-195) では，動詞が助動詞，後置詞へと文法化するプロセスについて論じている．(2-1b, 2-1c) は大堀 (2002: 191) で提示されている図を参考にした．

(iv) 補文節（引用節）を導く場合

朝鮮語では，副動詞接辞の -ko は用言の終止形に接続して補文節を導く．副詞節と補文節の連続性は，Croft (2011) が複文 (complex sentence) の四つのタイプの連続性を論じながら提示している図 2 によっても支持される．図 2 からわかるように，副詞節 (adverbial clauses) と補文節 (complements) は様々な言語で連続性が確認される．

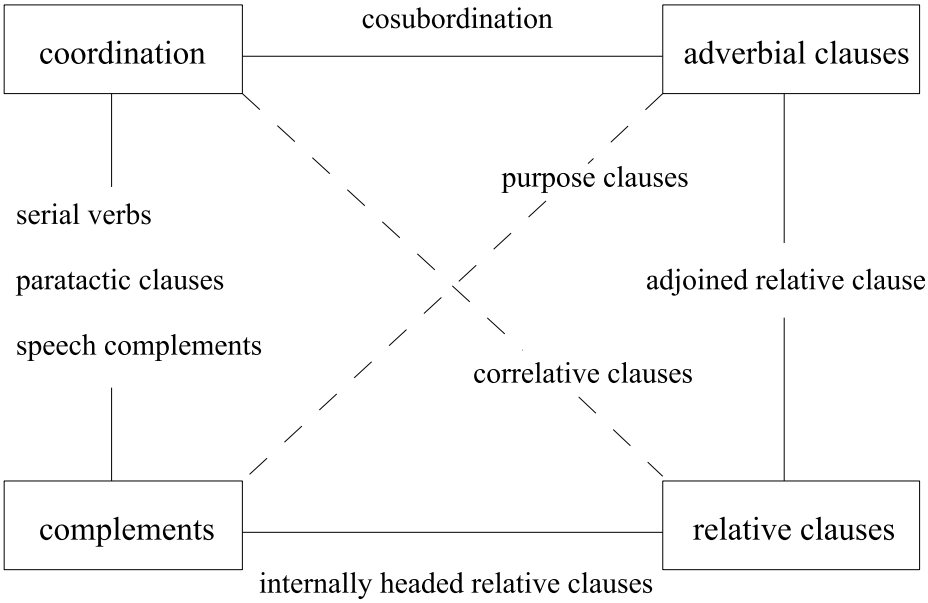


図 2　複文タイプの連続体 (Croft 2011: 322)

(v) 副詞として語彙化している場合

副動詞形が述語修飾の機能を保ちながらも形態的に固定化され，副詞として語彙化している例がある．このような場合についても，単に用言の副動詞形と見るか，副詞と見るかが問題となるが，判断が難しい場合もある．ここでは，kuleha-「そうだ」に副動詞接辞が付くことで形成される一連の (接続) 副詞も一緒に扱うことにする．この「kuleha- + 副動詞接辞」が接続詞なのか副詞の一種なのか，それとも単に用言の活用形に過ぎないのか，といったことが問題となる．接続詞という品詞を設けるかどうかについては，朝鮮語研究の中で様々な見解が出されている．本研究ではなにを接続詞と認めるかという議論にまでは立ち入らないこととする．重要な点は朝鮮語の「kuleha- + 副動詞接辞」という語形成を持つ，文と文を繋ぐ副詞は，日本語の「そうして」「それから」のように指示語に各種の副動詞接辞が接続して形成されているということである．朝鮮語，日本語と同じ「アルタイ型」言語[4]であるモンゴル

[4] 亀井・河野・千野編 (1996: 28-29) は言語類型論的な観点から「アルタイ型」という類型を立て，そのような言語の特徴として，第一に連辞性があり，第二に主文述語が文末に置かれることだと述べている．「アルタイ型」言語には，日本語，朝鮮語だけでなくニヴフ語やドラヴィダ語族の言語など，様々な言語が含まれうる．

語にも，指示動詞 tegex「そうする」の完了副動詞形が tegeed「そして，それで」，仮定形が tegvel「それなら」のように接続詞として使われる例がある (山越 2012: 187).

以下，(i) から (v) の場合について，順に考察していく．

2.1 副動詞と複合動詞の前部要素との連続性

朝鮮語のいくつかの副動詞接辞は複合動詞において二つの動詞の間をつなぐ役割をすることがある．Sohn (1999: 253-254) は朝鮮語の「動詞 + 動詞」複合語として，動詞の間に副動詞接辞が介在するタイプと，動詞の語幹同士が接続するタイプの二つを挙げている．副動詞接辞が介在するタイプとしては，(i) 副動詞接辞 -a/e, (ii) 副動詞接辞 -(a/e)ta, (iii) 副動詞接辞 -ko の三つのタイプに分かれる (ibid.: 253).

まず (i) について，日本語の連用形に相当する副動詞接辞 -a/e のタイプには比較的多くの複合語が存在し，例えば al-a#tut- (知る-ADV#聞く-)「理解する」, il-e#na- (起きる-ADV#出る-)「起き上がる」, sumy-e#tul- (染みる-ADV#入る-)「染み入る」などの例を挙げることができる．ただし，ここで複合動詞の各動詞の意味を示したように，全ての複合動詞において前部要素と後部要素の意味を取り出せるわけではない．内山 (1997) は二つの動詞の間に焦点助詞の =nun「〜は」, =man「〜だけ」が挿入できることを，「動詞 + 動詞」が複合動詞，あるいは後部要素が補助動詞であることの条件であると指摘している．また内山 (1997) は実際の用例から収集した多数の複合動詞を意味別にリスト化している．副動詞接辞 -a/e は本研究の対象ではないため，詳しいことは内山 (1997) を参照されたい．

次に (ii) について「〜してきて (それを)」という意味を表す副動詞接辞 -(a/e)ta が前部要素の動詞に接続する例はそれほど多くないようであり，後部要素の動詞に po-「見る」を持つ複合動詞が多い．例えば nayly-eta#po- (下げる-ADV#見る-)「見下ろす」, olly-eta#po- (上げる-ADV#見る-)「見上げる」, tuly-eta#po- (入れる-ADV#見る-)「のぞき見る」等，十数個の複合動詞がある．その他，副動詞接辞 -(a/e)ta が介在する複合動詞としては kacy-eta#cwu- (持つ-ADV#あげる-)「持っていってあげる」 ppay-ta#pak- (抜く-ADV#打ち込む-)「そっくりだ」が挙げられる．

最後に (iii) について，本研究の対象である副動詞接辞 -ko が前部要素の動詞に接続する複合動詞は (i) のタイプほどではないものの，いくつか存在する．オンライン版の「標準国語大辞典」[5]から，前部要素に -ko が接続する複合動詞を取り出してみると，(2-2) のような動詞が得られた．なお北朝鮮で用いられると表記してある語は除いてある．

(2-2) kal-ko#takk-「努力して身につける」, kamssa-ko#tol-「かばい立てをする」,
kel-ko#nemeci-「言いがかりをつける」, kyet-ko#thul-「互いに譲らない」,
kki-ko#tol-「かばって弁護する」, nal-ko#ttwi-「抜きん出る」,
nem-ko#checi-「釣り合わない」, nol-ko#mek-「遊び暮らす」,

[5] https://stdict.korean.go.kr/main/main.do（最終閲覧日：2019 年 4 月 23 日）

tul-ko#naka-「(空の糸巻きを）持ったまま凧について進む」, tul-ko#na-「持ち出す」,
tul-ko#nao-「行動に表す」, tul-ko#ttwi-「逃げ出す」, tul-ko#peli-「逃げ出す」,
tul-ko#ppay-「逃げ出す」, tul-ko#ilena-「奮い立つ」,
tul-ko#cwu-「逃げる，見代をはたく」, tul-ko#chi-「叩きまくる」,
tul-ko#cha-「蹴りまくる」, tul-ko#thwi-「逃げ出す」, tul-ko#pha-「没頭する」,
tul-ko#phay-「殴りまくる」, mek-ko#sal-「生きてゆく」,
pat-ko#chay-「冗談を言い合ったり，押し問答する」, sa-ko#phal-「売り買いする」,
ssa-ko#tol-「かばう，ひいきする」, an-ko#na-「(他人の間違いなどの責任を）負う」,
an-ko#nase-「(他人の責任を）負いに乗り出す」, elkhi-ko#selkhi-「もつれる」,
yel-ko#na-「とても急ぐ」, cha-ko#anc-「任務を引き受けてその地位に就く」,
chi-ko#pat-「互いに争う」, tha-ko#na-「生まれつく」, pha-ko#tul-「深く入り込む」

複合動詞の前部要素に注目すると，tul-「入る」が最も多く 13 例であった．また後部要素は na-「出る」が 4 例, tol-「回る」が 3 例であった．本研究では (2-2) の動詞を複合動詞と見なし，研究対象から除外しておく．

2.2　副動詞と迂言的形式の前部要素との連続性

本研究では，副動詞接辞が補助用言を導く場合，この副動詞を研究対象とはしない．ただし，「副動詞接辞 + 補助用言」の迂言的形式にさらに副動詞接辞が付き，それ自体が副動詞形を成す場合はもちろん別である．このような現象は日本語のテ形に「いる，あげる，ある」などを後続させる場合のように，他の言語にも見られる．Haspelmath (1995: 43-45) は，スペイン語やタミル語，レズギ語 (Lezgian) などのいくつかの言語において，副動詞形が迂言的形式に用いられる例を挙げている．(2-3) にタミル語の例を挙げておく．

(2-3)　*kumaar eṅkaḷ　viiṭ·ṭ-il　taṅk-i　iru-kkir-aan.*
Kumar　we:OBL house-LOC stay-CONV be-PRES-3SG.M
“Kumar is staying in our house.” (Lehman1989: 206，ただしグロスは Haspelmath1995: 43 の方式に改める)

(2-3) を見るとわかるように，‘stay’ の副動詞形に存在を表す動詞が後続し，これがアスペクトを表す迂言的形式となっている．存在を表す動詞がアスペクトマーカーに援用される点は，日本語や朝鮮語と同様である．ソン・セモドル (1996) は朝鮮語の補助用言として表 6 を挙げているが，本研究の対象となる副動詞接辞が含まれているのは進行アスペクトの -ko iss- と願望を表す -ko siph-（表 6 ではそれぞれ「持続」と「希望」という範疇に指定されている）のみで，他は副動詞接辞 -a/e によって導かれる．

表 6　朝鮮語の補助動詞とその下位分類 (ソン・セモドル 1996: 70)

下位範疇	補助用言の形態
1) 持続	ka-/o-, iss-
2) 結果持続	twu-/noh-
3) 終結	peli-/nay-
4) 受恵	cwu- (tuli-)
5) 強勢	tay-
6) 試行	po-
7) 変化	ci-
8) 希望	(-ko) siph-

ソン・セモドル (1996) は表 6 の補助用言が，本動詞と区別され，補助用言として設定される根拠を三つ示している．(i) 構文論的依存性，(ii) 代用形による置き換え不可，(iii) きわだった文法性である．(i) から (iii) について具体的に見てみよう．まず (i) の構文論的依存性とはつまり，補助用言が単独では述語として機能しないということを意味する．(2-4) に見るように，補助用言 ‘cwu-’ のみでは非文法的になってしまい，このような点で補助用言は本動詞とは区別される．

(2-4)　ku　salam=i kathi　hakkyo=ey {a. ka　　cw-ess-e.　　/ b. *cw-ess-e.}
その 人=NOM　一緒に 学校=DAT　　行く:ADV BEN-PST-DECL.NPOL　　あげる-PST-DECL.NPOL
그 사람이 같이 학교에 {a. 가 줬어. / b. * 줬어.}
「その人が一緒に学校に {a. 行ってくれたんだ．／ b. * くれたんだ.}」(ソン・セモドル 1996: 42)

次に (ii) の代用形による置き換え不可とは，補助用言は本動詞と異なり，kule-「そうする」によって置き換えが不可能であるということである．次の (2-5) では，最初の「ユニの家に電話してみようか？」という提案に対する発話として，(2-5b) のように，(2-5a) の本動詞のほうを kule-「そうする」で代用させることはできても，(2-5c) のように補助動詞のほうを kule- で代用させることはできない．

(2-5)　yunhuy-ney cip=ulo cenhwa=lul kel-e　　po-lkka?
PN-のところ　家=ALL　電話=ACC　　かける-ADV CNT-UNCT
윤희네 집으로 전화를 걸어 볼까?
「ユニの家に電話をかけてみようか？」

a.　na=to　cenhwa=lul kel-e　　po-lkka.
1SG=も 電話=ACC　　かける-ADV CNT-UNCT
나도 전화를 걸어 볼까.
「わたしもかけてみようか.」

b.　na=to　**kulay**　　po-lkka.
1SG=も そうする:ADV CNT-UNCT

나도 그래 볼까.
「わたしもそうしてみようか.」

c. *na=to kel-e **kule**-lkka.
1SG かける-ADV そうする-UNCT
* 나도 걸어 그럴까.
「* わたしもかけそうしてみようか.」

(ソン・セモドル 1996: 43)

最後に，(iii) のきわだった文法性は意味の問題であり，補助用言は語彙的意味を表さずに，表 6 にもあるように「持続」「終結」等の文法的な意味を表す．po- は (2-6b) では「見る」という本来の語彙的な意味を表しているが，(2-6a) では日本語の「(ためしに) ～てみる」のような文法的意味を表している．語彙的要素である用言が文法化したのが補助用言だといえる．

(2-6) a. kuke=l ney emma=hanthey mwul-e **pwa**.
それ=ACC 2SG:GEN お母さん=DAT 尋ねる-ADV CNT:IMPR.NPOL
그걸 네 엄마한테 물어 봐.
「それをあなたのお母さんに聞いてみなさい.」

b. na=to ecey ku salam elkwul **pw**-ass-ta.
1SG=も 昨日 その 人 顔 見る-PST-DECL
나도 어제 그 사람 얼굴 봤다.
「わたしも昨日その人の顔見た.」

(ソン・セモドル 1996: 45)

ソン・セモドル (1996) では補助用言を本動詞から区別するための基準以外にも，複合動詞との判別基準についても具体例を挙げながら考察しているが，ここでは割愛する.[6]

ソン・セモドル (1996: 81-100) は表 6 の補助用言以外にも，先行研究でしばしば補助用言として扱われてきたものについて，それらが補助動詞として扱えるのかを検討している．ソン・セモドル (1996: 81-100) は補助動詞とは認めていないが，-key mantul-/ha-「～ようにする，～させる」, -ko na-「～しおわる」, -ko po-「～てみる」, -ko mal-「～てしまう」は二つの要素の間に入るのは一部の補助詞だけである点，それぞれが文法的な意味を担っている点を考慮して迂言的形式として見なす．-ko na- は定形動詞として終止形語尾と結合することはなく，(2-7) のように副動詞接辞や副詞の役割を果たす迂言的形式と結合する．

(2-7) ku=ka ka-ko **na**-n twi... / swukcey=lul ha-ko **na**-se... / i
3SG.M=NOM 行く-ADV CMPL-ADN.PST あと / 宿題=ACC する-ADV CMPL-ADV.SEQ / この
pi=ka kuchi-ko **na**-myen...
雨=NOM やむ-ADV CMPL-ADV.COND

[6] 基準は次の七つである．(i) 項構造との無関係性，(ii) 内的非分離性，(iii) 文の代用形との結合可能性，(iv) 先行用言までの分離代用，(v) 同一形態の先行用言の使用可能性，(vi) 補助用言の連続使用可能性，(vii) 疑似分裂文の形成可能性．詳細についてはソン・セモドル (1996: 47-69) を参照されたい．

그가 가고 난 뒤... / 숙제를 하고 나서... / 이 비가 그치고 나면...
「彼が行った後…／宿題をやってしまってから…／この雨がやんだら…」(国立国語院 2005: 37; 韓国・国立国語院 2012: 39)

その他，副動詞接辞 -key と動詞 toy-「なる」から成る -key toy-「〜ようになる」や副動詞接辞 -ko と動詞 tul-「入る」から成る -ko tul-「やたらに〜する」もこれまでの基準に照らして一つの迂言的形式と見ていいだろう．

副動詞接辞 -taka「〜ている途中で」あるいはその縮約形の -ta を含む迂言的形式には -ta(ka) po-ni(kka)「〜てみると」, -ta(ka) po-myen「〜てみると」がある．括弧の中は省略されうることを表している．これらの迂言的形式はそれ自体が他の副動詞接辞と結合して機能する．また，-ko を含んだ -ko po-ni(kka), -ko po-myen と形態的にも意味的にも近い関係にある．[7] 本研究では，ここで概観した，補助動詞を導き迂言的形式を成す場合の副動詞形については，研究対象としない．

2.3 副動詞と助詞との連続性

前節で研究対象に含めなかったものの他にも，副動詞の範囲を限定するうえで考慮しなければならない問題がある．それが，副動詞が広い意味で文法化し，助詞として機能するようになるという問題である．朝鮮語においては文法化して完全に助詞になっている =cocha「さえ」[8]の他にも，用言に副動詞接辞が付いた形に由来し，助詞と認められるものがある．助詞化しているか否かについての見解はしばしば分かれることがある．以下で，先行研究を概観しながら，副動詞が文法化し助詞として認められる例について確認する．そのあとで完全に助詞となっているとは言えないものの，助詞のように機能する副動詞があることを新たに指摘する．

ナム・ユンジン (2000: 120) は，用言の活用形として副動詞接辞が付いているのか，それとも文法化して助詞として用いられているのかを判断するために，次の五つの基準を設けている．日本語訳は引用者による．

(2-8) 1 番目に，文法的意味がどのような活用形で現れるのか確認すること．つまり，同一の用言だとしても文法的意味が特定の活用形において固定的に現れる場合にのみ文法化しているか否かを探ることができる．
2 番目に，用言の語彙的意味が関係的意味に変わる，意味の変化があること．
3 番目に，用言として要求する名詞句の種類および数，つまり用言の項構造と結合価において変化があること．
4 番目に，文法的意味を持つ場合に，形態，音韻的自立性がなく，他の助詞との結合が可能であり，分布において先行する語の語彙的特殊性に制約を受けないなど，

[7] これらの詳しい意味に関しては五十嵐 (2011)，五十嵐 (2012) を参照されたい．
[8] =cocha は用言 coch-（追・従）から形成されたとされている（洪思滿 1983: 258）．

(2)[9] で指摘された助詞の特性と一致していること．

5 番目に，万一，当該の形態が完全に文法化しているなら，用言の活用の範列においての空白を埋めてくれるような補完装置でなければならないだろう．したがって，このような補完装置があるか否かを考察することが必要である．

(ナム・ユンジン 2000: 120)

そして，ナム・ユンジン (2000: 130) はこの (2-8) の基準によって区別された用言の活用形と助詞の一覧を次の表 7 のように示している．それぞれの助詞の意味は次のようである：kaciko/kacko1「〜でもって」, malko「〜でなくて」, poko「〜に向かって」, chiko「〜として」, neme「〜の向こうに」, ttala「〜にしたがって」, hako「〜と」, hamye「〜といい」．neme, ttala, hamye は，それぞれ副動詞接辞 -a/e と -mye が結合しているので，そもそも本研究の対象とはしていないが，参考に引用しておく．ここでは助詞について扱うため，副動詞として機能する kaciko/kacko2 にもこれ以上言及しない．ナム・ユンジン (2000: 130) で助詞と認められた用法については副動詞として考察の対象とはしないが，本稿の中で言及することはある．

表 7　助詞の識別表：用言の活用形／助詞 (ナム・ユンジン 2000: 130)

	形態の固定	関係的意味	用言の特性		助詞の特性	結果
			先語末語尾の結合	項構造の維持		
kaciko/kacko1	○	対象/道具	×	×	○	助詞
kaciko/kacko2	○	状態	×	×	×	語末語尾
malko	○	排除	×	該当事項なし	○	助詞
poko	○	方向	×	×	○	助詞
chiko	○	資格	×	×	○	助詞
neme	×	×	×	○	×	用言
ttala	○	依拠	×	×	○	助詞
hako	○	与同/接続	×	該当事項なし	○	助詞
hamye	○	接続	×	該当事項なし	○	助詞

[9] ナム・ユンジン (2000: 87) で述べられている「(2) 助詞の特性」は次のとおりである．

a. 形態／音韻的特性 (1)：助詞は自立性がなく，先行語と結合し音韻論的単語を成す．したがって，先行語 + 助詞という構成は自立性を持つ．

b. 形態／音韻的特性 (2)：他の助詞の構成との結合が可能であり，助詞の結合には一定の順序がある．

c. 統語／意味的特性 (1)：助詞は統語的構造と関係を持つが，このとき統語的構造の単位は，形態素，語，句，節などと多様である．

d. 統語／意味的特性 (2)：先行する構造（と述語）の統語的，意味的関係を表示する．

e. 統語／意味的特性 (3)：助詞は先行語との結合から，先行語の意味変化をもたらさない．

f. 分布上の特性 (1)：助詞は自立性を持つ先行語（体言，用言の活用形，副詞，感動詞など）の後に来ることができる．

g. 分布上の特性 (2)：助詞の結合は先行語の語彙的特殊性に制約を受けない．つまり，特定の範囲に属する語彙と助詞の結合の範列表 (paradigm table) を作るとき，先行語の語彙的特殊性による空欄が生じない．

(ナム・ユンジン 2000: 87)

表 7 に挙がっている，用言の活用形か助詞かを判断する基準について，ここで kaciko/kacko1 を例に取って説明を加えておこう．まず，「形態の固定」について，kaciko/kacko が対象や道具の意味を表すときは，連体形として kaci-nun/kac-nun となったり他の副動詞形として，例えば条件を表す -myen が付いて kaci-myen「持てば」のように形態が変わらないということを意味している．次に「関係的意味」とは，動詞 kaci-「持つ」が本来備えている所有，所持の意味ではなく (2-9), (2-10) のように対象や道具といった意味を表すことをいう．

(2-9) tongsayng=ilato iss-ess-tamyen emma=na halmeni=ka na=lul **kacko**
弟妹=でも いる-PST-ADV.COND 母=や おばあさん=NOM 1SG=ACC もって
ileh-key yatanha-ci anh-ul they-ntey.
こうだ-ADV.MNN 叱る-NMLZ NEG-SPEC-ADV.AVS
동생이라도 있었다면 엄마나 할머니가 나를 갖고 이렇게 야단하지 않을 텐데.
「弟妹でもいたら，お母さんやおばあちゃんがわたしのことをこんなに叱らないだろうに.」(ナム・ユンジン 2000: 121) ［対象］

(2-10) thoinpi=nun tocen=kwa ungcen=uy thul=ul **kaciko** inkan=uy yeksa=lul
PN=TOP 挑戦=COM 応戦=GEN 枠組み=ACC もって 人間=GEN 歴史=ACC
haysekha-yess-supnita.
解釈する-PST-DECL.POL
토인비는 도전과 응전의 틀을 가지고 인간의 역사를 해석하였습니다.
「トインビーは挑戦と応戦の枠組みをもって，人間の歴史を解釈しました.」(ナム・ユンジン 2000: 121) ［道具］

また「先語末語尾の結合」は，尊敬を表す接尾辞 -si- が結合し，kaci-si-ko「お持ちになって」のようになるかということである．「項構造の維持」は，(2-11), (2-12) の対比からわかるように，所有，所持の意味を表す (2-11) と対象の意味を表す (2-12) とでは動詞句の意味が異なる．最後に，「助詞の特性」についてはすでに (2-8) において言及したとおりである．

(2-11) ku=nun manh-un ton=ul **kaci-ko** iss-ese…
3SG.M=TOP 多い-ADN.NPST お金=ACC 持つ-ADV PROG-ADV.SEQ

= ku=nun manh-un ton=ul kacy-ess-ta. kule-n sangthay=lo…
3SG.M=TOP 多い-ADN.NPST お金=ACC 持つ-PST-DECL そうだ-ADN.NPST 状態=INST

그는 많은 돈을 가지고 있어서… = 그는 많은 돈을 가졌다. 그런 상태로…
「彼はたくさんのお金を持っていて… = 彼はたくさんのお金を持った．その状態で…」(ナム・ユンジン 2000: 123)

(2-12) emma=na halmeni=ka na=lul **kacko**
母=や おばあさん=NOM 1SG=ACC もって

≠ emma=na halmeni=ka na=lul kacy-ess-ta. i=lul taysang=ulo…
母=や おばあさん=NOM 1SG=ACC 持つ-PST-DECL これ=ACC 対象=INST

엄마나 할머니가 나를 갖고 ≠ 엄마나 할머니가 나를 가졌다. 이를 대상으로…
「お母さんやおばあちゃんがわたしのことを ≠ お母さんやおばあちゃんがわたしを持った．これを対象に…」(ナム・ユンジン 2000: 123) =(2-9)

その他，malko, poko, chiko, hako の例を (2-13) から (2-16) に挙げておく．

(2-13) kikyey=ey tayhay-se=nun i seysang=eyse na **malko** nwu=ka tto iss-supnikka?
機械=DAT 対する-ADV.SEQ=TOP この 世界=LOC 1SG 以外に 誰=NOM また いる-INTRR.POL
기계에 대해서는 이 세상에서 나 말고 누가 또 있습니까?
「機械に関しては，この世界にぼく以外に誰がいますか？」(ナム・ユンジン 2000: 124)

(2-14) cwuin=**poko** "philyoeps-key toy-n kay pap#kulus=un cwu-si-o"
主人=に向かって 必要ない-ADV.MNN なる-ADN.PST 犬 ご飯#器=TOP くれる-HON-IMPR
hay-ss-teni,
言う-PST-ADV.FCTC
주인보고 "필요없게 된 개 밥그릇은 주시오" 했더니,
「主人に向かって『必要なくなった犬のお茶碗はください』と言ったところ，」(ナム・ユンジン 2000: 126)

(2-15) phulangkhu=nun pwunmansil=kkaci ttal-a tuleo-n
PN=TOP 分娩室=まで 付いていく-ADV 入ってくる-ADN.PST
apeci=**chiko**=nun cacil=i hancham tteleci-nun salam=i-ess-ta.
父=にして=TOP 資質=NOM ずいぶん 落ちる-ADN.NPST 人=COP-PST-DECL
프랑크는 분만실까지 따라 들어온 아버지치고는 자질이 한참 떨어지는 사람이었다.
「フランクは分娩室まで付いて入ってきた父にしては，ずいぶん資質に欠ける人だった．」(ナム・ユンジン 2000: 126)

(2-16) kukey ttan cip=**hako** wuli cip=hako=uy chai=y-ess-ta.
それ:NOM 他の 家=COM 1PL 家=COM=GEN 差=COP-PST-DECL
그게 딴 집하고 우리 집하고의 차이였다.
「それが他の家とうちの家との差だった．」(ナム・ユンジン 2000: 130)

任 (2006) はナム・ユンジン (2000) で助詞と判断された kaciko「もって」, poko「向かって」, chiko「として」, malko「ではなくて」について批判的に検討を加えている．任 (2006) が検討している形態的，統語的観点を次の (2-17) にまとめておく．ただし，kaciko, poko, chiko, malko について，必ずしも (2-17a) から (2-17f) の全てが検討されているわけではない．

(2-17) a. 他の格助詞への置き換え
b. 尊敬を表す接尾辞 -si- の結合
c. 形態の固定
d. 分かち書き

e. 動詞の活用形としての用法と，他の格助詞に置き換え可能な用法との意味的な連続性

f. 文節の境界

任 (2006) は結果的に，kaciko, poko に関しては ‘対格助詞／ゼロ + kaciko’, ‘対格助詞／ゼロ + poko’ を一つの格助詞相当の分析的な形と，chiko, malko に関しては動詞の活用形と見なしている．対格助詞が現れうるかも動詞の活用形か助詞かの基準となる．任 (2006) ではこの四つに関しては助詞と認めない立場であるが，それぞれの「用言 + 副動詞接辞」は次のようにより動詞の活用形に近いものから助詞に近いものがあるという．任 (2006) をもとに (2-18) にそれぞれの関係を示す．不等号 (<) の開いている方が，より助詞に近いということを表している．

(2-18)　kaciko < poko < chiko < malko

ここから少し詳しく (2-17a) から (2-17f) について見てみよう．まず (2-17a) の「他の格助詞への置き換えに」関して，任 (2006) によれば kaciko は与格の =eykey/=hanthey あるいは沿格の =lo に，poko は与格の =eykey/=hanthey に，chiko は具格の =lose にそれぞれ置き換えが可能であるが，malko に関しては置き換え可能な格助詞はないという．

次に (2-17b)「尊敬を表す接尾辞 -si- の結合」に関して，kaciko, poko, chiko, malko はどれも接尾辞 -si- との結合を許さない．これはナム・ユンジン (2000) でも助詞の判別の基準の一つとしていたが，任 (2006: 69) はこれをもってして動詞の活用形か助詞かの基準とすることはできないと述べている．

ナム・ユンジン (2000) でも検討されていた (2-17c)「形態の固定」の問題について見てみよう．すでに述べたようにナム・ユンジン (2000) では助詞として機能する kaciko/kacko はその形態が固定されていることを根拠の一つとして，これを助詞と認めている．しかし，任 (2006: 70) が指摘するように kaci**ko** だけでなく kaci**kose** でも現れることがある．kacikose は，kaci-「持つ」に副動詞接辞 -ko ではなく -kose[10]が付いて形成されている．

(2-19)　yeykhentay hyentay=uy hwahakcek pwunsek=uy swutan=ul kaci**kose** samwul=ina ku
例えば　現代=GEN　科学的　分析=GEN　手段=ACC　もって　事物=や　その
sengcil=uy haymyeng=ey chakswuha-lyeko ha-nun kyengwu
性質=GEN　解明=DAT　着手する-ADV.VOL　する-ADN.NPST 場合
… 예컨대 현대의 화학적 분석의 수단을 가지고서 사물이나 그 성질의 해명에 착수하려고 하는 경우 …
「…例えば現代の科学的分析の手段をもってして（手段で）事物やその性質の解明に着手しようとする場合…」(任 2006: 70)

(2-19) のように，形態が必ずしも固定されて現れないということは poko, chiko に関してもあてはまり，(2-20) や，(2-21) のように -kose が付いた形がありうる．

[10] 副動詞接辞 -kose は -ko に類似しているが，より動作の先行性を明示する形式である．ただし，-ko のように列挙の用法は持たない．

(2-20) a. … tto ku=uy komo toy-nun i=ka w-ase caki cokha=lul
また 3SG.M=GEN 叔母 なる-ADN.NPST 人=NOM 来る-ADV.SEQ 自分 甥=ACC
pokose, …
に向かって
… 또 그의 고모 되는 이가 와서 자기 조카를 보고서, …

b. … tto ku=uy komo toy-nun i=ka w-ase caki cokha=**pokose**, …
また 3SG.M=GEN 叔母 なる-ADN.NPST 人=NOM 来る-ADV.SEQ 自分 甥=に向かって
… 또 그의 고모 되는 이가 와서 자기 조카보고서, …
「…また彼の叔母にあたる人が来て自分の甥に…」(任 2006: 72)

(2-21) hakmwun=**chikose** selo amwu kwanlyen=to eps-nun hakmwun=un hana=to
学問=として 互いに なんの 関係=も ない-ADN.NPST 学問=TOP 一つ=も
eps-ta-ko ha-l kes=i-ta.
ない-DECL.QUOT-COMP 言う-SPEC=COP-DECL
학문치고서 서로 아무 관련도 없는 학문은 하나도 없다고 할 것이다.
「学問のうち互いになんの関連もない学問は一つもないと言うだろう.」(任 2006: 70)

malko に関しては，名詞のすぐあとに続く場合には malkose は不可能であるが，名詞形接辞の -ci のあとに付く場合は mal**kose** という形がありうるとして，任 (2006) は malko も「形態の固定」という観点から助詞ではなく動詞の活用形と見ている．

(2-17d) の「分かち書き」に関して，任 (2006) は，名詞に対格助詞が付かず kaciko/poko が直接続く場合，kaciko は名詞との間にスペースを入れるのに対し，poko は分かち書きをするかしないかに揺れがあり，chiko, malko に関しても同様に個人によって揺れがあるとしている．しかし，分かち書きの問題に関しては，簡単に結論を出すことはできず，テキストのジャンルやそれを書いた人の年齢層，学歴など様々な要因を加味し，慎重な議論をする必要があると考えられる．

(2-17e)「動詞の活用形としての用法と，他の格助詞に置き換え可能な用法との意味的な連続性」に関しては，kaciko, poko, chiko についてのみ考察が行われている．kaciko の場合，例えば (2-22) のように，具体的な物（ペン）を表す名詞を取る場合は kaciko は動詞の活用形とも助詞とも解釈でき，(2-23), (2-24) ではともに抽象的な名詞（希望，結論）を取っているが，(2-23) では動詞の活用形，(2-24) では助詞の解釈のみ可能であるという (任 2006: 71).

(2-22) pheyn=ul **kaciko** kongpwuha-nta.
ペン=ACC もって 勉強する-DECL.NPST
펜을 가지고 공부한다.
「ペンを持って（or もってして=で）勉強する.」(任 2006: 71)

(2-23) huymang=ul **kaciko** kongpwuha-nta.
希望=ACC もって 勉強する-DECL.NPST

희망을 가지고 공부한다.
「希望を持って勉強する.」(任 2006: 71)

(2-24) kyellon=ul **kaciko** hanguyha-nta.
結論=ACC　もって　抗議する-DECL.NPST
결론을 가지고 항의한다.
「結論をもってして（で)抗議する.」(任 2006: 71-2)

このように kaciko が無情名詞を取っている場合は，動詞の活用形か助詞かの解釈が曖昧になる場合があるものの，前の名詞と後続する動詞との意味的な関係によってある程度は曖昧性が解消される．一方，有情名詞の場合は (2-9) の例のように与格の =eykey に置き換え可能なため，曖昧性は生じない (任 2006: 71)．それに対し，poko の場合は有情名詞を取る場合に曖昧性が生じるが，その曖昧性の程度は kaciko よりも大きいという (ibid: 71)．chiko についても，ナム・ユンジン (2000) が述べるようにこの意味を「資格」とすることもできるかもしれないが，これは chiko が持つ「仮想」や「見積もり」の意味とも連続性を持つとしている (ibid: 75).

最後に，(2-17f) の「文節の境界」は任 (2006) が行った統語的なテストで，kaciko, poko のみが言及されている．これは動詞の活用形と判断される例と助詞と解釈できる例を朝鮮語母語話者に提示し，mal=i-ci (言葉=COP-ASS) 「〜ね」を挿入するように指示したところ，(2-25a) のように動詞の活用形の場合は名詞と kaciko/poko の間に挿入語を入れたが，一方 (2-25b) のように助詞と解釈できる例の場合は kaciko/poko の後にのみ挿入語を入れたという．(2-25b) のように，格助詞としての用法の場合，kaciko/poko は動詞の活用形としての用法よりも自立性がないと考えられる (任 2006: 92).

(2-25) a. 名詞句 (+ 対格助詞) malici, **kaciko/poko** malici, ...
名詞句 (+ 対格助詞) 말이지, 가지고/보고 말이지, ...
b. 名詞句 (+ 対格助詞) **kaciko/poko** malici, ...
名詞句 (+ 対格助詞) 가지고/보고 말이지, ...

任 (2006) は，kaciko, poko, chiko, malko のなかでは malko がもっとも助詞化したものと見ている．しかし，malko は単独の発話が可能であり，この点からはもっとも自立性があり助詞からは遠いということができる．これは，例えば日本語の主題を表す「〜は」が単独で文頭に出られるのと同様である．「〜は」は (2-26) のように前に名詞句を伴わなくとも，これ単独での発話が可能である．(2-26) の場合，B の発話は「ポイントカードは」を意図しているが，文脈から明らかな場合は名詞句を言わないという現象がしばしば観察される．

(2-26) A: ポイントカードはお持ちですか？
B: は，ないです．

日本語と比べると，朝鮮語の場合は助詞を単独で発話するのは不自然であると考えられる．しかし，ナム・ユンジン (2000) で助詞と見なされ，任 (2006) で助詞としての性格が濃厚であ

ると考えられている malko は単独の発話が可能である．

(2-27) A: ike myengphwum ani-ey=yo?
これ ブランド物 NCOP-INTRR=POL

B: ani, **malko**.
いや ではなくて

A: 이거 명품 아니에요?

B: 아니, 말고.

「A：これブランド物じゃないですか？」

「B：いや，じゃなくて．」

このような助詞の独立性を考慮すると，必ずしも malko が最も助詞に近いとは言えない．

ナム・ユンジン (2000) では言及されていないが，他にも用言に副動詞接辞が付いた形が助詞として機能する例がある．それは条件を表す副動詞接辞 -myen が付いた (i)lamyen, kathumyen, hamyen が主題を表す助詞のように働く場合である．(i)lamyen はコピュラ =i- の引用形である =ila に条件の -myen が付いた形であり，kathumyen, hamyen はそれぞれ kath-「同じだ，〜ようだ」と ha-「する」に -myen が付いている．徐希延 (2015) は (i)lamyen, kathumyen, hamyen が助詞化しているか否かの基準を，形態・統語的，意味・機能的，出現環境について設定し，助詞化の過程を示している．徐希延 (2015: 164) は，まず (i)lamyen の助詞化に関して，次の表 8 のようにまとめている．徐希延 (2015: 164) では，それぞれの場合の用例も一緒に表中に収まっているが，ここでは用例を見やすくするため，表の下に別にして引用する．

表 8 ‘(i)lamyen’ の助詞化 (徐希延 2015: 164)

区分	(i)lamyen1	(i)lamyen2	(i)lamyen3
節単位の連結	○ 仮定節	○ 反事実的仮定節の再構造化	×
先語末語尾の介入	○ ‘(i)lamyen’ 可能	○ ‘(i)lamyen’ 可能	×
‘i’ の脱落必須	○	○	○
‘=i-’ の意味維持	○	○	×
‘-myen’ の意味維持	○	○	×
「〜について」性の表出	×	×	○
先行，後行要素の制約	×	○ 後行の事態の主体が先行	○ 先行要素について代表性を帯びた言葉が後行
文内の位置制約	×	○ 主語	×
文のタイプ制約	×	○ 平叙文，疑問文可能	×
範疇	連結語尾の結合形	主題標識	代表性誘導の主題標識

徐希延 (2015: 164) で示された (i)lamyen1 から (i)lamyen3 の例を，次の (2-28) から (2-30) に引用する．下線は引用者による．(i)lamyen1 と (i)lamyen2 の差は，統語的な制約「文内の位置制約」「文のタイプ制約」を除いては，「先行，後行要素の制約」にしかないが，後者が主題標識とされるのは，次の理由からである．つまり，例 (2-28a) では，ku「彼」と chinkwu「友

達」は同一の指示対象であり，(2-28b) では，「寮ではなくて」のような話し手，聞き手が共有する旧情報が省略されただけだと説明される．一方，例 (2-29) では，「X はこうしたが，テヒが X なら…」のような構造を想定し，ここで「テヒ = X」であるため X が省略されるという再構造化が起こっていると説明される (徐希姃 2015: 159-162)．また，(2-29) のような例の場合，反事実的な仮定であるにも関わらず過去接辞と結合していないことや，尊敬を表す -si- が必ずしも要求されないこと，(2-28) のような例よりも形態が固定化されていることからも，(i)lamyen2 が (i)lamyen1 より助詞に近づいていると判断される (ibid.: 161-162)．例 (2-30) のような (i)lamyen3 に至ると，すでに「X が Y なら」という関係も想定できず，manil「万一」のような仮定を表す副詞との共起もできないことから，最も助詞に近づいている例である．

(2-28) a. ku=ka cincengha-n chinkwu=**lamyen** tow-a cwu-ela.
3SG.M=NOM 本当だ-ADN.NPST 友達=なら 助ける-ADV BEN-IMPR.NPOL
그가 진정한 친구라면 도와주어라.
「彼が本当の友達なら助けてあげなさい．」

b. pakk=eyse=**lamyen** manna-ca.
外=LOC=なら 会う-COHR
밖에서라면 만나자.
「外でなら会おう．」

(徐希姃 2015: 164) [(i)lamyen1]

(2-29) thayhuy=**lamyen** kuleh-key ha-ci=nun anh-ass-ul ke=ya.
PN=なら そうだ-ADV.MNN する-NMLZ=TOP NEG-PST-SPEC=COP:DECL.NPOL
태희라면 그렇게 하지는 않았을 거야.
「テヒならそうしなかっただろう．」(徐希姃 2015: 164) [(i)lamyen2]

(2-30) a. swuhakyehayng=**ilamyen** yeksi kyengcwu-ci.
修学旅行=なら やはり 慶州(=COP)-ASS
수학여행이라면 역시 경주지.
「修学旅行なら，やっぱり慶州だろう．」

b. yenge=**lamyen** thayswu=mankhum cal ha-nun ay=to eps-ta.
英語=なら PN=ほど よく する-ADN.NPST 子=も いない-DECL
영어라면 태수만큼 잘 하는 애도 없다.
「英語ならテスほど上手な子もいない．」

(徐希姃 2015: 164) [(i)lamyen3]

kathumyen の場合も，表 9 に示されているように (i)lamyen と同様に助詞化している．違いはコピュラ =i- の意味維持，kath-「同じだ，～ようだ」の意味維持の項目だけである．

表 9　‘kathumyen’ の助詞化 (徐希姃 2015: 170)

区分	kathumyen1	kathumyen2	kathumyen3
節単位の連結	○ 仮定節	○ 反事実的仮定節の再構造化	×
先語末語尾の介入	○ ‘kathumyen’ 可能	○ ‘kathumyen’ 可能	×
‘kath-’ の意味維持	○	×	×
‘-myen’ の意味維持	○	○	×
「～について」性の表出	×	×	○
先行，後行要素の制約	×	○ 後行の事態の主体が先行	○ 先行主題について代表性を帯びた言葉が後行
文内の位置制約	×	○ 主語	×
文のタイプ制約	×	○ 平叙文，疑問文可能	×
範疇	連結語尾の結合形	主題標識	代表性誘導の主題標識

kathumyen の例も (i)lamyen の場合と同様に例は表とは別にして引用する．下線は引用者による．

(2-31)　a. yeycen **kathumyen** ile-n　il=un　sangsang=to mos ha-nta.
以前　だったら　こうだ-ADN.NPST こと=TOP 想像=も　IMPS する-DECL.NPST
예전 같으면 이런 일은 상상도 못한다.
「昔だったら，こんなことは想像もできない．」

b. sa　talla-nun　key　catongcha **kathumyen** etteh-key
買う:ADV BEN:IMPR.QUOT-ADN.NPST もの:NOM 自動車　だったら　どうだ-ADV.MNN
ha-keyss-ni?
する-PROB-INTRR
사 달라는 게 자동차 같으면 어떻게 하겠니?
「買ってくれというのが自動車だったらどうするんだ？」

(徐希姃 2015: 170) [kathumyen1]

(2-32)　thayhuy **kathumyen** pelsse phokihay-ss-ta.
PN　だったら　もう　諦める-PST-DECL
태희 같으면 벌써 포기했다.
「テヒだったらもう諦めている．」(徐希姃 2015: 170) [kathumyen2]

(2-33)　a. thaykwento **kathumyen** hankwuk=i ceyil=i-ci.
テコンドー　だったら　韓国=NOM　一番=COP-ASS
태권도 같으면 한국이 제일이지.
「テコンドーだったら韓国が一番だろう．」

b. cacenke **kathumyen** thayswu=ka cal tha.
自転車　だったら　PN=NOM　よく 乗る:DECL.NPST.NPOL
자전거 같으면 태수가 잘 타.

「自転車だったらテスが運転がうまいよ.」

(徐希姃 2015: 170) [kathumyen3]

ここまで先行研究を引用しながら見てきた，副動詞が助詞として機能する例の他に，副動詞と助詞の間にまたがるような例があるということを指摘しておきたい．例えば，cwu-「あげる，くれる」が副動詞接辞 -ko と結合した cwu-ko は，目的語に金額を取るとき助詞のように機能することがある．次の (2-34) の例を見ると，この例では実際に 160 ウォンを渡すという動作よりも，「160 ウォンで」というように，要はいくらで買ったか金額を表していると考えられる．日本語では「160 ウォンあげて」ではなく「160 ウォンで」と表現するところであろう．このとき TAM マーカーなどとの結合はせず，“160wen=ey” のように cwu-ko を与位格の =ey に置き替えても文が成立する．

(2-34) na=nun ellun tasi yeksa an=ulo tuleka mayphyoso=eyse mwulkum
1SG=TOP すぐ 再び 駅舎 中=ALL 入っていく:ADV.SEQ 券売所=LOC 勿禁（ムルグム）
ka-nun pitwulkiho kichaphyo=lul 160wen **cwu-ko** / OK 160wen=**ey**
行く-ADN.NPST PN 切符=ACC 160 ウォン あげる-ADV.SEQ 160 ウォン=DAT
han cang kkunh-ess-supnita.
一つの 枚 買う-PST-DECL.POL
나는 얼른 다시 역사 안으로 들어가 매표소에서 물금 가는 비둘기호 기차표를 160 원 주고 / 160 원에 한 장 끊었습니다.
「わたしはすぐにもう一度駅舎の中に入って，券売所で勿禁（ムルグム）行きのハト号の切符を 160 ウォンで 1 枚買いました.」[BREO0086]

ただし，ナム・ユンジン (2000) では用言の活用形か助詞かの判断基準として形態の固定化を挙げていたが，副動詞接辞は -ko で固定されているわけではなく，(2-35) のように -kose の場合もありうる．これは，(2-19) から (2-21) で副動詞接辞 -ko だけでなく，-kose が付いている例が示されたのと同様である．

(2-35) kkem phal-le naka-ss-ta tolao-l ttay phyenci pongthwu=wa
ガム 売る-ADV.PURP 出る-PST-ADV.DISC 帰ってくる-ADN.IRR とき 手紙 封筒=COM
phyenci congi=lul 1wen **cwu-kose** sa w-ass-supnita.
手紙 紙=ACC 1 ウォン あげる-ADV.SEQ 買う:ADV VEN-PST-DECL.POL
껌 팔러 나갔다 돌아올 때 편지 봉투와 편지 종이를 1 원 주고서 사 왔습니다.
「ガムを売りに行って，帰るときに封筒と便箋を 1 ウォンで買ってきました.」[CG000035]

他にも，ppay-「抜く，取り除く」が副動詞接辞 -ko と結合した ppay-ko も助詞のように振る舞うことがある．(2-36) では，ppay-ko の主体は特定することができ，この場合は上位節の主体，つまり聞き手と同一であると解釈することができる．しかし，(2-37) の例では，もはや ppay-ko の主体を特定することはできず，(2-36) に比べると助詞に近づいているということができる．

(2-36) thaithulkok **ppay-ko** hwaltong caykayha-si-n ke=n phyocel=ul
表題曲 抜く-ADV.SEQ 活動 再開する-HON-ADN.PST こと=TOP 剽窃=ACC
incengha-nta-nun ttus=i-pnikka?
認める-DECL.QUOT-ADN.NPST 意味=COP-INTRR.POL
타이틀곡 빼고 활동 재개하신 건 표절을 인정한다는 뜻입니까?
「表題曲を除いて活動を再開されたのは，剽窃を認めるという意味ですか？」[시크릿 가든 9]

(2-37) ecey=nun ne **ppay-ko** ta w-ass-e.
昨日=TOP 2SG 抜く-ADV.SEQ みんな 来る-PST-DECL.NPOL
어제는 너 빼고 다 왔어.
「昨日はお前以外みんな来たぞ.」

実際は副動詞か助詞かの区別は難しく，次の (2-38) の例では，ppay-ko の主体は上位節の主体である話し手とも考えられるが，ppay-ko というのは主体が意志を持って行った行動と考えなければ助詞と解釈することもできる.

(2-38) coh-ta.. ung? yeca=tul **ppay-ko** wuli-kkili ileh-key achim=pwuthe swul=to
よい-DECL うん 女=PL 抜く-ADV.SEQ 1PL-同士 こうだ-ADV.MNN 朝=から 酒=も
hancanha-ko.
一杯やる-ADV.SEQ
좋다.. 응? 여자들 빼고 우리끼리 이렇게 아침부터 술도 한잔하고.
「いい気分だ…だろ？ 女ども抜きで我々だけでこうやって朝からお酒も一杯やって.」[웨딩 2]

この (2-36), (2-37) のような対比は英語の -ing 分詞の例においても見ることができる. König & Kortmann (1991: 116) は次の二つの例を挙げつつ，(2-39b) の “considering” のみが前置詞として分析されると述べている．どちらの場合も動詞 consider の -ing 形ではあるものの，(2-39a) の場合 -ing 分詞の主語は主節の主語 “she” にコントロールされているが，一方，(2-39b) の場合，-ing 分詞の主語を決定付ける要素はなにもなく，より前置詞に近づいている. 例文中のボールドと日本語訳は引用者による.

(2-39) a. **Considering** the conditions in the office, she thought it wise not to apply for the job.
「オフィスの状況を考慮すると，仕事には応募しないのが賢明だと彼女は思った.」
b. **Considering** his age, he has made excellent progress in his studies.
「彼の年齢を考慮すると，学業において彼は大変な進歩があった.」

(König & Kortmann1991: 116)

König & Kortmann (1991: 120) は，considering の他にも英語の -ing 分詞から派生した接置詞の例を挙げている.

(2-40) a. time: *during, pending, ago, past*

b. exception: *barring, excepting, excluding*

c. topic/perspective: *concerning, considering, regarding, respecting*

(König & Kortmann 1991: 120)

ここまで，副動詞が助詞として機能すると考えられる例について概観してきた．先行研究で挙げられていた kaciko/kacko, poko, chiko, malko, (i)lamyen, kathumyen については助詞として扱うことにする．ただ，(2-34) から (2-37) に挙げたような例も存在し，どのような基準に立って判断するかによって副動詞とも助詞とも見ることができるため，あくまで副動詞と助詞は連続したものであると考えておく．

2.4 副動詞と複合格助詞との連続性

2.3 で概観したように，他の言語と同様に朝鮮語にも用言の副動詞形が助詞として振る舞う場合があり，先行研究を参照しつつ，現時点で助詞と認められるものを区別しておいた．用言の副動詞形が助詞として機能する場合の他に，「格助詞に相当する働きをしており，ある一定のまとまった形式になっていると考えられる」(塚本 2012: 137) 複合格助詞が存在する．[11]日本語では例えば「～について，～に関して，～を通して，～をはじめ」などがある．朝鮮語にも日本語と同様に複合格助詞があり，塚本 (2012: 137) によれば，朝鮮語の複合格助詞は形態の違いから次の (2-41) のように分類できる．(2-41a) の (ii) は漢字語に付く ha-「する」に関して，副動詞形 haye の縮約形 hay になる場合があるが，全ての場合に縮約形が存在するわけではないため，括弧付きで示しているという (ibid.: 137).

(2-41) a. i. 単一連用格助詞 + 動詞連用形

(ii. 単一連用格助詞 + 動詞連用形の縮約形)

iii. 単一連用格助詞 + 動詞連用形 (の縮約形)+ 接続語尾「서〈se〉」

b. (単一｛連体／連用｝格助詞 +) 名詞 + 単一連用格助詞

(塚本 2012: 137)

本研究の対象と重なるのは (2-41a) の (iii) の場合であるが，参考までに塚本 (2012: 138-140) に挙げられている (2-41) の具体例を示す．ここで本研究の対象として問題となるのは (2-42a) のうち -(a/e)se の形を取ったものである．対象となる語形をボールドにして引用する．

[11] 菅野 (1988: 1009) は後置詞を「体言や用言の直後に付く付属的な単語．副詞的なものと冠形詞的なものとがあり，前者には一部のとりたて語尾が付き得る．」として，菅野 (1988: 1017) で kwanhaye「関して」, tayhaye「ついて」, inhaye「よって」等，塚本 (2012) で複合格助詞と呼んでいるものを挙げている．しかしその後，菅野 (2006a: 167-168) ではこれらを「補助的な単語」あるいは「補助語」と呼び，後置詞として特別に品詞を立てる必要はないだろうと述べている．朝鮮語においてなにを後置詞とするかは研究者の間で見解が異なるため，本研究では塚本 (2012) にしたがい，=ey kwanhaye「～に関して」などを複合格助詞と呼んでおく．

(2-42) a. i. =ey {kwanhaye/kwanhay/**kwanhayse**}「〜に｛関し／関して｝；〜に｛つき／ついて｝」,
=ey {kelchye/**kelchyese**}「〜に｛かけ／かけて｝；〜に｛わたり／わたって｝」,
=ey {tayhaye/tayhay/**tayhayse**}「〜に｛対し／対して｝；〜に｛つき／ついて｝」,
=ey {ttala/**ttalase**}「〜に｛従い／従って｝」,
=ey {uyhaye/uyhay/**uyhayse**}「〜に｛より／よって｝」,
=ey {**issese**}「〜にあって；〜において；〜に｛あたり／あたって｝」,
=ey {cuumhaye/**cuumhayse**}「〜に｛際し／際して｝；〜に｛あたり／あたって｝」,
=ey {hanhaye/hanhay/**hanhayse**}「〜に｛限り／限って｝」

ii. =lul/ul {piloshaye/piloshay/**piloshayse**}「〜をはじめ」,
=lul/ul {wisihaye/wisihay/**wisihayse**}「〜をはじめ」,
=lul/ul {wihaye/wihay/**wihayse**}「〜のために〈目的〉」,
=lul/ul {thonghaye/thonghay/**thonghayse**}「〜を｛通じ／通じて｝；〜を通して」

iii. =lo/ulo {inhaye/inhay/**inhayse**}「〜に｛より／よって｝〈原因〉」,
=lo/ulo malmiama「〜に｛より／よって｝〈原因〉」

b. i. =uy tekthaykulo「〜のおかげで」,
=uy taylilose「〜の代わりに」

ii. ={wa/kwa} machankacilo「〜と同様に」

iii. ={wa/kwa}(nun) pantaylo「〜と (は) 反対に」

iv. ~ ttaymwuney「〜のために〈原因・理由〉；〜のせいで」,
~ tekpwuney「〜のおかげで」,
~ taysin{ey/ulo}「〜の代わりに」

(塚本 2012: 138-140)

菅野 (2006b: 116-118) は体言に接続する分析的な形のうち助詞相当のものに，塚本 (2012) で言及のなかった形式も挙げている．本研究で対象とする副動詞の形を取ったものを菅野 (2006b: 116-118) から挙げると，次の (2-43) のとおりである．

(2-43) a. 与位格に続く複合格助詞
=ey panhayse「〜に反して」
=ey ceyhayse「〜に際して」
=ey tayko「〜に対して」
=ey=to pwulkwuhako 「〜にもかかわらず」

b. 対格に続く複合格助詞
=lul/=ul hyanghayse「〜に向かって」

=lul/=ul maklonhako「～を問わず」
=lul/=ul pwulmwunhako「～を問わず」
=lul/=ul sikhyese「～をして（せしめる）」
=lul/=ul nohko「～に対して」
=lul/=ul twuko「～について」

c. 具格に続く複合格助詞
=lo/=ulo hayse「～を経由して」

d. 焦点助詞「～だけ」に続く複合格助詞
=man hayto「～だけでも」

e. 主題標識に続く複合格助詞
=nun/=un kosahako「～はさておき，～どころか」

(菅野 2006b: 116-118)

塚本 (2012: 143-147) では，(2-42a) にある例が単なる動詞の副動詞形とは異なり，ある一定のまとまりを持った単位であることの証拠として，次の 4 点を挙げる．(i) 格助詞と動詞副動詞形の間にとりたて助詞（焦点助詞）を挿入できない，(ii) 動詞が使役，受身，願望，否定などによって形を変えることがない，(iii) 与格助詞が有情物に付く場合でも無情物に付く場合と変わらない，(iv) 動詞が連体形を取る場合に過去の連体形を取ることが固定化している．(i) から (iv) の具体例を下で見ていこう．まず (i) について，=ey kwanhayse「～に関して」の間に焦点助詞の =to「～も」が入っているが，このように間に他の要素を入れることは許されない．(2-44) の下線は引用者による．

(2-44) *sensayngnim=un i mwuncey=**ey**=to **kwanhay-se** hayselhay-ss-ta.
先生=TOP この 問題=DAT=も 関する-ADV.SEQ 解説する-PST-DECL
* 선생님은 이 문제에도 관해서 해설했다.
「* 先生はこの問題にも関して解説した．」(塚本 2012: 144)

次に (ii) について，(2-45) に示すように，例えば =ey kwanhayse に否定を表す -ci anh- を結合させることはできない．

(2-45) *sensayngnim=un i mwuncey=**ey kwanha-ci anh-ase** hayselhay-ss-ta.
先生=TOP この 問題=DAT 関する-NMLZ NEG-ADV.SEQ 解説する-PST-DECL
* 선생님은 이 문제에 관하지 않아서 해설했다.
「* 先生はこの問題に関さないで解説した．」(塚本 2012: 144)

続いて (iii) について，朝鮮語の与格助詞は無情物に付く場合は =ey, 有情物の場合は =eykey あるいは =hanthey となるが，(2-42a) に示された複合格助詞の場合，与格助詞が付く対象が有情物であっても =ey が用いられる．

(2-46) a. tam{=ey / *=eykey} kwanhay(se); tayhay(se); uyhay(se)

담{에 / *에게} 관해(서); 대해(서); 의해(서)

「塀に 関し (て)；対し (て)；より／よって」

b. sensayngnim{ey / *eykey} kwanhay(se); tayhay(se); uyhay(se)

선생님{에 / *에게} 관해(서); 대해(서); 의해(서)

「先生に 関し (て)；対し (て)；より／よって」

(塚本 2012: 145)

最後に (iv) に関して，一部の動詞を除けば動詞の連体形は非過去も過去もどちらも取りうるが，ここで扱っている複合格助詞の場合，その連体形は (2-47), (2-48) のように過去の連体形に限られる．

(2-47) inwen sakkam mwuncey=ey {*kwanha-nun / kwanha-n} hyepuy
人員 削減 問題=DAT 関する-ADN.NPST 関する-ADN.PST 協議

인원 삭감 문제에 {*관하는/관한} 협의

「人員削減の問題に｛関する／* 関した｝協議」(塚本 2012: 147)

(2-48) manh-un salam=tul=uy him=ey {*uyha-nun / uyha-n} kwuchwul
多い-ADN.NPST 人=PL=GEN 力=DAT 依る-ADN.NPST 依る-ADN.PST 救出

많은 사람들의 힘에 {*의하는/의한} 구출

「多くの人達の力に｛よる／* よった｝救出」(塚本 2012: 147)

塚本 (2012: 147) でも指摘するように，朝鮮語では過去の連体形だが，日本語では非過去の連体形となる点が異なる．ちなみに (2-42) に挙がっている全ての複合格助詞が連体形を取るわけではない．詳しくは塚本 (2012: 148-152) を参照されたい．

本研究ではこれらの複合格助詞を研究対象とはしないが，複合格助詞に焦点助詞が後接する場合の例については第 4 章で言及する．

2.5 副動詞と補文節との連続性

朝鮮語の副動詞接辞 -ko は，終止形の述語に接続し，補文節を形成する．上位節の述語は，(2-49) のように言語活動に関わる動詞や，(2-50) のように思考に関わる動詞になるのが典型的である．

(2-49) chelswu=nun yenghuy=ka cip=ey eps-ta-**ko** {malhay-ss-ta. /
PN=TOP PN=NOM 家=DAT いない-DECL.QUOT-COMP 言う-PST-DECL

hay-ss-ta. / pokohay-ss-ta.}
言う-PST-DECL 報告する-PST-DECL

철수는 영희가 집에 없다고 {말했다. / 했다. / 보고했다.}

「チョルスはヨンヒが家にいると｛言った．／言った．／報告した．｝」(ソ・ジョンス 1994: 1334)

(2-50) na=nun sin=i iss-ta-**ko** {mit-nunta. / sayngkakha-nta. /
1SG=TOP 神=NOM いる-DECL.QUOT-COMP 信じる-DECL.NPST / 考える-DECL.NPST /
po-nta.}
見る-DECL.NPST
나는 신이 있다고 {믿는다. / 생각한다. / 본다.}
「わたしは神がいると｛信じる．／思う．／考える.｝」(ソ・ジョンス 1994: 1334)

上の (2-49), (2-50) と同様な構造だが，(2-51) は上位節の動詞も移動に関する動詞であり，一見 -ko も補文節を形成する役割を果たしているとは解釈しがたい．

(2-51) chelswu=nun chinkwu=lul manna-keyss-ta-**ko** oychwulhay-ss-supnita.
PN=TOP 友達=ACC 会う-PROB-DECL.QUOT-COMP 外出する-PST-DECL.POL
철수는 친구를 만나겠다고 외출했습니다.
「チョルスは友達に会うと（言って）外出しました.」(ソ・ジョンス 1994: 1334)

例 (2-51) は，(2-52), (2-53) のように，述語の終止形に -ko 以外の副動詞接辞が直接結合し，引用を含んだ副詞節となる例に連なるものである．

(2-52) pyenhoin=tul=i myechil cen cungke=lo ceychwulha-nta-**myense** sacin=ul
弁護人=PL=NOM 何日 前 証拠=INST 提出する-DECL.QUOT-ADV.SIM 写真=ACC
ccik-e ka-ss-e=yo.
撮る-ADV.SEQ 行く-PST-DECL=POL
변호인들이 며칠 전 증거로 제출한다면서 사진을 찍어 갔어요.
「弁護人たちが何日か前，証拠として提出すると言って写真を撮っていきましたよ.」[2CE00008]

(2-53) saychimteyki=nun kol=lo ppaci-nta-**teni** yeysmal hana kulu-n
澄まし屋=TOP 谷=ALL 落ちる-DECL.QUOT-ADV.FCTC 昔の言葉 一つ 間違った-ADN.NPST
kes eps-kwuna.
こと ない-ADM
새침데기는 골로 빠진다더니 옛말 하나 그른 것 없구나.
「澄まし屋が谷に落ちる（まじめな人ほど道を踏み外しやすい）というけど，昔の言葉は一つも間違いがないねえ.」[2BEXXX14]

(2-52), (2-53) では，副詞節は引用を含まない場合と同様の機能を果たしているため，本研究の対象となる．本研究では (2-51) のような例も，manna-keyss-ta-ko (hako)「会うと（言って）」と解釈できることから，ひとまず対象に含めておく．

2.6 副動詞と副詞との連続性

朝鮮語における副詞の語形成についてはいくつかのパタンがあるが，用言に副動詞接辞が接続した場合にも，それが形態的に固定され，副詞として用いられることがある． 李錦姫

(2011) は統語的な語構成の副詞を，その語構成ごとに分類している．ここで，李錦姫 (2011) が挙げている副詞の中から，副動詞接辞を含む例を示してみよう．参考までに本研究で対象としている副動詞接辞以外を含む例も含めている．本研究の対象となっている副動詞接辞はボールドで示し，ボールドは引用者によるものである．

(2-54) a. 用言の活用形

i. kiwang=i-**myen**「どうせなら」, iwang=i-**myen**「どうせなら」

ii. amwulay-**to**「何といっても，やはり」, amwule-**myen**「いくらなんでも」, amwu-thun「とにかく」

iii. kule-**myen** (kule-**m**)「それなら」, kule-na「しかし」, kuleh-**ciman**「しかし」

b. 語根や語根の一部が切り離されたあと副詞化した場合 ha-**ciman**「しかし」, ha-**ntey**「でも」, hay-**se**「それで」

c. 副詞 (語) + 用言の活用形，動詞 + (補助) 動詞の活用形

i. enttus=ha-**myen**「ややもすれば」, kelphis=ha-**myen**「何かにつけて」, kkattak=ha-**myen**「まかり間違えば」, ccek=ha-**myen**「ともすれば」, thwuk=ha-**myen**「きまって」/ cal=hay-ya「せいぜい」, mak=hay-ya「いくら悪くなっても」/ selma=ha-ntul「いくらそうだといっても」, selma=ha-ni「まさか」, machim molla「どうなるかわからないが」, kikkes=hay-ya「せいぜい」, kocak=hay-ya「せいぜい」, kkik=hay-ya「せいぜい」

ii. tay-noh-**ko**「面と向かって躊躇なく」, tulttey-noh-**ko**「遠回しに，それとなく」, teph-enoh-**ko**「何であろうと，とにかく」, kka-noh-**ko**「包み隠さず」/ poa ha-ni「見たところ」, poa ha-ntul「どう見ても」

d. 副詞節から助詞が省略された場合

i. ka-l swulok「ますます」, toy-tolok「なるべく」, chek=ha-**myen**「一言言えば，ほのめかせば」

ii. ilu-l they-**myen**「たとえば，いわば」

e. 節以上で副詞化した場合

way-nya ha-**myen** (way-nya-**myen**)「なぜなら」

(李錦姫 2011)

チャン・ソウォン (2008) は統語的な要素が省略されて副詞として現れるものを「省略副詞語」として，その詳しいリストを挙げている．(2-54b) の副詞は，チャン・ソウォン (2008) でも語根が省略された副詞語として挙げられており，また，(2-54c-ii) の poa ha-ni「見たところ」, poa ha-ntul「どう見ても」は目的語が省略された副詞語，(2-54d-i) の toy-tolok「なるべく」は補語成分が省略された副詞語と見なされている．

さらに，李錦姫 (2011) が挙げている副詞の他にも，副動詞接辞を含み，副詞とみなせるものはある．本研究の対象とする副動詞接辞に限定して，その副動詞接辞を基準に整理すると，

以下の (2-55) のようになる．(2-54) で「語根や語根の一部が切り離されたあと副詞化した場合」として挙げられていた ha-ciman 等は，次節で扱う接続副詞と見て，ここからは除いてある．

(2-55) a. -taka:
-taka: ittaka「あとで」, (kakkum / kanhok) ka-taka「ときおり」, ecce-taka「たまに」

b. -(a/e)se:
naaka-se「さらに」, al-ase「適当に」, celm-ese「若いとき」, ttala-se「したがって」, i-e(se)「続いて」

c. -ko:

i. cip-ko「きっと，必ず」

ii. twu-ko~twu-ko「何度も何度も，いつまでも」, wul-ko~pwul-ko「泣いたりわめいたり」, ecce-ko~cecce-ko「ああだこうだと」

iii. mwuthek-tay-ko「むやみに」, hecheng-tay-ko「向こう見ずに」, makwu-tay-ko「やたら，しきりに」

iv. tay-noh-ko「面と向かって躊躇なく」, tulttey-noh-ko「遠回しに，それとなく」, teph-enoh-ko「何であろうと，とにかく」, kka-noh-ko「包み隠さず」

d. -myen:
kiwang=i-myen「どうせなら」, iwang=i-myen「どうせなら」/ amwule-myen「いくらなんでも」/ enttus=ha-myen「ややもすれば」, kelphis=ha-myen「何かにつけて」, kkattak=ha-myen「まかり間違えば」, ccek=ha-myen「ともすれば」, thwuk=ha-myen「きまって」/ chek=ha-myen「一言言えば，ほのめかせば」, ilu-l they-myen「たとえば，いわば」/ weynman=ha-myen「差し支えなければ，よかったら」/ , ecce-myen「ひょっとすると」, hamathe-myen「まかり間違えば」

e. -(a/e)to:
amwulay-to「何といっても，やはり」, cek-eto「少なくとも」

f. -nuntey/-ntey:
kattuk=ha-ntey「さらに悪いことには」

副動詞接辞 -ko に関しては，次の形態的な基準で分類している．(2-55c-i) は単純に用言語幹に副動詞接辞が接続したと考えられるもの，(2-55c-ii) は反復によるもの，(2-55c-iii) は動詞化接辞 -tey- を含むもの，(2-55c-iv) は補助動詞 -(a/e) noh-「〜ておく」を含むものである．ちなみに (2-55b) に挙げた副詞のうち，naaka-se「さらに」, ttala-se「したがって」, i-e(se)「続いて」はチャン・ウォン (2008) では対象が省略された副詞語として挙げられ，ttala-se「したがって」に関しては二つ以上の成分が省略された副詞語としても分類されている．

本研究では以上に挙げた副詞は副動詞と見なさず，研究対象には含めない．

2.7　副動詞と接続副詞との連続性

すでに述べたように，朝鮮語では指示形容詞 kuleha-「そうだ」と ha-「する」に副動詞接辞が接続して，文と文を繋ぐ接続副詞となる．接続詞という品詞を立てるか，立てるとしたらなにを接続詞として認めるかという議論は数多くなされてきたが，ここではそのような議論には立ち入らないことにする．問題となるのは，kuleha-「そうだ」に副動詞接辞が付いた副動詞形が文と文を繋ぐわけではなく，本来の副詞節として用いられる場合である．例えば，(2-56a)[12] と (2-56b) では，どちらの例においても kulemyen が可能であるが，両者はその形だけでは区別が付けられない．ただ，kulemyen の場合は縮約形の kulem が存在し，(2-56a) のように副詞節述語としては機能しないため区別がはっきりしている．

(2-56)　a. manyak ally-eci-n　taylo sasil=i　**kule-myen**　/ ?*kule-m
もしも　知らせる-INTRZ-ADN.PST とおり 事実=NOM そうだ-ADV.COND / そうだ-ADV.COND
motwu nolla-l kes=i-ta.
みな　驚く-SPEC=COP-DECL
만약 알려진 대로 사실이 그러면/ ?*그럼 모두 놀랄 것이다.
「もし知られているとおり事実がそうであるなら，皆驚くだろう．」

b. i kilul ttala kala.
kule-myen　/ **kule-m**　mokcekci=ka nao-l ke-ta.
そうだ-ADV.COND / そうだ-ADV.COND 目的地=NOM　出てくる-SPEC(=COP)-DECL
이 길을 따라 가라. 그러면/그럼 목적지가 나올 거다.
「この道にしたがって行きなさい．そうすれば目的地が現れるだろう．」

c. A: neyka cengmal ku ilul haysstan maliya?
B: *__kulemyen__ / __kulem__.
もちろん　/ もちろん
A: 네가 정말 그 일을 했단 말이야?
B: *그러면/그럼.
「A: あなたが本当にそのことをしたっていうの？」
「B: もちろん．」

(李錦姫 2011: 121)

(2-56c) の kulem「もちろん」を李錦姫 (2011: 121) は感嘆詞としているが，これは第 6 章で扱う副詞節の主節用法とも見ることができる．

kuliko「そして」は副動詞接辞 -ko が結合したと考えられるが，これは形態も固定されているうえに名詞句同士の接続も可能なため，副動詞形とは見ず，対象から外しておく．

[12] 例文中の ?* は原文のままである．

接続副詞は基本的には副詞節と同様の意味を表す．ただし，ソ・ジョンス (1994: 1203) が指摘するように，副詞節が表しうる全ての意味を，接続副詞が同様に表せるわけではない．次の (2-57b) が副詞節の例で， (2-57a) がそれを接続副詞の kulentey を用いて書き換えたものである．-ntey は (2-57b) のような後続する発話の前提，前置きを表す用法があるが，接続副詞にはそのような用法はない．

(2-57) a. *ikes=un masiss-nun ttek=i-ta. **kulentey** mek-e po-ca.
これ=TOP おいしい-ADN.NPST お餅=COP-DECL だけど 食べる-ADV CNT-COHR
* 이것은 맛있는 떡이다. 그런데 먹어 보자.
「これはおいしいお餅だ．だけど食べてみよう．」

b. ikes=un masiss-nun ttek=i-**ntey** mek-e po-ca.
これ=TOP おいしい-ADN.NPST お餅=COP-ADV.AVS 食べる-ADV CNT-COHR
이것은 맛있는 떡인데 먹어 보자.
「これはおいしいお餅なんだけど，食べてみよう．」

(ソ・ジョンス 1994: 1203)

また，副動詞接辞 -nikka が含まれる kulenikka には次のような用法もある．この (2-58) のように言い換えを表す用法は，接続副詞ではなく単なる副詞として見ておくのが妥当であろう．

(2-58) elmacen, **kulenikka** cinan 5wel choswun=ey kui=ka yeki=ey tull-essess-e.
少し前 つまり 前の 5 月 初旬=DAT 彼=NOM ここ=DAT 寄る-PLPF-DECL.NPOL
얼마전, 그러니까 지난 5 월 초순에 그이가 여기에 들렀었어.
「少し前，つまりこの前の 5 月初旬に彼がここに寄っていったんだ．」(ソ・ジョンス 1994: 1229)

接続副詞に関しても，本研究では対象としないこととする．

2.8 第 2 章のまとめ

この第 2 章では，第 3 章から本論に入る前に，副動詞が持つ多様な機能について概観し，本研究の対象を限定した．具体的には副動詞形が複合動詞の前部要素になった場合，副動詞形が補助用言を導く迂言的形式の一部になる場合，副動詞が助詞として文法化した場合，副動詞接辞が補文節を形成する場合，副動詞が副詞，接続副詞として語彙化している場合について考察した．基本的にこれらの場合については本研究の対象とはしないが，考察の過程で一部言及することはある．

複合動詞の前部要素になったり，補助用言を導く場合，副動詞と後続する述語との結びつきが強く，間に他の要素を挿入することはできる場合もあるが限られている．このような場合に用いられる副動詞接辞は -ko か，研究対象となっていない副動詞接辞 -a/e のどちらかである．また，副動詞が助詞になっている場合も，条件の -myen などもあるが，ほとんどが -ko,

-(a/e)se あるいは -a/e といった継起的な意味を担う副動詞接辞であった．副詞の場合にはそのような偏りはなく，数としては -myen，次いで -ko が多かった．

第 3 章

副動詞と用言の語彙的性質

第 2 章では副動詞の多様な機能について考察しながら，本研究で対象とする副動詞の範囲を限定した．第 3 章から本論に入り，ここでは副動詞接辞と結合する用言の偏りについて考察し，副詞節の定形性が低いほど，副動詞接辞と結合する用言の偏りが大きくなるということを論じる．先行研究では明言されていないようであるが，これまでの研究で副動詞と用言の語彙的性質との関係について考察している論考は，時間的関係を表す同時の -myense$_1$, 中断の -taka や継起の -ko, -(a/e)se$_1$ を対象としたものが多かったのもそのような事実の現れであろう．このような副動詞と用言の語彙的性質の関係については野間 (1993: 18-19, 1994: 60) が部分的に指摘している．野間 (1994: 60) は中断を表す -taka や対象保持の意味が加わる -(a/e)taka のように限られた語彙しか取らない，語彙制約性の強い語尾を「強語彙制約性語尾」と呼び，反対に語彙制約性の弱い語尾を「弱語彙制約性語尾」とし，継起の -ko や逆接の -ciman，理由の -nikka を例として挙げている． さらに，野間 (1996: 147) は鄭 (1996)[1]が指摘した， -ko が様態節となる場合の動詞のクラスについて言及しながら，次のように述べている．日本語訳は引用者による．

> このような事実は，節を構成する用言の分布と節の性格，節の階層構造の間に，かなり緊密な相互関係があるということを意味する．すなわち朝鮮語の節の構造は，それ自体にすでに用言の分布，用言の語彙的な意味の類型という契機を内包しているのである．言い換えれば，用言の種類それ自体が文の階層構造を成す重要な要素になっているのである．

続けて，野間 (1996: 147) は次の (3-1) のような例を挙げながら，動作の並列ではなく契機を表す場合の -myense は無意志動詞[2]が多いことを指摘している．また，この場合には -myense

[1] 発表要旨のため筆者は未見だが，この発表内容は鄭 (1996) として論文化されていると考えられるため，こちらを参照する．

[2] 野間 (1996: 148, fn. 18) では，形態論的な観点からは -la, -(a/e)la などの命令形や -ca などの勧誘形，-ko siph- のような願望形を取ることができ，意味論的な観点からは主体の意志によって制御できる動作を表す用言を意志用言としている．

節の内部に主語を包摂できること，主語としては不活動体名詞[3]が多く， -myense 節内部の主語は節の後に動かすこともできないということが指摘されている (野間 1996: 147-148).

(3-1) [**palam**=i sey-ci-myense] pi=ka nayli-ki sicakhay-ss-ta.
風=NOM 強い-INTRZ-ADV.SIM 雨=NOM 降る-NMLZ 始まる-PST-DECL
[바람이 세지면서] 비가 내리기 시작했다.
「風が強くなるとともに雨が降りはじめた.」(野間 1996: 147)

このように，先行研究では副動詞接辞が結合する語彙との関係についてはある程度述べているものの，各副詞節間の関係についてはあまり考慮に入れられておらず，節の定形性との関係も明らかにされていない．以下では，副詞節の定形性が低いほど，副動詞接辞と結合する用言の偏りが大きくなることを明らかにしたうえで，用言のどのような性格がそれぞれ関わってくるのかについて論じていく．

以下，3.1 では副動詞接辞と結合する用言の偏りについて見たあと，結合する用言の影響を受ける -key, -myense, -taka, 継起の -ko と -(a/e)se, -teni, -nikka について 3.2 から 3.7 で順次考察を進める．

3.1 副動詞接辞と結合する用言の偏り

それぞれの副動詞接辞は，用言のうち動詞，形容詞，指定詞（コピュラ）と結合するにあたって制限や偏りがある．だいたいにおいて副詞節が表す事態が時間的関係に関わる場合，形容詞，あるいは指定詞との結合に制限が見られる．まずは先行研究の記述を参考にし，表 10 に副動詞接辞と用言の結びつきについてまとめておく．朝鮮語では存在詞 (iss-「ある，いる」, eps-「ない，いない」) を立てることもあるが，ここでは存在詞は動詞の中に含めておく．表中の○はその語類の用言と結合すること，×はしないことを表し，△は結合するものの頻度が低いことを意味する．それぞれの副動詞接辞の詳細については後述する．

様態の -key$_1$ と指定詞との結合について，表 5 のところで言及したとおり，この副動詞接辞は一部の慣用的な言い方において否定のコピュラ ani- との結合がありうる．ただし，ここでは基本的には指定詞との結合はないと考えておく．契機の -nikka$_1$ と形容詞との結合可否については，後述する．

[3] 野間 (1996: 147, fn. 16) では，与格において =eykey 及び =hanthey を取る名詞を活動体名詞，=ey を取る名詞を不活動体名詞と呼んでいる．

表 10　副動詞接辞と結合する用言の種類

		動詞	形容詞	指定詞
様態	-key$_1$	△	○	×$^?$
継起	-(a/e)se$_1$	○	×	×
同時	-myense$_1$	○	△	△
時間	-(a/e)se$_2$	○	○	×
目的	-key$_2$	○	○	×
継起	-ko	○	×	×
契機	-myense$_2$	○	×	×
契機	-nikka$_1$	○	×$^?$	×
中断	-taka	○	△	△
契機	-teni	○	△	△
譲歩	-(a/e)to	○	○	○
逆接	-myense$_3$	○	○	○
原因	-(a/e)se$_3$	○	○	○
条件	-myen	○	○	○
理由	-nikka$_2$	○	○	○
逆接	-ciman	○	○	○
逆接	-nuntey/-ntey	○	○	○

3.2　-key と用言の語彙的性質

ユン・ピョンヒョン (1988) は -key の中心的な意味を「結果」としながらも，類似した意味を表す副動詞接辞 -tolok「〜ように」との比較から -key の意味として，次の三つを挙げている．下線は引用者による．

(3-2)　sako=ka　na-ci　　anh-**key**　　wuli=nun cosimhay-ya ha-nta.
事故=NOM でる-NMLZ NEG-ADV.MNN 1PL=TOP　気を付ける-OBLG-DECL.NPST
<u>사고가 나지 않게</u> 우리는 조심해야 한다.
「事故が起こらないように我々は気を付けなければならない．」(ユン・ピョンヒョン 1988: 310)［目的］

(3-3)　ku　sonye=uy checi=ka kasum=i meyi-**key**　　kayeps-ta.
その 少女=GEN　境遇=NOM 胸=NOM　詰まる-ADV.MNN 哀れだ-DECL
그 소녀의 처지가 <u>가슴이 메이게</u> 가엾다.
「その少女の境遇が胸が締め付けられるほど哀れだ．」(ユン・ピョンヒョン 1988: 310)［程度］

(3-4) cangmi#kkoch=i kop-**key** phi-ess-ta.
バラ#花=NOM 美しい-ADV.MNN 咲く-PST-DECL
장미꽃이 곱게 피었다.
「バラが美しく咲いた.」(ユン・ピョンヒョン 1988: 312) ［状態］

本研究では，先に -key$_1$ の意味として示したように (3-3), (3-4) のような程度，状態を表す場合をまとめて様態として扱う．そして，-key$_2$ が (3-2) のような目的を表す例である．基本的に様態を表す場合 -key$_1$ は形容詞と結合するが，一部動詞の場合もある．目的を表す場合は (3-2) のように動詞の場合も，次の (3-5) のように形容詞の場合もある． (3-5) では sili-「（しびれるほど）冷たい」と -key が結合している．

(3-5) yenghuy=nun mwuluph=i sili-ci anh-**key** sokos=ul ip-ess-ta.
PN=TOP 膝=NOM 冷える-NMLZ NEG-ADV.MNN 下着=ACC 着る-PST-DECL
영희는 무릎이 시리지 않게 속옷을 입었다.
「ヨンヒは膝が冷えないように下着を着た.」(ユン・ピョンヒョン 1988: 310) ［目的］

以下では，-key が動詞，形容詞と結合するときに見られる統語的な差に焦点を当てて先行研究を整理する．

ユ・ヒョンギョン (2006) は -key を (3-6a) のような派生接辞的な用法と，(3-7) のような副詞節を形成する -key を区別している．ユ・ヒョンギョン (2006: 102) では，(3-6a) は (3-6b) のように派生副詞 koi に置き換えができると述べている．

(3-6) 派生接辞

a. emma=ka ai=lul kop-**key** an-ass-ta.
お母さん=NOM 子供=ACC やさしい-ADV.MNN 抱く-PST-DECL
엄마가 아이를 곱게 안았다.

b. emma=ka ai=lul **ko-i** an-ass-ta.
お母さん=NOM 子供=ACC やさしい-ADVLZ 抱く-PST-DECL
엄마가 아이를 고이 안았다.

「お母さんが子供をやさしく抱いた.」(ユ・ヒョンギョン 2006: 102)

(3-7) は副詞節としての用法であり，ユ・ヒョンギョン (2006) によれば，例 (3-7a) のように -key が動詞の必須補語になる場合と，(3-7b) のような随意的に副詞節が現れる場合に分かれる．(3-7b) の下線部分は (sayk=i acwu) yeyppu-key のように主格名詞句をともなった節で現れることができるため，副詞節と考えられるという (ユ・ヒョンギョン 2006: 118).

(3-7) 副詞節

a. chelswu=nun yenghuy=lul hwullyungha-**key** sayngkakha-nta.
PN=TOP PN=ACC 立派だ-ADV.MNN 考える-DECL.NPST
철수는 영희를 훌륭하게 생각한다.
「チョルスはヨンヒを誇らしく思う.」(ユ・ヒョンギョン 2006: 113)

b. kkoch=i sayk=i acwu yeyppu-**key** phi-ess-ta.
花=NOM 色=NOM とても きれいだ-ADV.MNN 咲く-PST-DECL
꽃이 색이 아주 예쁘게 피었다.
「花が，色がとても美しく咲いた.」(ユ・ヒョンギョン 2006: 118)

(3-6a) のように -key が派生接辞として副詞を形成するときは，必ず形容詞と結合する．ただし，同じく様態の意味を表す場合でも，-key が動詞と結合することがある．ユ・ヒョンギョン (2006) はイ・ジョンヒ (1991)[4]を引用しつつ，hwana-**key** (怒る-ADV.MNN), kepna-**key** (怖がる-ADV.MNN)「すごく」のような場合に動詞も副詞形を形成すると指摘している．また，次の (3-8) ような場合も -key が動詞と結合し副詞節を成しているが，形容詞が副詞形を形成するときのように，ある行為の状態，程度を表している．

(3-8) a. ku=nun ttang=i kkeci-**key** hanswum=ul nayswi-ess-ta.
3SG.M=TOP 地面=NOM へこむ-ADV.MNN ため息=ACC 吐き出す-PST-DECL
그는 땅이 꺼지게 한숨을 내쉬었다.
「彼は地面がへこむほどため息をついた.」

b. ai=tul=un nwun=i ppaci-**key** kukes=ul cikhyepwa-ss-ta.
子供=PL=TOP 目=NOM 抜ける-ADV.MNN それ=ACC 見守る-PST-DECL
아이들은 눈이 빠지게 그것을 지켜봤다.
「子供たちは目が抜けるほど（じっと）それを見守った.」

c. kwisin=to molu-**key** ku=tul=i ku=lul cap-a
お化け=も 知らない-ADV.MNN 3SG.M=POL=NOM 3SG.M=ACC 捕まえる-ADV.SEQ
ka-ss-ta.
行く-PST-DECL
귀신도 모르게 그들이 그를 잡아갔다.
「お化けも知らないように（こっそりと）彼らが彼を捕まえていった.」

(パク・ソヨン 2002: 62)

このように，副動詞接辞 -key が形容詞と結合するか動詞と結合するかで大きく意味が異なっている．その他にも，結合するのが形容詞か動詞によって，統語的差異が見られる場合がある．それは否定と結合する場合，尊敬を表す -si- と結合する場合，sayngki-「生じる」の補語になる場合である．まず，否定との結合について，派生接辞として -key が副詞を成す場合は (3-9) のように否定の意味を表さないことが多いという (ユ・ヒョンギョン 2006: 104)．一方で，動詞の場合は (3-2) で見たように，否定形にすることで非文法的になることはない．

(3-9) *phankyelmwun=ul ilk-nun socang=uy son=i kapyep-ci anh-**key**
判決文=ACC 読む-ADN.NPST 所長=GEN 手=NOM 軽い-NMLZ NEG-ADV.MNN
ttelly-ess-ta.
震える-PST-DECL

[4] 이종희 [イ・ジョンヒ] (1991) “부사형 어미 {-게}의 통어적 기능에 관한 연구” 延世大学修士論文．未公刊論文のため，筆者は参照できていない．

* 판결문을 읽는 소장의 손이 가볍지 않게 떨렸다.
「* 判決文を読む所長の手が軽くなく震えた.」(ユ・ヒョンギョン 2006: 104)

次に，(3-10b) のように動詞と結合する -key 副詞節は主体尊敬を表す -si- との結合が可能だが,[5](3-10a) のように形容詞と結合する場合は -si- の結合を許さないという制約がある (ユ・ヒョンギョン 2006: 115).

(3-10) a. halmeni=kkeyse=nun yocum [kenkangha-**key** / *kenkangha-si-**key**]
おばあさん=NOM.HON=TOP 最近 健康だ-ADV.MNN / 健康だ-HON-ADV.MNN
cinay-si-nta.
過ごす-HON-DECL.NPST
할머니께서는 요즘 [건강하게 / *건강하시게] 지내신다.
「おばあさんは最近健康にお過ごしだ.」

b. halmeni com [*ca-**key** / cwumwusi-**key**] pakk=ey nak-a
おばあさん ちょっと 寝る-ADV.MNN / お休みになる-ADV.MNN 外=DAT 出る-ADV.SEQ
nol-ala.
遊ぶ-IMPR.NPOL
할머니 좀 [*자게/주무시게] 밖에 나가 놀아라.
「おばあちゃんがお休みになれるように外に出て遊びなさい.」

(ユ・ヒョンギョン 2006: 115)

最後に，-key 副詞節が sayngki-「生じる」の必須補語として現れる場合である．形容詞の場合は，(3-11a) のようにある状態に見えることを表すが，(3-11b) のように動詞の場合はある状況が生じたことを表す (ユ・ヒョンギョン 2006: 116).

(3-11) a. tongsayng=i {yeyppu-**key** / cal / inhyeng=chelem / paywu=kathi}
弟妹=NOM かわいい-ADV.MNN / よく / 人形=EQU / 俳優=ように
sayngky-ess-ney=yo.
生じる-PST-ADM=POL
동생이 {예쁘게/잘/인형처럼/배우같이} 생겼네요.
「弟妹が {かわいいですね／かっこいいですね／人形のようですね／俳優のようですね}.」

b. icey ne=nun {cip=ey mos ka-**key** / *cal / *inhyeng=chelem /
もう 2SG=TOP 家=DAT IMPS 行く-ADV.MNN / よく / 人形=EQU /
*paywu=chelem} sayngky-ess-ta.
俳優=EQU 生じる-PST-ADM=POL
이제 너는 {집에 못 가게/ *잘/ *인형처럼/ *배우처럼} 생겼다.
「もうお前は {家に帰れなく／かっこよく／人形のように／俳優のように} なった.」(ユ・ヒョンギョン 2006: 115)

[5] 例 (3-10b) 中の動詞 cwumwusi-「お休みになる」は ca-「寝る」の尊敬語で補充形である．ただ，cwumwu**si**- の -si- は主体尊敬を表す -si- と同一形態素である．

以上，先行研究に依拠しながら -key が形容詞と動詞の場合に生じる統語，意味的な差異について概観した．ここで述べたことを表 11 に整理する．

表 11　動詞，形容詞との結合による -key の意味，統語的差異

	形容詞		動詞
	副詞	副詞節	
様態 -key$_1$	○	○	△
目的 -key$_2$	×	○	○
否定	△	○	○
尊敬 -si-	×	×	○
sayngki-「生じる」	N/A	状態	状況

ここまで主に先行研究の見解を整理しつつ述べてきたことは，結局 -key は結合するのが形容詞か動詞か，言い換えれば状態性述語か動作性述語かによって意味的にも統語的にも差異が生じるということである．

3.3　-myense と用言の語彙的性質

表 10 に示したとおり， 契機の -myense$_2$ は動詞とのみ結合し，上位節との同時的な関係を表す -myense$_1$ は動詞のみならず形容詞，指定詞とも結合するが，形容詞と指定詞の割合は少ない．鄭 (2005: 45-46) でも，-myense が形容詞，指定詞と結合し「添加」の意味を表す例は，収集された全用例中の 1.1% のみであったと報告している．逆接の -myense$_3$ については結合する品詞を問わない．このように -myense はその用法によって結合可能な品詞が異なるが，同じ動詞が結合するといっても，その動詞の意味的な特徴によっても副詞節の意味の解釈は異なりうる．特に同時的な関係を表す -myense$_1$ は結合する動詞のアスペクト的な性格によって，副詞節で表される事態の解釈にいくつかのバリエーションがある．

副動詞接辞 -myense と用言の語彙的性質に関して論じたものに鄭 (2005) と黒島 (2010) がある．鄭 (2005) は浜之上 (1991) と野間 (1993) で提案された朝鮮語動詞のアスペクト分類に従って，動詞のアスペクト的な意味の特徴と -myense の意味の関係を明らかにしようとしている．野間 (1993: 29-30) は，mek-「食べる」という動詞は「わたしは食べ始める」〜「わたしは食べているところだ」〜「わたしは全て食べた（食べ終わった）」あるいは「わたしは食べるのが終わった」のように，主体「わたし」の「食べる」という動作の一連の時間的な「局面」を想定できるとし，そのような単一主体の単一動作において -ki sicakha-「〜しはじめる」, -nun cwung=i-「〜しているところだ」が可能な動詞を「有局面動詞」と呼んでいる．逆に，単一主体の単一動作においてこれらが両方とも不可能な動詞が「無局面動詞」である (野間 1993: 30)．ここで，「単一主体の単一動作において」と注釈が付いているのは，一見，進行アスペクトの -ko iss- と結合しないと考えられる動詞であっても，複数主体，複数局面という

条件が与えられれば，有局面化が可能だからである．野間 (1993: 30) からこの事実を示す例を挙げておこう．

(3-12) yocum=ey w-ase nay **chinkwu=tul=i** istala kyelhonha-**ko iss**-ta.
最近=DAT 来る-ADV.SEQ 1SG:GEN 友達=PL=NOM 次々と 結婚する-ADV PROG-DECL
요즘에 와서 내 친구들이 잇달아 결혼하고 있다.
「最近になって，わたしの友達が次々と結婚している．」(野間 1993: 30)

この (3-12) では，複数主体（わたしの友達）が複数の局面で（次々と）結婚するという事態が起きており，この場合には有局面化が可能である．有局面動詞の例としては mek-「食べる」, ka-「行く」, ca-「寝る」が，無局面動詞の例としては kyelhonha-「結婚する」, iphakha-「入学する」, nam-「残る」が挙げられている (野間 1993: 29-30).

鄭 (2005) は野間 (1993) の有局面動詞を引用しつつ，これをさらに二つに分類している．鄭 (2005: 51-52) は ip-「着る」のように進行アスペクトの -ko iss- と結合するときに動作の進行局面も結果持続局面も表しうる動詞と，tul-「持つ」のように，よほどスローモーションにしない限り動作の進行局面は表さず，結果持続局面のみを表す動詞を区別し，有局面動詞のうち -ko iss- と結合可能で進行する局面を持つ動詞を「有進行局面動詞」，進行局面を持たない動詞を「無進行局面動詞」と呼び区別している．前者の例としては mek-「食べる」や ip-「着る」，後者の例としては tul-「持つ」や nwun=ul ttu-「目を開ける」がある (鄭 2005: 52).

鄭 (2005) では以上のような動詞のアスペクト的分類に基づいて，表 12 のように -myense の意味を分類している．「同時点」は二つあるため便宜的に引用者により「同時点 1」と「同時点 2」のように番号を付して区別する．同時点 1 は前件の終了直前と後件の生起局面が一致し，同時点 2 は前件の生起=終了局面と後件の生起局面が一致するという時間的関係の差がある (鄭 2005: 60-62).

表 12　動詞のアスペクト的意味による -myense の意味 (鄭 2005: 63)

（前件）	（後件）	
● 有進行局面動詞	+ 有進行局面動詞	=同時進行
● 有進行局面動詞	+ 進行局面を持たない動詞	=途中点
● 無進行局面動詞	+ 局面を問わない動詞	=同時点 1
● 有局面化可能な無局面動詞	+ 局面を問わない動詞	=同時点 2

鄭 (2005) から，それぞれの具体例を挙げておこう．

(3-13) na=nun naymwupan=ul hyanghay kel-**umyense** sin hasa=uy kwi=ey
1SG=TOP 内務班=ACC 向かう:ADV.SEQ 歩く-ADV.SIM PN 下士=GEN 耳=DAT
tay-ko eti=lul hyanghay sso-nun kes=i-nya-ko
当てる-ADV.SEQ どこ=ACC 向かう:ADV.SEQ 打つ-ADN.NPST こと=COP-INTRR.QUOT-COMP
ak=ul ss-ese mwul-ess-ta.
声を張り上げること=ACC 使う-ADV.SEQ 尋ねる-PST-DECL

나는 내무반을 향해 {걸으면서} 신 하사의 귀에 대고 어디를 향해 쏘는 것이냐고 악을 써서 물었다.
「私は，内務班に向かって{歩きながら}，シン下士の耳に当ててどこに向けて打っているのかと大声で訊ねた.」(鄭 2005: 44) ［同時進行］

(3-14) ceypi han mali=ka hungpwu aph=ul nal-**myense** pak#ssi hana=lul
ツバメ 一つの 匹=NOM PN 前=ACC 飛ぶ-ADV.SIM 瓢箪#種 一つ=ACC
ttelettuly-ess-supnita.
落とす-PST-DECL.POL
제비 한마리가 {흥부 앞을 날면서} 박씨 하나를 떨어뜨렸습니다.
「ツバメ 1 羽が{フンブの前を飛びながら／飛ぶ最中}瓢箪の種一つを落としました.」(鄭 2005: 64)［途中点］

(3-15) cwucisunim=un chascan=ul tul-**myense** malhay-ss-ta.
お坊さん=TOP 湯飲み=ACC 持つ-ADV.SIM 言う-PST-DECL
주지스님은 {찻잔을 들면서} 말했다.
「お坊さんは{コップを持つと同時に}，言った.」(鄭 2005: 57) ［同時点 1］

(3-16) nwun#aph=ey pwulttong=i thwi-nun aph-um ttaymwun=ey myengca=nun
目#前=DAT 火の粉=NOM はねる-ADN.NPST 痛い-NMLZ ため=DAT PN=TOP
pal#nollim=ul memchwu-**myense** son=ul capachay-ss-ta.
足#動き=ACC 止める-ADV.SIM 手=ACC 掴みとる-PST-DECL
눈앞에 불똥이 튀는 아픔 때문에 명자는 {발놀림을 멈추면서} 손을 잡아챘다.
「目の前に火花の散るように痛いため，ミョンザは{足の動きを止めると同時に}，掴みとった.」(鄭 2005: 60) ［同時点 2］

さらに，鄭 (2005: 63-4) は時間的関係の意味を表せない動詞として，talm-「似る」, mac-「合う」, thulli-「間違う」などの無局面動詞を挙げている.

これに対し，黒島 (2010) では，鄭 (2005) とは異なる意味の分類を行った．ここでは黒島 (2010) で行った考察を基に，-myense の表す意味と，この副動詞接辞と結合する動詞のアスペクト的特徴との関係について整理する．黒島 (2010) では -myense が表す時間順的な意味を大きく三つに分類した．一つ目は (3-17) のように副詞節の事態と上位節の事態が同時に起きる場合である．二つ目は (3-18) のように副詞節の事態が起ころうとする中で上位節の事態が起こる場合である．(3-19) は (3-18) の下位分類として提案した例であり，この例では (3-18) と副詞節が表す事態は似ているものの，漸次的な変化を表していて，副詞節の事態が徐々に起こる中で主節の事態が生じる．三つ目は (3-20) のような例で，従属節の事態はほぼ時間的な幅がなく，従属節の事態が終わるのと時を同じくして上位節の事態が起こる．鄭 (2005) と比べると (3-18), (3-19) のような例を積極的に区別している点が異なる.

(3-17) na=nun phasutha=lul phokhu=lo toltol mal-**myense** malhay-ss-ta.
1SG=TOP パスタ=ACC フォーク=INST ぐるぐる 巻く-ADV.SIM 言う-PST-DECL

나는 파스타를 포크로 돌돌 말면서 말했다.
「わたしはパスタをフォークでぐるぐる巻きながら言った.」

(3-18) kuleh-ci anh-kose=ya kachwul=ul ha-**myense** talu-n kes=to
そうだ-NMLZ NEG-ADV.SEQ=こそ 家出=ACC する-ADV.SIM 違う-ADN.NPST もの=も
ani-ko tallang cito hana=man=ul tul-ko naw-ass-keyss-nunka.
NCOP-ADV.SEQ たった 地図 一つ=だけ=ACC 持つ-ADV.SEQ 出てくる-PST-PROB-INTRR
그렇지 않고서야 가출을 하면서 다른 것도 아니고 달랑 지도 하나만을 들고 나왔겠는가.
「そうでなければ，家出をするのにわざわざたった 1 枚の地図を持って出てきただろうか.」

(3-19) sokum=un talkw-eci-**myense** thok~thok soli=lul nay-nta.
塩=TOP 熱する-INTRZ-ADV.SIM ぽち~RDP 音=ACC 出す-DECL.NPST
소금은 달궈지면서 톡톡 소리를 낸다.
「塩は熱せられるにつれて，ぽしっぽしっと音を立ててはぜた.」

(3-20) anay=nun hyenkwan=ey tulese-**myense** soli chy-ess-ta.
妻=TOP 玄関=DAT 入る-ADV.SIM 声 あげる-PST-DECL
아내는 현관에 들어서면서 소리쳤다.
「(妻は) 玄関に入るなり声をあげる.」

これらの例における -myense と結合する動詞を，この副動詞接辞が表す意味によって限界性 (telicity)[6]の観点から次の図 3 のように分類する.

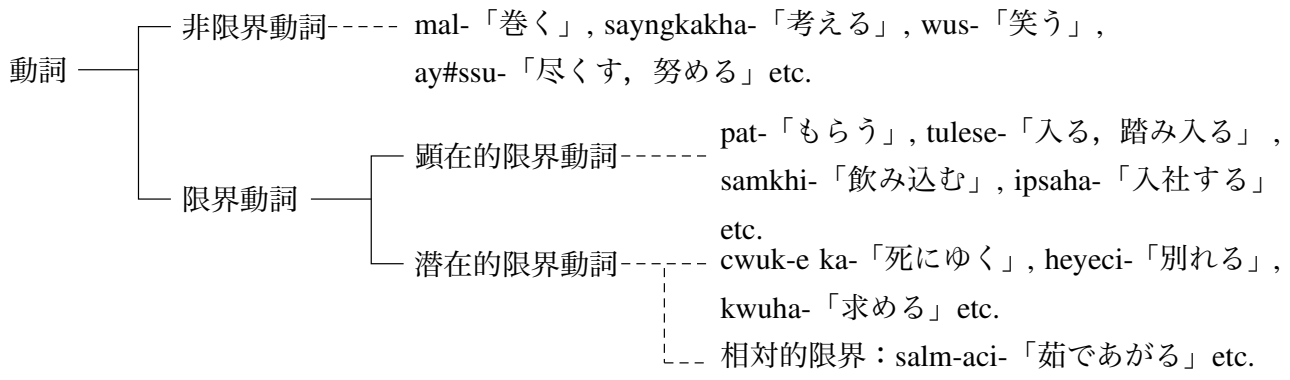


図 3 副動詞接辞 -myense による動詞分類

-myense と結合したときに上位節との同時的関係を表す動詞が非限界動詞，それ以外をいったん限界動詞と分類できる．限界動詞のうち，-myense と結合し先行タクシスを表すのが顕

[6] 須田 (2003: 161) によれば，「限界とは，言語的に表現された動作の，時間のなかでの展開におけるしきりである．動作の展開における時間的なしきりとなるのは，まず第一に，そこにいたれば，動作の展開の過程がつきはて，それ以上展開することのできないような，動作の臨界点である」という.

在的限界動詞，後行タクシスを表すのが潜在的限界動詞である．そして，潜在的限界動詞のうちでも特に，漸次的変化をする動詞を相対的限界を持つものとして下位分類した．

結論としては，最初から野間 (1993) のアスペクト分類を受け入れ，これと -myense の意味との関連を論じた鄭 (2005) にしろ，-myense が表す意味によって動詞のアスペクト的特徴（限界性）を分類した本稿の主張にしろ，-myense が表す意味が動詞のアスペクト的特徴に左右されるということに変わりはない．

3.4　-taka と用言の語彙的性質

副動詞接辞 -taka は，表 10 に示したように，動詞と結合する場合が主で，形容詞あるいは指定詞と結合する例は多くない．野間 (1993) が収集した 285 例の副動詞接辞 -taka のうち，形容詞と結合している例は二つのみであり，指定詞は用例がなかったようである．内山 (2004: 74-76) でも同様の報告をしており，収集された -taka の用例 4745 例のうち，形容詞と結合している例は 17 例であり，過去接辞と結合している例はそのうち 4 例にしか満たなかったということである．ナム・ギシム (1994: 167) では，過去接辞と結合しない場合の -taka は，指定詞との結合に制約があると指摘している．このような先行研究の指摘に対して内山 (2004: 64-65) では -taka が指定詞と結合している例 (3-21) を挙げているが，この例は不自然であるという母語話者の意見があったことを付け加えている．

(3-21)　... pakutatu=eyse chwicay#cwung=i-**taka** pwusang=ul tangha-n　tokil　kica
バグダッド=LOC 取材#中=COP-ADV.DISC　負傷=ACC　こうむる-ADN.PST ドイツ 記者
phithe pulingkhuman=un ...
PN　PN=TOP
... 바그다드에서 취재중이다가 부상을 당한 독일 기자 피터 브링크만은 ...
「…バグダッドで取材中のところを負傷したドイツの記者ピーター・ブリンクマンは…」(内山 2004: 64-65)

副動詞接辞 -taka は以上のように形容詞と指定詞の結合に制限がある．また，動詞に関しても 3.3 の -myense のところで述べたように，動詞のアスペクト的性質により副動詞 -taka の意味が左右されるという研究があった．-taka と結合する用言の性質という観点から考察した論考に野間 (1993) と内山 (2004) がある．また，内山 (2004) が言及してるように，Xolodovič (1954) にも一部指摘があった．Xolodovič (1954: 161-2) は上位節の用言を ka-「行く」に固定したうえで，se-「立つ」, anc-「座る」などが副動詞接辞との間に過去接辞を持つのは，これらの動詞が限界動詞だからであり，一方 swi-「休む」, nol-「遊ぶ」などが過去接辞を持たないのは，これらが限界動詞ではないからだと指摘している．[7, 8]

野間 (1993) では，実際の言語資料を基に -taka と結合する動詞のアスペクト的性格を明らかにしている．野間 (1993) によれば -taka と結合する用言は基本的には進行アスペクト形式

[7] ここで Xolodovič (1954: 161-162) は副動詞接辞 -taka の縮約形 -ta で例示している．
[8] 限界性については脚注 6 を参照されたい．

の -ko iss- と結合可能な動詞であり， -taka と結びつかないか，結びつく割合が極めて低い用言の大部分は単一主体・単一動作として -ko iss- と結合不可能な動詞であると述べている．

内山 (2004) は野間 (1993) よりもさらに多くの言語資料に基づき，-taka と結合する動詞のアスペクト的特徴との関係を考察している．内山 (2004) では動詞のアスペクト的特徴を考えるにあたって，浜之上 (1991) が提示した朝鮮語の用言のアスペクト的クラスに依拠している．浜之上 (1991) ではその分類の枠組みを以下の図 4 のように示している．下記の枠組みでは，進行アスペクトの -ko iss- を持たない動詞は状態動詞，-ko iss- を持つ動詞は動作動詞であり，動作動詞はさらに下位分類され，al-「分かる」，yelcwungha-「熱中する」，nuc-「遅れる」のように -ko iss- が具体的な動作を表しえず局面を特定できない動詞を状態性動作動詞， -ko iss- が具体的な動作を表し局面を特定できる動詞を動作性動作動詞としている．浜之上 (1991) はさらに動作性動作動詞を下位分類し，cap-「握る」，o-「来る」のように主体に変化がもたらされる動詞を主体変化動詞，mek-「食べる」，ket-「歩く」のように主体に変化をもたらさない動詞を主体非変化動詞としている．

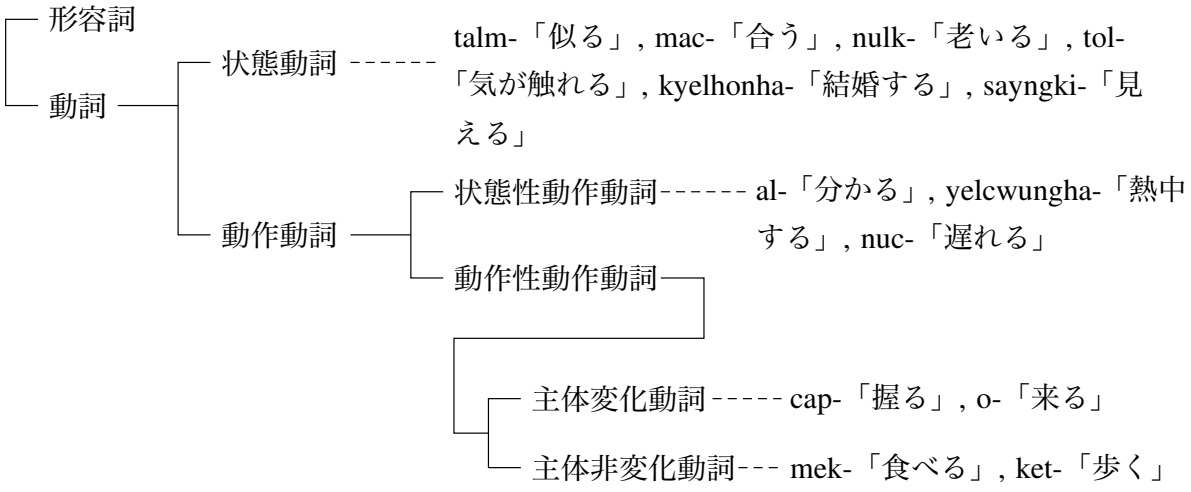


図 4　朝鮮語の用言のアスペクト的クラス (浜之上 1991: 26)

内山 (2004: 66-70) は，浜之上 (1991) の主体非変化動詞，または複数動作を表す動詞が -taka と結合しやすい傾向があることを指摘している．主体非変化動詞と複数動作を表す動詞の例を (3-22) と (3-23) にそれぞれ挙げておく．(3-23) では「覗き込む」という日本語訳になっているが ‘kiwus**keli**-’ は「しきりに〜する」という動詞化接辞 -keli- が付いている．

(3-22)　ama=to　wul-**taka**　　kutaylo cam=i　　tu-n kes kath-ta.
だぶん=も 泣く-ADV.DISC そのまま 眠り=NOM 入る-SMBL.PST-DECL
아마도 울다가 그대로 잠이 든 것 같다.
「どうやら泣いているうちにそのまま寝入ってしまったようだ.」(内山 2004: 67)

(3-23) ikoscekos kiwuskeli-**taka** palkapes-un yechey sacin=i pyek=ey
あちらこちら 覗き込む-ADV.DISC 裸になる-ADN.PST 女体 写真=NOM 壁=DAT
napwuth-ko peynie=lo cocapha-key cca-n chimtay=ka
張り出される-ADV.SEQ ベニヤ=INST 粗雑だ-ADV.MNN 組み立てる-ADN.PST ベッド=NOM
nohi-n pang=ul palkyenhay-ss-ta.
置かれる-ADN.PST 部屋=ACC 発見する-PST-DECL
이곳저곳 기웃거리다가 발가벗은 여체 사진이 벽에 나붙고 베니어로 조잡하게 짠 침대가 놓인 방을 발견했다.
「あちらこちらを覗き込んでいたところ女性のヌード写真が壁に張り出されベニヤでみすぼらしく作ったベッドが置かれた部屋を見つけた.」(内山 2004: 69-70)

内山 (2004: 81) は，このように -taka と結合する動詞にある一定の傾向があることについて，副詞節で表される事態が進行している局面で上位節の事態が開始されることを表すゆえに，動作の経過にのみ注目する主体非変化動詞のうちでも特に自動詞が用いられるのだとしている．野間 (1993: 33) も同様の指摘をしており，「< ha-taka >の意味が「…している途中で」のように一定の時間の幅をもった動作の中断あるいは他の動作への移行を意味する以上，適用される用言の語彙的な意味それ事態がそもそも一定の時間の幅をもった意識的な動作でなければならないだろうということは，我々の直感的な常識にも合致する」と述べている．

次に，-taka に過去接辞の付いた -(a/e)ss-taka「～してから」と結合する動詞について内山 (2004: 70-74) は，自動詞は基本的に結果状態のアスペクト形式 -a/e iss- を持つ主体変化動詞であることを指摘している．しかし，tullu-「寄る」のように -a/e iss- を取らない例や他動詞の例も含めて説明するために，-(a/e)ss-taka と結合する動詞は目標動詞[9]ではないかということを提案している．-(a/e)ss-taka の例として，自動詞と他動詞が結合している例について，それぞれ (3-24), (3-25) に引用する．

(3-24) … choylwuthan=i tto thecy-ese kolmok=ulo swum-ess-**taka** naw-a
催涙弾=NOM また 破裂する-ADV.SEQ 路地=ALL 隠れる-PST-ADV.DISC 出てくる-ADV
po-ni ku=tul=un eti=lo-nka salaci-ko…
見る-ADV.FCTC 3SG.M=PL=TOP どこ=ALL(=COP)-INDF 去る-ADV.SEQ
…최루탄이 또 터져서 골목으로 숨었다가 나와 보니 그들은 어디론가 사라지고…
「…催涙弾がまた爆発したので路地に隠れていて出てきてみると彼らはどこかに去って…」(内山 2004: 71)

[9] 内山 (2004: 73) は Garey (1957) を引きながら目標動詞という概念を導入している．Garey (1957) はフランス語の動詞アスペクトを論じる中で「もしも誰かが動詞していたが，動詞する間に中断したならば，その人は動詞したか」という問いに対し，肯定の答えが得られるものを非目標動詞 (atelic verb)，逆に否定となるものを目標動詞 (telic verb) と呼び，目標動詞としては acheter「買う」，amener「つれていく」，changer「とりかえる」，quitter「棄てる」などを，非目標動詞としては nager「およぐ」や jouer「遊ぶ」などを挙げている．この定義を見るに，目標動詞は本研究の限界動詞と同じ概念と見てよいだろう．

(3-25) ppallay#thong=ey mwul=ul katuk chaywu-ko seycey=lul neh-ko camsi
洗濯#桶=DAT 水=ACC いっぱいに 満たす-ADV.SEQ 洗剤=ACC 入れる-ADV.SEQ しばらく
twu-ess-**taka** 3pwun cengto seythakki=lul tolli-nta.
置く-PST-ADV.DISC 3 分 程度 洗濯機=ACC 回す-DECL.NPST
빨래통에 물을 가득 채우고 세제를 넣고 잠시 두었다가 3 분 정도 세탁기를 돌린다.
「洗濯機に水をいっぱい満たし洗剤を入れて少し置いてから3 分ほど洗濯機を回す.」
(内山 2004: 73-74)

ここで述べたことは，つまり過去接辞が接続していない -taka「〜ている途中で」は非限界動詞，過去接辞が結合した -(a/e)ss-taka「〜してから」は限界動詞と結合しやすいということである．副詞節自体の意味が結合する動詞のアスペクト的に左右される -myense とは少し異なる様相を見せるものの，-taka も基本的には動詞のアスペクト的性格と関連があるということができる．

3.5 -ko, -(a/e)se と用言の語彙的性質

ここでは，これまで時間的な先行性を表す副動詞接辞として対照分析されることの多かった -ko, -(a/e)se を，これら副動詞接辞と結合する用言の語彙的性質に着目し考察する．これらの副動詞接辞が継起の意味を表すときは，表 10 に示したように，動詞とのみ結合する．本節では -ko, -(a/e)se と結合しやすい動詞は，他動性 (transitivity) と関連があることを指摘し，他動性の諸特徴のなかでも客体の具現性が大きく関連していることを明らかにする．さらに，-ko, -(a/e)se と結びつく動詞の他動性との関連から，前者はより他動性の高い動詞と結びつき前景を成し，後者はより他動性の低い動詞と結びつき後景を成す傾向があることを述べる．

以下，3.5.1 で -ko, -(a/e)se に関する先行研究において，これらの副動詞接辞と結合する用言の性質の関係がどのように論じられてきたのかについて概観する．次いで -ko, -(a/e)se がどのような動詞と結びつきやすいのかについて考察するにあたって，動詞を大きく自動詞 (3.5.2) と他動詞 (3.5.3) に分けて考察していく．この結果をもとに 3.5.4 では，より詳しく動詞のどのような性質がこれらの副動詞接辞との結びつきに関連があるのかについて論じる．最後に 3.5.5 では，これら副動詞と結びつく動詞の他動性と前景／背景の関係について明らかにする．

3.5.1 -(a/e)se, -ko の先行研究

-ko, -(a/e)se と結びつく用言の語彙的性質という観点から考察した研究としては，Račkov (1962), ソ・ジョンス (1982), 権 (1994), 内山 (1999), 鄭 (2002) がある．

Račkov (1962) は副詞節，上位節の述語が「非移動動詞 + 移動動詞」である組み合わせにおいて，限界性を持つ自動詞は -(a/e)se と，限界性を持たない自動詞は -ko と結合することを指摘している．

ソ・ジョンス (1982) はそれまでの先行研究に従い，-ko の意味に時間順的なものと非時間順

的なものがあることを認めつつも，-ko 自体に時間順的な先行の意味があるのではなく，この副動詞接辞と結びつく用言が [–持続] の性質を持つときに，先行の意味が出るのだと指摘している．ソ・ジョンス (1982: 58) は al-「知る」などの [+状態, –持続] の用言が -ko と結びつく場合にも先行的な解釈が可能な例を挙げているが，そのような場合にも「知った状態で」のような解釈が有力なため，非時間順的な意味になると述べている．この点については -ko の意味を単純に時間順的，非時間順的な意味に二分してしまったために説明が曖昧になっていると考えられる．ソ・ジョンス (1982) は -(a/e)se については (i) 因果的連結，(ii) 時間的（「限時」的）連結，(iii) 継起―限定的連結の三つの意味を認めている．(i) と (ii) の意味に関しては [+状態] の性質を持つ用言，(iii) は [–状態] の用言が -(a/e)se と結びつくときにその意味を表すようになると指摘している．

権 (1994) は -(a/e)se のみの研究である．権 (1994) は -(a/e)se の意味を主に「先行」「原因・理由」「様態」「条件」「手段・方法」に分類したうえで，それぞれの意味になる場合にどのような用言がこの副動詞接辞と結びつくのかを，実際の言語資料を基に詳細に検討している．この研究では，-(a/e)se が先行の意味を表すときは，用言はほとんど意志動詞（特に移動動詞）であり，「原因・理由」のときは用言が無意志動詞であることが圧倒的に多いことを指摘している点が重要である．

内山 (1999) は図 4 に示した浜之上 (1991) のアスペクト的クラスによる分類を採用して -ko と -(a/e)se について考察している．内山 (1999: 48 fn.) の調査によれば kam-「つむる」, tamwul-「つぐむ」, swuki-「うつむく」, ccokuli-「しゃがむ」等の再帰動詞が -(a/e)se と結合した例は一つもなく，圧倒的に -ko である傾向が強いことを指摘している．

鄭 (2002) は 3.3 で言及した野間 (1993) の「有局面動詞」「無局面動詞」という分類と，図 4 に示した浜之上 (1991) のアスペクト的クラスによる分類を採用して -ko と -(a/e)se の考察を行っている．鄭 (2002) ではこれらの副動詞接辞が表す意味を (i) 先行，(ii) 様態，(iii) 同時，(iv) 並列，(v) 原因・理由，(vi) 条件，(vii) 手段・方法，(viii) 継起の八つに分類している．[10]

鄭 (2002) による，動詞のアスペクト的特徴と， -ko, -(a/e)se が表す意味についてまとめたものが表 13 と表 14 である．表 13 と表 14 では時間的関係の意味以外に論理的関係意味として原因・理由が分類されているが，この意味については動詞のアスペクト的特徴に関係なく実現されうるため割愛した．また表 14 には自動詞の結果のみ示し，他動詞は除いてある．

鄭 (2002) では野間 (1993)，浜之上 (1991) で提唱された概念を援用しながらも，表 13 の結果を見ると結局のところ「現場終了」が最も -ko の表す意味に関連していることがわかる．現

[10] 鄭 (2002: 3-4) による，それぞれの意味の定義は次のようである．
(i) 先行…前件が後件より先に終了し，その結果が残らずに後件が起こる．
(ii) 様態…前件が後件より先に終了し，その結果が残るなかで後件が起こる．
(iii) 同時…前件と同時に後件が行われる．
(iv) 並列…前件と後件がたんに列挙される．
(v) 原因・理由…前件が原因・理由となり，その結果が後件として現れる．
(vi) 条件…前件が後件を条件付ける．
(vii) 手段・方法…後述することがらをなすための手段・方法を表す．
(viii) 継起…前件が先に起こり，それが継続するなかで後件が起こる．

表 13　動詞のアスペクト的特徴による -ko の意味 (鄭 2002: 28)

<table>
<tr><td rowspan="2">アスペクト
形式</td><td colspan="5">アスペクト的クラスの分類</td><td rowspan="2">時間的関係の意味</td></tr>
<tr><td>動作，状態</td><td>有局面,
無局面</td><td>動作性,
状態性</td><td>主体変化</td><td>現場終了</td></tr>
<tr><td rowspan="5">-ko iss- のみ
を持つ</td><td rowspan="4">動作動詞</td><td rowspan="3">有局面</td><td>状態性
動作</td><td>関係なし</td><td>不明確
現場終了</td><td>継起
(al-「知る」)</td></tr>
<tr><td rowspan="3">動作性
動作</td><td>主体変化</td><td rowspan="2">有現場終了</td><td>様態 (tul-「持つ」)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">主体
非変化</td><td>先行 (ssis-「洗う」)</td></tr>
<tr><td>無現場終了</td><td>同時 (kkul-「引く」)</td></tr>
<tr><td>-ko iss-,
-a/e iss-
共に持たない</td><td>無局面
(有局面化
可能)</td><td>有現場終了</td><td>先行 (kku-「消す」)</td></tr>
<tr><td>状態動詞</td><td>関係なし</td><td>関係なし</td><td>無現場終了</td><td>先行 ‘様態性’ を帯びる
(kyelhonha-「結婚する」)</td></tr>
</table>

場終了とは，鄭 (2002: 11-12) が「先行」と「同時」の区別をするために設けた基準で，動作が行われている現実の場所（現場）で動作を終えたときに朝鮮語で “cikum mak =ul hay-ss-ta” (今 まさに =ACC する-PST-DECL)「たった今〜をした」と言いうるのが「有現場終了動詞」で，言いえないのが「無現場終了動詞」である．

表 14　動詞のアスペクト的特徴による -(a/e)se の意味 (鄭 2002: 30)

<table>
<tr><td rowspan="2">アスペクト
形式</td><td colspan="5">アスペクト的クラスの分類</td><td rowspan="2">時間的関係の意味</td></tr>
<tr><td>動作，状態</td><td>有局面,
無局面</td><td>動作性,
状態性</td><td>主体変化</td><td>現場終了</td></tr>
<tr><td rowspan="2">-a/e iss-
を持つ</td><td rowspan="2">動作動詞</td><td rowspan="2">有局面,
無局面を
問わない</td><td>動作性
動作</td><td>主体変化</td><td rowspan="3">現場終了性
を問わない</td><td rowspan="2">先行・様態 (移動動詞のみ
ka-「行く」, o-「来る」)
様態 (anc-「座る」,
ephtuli-「うつぶせになる」)</td></tr>
<tr><td>状態性
動作</td><td>関係なし</td></tr>
<tr><td rowspan="2">-ko iss,
-a/e iss-
共に持たない</td><td rowspan="2">状態動詞</td><td>有局面化
不可能</td><td colspan="2" rowspan="2">関係なし</td><td>様態
(kika makhi-「あきれる」)</td></tr>
<tr><td>有局面化
可能</td><td>無現場
終了</td><td>様態 ‘先行性’ を帯びる
(kyelhonha-「結婚する」)</td></tr>
</table>

表 14 を見てもわかるとおり，-(a/e)se の意味はほとんどの場合で様態になるため，-(a/e)se の意味と最も関連があるのは動詞のアスペクト的特徴よりも，移動動詞であるかどうかということになる．このことについては以前の先行研究でも指摘されてきたことである．他動詞が -(a/e)se を取る場合は時間的関係の意味を表さず，動詞のアスペクト的特徴とは関係なしに論理的関係の意味である原因・理由，手段・方法を表す．鄭 (2002) で示された結果を見ると，-ko と -(a/e)se が表す意味と，動詞のアスペクト的特徴の関連付けはそれほど成功していないようであるが，次のような指摘は重要だと考えられる．鄭 (2002) は -ko と結合し様態となる mey-「かつぐ」などの主体変化動詞や，-ko と結合し「継起」となる al-「知る」，-ko と

結合し「同時」となる mil-「押す」などの動詞類は -ko に比べて -(a/e)se と結合し難いことを指摘している．また，鄭 (2002:17-18) はアスペクト形式 -ko iss- のみを持つ動詞が -(a/e)se と結合したときの意味について，手段・方法を表す場合は客体変化動詞 (tta-「もぐ」，ppop-「引き抜く」等)，主体が客体を近づける動詞類 (pat-「受ける」, manna-「あう」等) が 4 分の 3 以上を占めていたことを報告している．

キム・ドンス (2011) は時間順的意味を表す -ko と -(a/e)se の用例を，自動詞と他動詞に分けて収集している．調査によると -ko と結合した用例の数が多い方から順に 20 位までは全て tha-「乗る」, tul-「持つ」, yel-「開ける」, po-「見る」, twu-「置く」等の他動詞であり，-(a/e)se の場合は 20 位のうち 16 は ka-「行く」, se-「立つ」, o-「来る」, anc-「座る」, nao-「出る」等の自動詞であったという． -ko と -(a/e)se を取る用言の性質について考えるならば，まずは -ko は他動詞を， -(a/e)se は自動詞と結合する傾向が強いという事実を確認しておく必要がある．

以上，-ko, -(a/e)se の意味を，これらを取る用言の性質という観点から論じた先行研究について概観した．-ko と -(a/e)se を取る動詞のアスペクト的特徴に着目した研究が多かったが，権 (1994) のように意志性との関連を論じた先行研究もあった．アスペクト的特徴といっても，例えば表 13 と表 14 の「主体変化」という観点は，どこまでアスペクト的な特徴と言いうるか疑問が残るところでもある．本研究ではキム・ドンス (2011) の調査結果を参考に，まずは二つの副動詞接辞と結びつく用言を自動詞と他動詞に分けて考察する．また，すでに権 (1994) で指摘されているように，-(a/e)se と結びつく用言が無意志用言の場合は (3-26) のように原因・理由を表し，そのような用言が -ko と結合する場合，(3-27) のように動詞であっても時間的関係の意味は表さないため，これ以降無意志用言の例は除外して考察を進めることにする．

(3-26) pakhayswu=nun hwa=ka na-**se** ayey ip=cocha yel-ci anh-ass-ta.
PN=TOP 怒り=NOM でる-ADV.SEQ まったく 口=さえ 開く-NMLZ NEG-PST-DECL
박해수는 화가 나서 아예 입조차 열지 않았다.
「パク・ヘスは怒って，まったく口さえも開かなかった.」[BREO0308]

(3-27) ku mal=ul tut-ko nay=ka elmana hwa=ka na-**ko** kasum=i
その 言葉=ACC 聞く-ADV.SEQ 1SG=NOM どれほど 怒り=NOM でる-ADV.SEQ 胸=NOM
aph-ass-nunci a-sey=yo?
痛い-PST-INDQ 知っている-HON:INTRR=POL
그 말을 듣고 내가 얼마나 화가 나고 가슴이 아팠는지 아세요?
「その言葉を聞いて，わたしがどれほど腹が立って胸が痛かったかおわかりですか？」[2CE00020]

まず，3.5.2 では自動詞についてキム・ドンス (2011) を参考にしつつ自動詞のどのような意味特徴が -ko, -(a/e)se と関連するのかを明らかにし，3.5.3 では他動詞についてアスペクト的特徴，意志性のどちらも指標として関連する他動性の観点から，-ko と -(a/e)se の意味との関連を探ってみたい．

3.5.2　自動詞と結合した -ko, -(a/e)se の意味

自動詞が -ko, -(a/e)se と結合したときの意味は，その自動詞が結果状態を表すアスペクト形式 -a/e iss- を取りうるかに関わりがあるといえる．-a/e iss- は他動詞の ssu-「書く」を除けば自動詞としか結合することはない．よって，-(a/e)se の結合可否によって自動詞を二つのクラスに分けることができる．-a/e iss- と結合可能な動詞は結果状態性を持ち，結合不可能な動詞は結果状態性を持たないということになる．表 14 に引用したように，-(a/e)se と結合する自動詞のうち，移動動詞であれば (3-28) のように先行・様態を表し，それ以外なら (3-29) のように単に様態を表す．表 14 では割愛したが，-a/e iss- ではなく進行を表すアスペクト形式 -ko iss- を取りうる動詞が -(a/e)se と結合した場合，時間的関係の意味は表さず原因・理由や手段・方法を表す．(3-30) には手段・方法を表す例を示した．

(3-28)　cenyek=un cip=ey ka-**se**　mek-keyss-supnita.
夕飯=TOP　家=DAT　行く-ADV.SEQ 食べる-PROB-DECL.POL
저녁은 집에 가서 먹겠습니다.
「夕飯は家に帰って食べます．」[CE000067]［先行・様態］

(3-29)　keki=ey anc-**ase**　tampay=lul phiwu-ko iss-nun　myech　sanay=tul.
そこ=DAT 座る-ADV.SEQ タバコ=ACC　吸う-ADV　PROG-ADN.NPST いくらかの 男=PL
거기에 앉아서 담배를 피우고 있는 몇 사내들.
「そこに座ってタバコを吸っている何人かの男たち．」[CE000033]［様態］

(3-30)　seykum=un kyelkwuk ilhay-**se**　ton=ul　pe-nun　simin=tul=uy
税金=TOP　結局　働く-ADV.SEQ お金=ACC かせぐ-ADN.NPST 市民=PL=GEN
cwumeni=eyse nao-ci?
ポケット=ABL　出てくる-ASS
세금은 결국 일해서 돈을 버는 시민들의 주머니에서 나오지?
「税金は結局，働いてお金をかせぐ市民たちのポケットから出ているだろう？」[BREO0286]［手段・方法］

次に，自動詞で結果状態アスペクトの -a/e iss- と結びつく ka-「行く」, anc-「座る」等の動詞，-a/e iss- とは結びつかず -ko iss- と結びつく ilha-「働く」等の自動詞が -ko と結合した場合について考えてみよう．まず，自動詞で -a/e iss- を取りうる動詞はそもそも副詞節と上位節の主体が異ならない限り時間的関係として解釈できる例がほとんど見いだせない．キム・ドンス (2011: 67) も姿勢変化を表す anc-「座る」や se-「立つ」は -ko と結合し難いことを指摘している．ただ，ka-「行く」が -ko を取った例に関しては，(3-31) のように上位節の述語が eps-「いない」の場合は先行を表しているとして解釈できる．同じ先行といっても，ka-「行く」が -(a/e)se を取ったときのように，「行ったその場で」のような含意はない．

(3-31)　aph#cali=uy sanay=nun eti=lo-nka　ka-**ko**　eps-ess-ta.
前#席=GEN　男=TOP　どこ=ALL(=COP)-INDF 行く-ADV.SEQ いない-PST-DECL

앞자리의 사내는 어디론가 가고 없었다.
「前の席の男はどこかに行って，いなかった.」[CE000027]

-a/e iss- とは結びつかず -ko iss- と結合する ilha-「働く」等の自動詞が -ko と結合した場合，キム・ドンス (2011: 66) も指摘するように先行の意味を表す．例は (3-32) に挙げる．

(3-32) kulem na=to cemsim#sikan=ey ilha-**ko** tangsin=hako kathi ilccik cip=ey
それでは 1SG=も 昼食#時間=DAT 働く-ADV.SEQ あなた=COM 一緒に はやく 家=DAT
tuleka-lkka?
入る-UNCT
그럼 나도 점심시간에 일하고 당신하고 같이 일찍 집에 들어갈까?
「じゃあ，わたしもお昼の時間に仕事して，あなたと一緒にはやく家に帰りましょうか？」[CE000024]

つまり， 自動詞が -ko, -(a/e)se を取ったときの意味に大きく関わるのは，まずは意志性であり，そして結果状態性であるといえる．無意志動詞と結合したときの意味については，すでに前節で述べたとおりである．

3.5.3 他動詞と結合した -ko, -(a/e)se の意味

前節で -ko, -(a/e)se が自動詞と結合した場合には，意志性と結果状態性がその意味に関わっていると結論付けた．本節では，-ko, -(a/e)se が他動詞と結合する場合は他動性によって意味や結合のしやすい動詞が影響を受けるということを示す．

他動性については，Hopper & Thompson (1980) の研究が知られている．Hopper & Thompson (1980: 252) は他動性の 10 の意味的特徴を表 15 のように提示している．日本語訳は角田 (2007: 4) に従う．

一方，角田 (1991, 2007) は，他動性における，表 15 の I. Affectedness（被動作性），つまり動作が対象に及び，かつ，対象に変化を起こすかということを最重要視し，以下の二項述語階層を提示している．この表 16 では左端，すなわち下位類 1A が最も他動性が高く，典型的な他動詞と呼べる．右端はその逆である．

表 15　他動性の 10 の意味的特徴 (Hopper & Thompson 1980)

	高い	低い
A. Participants（参加者）	2 人以上：動作主と対象	1 人
B. Kinesis（動作様態，動き）	動作	非動作
C. Aspect（アスペクト）	動作限界あり	動作限界なし
D. Punctuality（瞬間性）	瞬間	非瞬間
E. Volitionality（意図性，意志性）	意図的	非意図的
F. Affirmation（肯定）	肯定	否定
G. Mode（現実性）	現実	非現実
H. Agency（動作能力）	高い	低い
I. Affectedness of O（被動作性，影響性，受影性，対象への影響，動作が対象に及ぶ度合い）	全体的に影響	部分的に影響
J. Individuation of O（対象の個別化，対象の個体化，個体性）	高い	低い

表 16　二項述語階層 (角田 1991, 2007)

類	1		2		3	4	5	6	7
意味	直接影響		知覚		追求	知識	感情	関係	能力
下位類	1A	1B	2A	2B					
意味	変化	無変化							
例	殺す 壊す 温める	たたく 蹴る 触る	see hear find	look listen	探す 待つ	知る 分かる 覚える 忘れる	愛す 嫌う 惚れる 要る 怒る 恐れる	持つ ある 似る 欠ける 対応する 含む	できる 得意 capable good
日本語									
「が + を」	→	→	→	→	→	→	→	→	
						←	←	←	← 「に + が」

本研究では，Hopper & Thompson (1980) を参考にしつつも，具体的な考察対象の動詞については角田 (1991, 2007) で挙げられた動詞を利用して -ko と -(a/e)se の意味との関連を考察していく．ここでは他動詞を考察するために，二項述語階層の「7 能力」を除いた「1 直接影響」から「6 関係」までを見ていく．本研究ではこれらの動詞に加え，-ko と -(a/e)se の先行研究において指摘があった再帰動詞と相互動詞について検討し，さらに 23 言語の他動性について調査した風間 (2014) を参考にして作成動詞と，他動性に関する研究では言及されていない授

受に関する動詞を追加する.[11] 以下，二項述語階層で他動性が高いとされる動詞から考察し，最後に本研究で新たに追加した動詞について検討していく.

■ 直接影響／変化タイプの動詞

客体に直接的な影響を与え，客体が変化を被るような動詞として，kku-「消す」を参照する．目的語は pwul「火」や theylleypicen「テレビ」などに限定し，直接的な影響を及ぼすのか明らかでない sinkyeng=ul kku- (神経=ACC 消す-)「気にしない」などの結合タイプは扱わない．その結果，副動詞接辞 -ko と結合した例は 221 例であったのに対し，-(a/e)se と結合した例は 2 例しか現れなかった．-ko と結合した例については，(3-33) のように，時間的な先行を表す例がほとんどであった．-(a/e)se の例は 2 例とも，(3-34) のように副詞節が上位節の事態に対する手段と考えられる例であった.

(3-33) ku=nun khemphyuthe=lul kku-**ko** iles-ess-ta.
3SG.M=TOP パソコン=ACC 消す-ADV.SEQ 立つ-PST-DECL
그는 컴퓨터를 끄고 일어섰다.
「彼はパソコン（の電源）を消して立ち上がった.」[BREO0286]

(3-34) ta tulyeponay-ko=n 1chung pokto centung=ul myech kay kk-**ese** yakkan
みんな 入らせる-ADV.SEQ=TOP 1 階 廊下 電灯=ACC いくつか 個 消す-ADV.SEQ 若干
etwup-key ha-nta.
暗い-ADV.MNN する-DECL.NPST
다 들여보내곤 1 층 복도 전등을 몇 개 꺼서 약간 어둡게 한다.
「全員を（部屋に）入らせてから，1 階廊下の電灯を何個か消して，少し暗くする.」[CJ000251]

■ 直接影響／非変化タイプの動詞

客体に直接影響を与えるものの，客体がなんらの変化も被らないタイプの動詞として nwulu-「押す」を取り上げる．nwulu- には「抑圧する」や「我慢する」などの意味もあるが，ここでは物体や身体部位などを目的語とする結合のみを対象とした．その結果，-ko と結合した例は 111 例，-(a/e)se は 10 例収集することができた．意味については，「直接影響／変化タイプの動詞」と同様に，-ko の場合は先行を，-(a/e)se の場合は手段を表していると考えられる例がほとんどであった.

■ 知覚タイプの動詞

知覚タイプの動詞として tut-「聞く」を見てみると，-ko と結合した例は 855 例，-(a/e)se と結合した例は 66 例であった．-ko の場合は，やはりこれまでの動詞の例と同様に，先行を表す例が大半であった．先行とはいっても，鄭 (2002) が「継起」と呼ぶ，-ko 節の事態が先行

[11] 様々な言語における格付与のパタンを調査した Malchukov (2005) でも reflexive (再帰) と middle (再帰／相互) に関わる動詞を検討している.

し，それが継続するなかで上位節の事態が起こる (3-35) のような例もある．ただし，-ko 節の事態が起こった状態で，そのあとの事態（(3-35) でいえば「驚く」という事態）が起こったかは，精神的な活動の場合はっきりしたことはわからない．よって，このような例も先行を表す例と見ておく．-(a/e)se の例，66 例中 41 例，およそ 3 分の 2 は上位節の動詞が al-「知る」で現れたのが特徴的であった．(3-36) の「聞いたからよく知っている」のような場合も含めて，-(a/e)se は全て上位節に対する理由や原因を表していると考えられる例であった．

(3-35) na=to chem=ey=n ku soli=l tut-**ko** noll-ass-supnita.
1SG=も 最初=DAT=TOP その 話=ACC 聞く-ADV.SEQ 驚く-PST-DECL.POL
나도 첨엔 그 소릴 듣고 놀랐습니다.
「わたしも最初はその話を聞いて驚きました.」[3BE00004]

(3-36) emeni=hanthey yayki=lul tul-**ese** cal al-ko iss-e.
お母さん=DAT 話=ACC 聞く-ADV.SEQ よく 知る-ADV PROG-DECL.NPST.NPOL
어머니한테 얘기를 들어서 잘 알고 있어.
「お母さんに話を聞いたからよく知ってるよ.」[2CE00020]

■ 追求タイプの動詞

追求タイプの動詞については，chac-「探す，見つける」と kitali-「待つ」の二つを考察する．まず，chac- には様々な意味があるが，cim=ul chac-「荷物を引き取る」，chinkwu=lul chac-「友達を訪ねる」などのような結合のタイプは除外し，あくまで「探す，見つける」という意味のみに限定した．その結果，-ko と結合した例が 27 例に対し，-(a/e)se と結合した例は 134 例現れた．-ko と結合した場合，時間順的な先行を表していると考えられる例も見られたが，27 例中 14 例は否定形ないし不可能形で現れ，特に (3-37) のような不可能が 12 例と，比較的多かった．

(3-37) peyl=un kyeysok wulli-ko takuphay-ci-n swuhyen, mwusen
ベル=TOP ずっと 鳴る-ADV.SEQ 緊迫している-INTRZ-ADN.PST PN 無線
cenhwaki=nun mos chac-**ko** suphikhephon pethun=ul nwulu-nta.
電話機=TOP IMPS 探す-ADV.SEQ スピーカーフォン ボタン=ACC 押す-DECL.NPST
벨은 계속 울리고 다급해진 수현, 무선 전화기는 못 찾고 스피커폰 버튼을 누른다.
「ベルは鳴り続け焦ったスヒョン，子機は見つけられずスピーカーフォンのボタンを押す.」[CJ000250]

chac-「探す，見つける」が -(a/e)se と結合した場合，(3-38) のように「見つける」の意味も (3-39) のように「探す」の意味もどちらも現れた．(3-38) では -(a/e)se 節は先行性を表しつつ，上位節と目的語（(3-38) では「記事」）を共有している．(3-39) では「獲物を求めて」と，「目的」[12]を表していると考えられる．

[12] 国立国語院 (2005: 529) は「前節の行為が目的であることを表す」例として次の (I) のような例を挙げている．挙げられている例が他にないため，その他の動詞との結合においても目的を表す例があるのかは不明である．

(3-38) tekpwun=ey wenha-ten kisa=lul chac-**ase** poksaha-l swu
おかげ=DAT 望む-ADN.IMPF 記事=ACC 見つける-ADV.SEQ コピーする-ADN.IRR すべ
iss-ess-e.
ある-PST-DECL.NPOL
덕분에 원하던 기사를 찾아서 복사할 수 있었어.
「おかげで欲しかった記事を見つけてコピーできたんだ.」[BREO0293]

(3-39) ai=ka cala-myen kathi sanyangkam=ul chac-**ase** tulphan=ulo
子供=NOM 育つ-ADV.COND 一緒に 獲物=ACC 探す-ADV.SEQ 野原=ALL
naka-keyss-ci.
出ていく-PROB-ASS
아이가 자라면 같이 사냥감을 찾아서 들판으로 나가겠지.
「子供が育ったら一緒に獲物を求めて野原に出ていくのだろう.」[3BES0006]

kitali-「待つ」が -ko, -(a/e)se と結合した例はそれぞれ 76 例，21 例現れた．-ko を取った場合，明確に先行を表していると考えられる例はなく，ほとんどが上位節に対する様態となっている例であった．そのなかでも特に上位節の動詞が se-「立つ」である例が 37 例，anc-「座る」である例が 12 例現れ，この二つで全用例の半数以上を占めていた．(3-40) は上位節の動詞が se-「立つ」になっている例であるが，この例では「待って（待ちながら）立っていた」というように様態を表している．一方 -(a/e)se と結合した例では，理由を表していると解釈できる例もいくつか見られたが，ほとんどが (3-41) のように先行を表している例であった．kitali-「待つ」は -ko ではなく -(a/e)se で先行を表す点で，これまでに考察してきた動詞とは異なる．

(3-40) eyllipeyithe=lul kitali-**ko** se iss-ess-ta.
エレベーター=ACC 待つ-ADV.SEQ 立つ:ADV DUR-PST-DECL
엘리베이터를 기다리고 서 있었다.
「エレベーターを待って立っていた.」[CE000025]

(3-41) kilcin: kitalye.
hyenswu: kitaly-**ese** o-ci anh-umyen?
PN 待つ-ADV.SEQ 来る-NMLZ NEG-ADV.COND
길진: 기다려.
현수: 기다려서 오지 않으면?
「キルチン：待ちなよ.」
「ヒョンス：待って来なかったら？」[2CJ00075]

(I) emma=nun kachwulha-n tongsayng=ul chac-**ase** cenkwuk=ul tolatany-ess-ta.
お母さん=TOP 家出する-ADN.PST 弟妹=ACC 探す-ADV.SEQ 全国=ACC 歩き回る-PST-DECL
엄마는 가출한 동생을 찾아서 전국을 돌아다녔다.
「母親は，家出した弟 (妹) を探すため全国を歩き回った.」(国立国語院 2005: 529; 韓国・国立国語院 2012: 589)

■ 知識タイプの動詞

知識タイプの動詞としては ic-「忘れる」を考察する．-ko と結合した例は 207 例，-(a/e)se と結合した例は 8 例のみであった．-ko と結合した場合「忘れて（から)行った」のように先行を表していると考えられる例も現れたが，ほとんどは上位節に対して様態を表している例であった．その場合，上位節の動詞は cinay-「過ごす」が 36 例，sal-「生きる」が 25 例と比較的多く現れた．(3-42) では「忘れて（その状態で)過ごす…」というように，様態を表している．

(3-42) ile-n kes=tul=ul ic-**ko** cinay-nun pangpep=un eps-ulkka.
こうだ-ADN.NPST こと=PL=ACC 忘れる-ADV.SEQ 過ごす-ADN.NPST 方法=TOP ない-UNCT
이런 것들을 잊고 지내는 방법은 없을까.
「こういうことを忘れて過ごす方法はないだろうか.」[CE000067]

-(a/e)se に関して，8 例中 5 例は不可能形で現れ，その他の例も含めて全て理由を表していると解釈できる例であった．

■ 感情タイプの動詞

感情タイプの動詞として salangha-「愛する」を見てみると，-ko と結合した例は 10 例であり，-(a/e)se と結合した例は 20 例であった．-ko と結合した場合，上位節の動詞が sal-「生きる」で現れ，(3-42) のように様態を表す例や，(3-43) のように salangha- が「恋愛する」というような意味で用いられ先行を表していると解釈できる例も現れた．

(3-43) kwayen nay=ka aph=ulo coh-un namca=lul manna-se tasi salangha-**ko**
果たして 1SG=NOM 前=ALL よい-ADN.NPST 男=ACC 会う-ADV.SEQ 再び 愛する-ADV.SEQ
kyelhonha-key toy-l kes-i-nka.
結婚する-ADV.MNN なる-SPEC=COP-INTRR
과연 내가 앞으로 좋은 남자를 만나서 다시 사랑하고 결혼하게 될 것인가.
「果たしてわたしがこれからいい男に出会って，また恋愛して結婚することになるだろうか.」[2CE00020]

-(a/e)se の場合，全て理由を表していると考えられる例であった．(3-43) と同じく上位節の述語が kyelhonha-「結婚する」で現れた例が 5 例あったが，この (3-44) のような例は理由をより明示していると考えられる．

(3-44) na=n tangsin=ul salanghay-**se** kyelhonhay-ss-e.
1SG=TOP あなた=ACC 愛する-ADV.SEQ 結婚する-PST-DECL.NPOL
난 당신을 사랑해서 결혼했어.
「わたしはあなたを愛したから結婚したの.」[5BE02011]

■ 関係タイプの動詞

関係タイプの動詞として，talm-「似る」を見ると，-ko は 1 例も現れず，-(a/e)se のみ 39

例現れた．用例を見ると，(3-45) のように理由や原因を表していると解釈できる例ばかりであった．

(3-45) kulem na=nun nwukwu=l talm-**ase** kulim=ul kuli-ki sicakha-n
それでは 1SG=TOP 誰=ACC 似る-ADV.SEQ 絵=ACC 描く-NMLZ 始める-ADN.PST
kes=i-lkka?
こと=COP-UNCT
그럼 나는 누굴 닮아서 그림을 그리기 시작한 것일까?
「じゃあわたしは誰に似て絵を描きはじめたんだろうか？」[3BES0010]

以上は角田 (1991, 2007) の二項述語階層を参考に各々の動詞が副動詞接辞 -(a/e)se と -ko をどれぐらいの割合で取って現れるか，どのような意味を表すかを考察した．先述したように，以下で二項述語階層に含まれていない動詞のうち再帰，相互，作成，授受タイプの動詞について考察する．

■ 再帰タイプの動詞

内山 (1999: 48 fn.) で副動詞接辞 -ko との結びつきが強いと指摘されていた再帰動詞について見る．再帰動詞とは，「服を着る」や「目を閉じる」など，ある動作の結果が話者自身に及ぶ動詞である．このようなタイプの動詞として，nwun(=ul) kam-「目 (を) つむる」を見てみると，先行研究の指摘のとおり -ko と結合した例しか現れなかった．基本的には (3-46) の「目をつむって座っていた」のように上位節の事態に対する様態的な意味を表す．

(3-46) na=nun nwun=ul kam-**ko** kamanhi anc-a iss-ess-ta.
1SG=TOP 目=ACC つむる-ADV.SEQ じっと 座る-ADV DUR-PST-DECL
나는 눈을 감고 가만히 앉아 있었다.
「わたしは目をつむって，じっと座っていた．」[3BES0006]

■ 相互タイプの動詞

次に，A が B にある行為をした場合，B も A に同様の行為をしたことになる，相互性を持つ動詞として manna-「会う」を参照する．-ko と結合した例は 192 例で，-(a/e)se と結合した例は 463 例現れた．この動詞については内山 (1999: 25-26) でも考察しているように，-ko と結合した場合，(3-47) のように上位節の事態においては目的語が維持されず，-(a/e)se と結合した場合，(3-48) の例のように上位節まで目的語が維持されるものと解釈される．つまり (3-47) では上位節の「来た」時点で「その子に会う」という事態はすでに終わっており，(3-48) では，上位節の「話した」時点でも「部長に会う」という事態が維持されている．

(3-47) sil=un, onul ku ay=lul manna-**ko** w-ass-e=yo.
実=TOP 今日 その 子=ACC 会う-ADV.SEQ 来る-PST-DECL=POL
실은, 오늘 그 애를 만나고 왔어요.
「実は，今日その子に会って来たんだ．」[CE000070]

(3-48) ohwu=ey pwucang=ul manna-**se** yaykihay-ss-ta.
午後=DAT 部長=ACC 会う-ADV.SEQ 話す-PST-DECL
오후에 부장을 만나서 얘기했다.
「午後に部長に会って話した.」[CE000071]

■ 作成タイプの動詞

続いて「作る」「書く」等，対象を生み出すタイプの動詞について，mantul-「作る」を見てみることにする．2.2 ですでに述べたが，mantul- には salam=ul mianha-key mantul-ta (人=ACC 申し訳ない-ADV.MNN 作る-DECL)「人を申し訳なくさせる」のように迂言的形式で使役を表す用法がある．このような用法は除外しておいた．そのうえで用例を収集すると，-ko と結合した例は 112 例，-(a/e)se と結合した例は 83 例得ることができた．どちらの例も先行を表すことには変わりないが，(3-49) では副詞節と上位節の目的語は共有されていないのに対し，(3-50) では共有されており，上位節に対して手段，方法のような意味になっている．(3-50) では先行性はあるものの，あくまで出来事の焦点は副詞節ではなく，主節にあると考えられる．

(3-49) na=nun cakunnyen=chelem kani#hwatek=ul mantul-**ko** kalchi=lul kwuw-ess-ta.
1SG=TOP PN=EQU 簡易#コンロ=ACC 作る-ADV.SEQ タチウオ=ACC 焼く-PST-DECL
나는 작은년처럼 간이화덕을 만들고 갈치를 구웠다.
「わたしはチャグンニョンのようの簡易コンロを作ってタチウオを焼いた.」[BREO0313]

(3-50) chokochwucang=kkaci mantul-**ese** kaci-ko w-ass-kwumen.
酢味噌=まで 作って-ADV.SEQ 持つ-ADV.SEQ 来る-PST-ADM
초고추장까지 만들어서 가지고 왔구먼.
「酢味噌まで作って持ってきたのか.」[CE000024]

■ 授受タイプの動詞

最後に，対象のやりとりをするような動詞として，pat-「受ける」を参照する．対象となる名詞 (句) は ton「お金」や sain「サイン」など目に見えて受け取れるものに限定する．そのうえで用例を収集すると，-ko と結合した例は 240 例，-(a/e)se と結合した例は 124 例現れた．-ko と結合した場合，(3-49) と同じく，基本的には (3-51) のように上位節に対する先行を表しつつも，上位節と目的語は共有しない．-(a/e)se と結合した場合，いくつかの理由・原因を表す例を除いては，(3-50) と同じく．ほとんど (3-52) のように上位節の述語と目的語を共有する例か，上位節の述語が自動詞の場合は受け取った状態を維持したまま上位節の事態が起こるような例であった．(3-52) もやはり先行性はあるものの，上位節に対する手段のような意味を担っていると解釈できる．

(3-51) tekswukwung mayphyokwu=ey anc-a ton=ul pat-**ko** phyo=lul
徳寿宮 チケット売場=DAT 座る-ADV.SEQ お金=ACC 受ける-ADV.SEQ チケット=ACC
kenneycwu-nun il=ul ha-key toy-n ci han tal=i cina-ss-ta.
渡す-ADN.NPST 仕事=ACC する-ADV.MNN なる-ADN.PST 以来 一つの 月=NOM 過ぎる-PST-DECL

덕수궁 매표구에 앉아 돈을 받고 표를 건네주는 일을 하게 된 지 한 달이 지났다.
「徳寿宮のチケット売場に座って，お金をもらいチケットを渡す仕事をするようになって 1 ヶ月が過ぎた.」[5BE01006]

(3-52) yunswu chenchenhi kheyisu pat-**ase** yel-e po-nta.
PN ゆっくりと ケース 受ける-ADV.SEQ 開く-ADV CNT-DECL.NPST
윤수 천천히 케이스 받아서 열어본다.
「ユンス，ゆっくりとケースを受け取って開けてみる.」[웨딩 13]

ここまでの結果を表 17 にまとめる．-ko と -(a/e)se の数と，それぞれの比率を小数点 1 位を四捨五入して -ko : -(a/e)se の割合に示した．

表 17 他動詞における -ko と -(a/e)se の数と割合

他動詞のタイプ	動詞	-ko の数	-(a/e)se の数	-ko : -(a/e)se
直接影響／変化	kku-「消す」	221	2	99:1
直接影響／非変化	nwulu-「押す」	111	10	92:8
知覚	tut-「聞く」	855	66	93:7
追求	chac-「探す，見つける」	27	134	17:83
追求	kitali-「待つ」	76	21	78:22
知識	ic-「忘れる」	207	8	96:4
感情	salangha-「愛する」	10	20	33:67
関係	talm-「似る」	0	39	0:100
再帰	kam-「つむる」	271	0	100:0
授受	pat-「受ける」	240	124	66:34
作成	mantul-「作る」	112	83	57:43
相互	manna-「会う」	192	463	29:71

次に，表 17 に提示した -ko : -(a/e)se の割合を，横軸に -ko，縦軸に -(a/e)se として配置して示したのが図 5 である．この図においては，右下に位置する動詞ほど -ko を取る割合が高く，左上にあるほど -(a/e)se を取る割合が高いということを意味している．

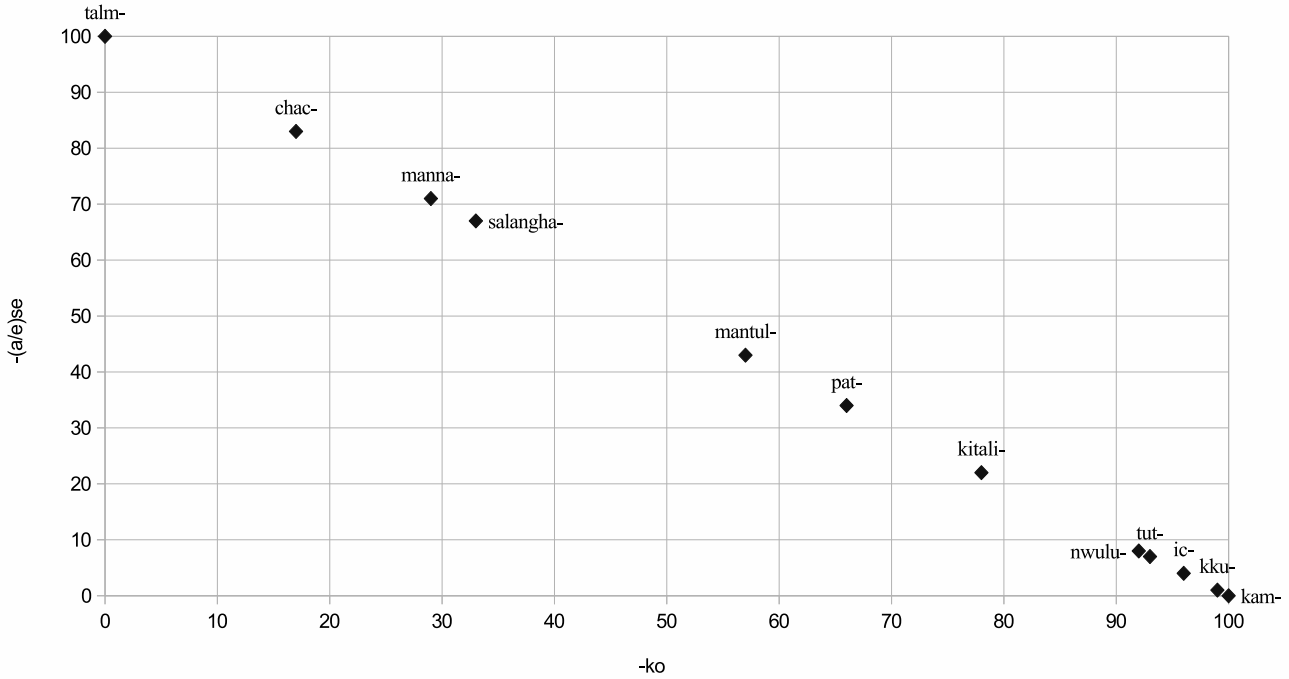


図 5　-ko : -(a/e)se の割合

図 5 を見ると，他動性が高いと考えられる直接影響／変化タイプの kku-「消す」，直接影響／非変化タイプの nwulu-「押す」が右下に，他動性が低いと考えられる感情タイプの salangha-「愛する」，関係タイプの talm-「似る」が左上に，追求タイプの kitali-「待つ」がその間に位置していることから，おおまかな傾向として，他動性が高い動詞ほど -ko を，低いほど -(a/e)se と結合する割合が高いということができる．しかし，知覚タイプの tut-「聞く」が直接影響タイプの動詞と同じくらい -ko の割合が高いこと，追求タイプの chac-「探す，見つける」は極端に -(a/e)se の割合が高いことなどは，従来の他動性の観点からだけでは説明ができない．そこで，本研究では -ko, -(a/e)se と結合する動詞の他動性を従来の観点からだけでなく，「客体の具現性」という観点から考えてみたい．

3.5.4　-(a/e)se, -ko と結合する動詞と他動性の意味特徴

図 5 の結果を考えるには，-ko, -(a/e)se の意味と，それぞれの副動詞接辞を取る動詞の他動性，具体的には被動作性 (affectedness) との関係だけを考えても，うまく説明できない．そこで，-(a/e)se の割合が多かった chac-「探す，見つける」の性質を考えてみると，この動詞の目的語は，動作を行っている最中にはそもそも目的語が存在しないということがいえる．-ko, -(a/e)se の割合が半々ぐらいであった授受タイプの pat-「受ける」，作成タイプの mantul-「作る」に関しても同様に，これらの動詞の目的語は，その動作の最中には話者にとっては存在しないものといえる．

風間 (1999: 66-69) によれば，ツングース諸語の指定格 (designative case) は，「他動詞であれば「発見，獲得，作成，追求」などの動作を行っている時点ではその全部もしくは一部が存在していないような動詞と現れることが多いようであった」と述べ，風間 (1999: 53) は，ナーナイ語のテキストにおいて，指定格と共起する動詞で最も多かったのは (3-53) のように baa-「見つける，得る，受け取る，遭う，産む」であったと述べている．ボールドは引用者による．

(3-53) simbiə　　xusə piktə-gu-ji　　**baa**kai,
二人称単数代名詞　　子供-指定格-再帰人称単数
おまえを　　男の 子として　　得た　(風間 1991: 101)

すでに述べたように chac-「探す，見つける」という動詞は，そもそも客体が動作中には存在していないために，他動性が低く，-(a/e)se の割合が高いのではないかと考えることができる．このように考えると，知覚タイプの tut-「聞く」の -ko の割合が高いのも，目的語はすでに存在するものであるからという説明が可能である．風間 (1999: 55) が，ナーナイ語で指定格を取る動詞について「「授与，運搬，設置」など，すでに対象が存在している動詞もあるが，授与される側，持ってきてもらう側の人間の立場からすれば，やはり新たに獲得されるもの，ということになる」と指摘するように，pat-「受ける」のような動詞は，客体を受け取って初めてその動作が完結するような動詞であるため，そういった意味で他動性が低いのだということもできる．さらに，再帰タイプとして分類した nwun(=ul) kam-「目 (を) つむる」が -ko の割合が 100 だったことについても，再帰的な動作の場合，その目的語である身体部位などは話者にとっては常に存在しているものであるため，-ko の割合が高いということができるかもしれない．[13] これまでの他動性に関する先行研究で，他動性の様々な意味特徴が取り出されてきたが，本研究や風間 (1999) で得られた結果に基づき，他動性の一つの特徴として「動作を行うに際して，客体がすでに存在しているか，また，動作によって客体が生じるかどうか」という「客体の具現性」という基準を提起することができる．[14]

3.5.5　-(a/e)se, -ko と結合する動詞の他動性と前景／背景

Hopper & Thompson (1980) は，表 15 に引用した他動性の 10 の意味特徴と，Foreground/Background（前景／背景）の関係についても論じている．[15] Hopper & Thompson (1980)

[13] 内山 (1999: 43) は -ko と -(a/e)se が対立する点とは「用言 1 と用言 2 のむすびつきの有無であり，換言すれば用言 1 と用言 2 を同一場面と認識するか否かであると本稿ではかんがえたい」と述べつつ，-ko が用いられる条件を「動作の客体が主体自身である再帰動詞が用言 1 にくると前件はそれ自体で完結し後件に影響をおよぼさない．そのため前件と後件は場面がことなるものとして認識され，用言 1 に I-ko がもちいられるものとかんがえられる」(ibid.: 34) と指摘している．

[14] 風間 (1999:68) は角田 (1991, 2007) の二項述語階層の 2「知覚」と 3「追求」の間に「「獲得・作成」という意味の類をたてることも考えられる」と述べている．

[15] Wallace (1982: 208) では，前景と背景の特徴を次のように説明している．日本語訳と下線は引用者による．「前景に含まれるのは，例えば，ナラティブの中のより重要な事象，手順のうちより重要な段階，説明の中の重点，出来事に関わる主要な人物，存在である．背景は，より重要でない出来事，補助的な手順，二次的な事項，描写，詳細，非主題，そして主要でない人物や事物を含む．」

は，例えば，A. Participants（参加者）の場合，参加者が多い方が前景と，少ないほうが背景と結びつきやすく，それぞれ 76%, 18% の割合であったと報告している．Hopper & Thompson (1980: 288) によれば他動性の 10 の意味特徴全体では，他動性が高い方が前景との相関が 78% であり, 低い方では 39% だとしている.[16]Hopper & Thompson (1980) の前景／背景に関する議論はディスコースにおけるものであったが，1 文内における副動詞の議論にも応用ができると考えられる．以下では -ko, -(a/e)se の意味と前景／背景の関係について考察する．

3.5.3 で考察した結果を次の表 18 にまとめておく．ここでは，-ko の割合が高かった動詞を上から順に配置して示している．

表 18　-ko, -(a/e)se が他動詞と結合したときの意味

動詞	-ko の意味	-(a/e)se の意味	-ko : -(a/e)se の割合
kam-「つむる」	様態	—	100:0
kku-「消す」	先行	手段	99:1
ic-「忘れる」	先行／様態	理由	96:4
tut-「聞く」	（継起的）先行	理由	93:7
nwulu-「押す」	先行	手段	92:8
kitali-「待つ」	様態	先行／理由	78:22
pat-「受ける」	先行	手段	66:34
mantul-「作る」	先行	手段	57:43
salangha-「愛する」	先行／様態	理由	33:67
manna-「会う」	先行（目的語非共有）	先行（目的語共有）	29:71
chac-「探す，見つける」	様態（+ 否定形）	先行／目的	17:83
talm-「似る」	—	理由	0:100

この表 18 に示したように，他動性が高い動詞は -ko の割合が高く，意味は基本的に先行を表す．そして，他動性の低い動詞は -(a/e)se の割合が高く，主に上位節に対する手段や理由などの意味を表す．すでに Hopper & Thompson (1980) を引用しながら述べたように，他動性の高い動詞は前景と相関関係がある．前景の事象が時間順に沿って配置され，事象を前進させるものであるならば，上記で見たような他動性の高い動詞が多く先行の意味になるというのも納得できる．他動性の高い動詞は -ko と結びつき，副詞節で表される事象の終結をもって，上位節に接続されるわけである．反対に，他動性の低い動詞は背景と相関関係がある．背景は事象を前進させるというよりも，周辺的な事象を表す．他動性の低い動詞の多くが手段や理由といった背景と関連がある意味を表すことも説明ができる．他動性の低い動詞と結びつ

[16] DeLancey (1987) では，Hopper & Thompson (1980) の主張に対して，他動性の程度と前景／背景に，100:0 に近い相関がない以上，これを証明することはできないとし，認知的な salience により重点を置いている．本稿では 100:0 の相関関係がないとしても，他動性の程度と，テキストにおける前景／背景との相関には一定の関係があると考えておく．

く -(a/e)se は先行する動作ではありながらも焦点はあくまで上位節の動作にあり，背景として上位節に対する手段や理由などを表すわけである．

ただ，nwun(=ul) kam-「目 (を) つむる」が -(a/e)se とは結びつかず，-ko とのみ結びついて現れたのにもかかわらず，基本的に様態の意味を表すことに関しては，前景とは関係がないように考えられる．この点についてはさらに検討が必要である．

3.5.6　-ko, -(a/e)se と用言の語彙的性質のまとめ

ここでは，副動詞接辞 -ko と -(a/e)se の意味を，これらと結合する用言の語彙的性質との関連から考察した．その結果を簡単にまとめると表 19 のようになる．考察に際して，まず動詞を自動詞と他動詞に分けた．その結果，-ko は自動詞であれば進行アスペクトの -ko iss- を取りうる動詞，他動詞であれば他動性の高い動詞と結びついて先行を表すということが明らかになった．-ko と自動詞で -a/e iss- を取る動詞との交点で（先行）となっているのは，このパタンはあまりないためである．-(a/e)se の場合，自動詞であれば基本的に結果状態アスペクトの -a/e iss- を取りうる動詞と結びつき，先行（移動動詞）あるいは様態を表し，-ko iss- を取りうる動詞と結びついた場合は手段・方法を表す．-(a/e)se は他動詞の場合，他動性が比較的低い動詞と結びつき，手段や理由などを表す．

表 19　副動詞接辞 -ko, -(a/e)se の意味と関連する用言のタイプ

	自動詞		他動詞	
	結果状態性 [–]	結果状態性 [+]	他動性 [高]	他動性 [低]
-ko	先行	（先行）	先行，様態	
-(a/e)se	手段・方法	先行，様態		手段，理由

さらに，他動詞に関しては，他動性が高い動詞の場合 -ko と結びつきやすく，事態を進行させる前景を担い，他動性の低い動詞の場合 -(a/e)se と結びつきやすく上位節に対す手段や理由を表す後景を担う傾向があることを述べた．

3.6　-teni と用言の語彙的性質

表 10 に示したように，「〜したところ」という意味を表す副動詞接辞 -teni は形容詞，指定詞とも結合することが可能であるものの頻度は低く，基本的には動詞と結合する．松尾 (1997) が収集した -teni の用例 189 例のうち，形容詞と結合した例が 2 例，指定詞は 3 例であったと述べている．松尾 (1997: 90-94) ではまた，収集した用例をもとに -teni と結合しやすい動詞の特徴についても報告している．すでに述べたように，-teni は過去接辞が結合するか否かで，その節の主体が異なる．過去接辞が結合せず，主体が 3 人称になる場合には，po-「見る」のような「見聞」，nwunmwul=ul hulli-「涙を流す」のような「表情」，malha-「話す」のような「陳述」，kokay=lul kkuteki-「うなずく」などの「動作」，takao-「近づいてくる」の

ような「往来」を表す動詞が多かったという (松尾 1997: 90-92)．(3-54) に kokay=lul kkuteki-「うなずく」の例を挙げる．

(3-54) pasyukhilu salam=tul=un kokay=lul kkuteki-**teni**, ku=lul chenmak an=ulo
バシキール 人=PL=TOP 首=ACC 縦に振る-ADV.FCTC 3SG.M=ACC テント 中=ALL
annayha-n hwu, yungswungha-key taycephay-ss-supnita.
案内する-ADV.PST あと 丁重だ-ADV.MNN もてなす-PST-DECL.POL
바슈키르 사람들은 고개를 끄덕이더니, 그를 천막 안으로 안내한 후, 융숭하게 대접했습니다.
「バシキールの人たちはうなずくと，かれをテントの中に招き入れてから，心を込めてもてなしました.」(松尾 1997: 86) ［3 人称，動作］

また，-teni が過去接辞と結合し主体が 1 人称である場合も，結合する動詞は上で挙げた動詞のタイプと同様であるものの，特に mwut-「尋ねる」や malha-「話す」が大半を占めており，po-「見る」も多く現れたという (松尾 1997: 93)．(3-55) に mwut-「尋ねる」の例を引用しておく．

(3-55) … nayil moley-ccum nayly-e ka-llyekwu ha-nuntey hyengphyen=i
明日 明後日-あたり 下る-ADV AND-ADV.VOL する-ADV.AVS 都合=NOM
ette-nya-ko mwul-ess-**teni** winthesukhwul=i iss-nun
どうだ-INTRR.QUOT-COMP 尋ねる-PST-ADV.FCTC ウィンタースクール=NOM ある-ADN.NPST
teytaka hakkwacang=ul po-ko iss-ese hoyuy-ta mwe-ta
うえに 学科長=ACC 引き受ける-ADV PROG-ADV.SEQ 会議(=COP)-DECL 何(=COP)-DECL
hay-se kkomccaktalssakha-l swu=ka eps-ta-ko yayki=lul
言う-ADV.SEQ 体を動かす-ADN.IRR すべ=NOM ない-DECL.QUOT-COMP 話=ACC
hay-ss-ta.
する-PST-DECL
…내일 모레쯤 내려 갈려구 하는데 형편이 어떠냐고 물었더니 윈터스쿨이 있는데다가 학과장을 보고 있어서 회의다 뭐다 해서 꼼짝달싹할 수가 없다고 얘기를 했다.
「あしたかあさって行こうと思うが，都合はどうかと尋ねたが，ウィンタースクールがあるうえに学科主任を務めていて，会議だなんだといって，身動きがとれないという話をするのだった.」(松尾 1997: 93) ［1 人称，陳述］

このように，-teni は結合する頻度の高い動詞はあっても，その動詞の性質によって副詞節の意味が大きく左右されることはないようである．

3.7 -nikka と用言の語彙的性質

表 10 で示したように，-nikka は「〜から」という理由の意味を表す場合は品詞を問わず結合しうるが，「〜(する) と」という契機の意味を表す場合は基本的に動詞としか結合しない．さらに権 (1992) の調査によれば，-nikka と結合する動詞が無意志動詞であれば理由を表し，

意志動詞であれば 3 分の 2 ほどの割合で契機を表すという[17]．権 (1992) から -nikka が理由を表す例と契機を表す例をそれぞれ挙げておく．(3-56) の例では無意志動詞の molu-「知らない」が -nikka と結びつき副動詞接辞は理由を表している．一方，(3-57) では意志動詞である po-「見る」が -nikka と結びつき，これは契機の意味を表している．

(3-56) kamki=ey kelli-lci molu-**nikka** hwuk masy-e!
風邪=DAT かかる-INDQ 知らない-ADV.CSL ぐいと 飲む-IMPR.NPOL
감기에 걸릴지 모르니까 훅 마셔!
「風邪をひくかもしれないからぐいといきなさい！」(権 1992: 39) ［理由］

(3-57) ceki=se po-**nikka** ccwuk~ccwuk masi-teni acik=kkaci=to khep=ul
あそこ=LOC 見る-ADV.FCTC ぐい~RDP 飲む-ADV.FCTC まだ=まで=も コップ=ACC
tul-ko iss-ney.
持つ-ADV PROG-ADM
저기서 보니까 쭉쭉 마시더니 아직까지도 컵을 들고 있네.
「あっちの方で見てたらぐいぐいと飲んでたのに今だにコップを持ってるじゃないか.」(権 1992: 40) ［契機］

ちなみに権 (1992: 53) によれば，契機の意味になる場合の -nikka と結びつく動詞は (3-57) の例のように po-「見る」（補助動詞としての用法含む）や ha-「する，思う」が多く，その他は ka-「行く」, cinaka-「通り過ぎる」などの移動動詞や，poi-「見せる」, peski-「脱がせる」などの動作動詞がほとんどであったという．

先に契機の -nikka は基本的に動詞とのみ結びつくと述べたが，1 例のみ形容詞と結びつき契機を表している例が確認できた．その 1 例は，(3-58) に見るように -nikka が迂言的形式 -l manha-「～に適する，～に値する」と結合している例で，この迂言的形式は活用のパタンが形容詞と同様であるため，契機を表す場合にも形容詞と結合可能であると見なすことができる．ただ，-l manha- は典型的な形容詞ではないため，今のところはこの 1 例のみの例外と考えておく．

(3-58) sip nyen=i nem-tolok panghwangha-taka icey kyewu ppwuli nayli-l
10 年=NOM 越える-ADV.MNN さまよう-ADV.DISC 今 やっと 根 おろす-ADN.IRR
manha-**nikka** eps-ten pwumo=ka nathana-se
適する-ADV.FCTC いない-ADN.IMPF 両親=NOM 現れる-ADV.SEQ
teylyeka-keyss-ta-ko?
連れていく-PROB-DECL.QUOT-COMP
십 년이 넘도록 방황하다가 이제 겨우 뿌리내릴 만하니까 없던 부모가 나타나서 데려가겠다고?
「10 年以上さまよって，今やっと根をおろすころだと思ったら，いないと思ってた両親が現れて連れて行くだって？」[BREO0082] ［契機］

[17] 意志動詞に関しては脚注 2 を参照.

3.8　第 3 章のまとめ

この章では，まず表 10 において，各副動詞接辞が結合可能な用言の種類について整理した．全体的な傾向として，定形性が低い副詞節ほど形容詞，指定詞との結合に制限が見られた．本章ではこのような品詞の差異に留まらず，副動詞の意味と，副動詞接辞と結合する用言の語彙的性質について考察した．結果を簡単にまとめると表 20 のようになる．-key は動詞と結びつくか，形容詞と結びつくかによって意味が異なり，さらに否定形を許容するかどうかなど他の統語的特徴も異なってくる．同時の -myense$_1$ と中断の -taka は動詞のアスペクト的性質によって，副動詞の意味が左右される．基本的には動詞の限界性が関わっていると考えられる．継起の意味を表す -ko と -(a/e)se$_1$ は他動性と関連があり，-(a/e)se$_1$ に関しては動詞が結果，状態性を含むかも関連がある．-myense$_1$ と -taka に関しては，これらが表す意味自体が同時や中断といった上位節とある一定の時間をともにするものであるため，その意味を左右する用言もアスペクト的性質と関わりがあるのだと言える．-ko, -(a/e)se$_1$ に関しても同様に，事態を進行させる継起的意味は，単文と同じく複文においても他動性と関わりがあると考えられる．本章では特にこのことについて詳しく考察した．

表 20　副動詞接辞と関連のある用言タイプ

ラベル	副動詞接辞	関連のある用言タイプ
様態	-key$_1$	形容詞（状態性述語）
目的	-key$_2$	動詞（動作性述語）
同時	-myense$_1$	アスペクト的性質（限界性）
中断	-taka	アスペクト的性質（限界性）
継起	-ko	他動性 [高]
継起	-(a/e)se$_1$	結果状態，他動性 [低]

また，契機の -teni は主に動詞と結合し，結合しやすい動詞のタイプはあるものの，動詞の性質によって -teni 自体の意味に影響はないこと，契機の -nikka$_1$ は基本的に動詞と結びつくという制約があるものの理由の -nikka$_2$ には結びつく用言に制約はないことを述べた．

第 4 章

「副動詞 + 焦点助詞」の形態，統語，意味

第 3 章では副動詞接辞と結びつく用言の性質との関係を考察し，副詞節の定形性が低いほど用言の語彙的な制約が強く，副動詞の意味も用言の語彙的性質に左右されやすいということを明らかにした．第 3 章では単純に「用言 + 副動詞接辞」に注目したが，本章では副動詞接辞の後にさらに助詞が付く場合の例について考察していく．ここでいう助詞とは格助詞ではなく，格関係以外の種々の関係を表す助詞である．朝鮮語には主題や対照を表す =nun/=un「～は」, 添加を表す =to「～も」, 限定を表す =man「～だけ」などいくつかの統語的，意味的特徴を共有した一連の助詞が存在する．

副詞節が焦点化される例は他の言語にも見られる．(4-1) はカタルーニャ語の例で，‘Només’ (only) が sortint-nos 以下の節を焦点化している．(4-2) はクムク語の例で，ここでは ‘da’ (also) が日本語の「(て) も」のように，副動詞に後接することで譲歩を表している．

(4-1) ***Només*** *sortint-nos de la sintaxi entesa estrictamente podrem relacionar las*
only leaving from the syntax understood strictly we:can relate the
frases de (6) amb la negació.
sentences of (6) with the negation
“**Only** by leaving syntax in the strict sense can we relate the sentences in (6) to negation” (Haspelmath 1995: 15)

(4-2) *Hatta čyq-ğanly* ***da*** *gör-me-gen-men.*
even go.out-CONV also see-NEG-PAST-1SG
“I didn’t **even** see after he went out.” (Džanmavov 1967: 43，ただしグロスとラテン文字転写は Haspelmath 1995: 15 に従う)

朝鮮語は数多くの副動詞接辞を有しており，また以下で見るように焦点助詞の数も多い．この二つがどのように組み合わされ，「副動詞 + 焦点助詞」がどのような統語的，意味的特徴を示すかを明らかにすることは，他の言語の研究にも有益な例を提供できると考えられる．

以下，4.1 で副動詞接辞と結合可能な焦点助詞を示し，4.2 で焦点助詞の意味を簡単に整理

する．4.3 では副動詞接辞と焦点助詞が結合した場合の統語，意味的な特徴について記述する．4.4 では特に時間的意味を表す副動詞に焦点助詞が結合することで条件，逆条件を表す例に着目し，条件，逆条件の意味が表される理由などについて明らかにする．

4.1 副動詞と焦点助詞の結合可能性

主題や対照を表す =nun/=un「は」, 添加を表す =to「も」, 限定を表す =man「だけ」などは，韓国の研究では限定詞 (delimiter)，補助詞，あるいは特殊助詞などと呼ばれる．日本語にも類似した統語的，意味的特徴を持つ助詞があり，これらはしばしば副助詞やとりたて助詞と呼ばれる．本研究ではなるべく朝鮮語研究や日本語研究に依存した術語にならないように，これらの助詞を焦点助詞 (focus particle) と呼ぶことにする．ただし，先行研究を引用する場合は引用元の術語を使用することとする．

朝鮮語の研究において，なにを焦点助詞に含めるかは研究者の間でも意見が分かれる．これまでの先行研究で，どのような要素が特殊助詞や補助詞の名の下に扱われてきたかは，ホン・サマン (2002: 112-113)，任 (2006: 51) にまとまっている．任 (2006) で検討している先行研究では 8 から 23 個の焦点助詞を挙げている．

副動詞接辞と焦点助詞の結合可否について調査した研究として，蔡琬 (1977), 徐泰龍 (1979), 洪思滿 (1983) を取り上げる．蔡琬 (1977: 12) は副詞形の語尾と連結形の語尾を四つずつと，九つの焦点助詞の結合可否を報告している．副動詞接辞については本研究の対象と重なるところが少ないため詳細は割愛するが，焦点助詞 =nama「だけでも」, =kkaci「まで」, =cocha「さえ」, =mace「まで」との結合に制約があるとしている．徐泰龍 (1979) は 10 個の焦点助詞と，20 個の副動詞接辞の結合可否について調査している．表 21 がその結果である．本研究で対象としている副動詞接辞はボールドにして示してある．表 21 を見ると，-key, -(a/e)se, -myense, -taka は全ての焦点助詞と結合可能である一方，-(a/e)to は一つも結合可能な場合がない．-ciman と -myen は主題の =nun/=un のみと結合可能である．

これに対して洪思滿 (1983: 28-29) は副動詞に後接する焦点助詞として，次の 15 個の焦点助詞を挙げている：nun, to, man, ppwun, pwuthe, kkaci, pakkey, na, tunci, ntul, lato, nama, ya, mace, cocha. [1] 洪思滿 (1983: 28-29) の示している活用語尾と特殊助詞の結合可否は表 22 のとおりである．表 22 を見ると，本研究で対象としていない -a/e (ADV.SEQ), -ci (NMLZ)[2], -lyeko「〜しようと」, -le「〜しに」, -tolok「〜するように」が含まれているが，=ppwun「〜のみ」を除くと，ほとんどの焦点助詞が本研究で言うところの副動詞接辞に後接可能とされている．

徐泰龍 (1979)，洪思滿 (1983) では，副動詞接辞と焦点助詞の結合の可否をどのように導き出したのかを明言していない．さらに，副動詞が表す意味によっては，焦点助詞が結合できるかに差があるにも関わらず，両研究では副動詞が表す意味による結合可否に関しては考慮

[1] 洪思滿 (1983) では焦点助詞を特殊助詞と呼んでいる．洪思滿 (1983) はこの 15 個の焦点助詞に =mata「ごとに，(の) たびに，おきに」を加えた 16 個を焦点助詞と認め，研究対象としている．

[2] 洪思滿 (1983) は -ci を副詞形と見ているが，これは名詞形と考えたほうがよいであろう．

表 21　接続語尾と特殊助詞の結合可否 (徐泰龍 1979: 35)

	nun	to	ya	man	na	lato	nama	kkaci	cocha	mace
-le	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
-lyeko	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
-koca	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
-tolok	○	○	○	○	○	○	○	○	○?	○?
-key	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
-kose	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
-(a/e)se	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
-myense	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
-ni	×?	×	×	×?	×	×	×	×	×	×
-taka	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
-ca	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
-na	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
-(a/e)to	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
-ciman	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×
-toy	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
-myen	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×
-ketun	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
-(a/e)ya	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×
(羅列) -ko	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
-mye	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

表 22　活用語尾と特殊助詞の結合可否 (洪思滿 1983: 28-29)

活用語尾 (前) ＼ 特殊助詞 (後)			nun	to	man	ppwun	pwuthe	kkaci	pakkey	na	tunci	ntul	lato	nama	ya	mace	cocha
転成語尾	副詞形	-a/e	+	+	+	-	+	+	-	+	+	+	+	+	+	+	+
		-key	+	+	+	-	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
		-ci	+	+	+	-	+	+	+	+	-	+	+	+	+	+	+
		-ko	+	+	+	-	+	+	-	+	-	+	+	+	+	+	+
	羅列形	-myense	+	+	+	-	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
接続形語尾	説明形	-nuntey	+	+	+	-	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
	中断形	-taka	+	+	+	-	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
	意図形	-lyeko	+	+	+	-	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
	目的形	-le	+	+	+	-	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
	到及形	-tolok	+	+	+	-	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+

していない．唯一表 21 では羅列の意味の -ko を設けているが，継起を表す場合の -ko については言及がないといった具合である．そこで，本研究では第 1 章で提示した表 5 にしたがって副動詞の意味分類をしたうえで，副詞節の定形性が低いほど表の上，高いほど下に配置し，

焦点助詞との結合可否を調査した．焦点助詞は洪思滿 (1983) が挙げているリストに従った．その結果が表 23 である．焦点助詞については結合数が多いものほど右端に配置してある．焦点助詞の方から見て，どのような焦点助詞が名詞句以外の様々な要素と結合することができるかどうかを明らかにすることも重要であるが，本研究では詳しい考察は行わない．

表 23　基礎資料の調査による副動詞接辞と焦点助詞の結合可否

副動詞接辞＼焦点助詞	ntul	mace	ppwun	pakkey	tunci	nama	cocha	na	kkaci	man	pwuthe	lato	to	ya	(n)un
様態 -key$_1$	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
継起 -(a/e)se$_1$	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
同時 -myense$_1$	×	×	×	×	×	×	○	×	○	○	×	○	×	×	○
時間 -(a/e)se$_2$	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	○	○
目的 -key$_2$	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
継起 -ko	×	×	×	○	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○
契機 -myense$_2$	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	○	○
契機 -nikka$_1$	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○
中断 -taka	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○
契機 -teni	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
譲歩 -(a/e)to	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
逆接 -myense$_3$	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×
原因 -(a/e)se$_3$	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×
条件 -myen	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○
理由 -nikka$_2$	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○
逆接 -ciman	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
逆接 -nuntey/-ntey	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	×

この表 23 の結果は，先ほどの表 21，表 22 と比較すると，異なる点はあるものの，表 21 と近い結果となった．-key, -(a/e)se, -myense に接続する焦点助詞が比較的数が多く，-(a/e)to, -ciman, -myen は接続する例がないか，比較的数が少ない．ただ，-taka については，本研究の調査では，結合例が少ない結果となった．表 23 の結果について，いくつか指摘しておこう．まず，大体において表の下にある副動詞接辞ほど焦点助詞が結合する例が少ない．つまり，副詞節の定形性が低いほど焦点助詞が結合しやすく，定形性が高いほど焦点助詞が結合しにくいということである．1.6.2 でも述べたように，他動詞を述語とする主節が最も定形性の度合いが高く，逆に名詞化節が最も定形性の度合いが低いということになる．焦点助詞が付くのは，典型的には名詞句 (節) である．よって，定形性の低い副詞節ほど焦点助詞が結合しやすいという今回の結果は，定形性の観点からも説得力がある．

ただし，次に述べることとも関連するが，定形性のみが影響を与えているわけではなさそうである．契機の -teni と譲歩の -(a/e)to を見ると，これらは結合例が一つもない．-teni は回想を表すとされる接尾辞 -te- に理由などを表す副動詞接辞 -ni が付いて形成された副動詞接辞である．副動詞接辞 -ni は結合する焦点助詞がないと考えられるため，元々焦点助詞が付かない -ni を構成要素として持つために -teni にも焦点助詞が付かないと解釈することもできる．譲歩の -(a/e)to についても，副動詞接辞 -a/e に焦点助詞 =to「も」が付いて形成されており，元々焦点助詞が付いているために後にはもう焦点助詞が付かないのだと考えることがで

きる．ただ，条件の -myen は副動詞 -mye と主題，対照を表す =n が付いて形成されているにも関わらず，さらに =un が付くことが可能である．-myen の方は完全に文法化していると説明することもできるかもしれないが，結合の可否の理由を全て説明するのは難しい．最後に，この表 23 の結果はあくまで基礎資料に結合例があったかなかったかを示しただけであり，ここで○になっていない組み合わせも存在する可能性がある．例えば，後述するように，逆接 -nuntey/-ntey には特に話しことばで =nun/=un が後接する例がある．焦点助詞 =mace「～まで」も結合例がなかったが，節の定形性が低い副動詞であれば，結合する例はあると考えられる．ただ，基礎資料に出現しなかった組み合わせに関しては実際の例を検討しつつ考察できないため，本研究ではひとまず出現しなかった組み合わせに関しては深入りしないことにする．

4.2　朝鮮語の焦点助詞の意味

具体的な考察に入る前に，表 23 に示されている 15 個の焦点助詞の意味を簡単にまとめておこう．表 24 は野田 (2015) が行った日本語のとりたて表現の分類をもとに，黒島・崔 (2017) において提示した，朝鮮語の焦点助詞の分類である．本研究で対象とした焦点助詞はボールドにして示してある．「限定」は他のものは該当しないことを，「極端」「類似」は他のものも該当することを意味するが，前者は他のものに序列があり，後者は序列がないところに差がある (野田 2015).

表 24　朝鮮語の焦点助詞の分類

	焦点助詞		焦点助詞
限定	**=man**「だけ」 **=pakkey** (+ NEG)「しか (～ない)」 **=ppwun**「のみ」 **=(i)ya**「こそ」 =(i)yamallo「こそ」	反限定	**=(i)lato**「でも」 **=(i)na**「でも」 **=(i)tunci**「でも」 **=to**「も」
極端	**=kkaci**「まで」 **=mace**「まで」 **=cocha**「さえ」 **=to**「も」 =nun=khenyeng「はおろか」 数量 + =(i)na「(数量) も」	反極端	=ttawi「なんか」 =cengto(=nun)「ぐらい (は)」 **=(i)nama**「だけでも」
類似	**=to**「も」	反類似	**=nun/=un**「は」

この表 24 にないのは，=pwuthe「～から」のみである．この焦点助詞は順序を表し，表 24 の分類には当てはまらず，意味としてはやや特殊といえるかもしれない．

4.3 「副動詞 + 焦点助詞」の統語，意味的な特徴

ここから本研究で対象とする副動詞接辞に焦点助詞が後接する場合の個々の例について考察していく．焦点助詞が後接する場合，副動詞が焦点助詞なしで表しうる全ての意味が現れるわけではなく，焦点助詞が付くことによって，一部の意味に限定される．それぞれの副動詞接辞にどのような焦点助詞が後接するかということに加え，副動詞の意味がどのように限定されるのかという点に注目する．表 23 では，副動詞接辞をいくつかの意味に分けて提示しているが，以下では分類をせずに副動詞接辞別にまとめて考察することにする．以下，4.3.1 から 4.3.8 まで順に，-key, -myense, -taka, -(a/e)se, -ko, -nikka, -myen, -nuntey/-ntey が焦点助詞と結合した例を考察していく．

4.3.1 「-key + 焦点助詞」の統語，意味

表 23 に示したように，-key に後接しうる焦点助詞は 12 個と最も多かった．ただし，-key に焦点助詞が後接する場合，副動詞接辞は多様な用言と結合するわけではなく，その種類には偏りが見られる．これから副動詞接辞 -key と個々の焦点助詞との結合を考察する前に，全体的な傾向を述べておくと，-key に焦点助詞が付く場合，kuleh-「そうだ」, ileh-「こうだ」, etteh-「どうだ」などの指示形容詞が大半を占める．あるいは =nama, =kkaci, =pwuthe, =lato, =ya との結合においては nuc-key「遅く」, pam#nuc-key「夜遅く」, twi#nuc-key「遅れて」のように用言は nuc-「遅い」とその複合語である例が多く現れた．指示形容詞と nuc-「遅い」およびその複合語以外の用言については，=to と =nun/=un は他の焦点助詞に比べると多様な用言が現れたが，これらの焦点助詞が結合したときにも副動詞接辞が結合する用言には偏りや特徴的な点がある．表 23 に示したとおり，-key が動詞と結合した場合に焦点助詞が後接した例は現れなかったため，目的を表す -key$_2$ の例は全て×になっている．表 25 に基礎資料から得られた「-key + 焦点助詞」の出現頻度を示す．以下の考察は，出現頻度の少なかった組み合わせから行っていく．

表 25　「-key + 焦点助詞」の出現頻度

順位	-key + 焦点助詞	出現頻度
1	-key=to	1651
2	-key=kkaci	464
3	-key=na	375
4	-key=man	318
5	-key=nun	162
6	-kye=nama	109
6	-key=lato	109
8	-key=ya	56
9	-key=pakkey	21
10	-key=tunci	8
11	-key=cocha	2
12	-key=pwhthe	1

■ =pwuthe「から」

-key に =pwuthe が後接していた例は，基礎資料には (4-3) の 1 例しか現れなかった．nuc-key「遅く」は時間的意味に解釈でき，=pwuthe はある時間からの起点を表す．

(4-3)　... pom nuc-**key**=**pwuthe** cemcha=lo　cith-eci-ki　sicakhaye　chokaul=ey
春　遅い-ADV.MNN=から だんだん=INST 濃い-INTRZ-NMLZ 始まる:ADV.SEQ 初秋=DAT
cepetul-myen　ku　pwulk-um=i　celceng=ey tatalu-nun　ttaymwun=i-ta.
さしかかる-ADV.COND その 赤い-NMLZ=NOM 絶頂=DAT　至る-ADN.NPST ため=COP-DECL
…봄 늦게부터 점차로 짙어지기 시작하여 초가을에 접어들면 그 붉음이 절정에 다다르는 때문이다.
「…（雑草が）晩春からしだいに色濃くなりはじめ，初秋にさしかかると，その赤さが絶頂に達するためだ．」[BREO0300]

■ =cocha「さえ」

-key に =cocha が後接する例は，基礎資料には huymiha-「かすかだ」, kwungsayksulep-「貧窮している」の 2 例しか現れなかった．どちらの例も -key が nukki-「感じる」の補語として機能する例である．

(4-4)　wil=un caki salm=ul　chaykim cye　po-lye-nun　chwungtong ttawi=nun
PN=TOP 自分 人生=ACC 責任　負う:ADV CNT-ADV.VOL-ADN.NPST 衝動　など=TOP
acwu　huymiha-**key**=**cocha**　nukky-e　po-n　cek=i　han　pen=to
まったく かすかだ-ADV.MNN=さえ 感じる-ADV CNT-ADN.PST とき=NOM 一つの 回=も
eps-ess-ta.
ない-PST-DECL

윌은 자기 삶을 책임져 보려는 충동 따위는 아주 희미하게조차 느껴본 적이 한 번도 없었다.
「ウィルは自分の人生の責任を取ろうなどという衝動は，かすかでさえも感じたことは一度もなかった.」[5BE02009]

■ =tunci「でも」

基礎資料の調査の結果，副動詞接辞 -key に焦点助詞 =tunci が後接する場合，副動詞接辞と結合する用言は etteh-「どうだ」のみであった． =tunci「～でも」は反限定の意味を表し，他の選択肢があることを示すが，“etteh-key=tunci” の場合は (4-5) のように「どうしても，どのような手段を使ってでも」という意味を表す.

(4-5) kulayse kupwun=un etteh-**key**=**tunci** cey=ka tangha-nun
だから その方=TOP どうだ-ADV.MNN=でも 1SG=NOM やられる-ADN.NPST
ccok=ila-ko sayngkaktoy-ci anh-tolok, cey=ka paysinha-nun ccok=i
方=COP:DECL.QUOT-COMP 思われる-NMLZ NEG-ADV.MNN 1SG=NOM 裏切る-ADN.NPST 方=NOM
toy-tolok mantul-lyeko mwucin ay=lul ss-ess-ten ke=yey=yo.
なる-ADV.MNN CAUS-ADV.VOL 無尽 努力=ACC つかう-PST-ADN.IMPF こと=COP:DECL=POL
그래서 그분은 어떻게든지 제가 당하는 쪽이라고 생각되지 않도록, 제가 배신하는 쪽이 되도록 만들려고 무진 애를 썼던 거예요.
「だからその方はどうしてもわたしがやられる方だと思われないように，わたしが裏切る方になるようにしようと限りなく努力したんです.」[CE000028]

■ =pakkey「しか」

=pakkey「しか」が -key に後接する例では，-key と結合していたのは 1 例 (4-7) を除いて全て (4-6) のような指示形容詞の例であった．意味的には =pakkey が他の名詞句等に付くときと同様に否定と呼応し限定の意味を表す.

(4-6) emeni=n kuleh-**key**=**pakkey** mal=ul moshay=yo?
お母さん=TOP そうだ-ADV.MNN=しか 言葉=ACC できない:INTRR=POL
어머닌 그렇게밖에 말을 못해요?
「お母さんはそんな風にしか言えないんですか？」[2CE00011]

(4-7) ileh-key makyenha-**key**=**pakkey** malha-l swu eps-nun kes=un,
こうだ-ADV.MNN 漠然としている-ADV.MNN=しか 言う-ADN.IRR すべ ない-ADN.NPST こと=TOP
kukes=i ihaytoy-eya ha-l sahang=i anila swuyongtoy-eya ha-l
それ=NOM 理解される-OBLG-ADN.IRR 事柄=NOM NCOP:ADV 受容される-OBLG-ADN.IRR
sahang=i-ki ttaymwun=i-ta.
事柄=COP-NMLZ ため=COP-DECL
이렇게 막연하게밖에 말할 수 없는 것은, 그것이 이해되어야 할 사항이 아니라 수용되어야 할 사항이기 때문이다.
「こうして漠然としか言えないのは，それが理解されるべき事柄ではなく，受け入れられるべき事柄であるためだ.」[BREO0283]

■ =ya「こそ」

-key に =ya が後接する場合も，-key と結合する用言は 1 例 (4-10) を除いて指示形容詞，あるいは nuc-「遅い」とその複合語であった．(4-8) は twinuc-key「遅くに」に =ya が付いた例である．この場合，副詞 kucey=ya「その時になってはじめて」の =ya のように，時間を表す twinuc-key に =ya が付くことで，「(時間になって) はじめて」という意味を表している．(4-9) は =ya が基本的意味「当然〜だ」を表している例である．

(4-8) kulena kuke=n hwansang=i-ess-um=ul wenkwu=nun twinuc-**key**=**ya**
しかし それ=TOP 幻想=COP-PST-NMLZ=ACC PN=TOP 手遅れだ-ADV.MNN=こそ
kkaytal-ass-ta.
悟る-PST-DECL
그러나 그건 환상이었음을 원구는 뒤늦게야 깨달았다.
「しかしそれは幻想であったことを，ウォングは時遅くしてはじめて悟った．」
[3BE00004]

(4-9) kuleh-**key**=**ya** ha-l swu eps-ci.
そうだ-ADV.MNN=こそ する-ADN.IRR すべ ない-ASS
그렇게야 할 수 없지.
「そのいう風には（当然）できないよ．」[5BE02008]

(4-10) は =ya が反語的に用いられている例であり，ホン・サマン (2002: 308) では (4-10) の類例と考えられる (4-11) のような例を挙げている．

(4-10) cikum=kkaci=twu an toy-n thongil=i eti halwu#achim=ey
今=まで=も NEG なる-ADN.PST 統一=NOM いったい 一日#朝=DAT
swip-**key**=**ya** toy-keyss-e=yo?
簡単だ-ADV.MNN=こそ なる-PROB-INTRR=POL
지금까지두 안 된 통일이 어디 하루아침에 쉽게야 되겠어요?
「今までもできていない統一がいったい一朝一夕で簡単にできるでしょうか？」
[CJ000268]

(4-11) kule-l li=**ya** iss-keyss-nunka?
そうだ-ADN.IRR わけ=こそ ある-PROB-INTRR
그럴 리야 있겠는가?
「そんなわけがあるだろうか？」(ホン・サマン 2002: 308)

■ =lato「でも」

=lato は =na, =tunci と同様に反限定の意味を表すが，-key に後接する場合は最低限の意味を表す．これまでに見てきた -key と焦点助詞の結合例と同様に，-key と結合する用言は指示形容詞あるいは nuc-「遅い」およびその複合語が大半であった．(4-12) の場合，遅いということは話者にとっては望ましくないことではあるが，それでも最低限，遅くなってでも連絡してくれてよかったということを表している．(4-13) でもこれと同様に「そのように」するこ

とは最低限の方法であるということが表されている．-key が結合する用言に関して，その他の例としては -key=lato が表す最低限の意味と合うような用言がいくつか現れ，例えば (4-14) では kantanha-「簡単だ」と結びついた例がそれであり，やはり最低限の意味を表している．

(4-12) komap-ta, nuc-**key**=**lato** cenhwahay cw-ese...
ありがたい-DECL 遅い-ADV.MNN=でも 電話する:ADV BEN-ADV.SEQ
고맙다, 늦게라도 전화해줘서...
「ありがとう，遅くても電話してくれて…」[굿바이 솔로 10]

(4-13) suthuleysu ssahi-mu=n kuleh-**key**=**lato** phwul-eya-ci.
ストレス たまる-ADV.COND=TOP そうだ-ADV.MNN=でも 解く-OBLG-ASS
스트레스 쌓이믄 그렇게라도 풀어야지.
「ストレスがたまったら，そんな風にしてでも解消しないと．」[2CE00010]

(4-14) kantanha-**key**=**lato** mek-ko o-l kel kulay-ss-na po-ta.
簡単だ-ADV.MNN=でも 食べる-ADV.SEQ 来る-REG-PST-SMBL-DECL
간단하게라도 먹고 올 걸 그랬나 보다.
「簡単にでも食べて来ればよかったみたいだ．」[BREO0287]

■ =nama「でも」

=nama が -key に後接する場合，これまでの例とは異なり -key が指示形容詞と結合する例があまり現れず，=nama が表す反極端の意味に合うような用言と結びついた例が多く見られた．例えば makyenha-「漠然としている」, elyemphwusha-「ぼんやりとしている」, huymiha-「かすかだ」等の曖昧さを表す形容詞，cak-「小さい」, cokumah-「小さい」等の小ささを表す形容詞や engsengha-「まばらだ，いいかげんだ」, eselphu-「ぶざまだ」等の否定的な評価を表す形容詞である．(4-15) に -key が huymiha-「かすかだ」と結びついた例を挙げておく．また，その他の例と同様に，やはり -key が nuc-「遅い」およびその複合語を取る例も (4-16) に挙げる．どちらの例に関しても，=nama は最低限の意味を表していると解釈できる．

(4-15) etwum sok=eyse=to huymiha-**key**=**nama** namca=uy yunkwak=i ttolyesi
暗闇 中=LOC=も かすかだ-ADV.MNN=でも 男=GEN 輪郭=NOM はっきりと
poy-ess-ta.
見える-PST-DECL
어둠 속에서도 희미하게나마 남자의 윤곽이 또렷이 보였다.
「暗闇の中でもかすかだが男の輪郭がはっきりと見えた．」[BREO0329]

(4-16) ama=to ku=nun twinuc-**key**=**nama** na=uy concay=lul alachali-n
たぶん=も 3SG.M=TOP 遅い-ADV.MNN=でも 1SG=GEN 存在=ACC 気づく-ADN.PST
moyang=i-ess-ta.
様子=COP-PST-DECL
아마도 그는 뒤늦게나마 나의 존재를 알아차린 모양이었다.
「おそらく彼は遅くなったもののわたしの存在に気づいた様子だった．」[7BE03005]

■ =nun/=un「は」

-key に =nun が付くときにもやはり，-key が結びつく用言としては指示形容詞の kuleh-「そうだ」, ileh-「こうだ」が比較的多く現れた．-key に =nun が付くときの特徴としては，まず =nun が否定の焦点を表す場合がある (4-17)．他には -key が manh-「多い」, ccalp-「短い」, cak-「小さい」, khu-「大きい」などと結びつき，ある量や時間などの最大，最小を示す場合がある．このような例が観察されたのは，「多くは〜だが，少なくは…」のような =nun が表す対照の意味に由来すると考えられる．-key=nun が対照的に用いられている例を (4-18) に，対照されるものは示されていないが，「大きくは」というように最大のものだけに言及している例を (4-19) に示す．

(4-17) kanchekci=ka sehay=ey yele kwuntey=i-l they-ntey ce=to
干拓地=NOM 黄海=DAT いくつもの 箇所=COP-SPEC-ADV.AVS 1SG=も
cenghwakha-**key**=**nun** cal moll-a=yo.
正確だ-ADV.MNN=TOP よく 知らない-DECL.NPST=POL
간척지가 서해에 여러 군데일 텐데 저도 정확하게는 잘 몰라요.
「干拓地が黄海に何箇所もあるはずなんですが，わたしも正確にはよく知らないです．」[2BEXXX10]

(4-18) … kule-n kwun#sikkwu=tul=un ccalp-**key**=**nun** sene tal=eyse
そうだ-ADN.NPST 軍#家族=PL=TOP 短い-ADV.MNN=TOP 三四の 月=ABL
kil-**key**=**nun** il nyen namcis cinay-taka inkun=uy pangcik#kongcang=i-mye
長い-ADV.MNN=TOP 1 年 余り 過ごす-ADV.DISC 近隣=GEN 紡織#工場=COP-ADV.SIM
hokun sinpal#kongcang=ulo chwiciktoy-e ka-konun ha-yess-ta.
あるいは 靴#工場=ALL 就職する-ADV AND-HAB-PST-DECL
… 그런 군식구들은 짧게는 서너 달에서 길게는 일년 남짓 지내다가 인근의 방직공장이며 혹은 신발공장으로 취직되어 가고는 하였다.
「そんな軍の仲間たちは短いと 3, 4 ヶ月で，長いと 1 年あまり過ごして，近隣の紡織工場や靴工場に就職していった．」[7BE03005]

(4-19) ku yeltungkam=kwa posangsimli=ka khu-**key**=**nun** twu kaci yuhyeng=uy
その 劣等感=COM 報償心理=NOM 大きい-ADV.MNN=TOP 二つの 種類 類型=GEN
inkan=ul nah-cyo.
人間=ACC 産む-ASS:POL
그 열등감과 보상심리가 크게는 두 가지 유형의 인간을 낳죠.
「その劣等感と報償心理が大きくは 2 種類の人間を産むのです．」[2BEXXX20]

■ =man「だけ」

限定を表す =man が -key に後接する場合は，-key と結びつく用言について，これまでに考察してきた焦点助詞とは異なる傾向をみせる．指示形容詞の kuleh-「そうだ」はやはり多く現れたものの，その他にも様々な形容詞が現れていた．さらに，多くの例で -key が補語として機能している．補語を取る動詞としては，nukki-「感じる」, yeki-「思う」, poi-「見える」,

sayngkakha-「考える」が主なものである．(4-20) に nukki-「感じる」の補語となっている例，他の例と同様に副詞句となっている例については (4-21) に挙げる．どちらの場合にしても，=man は形容詞の程度について，強意の意味を表している．

(4-20) thepek~thepek kel-e o-nun kil=i kunye=eykey=nun mel-**key=man**
とぼとぼ~RDP 歩く-ADV VEN-ADN.NPST 道=NOM 3SG.F=DAT=TOP 遠い-ADV.MNN=だけ
nukky-ecy-ess-ta.
感じる-INTRZ-PST-DECL
터벅터벅 걸어오는 길이 그녀에게는 멀게만 느껴졌다.
「とぼとぼと歩いてくる道のりが，彼女にはとても遠く感じられた．」[BREO0303]

(4-21) haciman nay=ka sin=i ani-n isang=ey etteh-key motun kes=ul
でも 1SG=NOM 神=NOM NCOP-ADN.NPST 以上=DAT どうだ-ADV.MNN 全ての もの=ACC
wanpyekha-**key=man** kyengyengha-l swu iss-keyss-e?
完璧だ-ADV.MNN=だけ 経営する-ADN.IRR すべ ある-PROB-INTRR.NPOL
하지만 내가 신이 아닌 이상에 어떻게 모든 것을 완벽하게만 경영할 수 있겠어?
「でもわたしが神ではない以上，どうしたら全てのことを完璧に経営できると思う？」[CE000080]

■ =na「でも」

副動詞接辞 -key に焦点助詞 =na が後接した用例，全 375 例のうち 323 例 (約 86%) が (4-22) の例に見るように amwuleh-key=na で現れた．いくつかの辞書においても amwuleh-「どうこうだ」の項に amwuleh-key=na の意味が説明されている．例えば油谷他編 (1993: 1197)『朝鮮語辞典』では「いいかげんに，適当に」という語義が与えられている．=na の例でもやはり -key が指示形容詞と結合した例は多く現れ (約 10%)，(4-23) のように =na が数量を表す名詞句に付くときと同様に，数量が予想以上に大きいことを表す．その他，(4-24) のように -key が nuc-「遅い」と結びついている場合は =na の反限定の意味がよく表されており，「遅くにでも」という意味を表す．

(4-22) acwumma hana=ka panchan=tul=ul tul-ko naw-a
おばさん 一人=NOM おかず=PL=ACC 持つ-ADV.SEQ 出てくる-ADV.SEQ
amwuleh-**key=na** noh-ko tolaka peli-nta.
どうこうだ-ADV.MNN=でも 置く-ADV.SEQ 帰る:ADV CMPL-DECL.NPST
아줌마 하나가 반찬들을 들고 나와 아무렇게나 놓고 돌아가 버린다.
「おばさん一人がおかずを持ち出て来て，適当に置いて戻ってしまう．」[CJ000252]

(4-23) kuntey ileh-**key=na** manhi philyohay=yo?
でも こうだ-ADV.MNN=でも たくさん 必要だ:INTRR=POL
근데 이렇게나 많이 필요해요?
「でもこんなにもたくさん必要ですか？」[CJ000255]

(4-24) pyengwen=ey=to tull-e pw-aya ha-nikka amwulayto nuc-**key**=**na**
病院=DAT=も 寄る-ADV CNT-OBLG-ADV.CSL やはり 遅く-ADV.MNN=でも
tuleo-l kes kath-kwun=yo.
入ってくる-SMBL.IRR-ADM=POL
병원에도 들러봐야 하니까 아무래도 늦게나 들어올 것 같군요.
「病院にもちょっと寄らないといけないから，やっぱり遅くに帰ってくるでしょうねえ.」[2CE00012]

■ =kkaci「まで」

程度が極端なことを表す =kkaci もやはりこれまでに見てきた焦点助詞と同様に，-key が指示形容詞や nuc-「遅い」およびその複合語を取った例が数多く現れた．(4-25) に指示形容詞の例を挙げておく．(4-26) の場合，=kkaci は極端の意味はなく，単に時間的な終点を表している．

(4-25) kulena sangthay=ka kuleh-**key**=**kkaci** nappu-n cwul=un moll-ass-ta.
しかし 状態=NOM そうだ-ADV.MNN=まで 悪い-ADN.NPST こと=TOP 知らない-PST-DECL
그러나 상태가 그렇게까지 나쁜 줄은 몰랐다.
「しかし，状態がそんなにまで悪いとは知らなかった.」[BREO0308]

(4-26) kuntey nemwu nuc-**key**=**kkaci** yensupha-nun ke any-a?
ところで とても 遅く-ADV.MNN=まで 練習する-ADN.NPST こと NCOP-INTRR.NPOL
근데 너무 늦게까지 연습하는거 아냐?
「ところであまりにも遅くまで練習しているんじゃないか？」[3BI00010]

(4-27) では，-key が指示形容詞や nuc-「遅い」およびその複合語と結びつかず，(4-20) で見たように -key(=kkaci) が nukki-「感じる」の補語として現れている． (4-27) は (4-25) と同様に話者が cikuscikusha-key「うんざりと」感じているという事態が，ある基準を極端に越えているということを表している．

(4-27) kulayse icey=nun keuy cikuscikusha-**key**=**kkaci** nukky-eci-nun
だから 今=TOP ほとんど うんざりだ-ADV.MNN=まで 感じる-INTRZ-ADN.NPST
kes=i-ta.
こと=COP-DECL
그래서 이제는 거의 지긋지긋하게까지 느껴지는 것이다.
「それで，今ではほとんどうんざりするほどにまで感じるのだ.」[BREO0307]

■ =to「も」

-key に =to が後接する場合には大きく二つの用法がある．一つは副詞 manhi「多く」に =to が後接し程度が甚だしいことを表す場合に似て，程度の甚だしさを表す用法である．もう一つはアン・ジョンア (2010) のいう様態副詞の用法で，用例ではこの様態副詞の用法が大半を占める．様態副詞の用法では，(i) 形容詞 + -key=to は文頭にもっともよく現れ，(ii) -key=to は心理，感情，属性などを表す形容詞を取り，(iii) 形容詞 + -key=to は命題に対する話者の

態度を表して，(iv) 通常平叙文で用いられる (アン・ジョンア 2010)．アン・ジョンア (2010: 235) でも -key=to と結合する形容詞の絶対頻度を提示しているが，本研究の基礎資料の調査から得た結果とほぼ同じ傾向を示している．基礎資料から得られた絶対頻度を，上から 10 番目まで表 26 に挙げておく．

表 26　基礎資料に現れた -key=to と結合する形容詞

順位	形容詞	頻度
1	isangha-「変だ，奇妙だ」	282
2	nollap-「驚くべきことだ」	152
3	kongkyolop-「意外だ」	87
4	engttwungha-「突飛だ」	72
5	pwulhayngha-「不幸だ」	41
6	myoha-「妙だ」	36
7	sinkiha-「不思議だ」	26
7	eieps-「あきれる」	26
9	tahayngsulep-「幸いだ」	23
9	yukamsulep-「残念だ」	23

程度の甚だしさを表す例を (4-28), (4-29) に，様態副詞の例を (4-30) に挙げる．

(4-28)　halwu=nun way ileh-**key=to**　ki-n　kes=i-lkka.
一日=TOP　なぜ こうだ-ADV.MNN=も 長い-ADN.NPST こと=COP-UNCT
하루는 왜 이렇게도 긴 것일까.
「一日はなぜこんなにも長いのだろうか.」[5BE02010]

(4-29)　pilok ttong#kwutengi=eyse chyetapo-nun　kes=ila　ha-lcilato
たとえ 糞#穴=LOC　見上げる-ADN.NPST こと=COP:DECL.QUOT する-ADV.CONC
pam#hanul=uy pyel=un cham yeyppu-**key=to**　panccaki-ko iss-ess-ta.
夜#空=GEN　星=TOP　本当に 美しい-ADV.MNN=も きらめく-ADV PROG-PST-DECL
비록 똥구덩이에서 쳐다보는 것이라 할지라도 밤하늘의 별은 참 예쁘게도 반짝이고 있었다.
「たとえ肥だめから見上げているのだとしても，夜空の星は本当に美しくきらめいていた.」[CE000078]

(4-30)　isangha-**key=to**　choykun tul-e　akmong=ul kkwu-nun　ttay=ka
おかしい-ADV.MNN=も 最近　入る-ADV.SEQ 悪夢=ACC　夢見る-ADN.NPST とき=NOM
manh-ass-ta.
多い-PST-DECL
이상하게도 최근 들어 악몽을 꾸는 때가 많았다.
「おかしなことに，最近になって悪夢を見ることが多かった.」[4BE01002]

■ 「-key + 焦点助詞」のまとめ

副動詞接辞 -key と焦点助詞の結合は，結合可能な組み合わせは多いものの，-key が結合する用言には偏りがあることが明らかになった．「-key + 焦点助詞」と結合することが多かった用言を表 27 にまとめる．「-key + 焦点助詞」の場合，ileh-「こうだ」等の指示形容詞と，nuc-「遅い」およびその複合語と結びつくことが多かったため，この二つを中心にまとめた．表 27 では，両者にまたがっている焦点助詞もある．「nuc- とその複合語」において，焦点助詞 =nama と =na を括弧に入れたのは，二つはこのタイプの用言との結びつきが最も多かったわけではないためである．

表 27　「-key + 焦点助詞」と結合することの多い用言

用言	焦点助詞
指示形容詞	=tunci, =pakkey, =ya, =lato, =nun/=un, =man, =na, =kkaci
nuc- とその複合語	=ya, =lato, =kkaci, =puthe, (=nama), (=na)
その他	=nama, =nun/=un, =man, =na, =to

4.3.2　「-myense + 焦点助詞」の統語，意味

表 23 に示したように，-myense に後接しうる焦点助詞は =cocha, =kkaci, =pwuthe, =man, =lato, =ya, =to, =nun/=un の全部で 8 個である．ただし，-myense が表す意味ごとに焦点助詞の種類は異なり，同時の -myense$_1$ は =cocha, =kkaci, =man, =lato, =nun/=un が，契機の -myense$_2$ は =pwuthe, =ya, =nun/=un が，逆接の -myense$_3$ は =to がそれぞれ後接可能である．[3]ただし，8 個の焦点助詞が後接した例が等しく現れるわけではなく，その頻度には大きな差がある．表 28 に示したように，-myense=to が 3408 例であり，2 番目に多かった -myense=pwuthe の 10 倍以上の例が現れている．3 位以下はそれほど出現頻度が高くなく，特に 5 位の -myense=lato 以下は 1 桁しか用例が得られなかった．

以下では，表 28 で示した，頻度が少なかった例から順に考察していく．

[3] 油谷他編 (1993: 697)『朝鮮語辞典』では日本語訳と例文のみであるが -myense=nun, -myense=to, -myense=pwuthe, -myense=pwuthe=nun を立項している．

表 28　「-myense+ 焦点助詞」の出現頻度

順位	-myense+ 焦点助詞	出現頻度
1	-myense=to	3408
2	-myense=pwuthe	233
3	-myense=kkaci	89
4	-myense=nun	45
5	-myense=lato	9
6	-myense=ya	8
7	-myense=man	2
8	-myense=cocha	1

■ =cocha「さえ」

副動詞接辞 -myense に =cocha「さえ」が後接していたのは，(4-31) の 1 例のみであった．この例では，-myense は時間的に同時であることを表していると考えられる．

(4-31)　kunye=nun kosok#pesu=lul tha-**myense=cocha** ku=eykey aktam=ul hay-ss-ta.
3SG.F=TOP　高速#バス=ACC　乗る-ADV.SIM=さえ　3SG.M=DAT 悪態=ACC　言う-PST-DECL
그녀는 고속버스를 타면서조차 그에게 악담을 했다.
「彼女は高速バスに乗りながらでさえ彼に悪態をついた.」[BREO0090]

■ =man「だけ」

副動詞接辞 -myense に =man「だけ」が後接していた例は 2 例のみであった．どちらの例も上位節の述語は sal-「生きる」であり，-myense は上位節の事態に対して，同時的な関係となっている．(4-32) に例を挙げる．

(4-32)　na=n　ileh-key　cakkwu chinha-n　salam=tul=hako heyeci-**myense=man**
1SG=TOP こうだ-ADV.MNN 何度も　親しい-ADN.NPST 人=PL=COM　別れる-ADV.SIM-だけ
sa-nun　kes=i-lkka?
生きる-ADN.NPST こと=COP-UNCT
난 이렇게 자꾸 친한 사람들하고 헤어지면서만 사는 것일까?
「わたしはこうして何度も親しい人たちと別れてばかりいながら生きるのだろうか？」[2CG00006]

■ =ya「こそ」

-myense に =ya が後接する例は全部で 8 例しか現れなかった．この例では，-key に =ya が後接した例においても見られたように，=ya は「〜してはじめて」という意味を表し，-myense は「〜てから」という契機の意味を表しているようである．8 例のうち 7 例は，(4-33) のように -myense が時間的な限界を持つ限界動詞と結びついている例であった．

(4-33) pansacek=ulo nwun=ul kam-**umyense**=**ya** kukes=i chang=ey pichi-n cey
反射的=INST 目=ACC つむる-ADV.SIM-こそ それ=NOM 窓=DAT 映る-ADN.PST 1SG:GEN
mosup=i-m=ul kkaytat-nunta.
姿=COP-NMLZ=ACC 気づく-DECL.NPST
반사적으로 눈을 감으면서야 그것이 창에 비친 제 모습임을 깨닫는다.
「反射的に目をつむってはじめて，それが窓に映った自分の姿だということに気づく．」[3BES0002]

■ =lato「でも」

-myense に =lato が後接した例は，全部で 9 例のみであった．=lato は副動詞接辞 -key に付いたときのように最低限の意味を表すのではなく，副詞節の事態が通常想定されるよりも極端なものでありながらも，上位節の事態が起こるということを表す．(4-34) では「危険を冒す」ということが極端な手段であることをとりたてて述べている．

(4-34) kuleh-key wihem=ul mwulupss-e ka-**myense**=**lato** kim-ssi=lul manna-ci
そうだ-ADV.MNN 危険=ACC 顧みない-ADV AND-ADV.SIM=でも PN-氏=ACC 会う-NMLZ
anh-ko=nun payki-l swu eps-nun simceng=i-ess-ta.
NEG-ADV.SEQ=TOP 耐える-ADN.IRR すべ ない-ADN.NPST 心情=COP-PST-DECL
그렇게 위험을 무릅써 가면서라도 김씨를 만나지 않고는 배길 수 없는 심정이었다.
「そうして危険を冒してでもキムさんに会わなければ耐えられないという心情だった．」[BREO0300]

■ =nun/=un「は」

-myense に =nun が後接した -myense=nun は大きく分けて次の三つの用法がある．(i) =nun が対比的に働き，副詞節が否定の焦点になっている例である (4-35)．(ii)「～ときは（いつも）」のように，習慣的な出来事を表す場合がある．例 (4-36) は，「腰が曲がり始めたと愚痴を言ってからいくらも経たないうちに，母は急に牛乳を飲み始めた」という文の後に続く．ここでは -myense が同時的な時間関係を表していると考えられる．(iii) -myense が契機の意味を表す例である．副詞節で表される事態から，上位節で表される事態へと変化し，新たな事態が生じたことを表すのに，=nun が対比的に用いられている．(4-37) では，中学校 3 年生になる前と，なってからが対比的に提示されている．この (iii) の用法が最も多く，-myense=nun 45 例中，26 例であった．

(4-35) kuleni tasi=n yeysnal=chelem kosayngha-**myense**=**nun** mos
だから 再び=TOP 昔=EQU 苦労する-ADV.SIM=TOP IMPS
sa-l ke kath-ay.
生きる-SMBL.IRR-DECL.NPST.NPOL
그러니 다신 옛날처럼 고생하면서는 못 살 거 같애.
「だから，二度と昔みたいに苦労しながらは生きられないと思う．」[BREO0329]

(4-36) wuyu=lul masi-**myense**=**nun**, ppye=ey=nun wuyu=ka kuman=ila-nun
牛乳=ACC 飲む-ADV.SIM=TOP 骨=DAT=TOP 牛乳=NOM 一番=COP:DECL.QUOT-ADN.NPST
mal=ul cwumwun=chelem noy-ess-ta.
言葉=ACC 呪文=EQU 繰り返す-PST-DECL
우유를 마시면서는, 뼈에는 우유가 그만이라는 말을 주문처럼 뇌었다.
「牛乳を飲むときは，骨には牛乳が一番だという言葉を呪文のように繰り返した.」
[BREO0295]

(4-37) sengcek=to cemcem ttelecy-e cwunghakkyo 3haknyen=i toy-**myense**=**nun**
成績=も だんだん 落ちる-ADV.SEQ 中学校 3 年生=NOM なる-ADV.SIM=TOP
pan=eyse cenghwakhi cwungkan=i-ess-ta.
クラス=LOC 正確に 中間=COP-PST-DECL
성적도 점점 떨어져 중학교 3 학년이 되면서는 반에서 정확히 중간이었다.
「成績もだんだん落ち，中学 3 年生になってからはクラスでちょうど真ん中だった.」
[BREO0294]

■ =kkaci「まで」

-myense に =kkaci が後接する場合，-myense と結合する用言は動詞で，そのほとんどが限界動詞であった．さらに，-myense と結合する用言として特徴的であったのは，用言が -a/e ka-「～ていく」というアスペクト的な補助動詞の形を取っていたことである．基礎資料中の -myense=kkaci 89 例のうち，26 例，およそ 30% が -a/e ka- を含む例であった．(4-38) を見ると，nemki-「越える」は限界動詞であるが，-a/e ka- によって副詞節の事態が一定の時間的な幅を持ったものとして表されているようである.[4]-a/e ka- を含んだ例を含めて，-myense=kkaci の例では =kkaci の極端の意味がよく現れており，ある手段や事態が極端であることを意味している．例えば (4-39) では「彼女を騙す」という行為が話者にとって度を超した極端な手段であることを表している．その他，「～してまで」という意味に呼応するように，上位節の述語には -ko siph- 「～したい」を含む例が 12 例現れた (4-40).

(4-38) ecey=to na=wa ku=wa yeycengtoy-n sikan=ul nemky-e ka-**myense**=**kkaci**
昨日=も 1SG=COM 3SG.M=COM 予定される-ADN.PST 時間=ACC 越える-ADV AND-ADV.SIM=まで
kyeklyelha-n tholon=ul nanwu-ess-ta.
激しい-ADN.NPST 討論=ACC 交わす-PST-DECL
어제도 나와 그와 예정된 시간을 넘겨가면서까지 격렬한 토론을 나누었다.
「昨日もわたしと彼とで予定された時間を超えながらも激しい討論を交わした.」
[CE000019]

[4] 油谷他編 (1993: 6)『朝鮮語辞典』の -a/e ka- の項では，「動作が反復継続することを表す」用法のとき -a/e ka-myense の形を取ることが多いと記述している.

(4-39) nay=ka kunye=lul soki-**myense**=**kkaci** sangyekum=uy ilpwu=lul pwumonim=kkey
1SG=NOM 3SG.F=ACC 騙す-ADV.SIM=まで ボーナス=GEN 一部=ACC 両親=DAT.HON
tuli-n tey=ey=nun na nalum=taylo=uy iyu=ka iss-ess-ta.
さしあげる-ADN.PST こと=DAT=TOP 1SG 次第=なり=GEN 理由=NOM ある-PST-DECL
내가 그녀를 속이면서까지 상여금의 일부를 부모님께 드린 데에는 나 나름대로의 이유가 있었다.
「わたしが彼女を騙してまでボーナスの一部を両親にあげたのには，わたしなりの理由があった.」[2CE00008]

(4-40) cey hon=ul phal-**myense**=**kkaci** kongpwuha-ko siph-ci=n anh-supnita.
1SG:GEN 魂=ACC 売る-ADV.SIM=まで 勉強する-ADV DESI-NMLZ=TOP NEG-DECL.POL
제 혼을 팔면서까지 공부하고 싶진 않습니다.
「わたしの魂を売ってまで勉強したくはありません.」[CJ000231]

■ =pwuthe「から」

-myense に =pwuthe が後接する場合，「～してから（…になった）」というように，-myense 節が上位節に対する契機を表す．つまり，-myense 節の事態が起こったことをきっかけに上位節の事態が起こるということである．-myense 節と上位節の主語は，-myense 節の主語が無情物の場合は異なることがある．黒島 (2010) で指摘したように， このような契機の意味は -myense のみでも表すことができ，その意味ではこのときの =pwuthe は随意的ということができる．-myense に =pwuthe が後接するとき，-myense と結びつく用言や，上位節の述語にはある一定の傾向が見られ，これは -myense 単独で契機の意味を表すときの傾向と一致する．表 29 に -myense=pwuthe と結合する動詞のうち，多かったものから順に 10 位まで挙げておく．基礎資料に現れた -myense=pwuthe の例は全部で 233 例である．表 29 に挙げた動詞の合計頻度 119 のみで全体の約 50% を占め，最も頻度の多かった sicakha-「始める」は全体の約 10% に上る．sicakha-「始める」をはじめ，tulese-「入る，(ある時期に) なる」, cepetul-「入る，さしかかる」など，なんらかの開始を意味する動詞が多く，迂言的形式の -key toy-「～するようになる」も多くみられた．また，cina-「過ぎる」や nao-「出てくる」, naka-「出ていく」など移動動詞も多くを占めているのが特徴である．

表 29　基礎資料に現れた -myense=pwuthe と結びついた動詞

順位	動詞	頻度
1	sicakha-「始める」	23
2	toy-「なる」	21
3	cina-「過ぎる」	15
4	tulese-「入る，(ある時期に) なる」	8
4	manna-「会う」	8
4	cepetul-「入る，さしかかる」	8
4	thayena-「生まれる」	8
8	tul-「入る」	7
9	nao-「出てくる」	6
10	naka-「出ていく」	5
10	tuleo-「入ってくる」	5
10	o-「来る」	5

1 位の sicakha- は，1 例を除いて全て迂言的形式 -ki sicakha- (-NMLZ はじめる-)「〜しはじめる」で，2 位の toy- は 21 例中 14 例が迂言的形式である -key toy-「〜するようになる」で現れていた．その他，述語に -(a/e)ci-「〜なる」形を取る例も 13 例と比較的多く現れた．それぞれの例を (4-41) から (4-43) に挙げておく．

(4-41)　inlyu=ka sayngki-ki sicakha-**myense=pwuthe** nayly-e o-nun kacang
人類=NOM 生じる-NMLZ はじめる-ADV.SIM=から 伝わる-ADV VEN-ADN.NPST 最も
kiponcek=i-n inkan#kwankyey=ya.
基本的=COP-ADN.NPST 人間#関係=COP:DECL.NPST.NPOL
인류가 생기기 시작하면서부터 내려오는 가장 기본적인 인간관계야.
「(結婚というものは) 人類が誕生しはじめてから伝わってきた最も基本的な家族関係だよ.」[달자의 봄 22]

(4-42)　myech nyen cen inkong#hoswu cwupyen=uy nalk-un aphathu=ey sal-key
いくつかの 年 前 人工#湖 周辺=GEN 古い-ADN.NPST アパート=DAT 住む-ADV.MNN
toy-**myense=pwuthe** wuli=nun kakkum inkun=eyse ceyil penhwaha-n ikos=ulo
なる-ADV.SIM=から 1PL=TOP たまに 近隣=LOC 一番 賑やかだ-ADN.NPST ここ=ALL
naw-a lamyen=ina thwikim=ul sa mek-ko tuleka-kon hay-ss-ta.
出てくる-ADV.SEQ ラーメン=や 揚げ物=ACC 買う:ADV 食べる ADV.SEQ 帰る-HAB-PST-DECL
몇년 전 인공호수 주변의 낡은 아파트에 살게 되면서부터 우리는 가끔 인근에서 제일 번화한 이곳으로 나와 라면이나 튀김을 사 먹고 들어가곤 했다.
「何年か前，人造湖の周辺の古いアパートに住むようになってから，わたしたちはたまに近隣で一番賑やかなここに来て，よくラーメンや揚げ物を食べてから帰ったものだった.」[BREO0315]

(4-43) mal=i nanphokhay-ci-**myense**=**pwuthe** elkwul=ey=to hwaki=ka tol-ass-ta.
言葉=NOM 乱暴だ-INTRZ-ADV.SIM=から 顔=DAT=も 怒り=NOM 回る-PST-DECL
말이 난폭해지면서부터 얼굴에도 화기가 돌았다.
「言葉が乱暴になるにしたがって，顔にも怒りが現れた.」[BREO0076]

また，-myense=pwuthe と結びつく動詞だけでなく，その上位節の述語にも特徴があり，それは -myense=pwuthe と結びつく動詞と同じく sicakha-「はじめる」が特に多く，-ki sicakha- (-NMLZ はじめる-)「～しはじめる」の形で現れたことである．(4-44) のように，全 233 例中の 30 例で上位節の述語に sicakha- が含まれていた．

(4-44) hankang=ul cina-**myense**=**pwuthe** eksey-key cangma#pi=ka nayli-ki
漢江=ACC 過ぎる-ADV.SIM=から 激しい-ADV.MNN 梅雨#雨=NOM 降る-NMLZ
sicakhay-ss-supnita.
はじめる-PST-DECL.POL
한강을 지나면서부터 억세게 장마비가 내리기 시작했습니다.
「漢江を過ぎてから，激しく梅雨時の雨が降りはじめました.」[BRGO0097]

■ =to「も」

表 28 に示したように，-myense に=to が後接する例が 3408 と最も多かった．-myense と結合する用言は動詞の他，形容詞も指定詞もありうる．-myense=to が表す意味は大きく二つに分けることができる．一つは焦点助詞 =to の持つ添加の意味が反映されていると考えられる用法で，-myense と結合するのが動詞であれば，一つの事態が進行しながらも，さらにもう一つの事態が起きるという意味になり，形容詞であれば，ある対象の一つの性質を叙述しながらも，さらにもう一つの性質について述べるという意味になる．動詞の例を (4-45) に，形容詞の例を (4-46) に挙げる．もう一つは，逆接的な意味を表す例で，-myense と結合した動詞としては (4-47) に見るように al-「知る」が 279 例で最も多く現れた．逆接の意味を表す場合，(4-48) のように形容詞と結合する場合も多い．

(4-45) oykwuk#thim=ul ungwenha-**myense**=**to** cwungkan~cwungkan kwuho=lul
外国#チーム=ACC 応援する-ADV.SIM=も 中間~RDP スローガン=ACC
yenhohay-ss-ta.
連呼する-PST-DECL
외국팀을 응원하면서도 중간중간 구호를 연호했다.
「外国のチームを応援しながらも途中途中で（母国の）スローガンを連呼した.」[6BE00008]

(4-46) nalssi=ka malk-**umyense**=**to** phwukunhay-se, kel-ul manhay-ss-ta.
天気=NOM 晴れだ-ADV.SIM=も 暖かい-ADV.SEQ 歩く-ADN.IRR 適する-PST-DECL
날씨가 맑으면서도 푸근해서, 걸을 만했다.
「天気が晴れているうえに暖かくて，歩くのにもよかった.」[BREO0286]

(4-47) cinwu=ka mwut-ca swuhyey=nun al-**myense=to** molu-nun chek
PN=NOM 尋ねる-ADV.IMMD PN=TOP 知る-ADV.SIM=も 知らない-ADN.NPST ふり
kokay=lul kalo ce-ess-ta.
首=ACC 横に 振る-PST-DECL
진우가 묻자 수혜는 알면서도 모르는 척 고개를 가로저었다.
「チヌが尋ねると，スヘは知りながらも知らないふりをし，首を横に振った.」[BREO0329]

(4-48) 40sey cenhwu=uy cwungnyen sanay=lo cemcanh-ko kyemsonha-**myense=to**
40 歳 前後=GEN 中年 男=INST 大人しい-ADV.SEQ 謙遜している-ADV.SIM=も
casinmanmanha-n cenhyengcek=i-n hayoy cisacang thaip=i-ta.
自信満々だ-ADN.NPST 典型的=COP-ADN.NPST 海外 支社長 タイプ=COP-DECL
40 세 전후의 중년 사내로 점잖고 겸손하면서도 자신만만한 전형적인 해외 지사장 타입이다.
「40 歳前後の中年男性で，大人しく謙遜していながらも自信満々な典型的な海外支社長タイプだ.」[3BE00010]

■ 「-myense + 焦点助詞」のまとめ

副動詞接辞 -myense に焦点助詞が後接する場合，結合する焦点助詞によって，ほとんど -myense の意味が決まってくる．ここで考察した結果を表 30 にまとめる．「-myense + 焦点助詞」の組み合わせにおいては結合する用言にも特徴があった．同時の場合は基本的に非限界動詞であり，契機の場合は限界動詞である．ただし，-myense が同時を表すとき =kkaci は限界動詞と結びつくことが多いが -a/e ka-「〜ていく」とさらに結びつき，非限界的動作となっていた．

表 30 -myense の意味と焦点助詞

-myense の意味	焦点助詞
同時	=cocha, =kkaci, =man, =lato, =nun/=un
契機	=pwuthe, =ya, =nun/=un
逆接	=to

4.3.3 「-taka + 焦点助詞」の統語，意味

すでに表 23 に示したとおり，-taka に後接していた焦点助詞は =lato, =ya, =to, =nun の四つであった．さらに，=lato と =ya の例はそれぞれ 1 例ずつしか現れなかった．用例が少なかった結合例から検討していく．

■ =lato「でも」

副動詞接辞 -taka に =lato が後接した例は 1 例しか現れなかった．例が少ないため確かなことはわからないが，例 (4-49) では，=lato はこれまで見てきたように極端なものをとりてて述べるという意味を表していると解釈できる．

(4-49) na=nun ca-**taka=lato** i cip=i nay cip=ila-nun
1SG=TOP 寝る-ADV.DISC=でも この 家=NOM 1SG:GEN 家=COP:DECL.QUOT-ADN.NPST
phyenankam=ul mas#po-n cek=i eps-ta.
安心感=ACC 味#見る-ADN.PST とき=NOM ない-DECL
나는 자다가라도 이 집이 내 집이라는 편안감을 맛본 적이 없다.
「わたしは寝ている途中でも，この家がわたしの家だという安心感を味わったことがない．」[BREO0084]

■ =ya「こそ」

=ya が -taka に後接した例も 1 例のみであった．この例 (4-50) はこれまでに見てきた「副動詞 + =ya」の例と同様に，「〜してはじめて」という意味を表している．この焦点助詞の意味とも合うような，副詞 kyewu「やっと」と共起している．

(4-50) pyengwen=ulo olmki-n twi com na-aci-ki=nun hay-ss-ciman ip=man
病院=ALL 移る-ADN.PST あと 少し 治る-INTRZ-NMLZ=TOP する-PST-ADV.AVS 口=だけ
pelli-ko hancham=ul kkungkkungkeli-**taka=ya kyewu** malmwun=i
開く-ADV.SEQ しばらく=ACC うんうん言う-ADV.DISC=こそ やっと 口=NOM
yelli-kon hay-ss-ta.
開く-HAB-PST-DECL
병원으로 옮긴 뒤 좀 나아지기는 했지만 입만 벌리고 한참을 끙끙거리다가야 겨우 말문이 열리곤 했다.
「病院へ移ったあと少しよくなりはしたが，口を開けるだけで，しばらくうんうんとうめいていて，やっと話しはじめるという具合だった．」[2CE00011]

■ =to「も」

国立国語院 (2005: 283) は -taka=to の用法を「ある行為や状態が他の行為や状態に容易に変わることを表す」と記述したうえで「このとき，-taka=to は -taka と置き換えることができるが，極端な場合まで譲歩することを表す助詞 =to により，-taka=to が -taka よりも，さらに付加的な意味を表している」と説明している．この「付加的な意味」というのが，焦点助詞の =to が表す極端の意味であるのかはっきりしない．国立国語院 (2005: 283-284) の挙げている例や，収集した用例を見ると，-taka=to はむしろ「〜していても（〜していたが）…」という逆接的な意味を表していると考えられる．国立国語院 (2005: 283-284) は (4-51) や (4-52) のような例文を挙げている．前者は -taka=to が動詞と，後者は形容詞と結合している例である．

(4-51) yengswu=nun pesu=eyse col-**taka=to** nayly-eya ha-nun
PN=TOP バス=LOC 居眠りする–ADV.DISC=も 降りる-OBLG-ADN.NPST
cenglyucang-ccum=eyse=nun kkayena-kon hay-ss-ta.
停留所-あたり=LOC=TOP 目を覚ます-HAB-PST-DECL
영수는 버스에서 졸다가도 내려야 하는 정류장쯤에서는 깨어나곤 했다.
「ヨンスはバスで居眠りをしていても，降りるべき停留所辺りでは目を覚ましていた.」(国立国語院 2005: 283; 韓国・国立国語院 2012: 308-309)

(4-52) siktang=i cemsim#sikan=ey=nun pappu-**taka=to** twusey si=man toy-myen
食堂=NOM 昼食#時間=DAT=TOP 忙しい-ADV.DISC=も 二三の 時=だけ なる-ADV.COND
coyonghay-ci-nta.
静かだ-INTRZ-DECL.NPST
식당이 점심시간에는 바쁘다가도 두세 시만 되면 조용해진다.
「食堂は昼食の時間には忙しくても，2 時，3 時ともなれば静かになる.」(国立国語院 2005: 284; 韓国・国立国語院 2012: 309)

国立国語院 (2005: 283-284) は -taka=to と-taka が置き換え可能な例のみを挙げていたが，任 (2005: 185) では，これらの置き換えが不自然な例を示している (4-53).

(4-53) a. ku=ka pwulu-myen ca-**taka=to** ilena.
3SG.M=NOM 呼ぶ-ADV.COND 寝る-ADV.DISC=も 起きる:DECL.NPST.NPOL
그가 부르면 자다가도 일어나.

b. *ku=ka pwulu-myen ca-**taka** ilena.
3SG.M=NOM 呼ぶ-ADV.COND 寝る-ADV.DISC 起きる:DECL.NPST.NPOL
* 그가 부르면 자다가 일어나.
「彼が呼ぶと，寝ていても起きるんだ.」

(任 2005: 185)

(4-53a) のように -taka=to が ca-「寝る」と結びつく例が，-taka=to の 380 例中 29 例現れ，特に ca-taka=to の前に条件の -myen が来る (4-54) のような例は 10 例あった．このように，'-myen ca-taka=to' が一つの構文のように用いられていて，この場合は -taka=to と -taka の置き換えが不自然になっているとも考えられる.

(4-54) nay=ka ku inkan ttaym=ey sok#ssek-un ke=l sayngkakha-myen
1SG=NOM その 人間 ため=DAT 心中#めいる-ADN.PST こと=ACC 考える=ADV.COND
ca-**taka=to** ekwulhay.
寝る-ADV.DISC=も 悔しい:DECL.NPOL
내가 그 인간 땜에 속썩은 걸 생각하면 자다가도 억울해.
「わたしがあの人間のせいで苦しんだことを思うと，寝ていてもやり切れない.」[굿바이 솔로 14]

また，国立国語院 (2005: 284) は -taka=to の項目で「あることがすぐに理解できないという意味を表す al-taka=to molu-l il=i-ta/molu-keyss-ta (分かる-ADV.DISC=も 分からない-ADN.IRR こと

=COP-DECL / 分からない-PROB-DECL)「分かったようで分からないことだ／分からない」のような慣用表現がある」とも付け加えている．-taka=to の用例 380 例中，al-taka=to で現れた例は 48 例と最も頻度が多かった．(4-55), (4-56) に基礎資料から例を挙げてく．

(4-55) ecceta anay=wa=uy kwankyey=ka ileh-key tway-ss-nunci al-**taka=to**
どうして 妻=COM=GEN 関係=NOM こうだ-ADV.MNN なる-PST-INDQ 分かる-ADV.DISC=も
molu-l il=i-ess-ta.
分からない-ADN.IRR こと=COP-PST-DECL
어쩌다 아내와의 관계가 이렇게 됐는지 알다가도 모를 일이었다.
「どうして妻との関係がこのようになったのか分かるようで分からなかった．」[BREO0287]

(4-56) hyeycini maum=ul al-**taka=to** molu-keyss-e.
PN 気持ち=ACC 分かる-ADV.DISC=も 分からない-PROB-DECL.NPOL
혜진이 마음을 알다가도 모르겠어.
「ヘジンの気持ちが分かるようで分からない．」[CE000075]

■ =nun/=un「は」

副動詞接辞 -taka に焦点助詞 =nun が後接した -taka=nun について，国立国語院 (2005: 282) は「1. ある行為や状態が中断して，他の行為や状態に変わることを表す」「2. 先行する行為や状態が一つの原因や根拠となり，それが続けば否定的な状況や意外な結果になることを表す」というように二つの用法について記述しているが，これは =nun が後接していない -taka の用法の記述とほぼ同じであり，特に 1 の方の記述はまったく同じであるため，-taka=nun と -taka の差異については明確でない．国立国語院 (2005: 283) はまた「-taka=nun は -taka の代わりに用いることができるが，-taka に比べて -taka=nun は変わった後の行為や状態，または否定的な状況をさらに強く表現するニュアンスがある」と述べているものの，両者の差異がはっきりしない．

-taka=nun は国立国語院 (2005: 282-283) の記述にもあるように，主に時間的関係を表す場合 (4-57) と，条件という意味を表す場合 (4-58) の二つがある．これらについては，4.4 において他の副動詞接辞に焦点助詞が後接し連続性や条件を表す -(a/e)se=nun, -ko=nun 等とまとめて論じることにする．

(4-57) swumi=nun cokum cen=kkaci yeki anc-ase chayk=ul ilk-**taka=nun**
PN=TOP 少し 前=まで ここ 座る-ADV.SEQ 本=ACC 読む-ADV.DISC=TOP
naka-ss-e=yo.
出ていく-PST-DECL=POL
수미는 조금 전까지 여기 앉아서 책을 읽다가는 나갔어요.
「スミは少し前までここに座って本を読んでいたけど，出ていきました．」(国立国語院 2005: 282; 韓国・国立国語院 2012: 307) [5]

[5] 韓国・国立国語院 (2012: 307) では日本語訳が「出ていった」となっているが，朝鮮語例文に従って日本語訳

(4-58) cakkwu kecismal=ul ha-**taka=nun** hon#na-nta.
しょちゅう 嘘=ACC 言う-ADV.DISC=TOP 魂#でる-DECL.NPST
자꾸 거짓말을 하다가는 혼난다.
「しょっちゅううそをついていては，ひどい目に遭うよ．」(国立国語院 2005: 282; 韓国・国立国語院 2012: 307)

時間的な関係を表す -taka=nun は (4-59) の例に見るように，上位節に salaci-「消える」のような状態の変移を表す動詞を持つ場合が比較的多かった．

(4-59) swu#manh-un salam=tul=uy elkwul=i swunse=to epsi tteoll-ass-**taka=nun**
数#多い-ADN.NPST 人=PL=GEN 顔=NOM 順序=も なしで 浮かぶ-PST-ADV.DISC=TOP
salacy-ess-ta.
消える-PST-DECL
수많은 사람들의 얼굴이 순서도 없이 떠올랐다가는 사라졌다.
「数多くの人たちの顔が順序もなく浮かんでは消えた．」[BREO0315]

4.3.4 「-(a/e)se + 焦点助詞」の統語，意味

継起を表す副動詞接辞 -(a/e)se$_1$ に後接していた焦点助詞の種類は 11 個と，-key に次いで結合例が多かった．時間の -(a/e)se$_2$ は 4 個，原因の -(a/e)se$_3$ は 2 個のみ結合例があった．=lato, =ya, =to, =nun が後接する例を除いては -(a/e)se が複合格助詞として機能している例が多く見られ，-(a/e)se が副詞的に振る舞う場合，それほど自由に焦点助詞が結合するわけではないということがわかる．複合格助詞として働く副動詞形に関しては，すでに 2.4 でも述べた．複合格助詞としての例は本研究の主な関心ではないが，多くの例において複合格助詞であれば焦点助詞が後接しうるという事実は指摘されるべきことである．したがって，例を挙げる程度にとどめるが，複合格助詞としての -(a/e)se についても扱うことにする．

表 31 に，基礎資料に現れてた「-(a/e)se + 焦点助詞」の出現頻度を示した．括弧付きの数字は用例に含まれる複合格助詞の数である．

を改めた．

表 31　「-(a/e)se + 焦点助詞」の出現頻度

順位	-(a/e)se + 焦点助詞	出現頻度	（複合格助詞）
1	-(a/e)se=nun	3135	(1108)
2	-(a/e)se=to	973	(355)
3	-(a/e)se=ya	716	(9)
4	-(a/e)se=lato	443	(90)
5	-(a/e)se=man	181	(126)
6	-(a/e)se=pwuthe	177	(1)
7	-(a/e)se=tun(ci)	82	(10)
8	-(a/e)se=na	44	(26)
9	-(a/e)se=kkaci	43	(15)
10	-(a/e)se=cocha	13	(12)
11	-(a/e)se=nama	7	(2)
12	-(a/e)se=ppwun	5	(4)

以下，用例数の少なかった例から順に考察していく．

■ =ppwun「のみ」

副動詞接辞 -(a/e)se に =ppwun「のみ」が後接した例は，表 31 に示したように 5 例で，そのうちの 4 例は複合格助詞としての用法であった．複合格助詞の場合は “=ey tayhay-se=ppwun anila” (=DAT 対する-ADV.SEQ=のみ NCOP.ADV)「〜についてのみでなく」のように，後に否定のコピュラが続いていた．残る 1 例が (4-60) であり，上位節が続き副詞的に用いられるのではなく，分裂文の形を取り疑問の焦点となっている．この例では -(a/e)se は原因を表していると考えられるが，-(a/e)se に =ppwun が後接した場合，他にどのような用法が可能なのか，さらに調査が必要である．

(4-60)　nwunmwul cilchek-keli-nun　key　eti　sotok=ul hay-**se**=**ppwun**=i-nka.
涙　だらだら-VBLZ-ADN.NPST こと:NOM どこ 消毒=ACC する-ADV.SEQ=だけ=COP-INTRR
눈물 질척거리는 게 어디 소독을 해서뿐인가.
「涙がだらだらと流れるのは，はたして消毒をしたからだけであろうか．」
[BREO0295]

■ =nama「だけでも」

-(a/e)se に =nama が後接した例は表 31 に示したように全部で 7 例しか得られなかった．そのうち 2 例は複合格助詞と考えられる =lul/=ul thonghay-se「〜をとおして」の例であった (4-61)．その他には，(4-62) のように -(a/e)se が手段を表している例，(4-63) のように時間的な先行を表している例が見られた．

(4-61) kulayse yenghwa=lul thonghay-**se**=**nama** hangke=uy cawi=lul ha-ko
だから 映画=ACC とおす-ADV.SEQ=だけでも 抵抗=GEN 自慰=ACC する-ADV
siph-e <phoklyekkyosil>=ul ese po-lyeko hay-ss-ten kes=i-ta.
DESI-ADV.SEQ PN=ACC はやく 見る-ADV.VOL する-PST-ADN.IMPF こと=COP-DECL
그래서 영화를 통해서나마 항거의 자위를 하고 싶어 <폭력교실>을 어서 보려고 했던 것이다.
「だから映画をとおしてでも抵抗という自慰がしたくて「暴力教室」をはやく見ようとしていたのだ.」[BREO0089]

(4-62) yeysnal=lo toytolaka-ki=nun khenyeng, i meymalu-n simeynthu=uy
昔=ALL 戻る-NMLZ=TOP おろか この 干からびている-ADN.NPST セメント=GEN
tosi=eyse incengmeli eps-nun atul-ney=hanthey enchy-**ese**=**nama**
都市=LOC 人情 ない-ADN.NPST 息子-ところ=DAT やっかいになる-ADV.SEQ=だけでも
mokswum=ul pwuciha-ko iss-ta-nun kes=man=to
命=ACC 持ちこたえる-ADV PROG-DECL.QUOT-ADN.NPST こと=だけ=も
kamcitekcihay-yaha-l phan=i-ess-ta.
ありがたがる-OBLG-ADN.IRR ところ=COP-PST-DECL
옛날로 되돌아가기는 커녕, 이 메마른 시멘트의 도시에서 인정머리 없는 아들네한테 얹혀서나마 목숨을 부지하고 있다는 것만도 감지덕지해야할 판이었다.
「昔に戻るどころか，この干からびたセメントの都市で，人情のない息子のところでやっかいになってでも，生きしのいでいるだけで感謝しなければならないような状況だった.」[2CE00010]

(4-63) phwul#path=ey nwuw-e phwulu-n hanul=ul po-tus, kkoch#sangye=ey
草#畑=DAT 横になる-ADV.SEQ 青い-ADN.NPST 空=ACC 見る-ADV.EQU 花#棺=DAT
silly-e ka-nun casin=uy mosup=ul cwuk-**ese**=**nama** po-ko
載せられる-ADV AND-ADN.NPST 自身=GEN 姿=ACC 死ぬ-ADV.SEQ=だけでも 見る-ADV
siph-ess-tamyen ciyey ne=n ihayhay cwu-keyss-ni?
DESI-PST-ADV.COND PN 2SG=TOP 理解する:ADV BEN-PROB-INTRR
풀밭에 누워 푸른 하늘을 보듯, 꽃상여에 실려가는 자신의 모습을 죽어서나마 보고싶었다면 지예 넌 이해해 주겠니?
「草地に横になり青空を見るように，花の棺に載せられていく自分の姿を死んででも見たかったと言ったら，チエ，おまえは理解してくれるかい？」[BREO0082]

■ =cocha「さえ」

-(a/e)se に =cocha が後接した例は全部で 13 例であったが，1 例を除いては全て複合格助詞の例であった．複合格助詞 12 例のうち，11 例は =ey tayhay-se「～について」で，残りの 1 例は =ey iss-ese「～において」であった．(4-64) に複合格助詞に =cocha が後接した例を，(4-65) に副動詞 -(a/e)se に =cocha が後接した例を挙げる．後者の (4-65) の例においては，-(a/e)se は「～て (から)」というように時間的関係を表していると考えられる．

(4-64) ku cem=ey tayhay-**se**=**cocha** na=nun pikwanha-ci anh-ul swu eps-ta.
その 点=DAT 対する-ADV.SEQ=さえ 1SG=TOP 悲観する-NMLZ NEG-ADN.IRR すべ ない-DECL
그 점에 대해서조차 나는 비관하지 않을 수 없다.
「その点についてすら，わたしは悲観せずにいられない.」[CE000027]

(4-65) mwutay pakk=ey naw-**ase**=**cocha** ne=chelem kwankayk=uy hwanho=lul
舞台 外=DAT 出てくる-ADV.SEQ=さえ 2SG=EQU 観客=GEN 歓呼=ACC
kkwum#kkwu-nun key mongyupyeng=i ani-ko
夢#夢見る-ADN.NPST こと:NOM 夢遊病=NOM NCOP-ADV.SEQ
mwe=la-n mal=i-nya?
なに=COP:DECL.QUOT-ADN.PST 言葉=COP-INTRR.NPOL
무대 밖에 나와서조차 너처럼 관객의 환호를 꿈꾸는 게 몽유병이 아니고 뭐란 말이냐?
「舞台の外に出てさえ，おまえのように観客の歓迎を夢見るのが夢遊病じゃなかったらなんだっていうんだ？」[BREO0082]

■ =kkaci「まで」

=kkaci が -(a/e)se に後接する場合にも，複合格助詞の場合と，副動詞の場合がある．どちらの場合においても =kkaci の意味は程度が甚だしいものを取り上げる極端の意味になっている．複合格助詞の場合の例を (4-66) に挙げる．副動詞の場合には，「～してまで」と -(a/e)se が手段を表す例 (4-67) と，「～した (あと)まで，～してからでさえも」のように時間的関係を表す例 (4-68) が見られた．

(4-66) kyohoy=ppwun=man anila on inkan seysang, na casin=ey tayhay-**se**=**kkaci**
教会=のみ=だけ NCOP:ADV 全ての 人間 世界 1SG 自身=DAT 対する-ADV.SEQ=まで
hungmi=ka eps-ecy-ess-supnita.
興味=NOM ない-INTRZ-PST-DECL.POL
교회뿐만 아니라 온 인간 세상, 나 자신에 대해서까지 흥미가 없어졌습니다.
「教会だけでなく，全人間世界，自分自身についてまでも関心がなくなりました.」[2BEXXX21]

(4-67) seypayston=un malha-l kes=to eps-ko, samsip li simpwulum#kil=ul
お年玉=TOP 言う-ADN.IRR こと=も ない-ADV.SEQ 三十 里 お使い#道=ACC
kelum=ulo tanyew-ase pesu#pi=lul akky-**ese**=**kkaci** mou-n
歩き=INST 行ってくる-ADV.SEQ バス#費用=ACC 節約する-ADV.SEQ=まで 貯める-ADN.PST
ton=i-ess-ta.
お金=POL-PST-DECL
세뱃돈은 말할 것도 없고, 삼십 리 심부름길을 걸음으로 다녀와서 버스비를 아껴서까지 모은 돈이었다.
「お年玉はもちろん，30 里のお使いの道のりを歩きで行ってきてバス代を節約してまで貯めたお金だった.」[BEXX0013]

(4-68) michy-ess-ni? kyelhonhay-se=kkaci cikcang tani-key.
狂う-PST-INTRR 結婚する-ADV.SEQ=まで 職場 通う-ADV.MNN

미쳤니? 결혼해서까지 직장 다니게.
「おかしくなったのか？ 結婚してまで職場に行くのか.」[CE000080]

■ =na「でも」

-(a/e)se に =na が後接する場合にも，=na が複合格助詞に後接する例と副動詞に後接する例が現れ，特に副動詞の用法がいくつか観察された．複合格助詞としての -(a/e)se に =na が付いた場合は (4-69) のように「〜でも」と例示を表す．副動詞としての -(a/e)se に =na が後接した場合の意味は三つに分けられる．(i) =na, =na の形で並列助詞のように「A も B も」の意味を表す場合 (4-70)，(ii)「〜こそ」という限定的な意味を表す場合 (4-71)，(iii) 疑問詞と共起して反限定の意味を表す場合 (4-72) である．

(4-69) honca=i-n tongan yenkuk=ey tayhay-**se**=**na** comte manhi yenkwuhay
一人=COP-ADN.NPST 間 演劇=DAT 対する-ADV.SEQ=でも もう少し たくさん 研究する:ADV
po-ala.
CNT-IMPR.NPOL
혼자인 동안 연극에 대해서나 좀더 많이 연구해보아라.
「一人でいる間，演劇についてでももう少し研究してみなさい.」[3BE00001]

(4-70) sal-**ase**=**na** cwuk-**ese**=**na** kkok na=lul teyli-le
生きる-ADV.SEQ=でも 死ぬ-ADV.SEQ=でも 必ず 1SG=ACC 連れる-ADV.PURP
o-keyss-ta-ko hay-ssess-e.
来る-PROB-DECL.QUOT-COMP 言う-PLPF-DECL.NPOL
살아서나 죽어서나 꼭 나를 데리러 오겠다고 했었어.
「生きていても死んでいても必ずわたしを連れに来るっと言っていたの.」[CJ000245]

(4-71) ile-l ton=kwa sikan=kwa yeyu=ka iss-umyen tangsin
こうする-ADN.IRR お金=COM 時間=COM 余裕=NOM ある=ADV.COND あなた
manwula=hanthey ka-**se**=**na** calhay!
嫁=DAT 行く-ADV.SEQ=でも よくする:IMPR.NPOL
이럴 돈과 시간과 여유가 있으면 당신 마누라한테 가서나 잘해!
「こんなお金と時間と余裕があるなら，あんたの嫁のところにでも行って，よくしてあげな！」[달자의봄 5]

(4-72) ce, kulayse eti ka-**se**=**na** ttesttesha-key halapeci calangha-l swu
1SG それで どこ 行く-ADV.SEQ=でも 堂々としている-ADV.MNN おじいさん 自慢する-ADN.IRR すべ
iss-ess-ten ke-kwu=yo.
ある-PST-ADN.IMPF こと(=COP)-ADV.SEQ=POL
저, 그래서 어디 가서나 떳떳하게 할아버지 자랑할 수 있었던 거구요.
「わたし，それでどこに行っても胸を張っておじいさんの自慢できたんですよ.」[헬로!애기씨 13]

■ =tun(ci)「でも」

-(a/e)se に焦点助詞 =tun(ci) が後接する場合，複合格助詞としての -(a/e)se の例以外では，ほぼ決まった形で現れていた．複合格助詞の例は (4-73) に挙げる．副動詞の例については，(4-74) のように “etteh-key hay-se=tun(ci)”「どうしても」 の形で用いられる例が多く，複合格助詞に =tun(ci) が付いた例を除く 72 例のうち，48 例がこの例であった．この用法は -key に =tun(ci) が後接した場合の用法に似ている．また，-(a/e)se が “etteh-key hay-se=tun(ci)” 以外で現れた例としては，これと意味的にも近い “mwusun swu=lul/swutan=ul sse-se=tun(ci)”「どんな手を／手段を使っても」 という例が，8 例現れた (4-75).

(4-73) nay sayngkak=i eps-ki ttaymwun=ey, nay kwi=nun acik=un
1SG:GEN 考え=NOM ない-NMLZ ため=DAT 1SG:GEN 耳=TOP まだ=TOP
ette-n nolay=ey tayhay-**se**=**tun** swunswuha-n phyen=i-ess-ta.
どうだ-ADN.NPST 歌=DAT 対する-ADV.SEQ=でも 純粋だ-ADN.NPST 方=COP-PST-DECL
내 생각이 없기 때문에, 내 귀는 아직은 어떤 노래에 대해서든 순수한 편이었다.
「自分の考えがないので，わたしの耳はまだどんな歌に対しても純粋な方だった．」[BREO0282]

(4-74) na=nun etteh-key hay-**se**=**tun** kuay=lul anceng=sikhy-eya hay-ss-ta.
1SG=TOP どうだ-ADV.MNN する-ADV.SEQ=でも その子=ACC 安静=CAUS-OBLG-PST-DECL
나는 어떻게 해서든 그애를 안정시켜야 했다.
「わたしはどうしてもその子を落ち着かせなければならなかった．」[5BE01006]

(4-75) mwusun swu=lul ss-**ese**=**tun** ne salli-lke=ya, mwuhyek-a.
どんな 手段=ACC 使う-ADV.SEQ=でも 2SG 助ける-SPEC=COP:DECL.NPOL PN-VOC
무슨 수를 써서든 너 살릴거야, 무혁아.
「どんな手を使ってもあなたを助けるから，ムヒョク．」[미안하다, 사랑한다 16]

■ =man「だけ」

=man が -(a/e)se に後接する場合の用例は，ほとんどが (4-76) のように複合格助詞に =man が接続する例であった．それ以外の例は，上位節に cinay-「過ごす」, ponay-「送る」, sal-「住む，生きる」が用いられ，「～ばかりして 過ごす／（時を）送る／生きる」のような構文で用いられることが多い．これは (4-32) で示したように，-myense=man の上位節が sal-「住む，生きる」あるいはその複合語であったのと類似した現象である．副動詞は様態を表していると考えられる (4-77), (4-78)．あるいは少数ではあったが，副動詞が手段を表している (4-79) のような例も現れた．いずれにしても =man は「～だけ」という限定の意味を表している．

(4-76) na=nun achim=pwuthe pam=kkaci oloci sosel=ey tayhay-**se**=**man**
1SG=TOP 朝=から 夜=まで ただ 小説=DAT 対する-ADV.SEQ=だけ
sayngkakhay-ss-ta.
考える-PST-DECL
나는 아침부터 밤까지 오로지 소설에 대해서만 생각했다.
「わたしは朝から夜までただ小説のことだけを考えた．」[CE000033]

(4-77) icey hankahay-ci-n pam#sikan=ul hyoswuk=un kosulanhi ku pang=ey
今 暇だ-INTRZ-ADN.PST 夜#時間=ACC PN=TOP そのまま その 部屋=DAT
kathy-**ese**=**man** ponay-ya hay-ss-ta.
閉じこもる-ADV.SEQ=だけ 送る-OBLG-PST-DECL
이제 한가해진 밤시간을 효숙은 고스란히 그 방에 갇혀서만 보내야 했다.
「今は暇になった夜の時間を，ヒョスクはそのままその部屋にただ閉じこもって過ごさなければならなかった.」[BREO0082]

(4-78) cwungphwung=ulo censin#mapi=ka toy-e namu-n sayng=ul
中風=INST 全身#麻痺=NOM なる-ADV.SEQ 残る-ADN.PST 人生=ACC
nwuw-**ese**=**man** cinay-sy-ess-ta-nun ke=ya.
横になる-ADV.SEQ=だけ 過ごす-HON-PST-DECL.QUOT-ADN.NPST こと=COP:DECL.NPOL
중풍으로 전신마비가 되어 남은 생을 누워서만 지내셨다는 거야.
「中風で全身麻痺になり余生をただ横になって過ごされたというんだ.」[BEXX0012]

(4-79) 5, 6nyen cen=pwuthe posinthang cip=i pwum=ul ilukhi-myense=nun cal
5 6 年 前=から 犬鍋 店=NOM ブーム=ACC 起こす-ADV.SIM=TOP よく
cala-nun kay=tul=kwa makwu kyopay=sikhi-n teytaka mwukk-**ese**=**man**
育つ-ADN.NPST 犬=PL=COM やたらに 交配=CAUS-ADN.PST うえに 繋ぐ-ADV.SEQ=だけ
kill-e sengcil=i tewuk phoakhay-ci-n kes=ila-ko
育てる-ADV.SEQ 性格=NOM さらに 狂暴だ-INTRZ-ADN.PST こと=COP:DECL.QUOT-COMP
ha-nta.
言う-DECL.NPST
5, 6 년 전부터 보신탕 집이 붐을 일으키면서는 잘 자라는 개들과 마구 교배시킨 데다가 묶어서만 길러 성질이 더욱 포악해진 것이라고 한다.
「5, 6 年前からポシンタン（犬鍋）屋がブームを起こしてから，よく育つ犬たちとやたらに交配させたうえに，繋ぎっぱなしで育てて性格がさらに狂暴になったのだと言う.」[2CE00017]

また，副動詞が理由，原因の意味を表している場合もあった．ただ，この場合 (4-80) のように分裂文となっており，副詞的修飾機能を担っているとは考えられないため，別に扱う必要がある．この例では「英語ができないから…なのだ」という命題が前提となっていると考えられる．

(4-80) yenge=lul cal mos hay-**se**=**man**=un ani-ess-ta.
英語=ACC よく IMPS する-ADV.SEQ=だけ=TOP NCOP-PST-DECL
영어를 잘 못 해서만은 아니었다.
「英語がよくできないからだけではなかった.」[2CE00018]

■ =pwuthe「から」

=pwuthe が -(a/e)se に後接した -(a/e)se=pwuthe の例は全部で 177 例であり，多くの例が時間を表す -(a/e)se$_2$ に =pwuthe が後接した例であった．複合格助詞としての -(a/e)se に後接し

た例は基礎資料から収集した例には見られなかった．用例はいくつか典型的な例が目立つ．そのうち最も多かったのが 177 例中 107 例 (約 60%) 出現した ely-ese=pwuthe「幼いときから」であった (4-81)．次いで多かったのが迂言的形式で「～してから」を表す -ko na-se の例である (4-82)．これは 177 例中 34 例と，約 20% 現れた．その他は，celm-ese=pwuthe「若いときから」の例を除くと全て -(a/e)se が自動詞と結合した例であり，副動詞の表す意味は時間的関係に限定されていた．(4-83) も「夜の 10 時なって (から)」というように時間の意味になっている．

(4-81) na=nun ely-**ese**=**pwuthe** honca=y-ess-ta.
1SG=TOP 幼い-ADV.SEQ=から 一人=COP-PST-DECL
나는 어려서부터 혼자였다.
「わたしは幼いときから一人だった．」[BREO0302]

(4-82) tongsayng=ul nah-ko na-**se**=**pwuthe** naynay simcangpyeng=ulo
弟妹=ACC 産む-ADV CMPL-ADV.SEQ=から ずっと 心臓病=INST
kosayngha-sy-ess-e=yo.
苦労する-HON-PST-DECL=POL
동생을 낳고 나서부터 내내 심장병으로 고생하셨어요.
「下の子を産んでからずっと心臓病で苦労なさったんですよ．」[2CE00019]

(4-83) pam yel si=ka toy-**ese**=**pwuthe** cwuin#acessi=nun nayngcangko=eyse socwu=lul
夜 10 時=NOM なる-ADV.SEQ=から 主人#おじさん=TOP 冷蔵庫=ABL 焼酎=ACC
kkenay masi-ki sicakhay-ss-ta.
取り出す:ADV.SEQ 飲む-NMLZ はじめる-PST-DECL
밤 열시가 되어서부터 주인아저씨는 냉장고에서 소주를 꺼내 마시기 시작했다.
「夜 10 時になってからお店のおじさんは冷蔵庫から焼酎を取り出して飲み始めた．」[2BEXXX20]

■ =lato「でも」

=lato が -(a/e)se を取り立てる場合，大きく四つの場合に分けることができる．(i) 複合格助詞に後接し，消極的例示を意味する場合 (4-84)，(ii) 副動詞が手段，時間的関係を表し，その手段や時間的関係が極端なものであることを意味する場合 (4-85)，(iii) 副動詞が理由を表し，それが十分な理由であることを取り立てる場合 (4-86)，(iv) pw-ase=lato「ためにも（lit. 見てでも）」，sayngkakhay-se=lato「考えてでも」, のように決まった形で用いられ，譲歩的な意味を表す場合 (4-87) である．

(4-84) swuphyo=lul tollyecwu-ki wihay-**se**=**lato** han pen=un pakk=eyse
小切手=ACC 返す-NMLZ ためだ-ADV.SEQ=でも 一つの 回=TOP 外=LOC
manna-ya hay-ss-ta.
会う-OBLG-PST-DECL
수표를 돌려주기 위해서라도 한 번은 밖에서 만나야 했다.
「小切手を返すためにも，一度は外で会わなければならなかった．」[6BE00008]

(4-85) a. nay=ka amwuli cap-ulye hay-to kunye=nun mwusun swu=lul
1SG=NOM いくら 捕まえる-ADV.VOL する-ADV.CONC 3SG.F=TOP どんな 手=ACC
ss-**ese**=**lato** ttena-l ke=ya.
使う-ADV.SEQ=でも 離れる-SPEC=COP:DECL.NPOL
내가 아무리 잡으려 해도 그녀는 무슨 수를 써서라도 떠날 거야.
「わたしがいくら引き留めようとしても，彼女はどんな手を使ってでも離れていくだろう.」[BREO0291]

b. chentang=ey ka-**se**=**lato** kuke=n kiekhay-la.
天国=DAT 行く-ADV.SEQ=でも それ=TOP 覚える-IMPR.NPOL
천당에 가서라도 그건 기억해라.
「天国に行ってもそれは覚えていなさい.」[CE000075]

(4-86) sal-a kyeysi-myen wuli=tul=i po-ko siph-**ese**=**lato** wuli=lul hanpen
生きる-ADV DUR.HON-ADV.COND 1PL=PL=NOM 会う-ADV DESI-ADV.SEQ=でも 1PL=ACC 一回
chac-usi-l they-ntey ha-nun sayngkak=i-pnita.
訪ねる-HON-SPEC-ADV.AVS 言う-ADN.NPST 考え=COP-DECL.POL
살아 계시면 우리들이 보고 싶어서라도 우리를 한번 찾으실 텐데 하는 생각입니다.
「(母が) 生きていたらわたしたちに会いたくて，わたしたちを訪ねてくるだろうに，と思います.」[CG000035]

(4-87) a. ceypal na=l pw-**ase**=**lato** pyengwen=ey ka-ca.
どうか 1SG=ACC 見る-ADV.SEQ=でも 病院=DAT 行く-COHR
제발 날 봐서라도 병원에 가자.
「どうかわたしのためにも（lit. わたしを見てでも）病院に行こう.」[2BEXXX20]

b. ce=lul sayngkakhay-**se**=**lato** ceypal yongsehay cwu-sey=yo.
1SG=ACC 考える-ADV.SEQ=でも どうか 許す:ADV BEN-HON:IMPR=POL
저를 생각해서라도 제발 용서해 주세요.
「わたしのことを思ってでも，どうかお許しください.」[2BEXXX19]

■ =ya「こそ」

=ya が -(a/e)se に後接する場合 (i)「～してはじめて…」という時間的な関係を表す場合と，(ii) 条件的な意味を表す場合とがある．例としては前者の場合の方が多かった．まず (i) の場合について見ると，「～してはじめて…」という意味を表す場合には，「(時間) になってはじめて」「(時間) を過ぎてはじめて」のように，ある時間が明示される場合 (4-88) と，「～してからはじめて」のように時間的な前後関係が表される場合 (4-89), (4-90) の，二つの場合がある．(4-90) のように，迂言的形式である -ko na-se「～てから」も比較的多く現れた．

(4-88) pam=i toy-**ese**=**ya** **piloso** panchan=ul sa o-ko, chengsoha-ko,
夜=NOM なる-ADV.SEQ=こそ やっと おかず=ACC 買う:ADV VEN-ADV.SEQ 掃除する-ADV.SEQ
ppallay=lul hay-ss-ta.
洗濯=ACC する-PST-DECL

밤이 되어서야 비로소 반찬을 사오고, 청소하고, 빨래를 했다.
「夜になってやっとおかずを買ってきて，掃除して，洗濯をした.」[CE000034]

(4-89) nay=ka myech pen=i-ko mwul-**ese**=**ya** **kyewu** nay=key ku kkatalk=ul
1SG=NOM いくつか 回=COP-ADV.SEQ 尋ねる-ADV.SEQ=こそ やっと 1SG=DAT その 理由=ACC
iyakihay cwu-ess-supnita.
話す:ADV BEN-PST-DECL.POL
내가 몇 번이고 물어서야 겨우 내게 그 까닭을 이야기해주었습니다.
「わたしが何回も聞いてやっとわたしにその理由を話してくれました.」[CE000078]

(4-90) swuhwaki=lul naylyenoh-ko na-**se**=**ya** nay=ka silswuhay-ss-um=ul
受話器=ACC 置く-ADV CMPL-ADV.SEQ=こそ 1SG=NOM 失敗する-PST=NMLZ=ACC
kkaytal-ass-ta.
気づく-PST-DECL
수화기를 내려놓고 나서야 내가 실수했음을 깨달았다.
「受話器を置いてはじめてわたしが間違っていたことに気がついた.」[CE000078]

「～してはじめて…」の意味を表す場合には，(4-88), (4-89) の例にも示されているように，しばしば ‘piloso’「ようやく」, ‘kyewu’「やっと」のような副詞と共起する．このような特徴は，焦点助詞 =ya が時間を表す状況語に後接する場合と同様であると考えられる．次の (4-91), (4-92) の例では，それぞれ時間を表す状況語に焦点助詞 =ya が付いているが，この状況語の意味と意味的につながりのある ‘piloso’, ‘kyewu’ という副詞が共起している．1 例のみであったが副動詞接辞 -taka に =ya が後接した例 (4-50) も同様であった．

(4-91) ku ttay=**se**=**ya** piloso nwunchi chay-ss-ta.
その 時=LOC=こそ やっと 気配 気づく-PST-DECL
그 때서야 비로소 눈치챘다.
「そのときになってやっと気づいた.」(ホン・サマン 2002: 309)

(4-92) tassay man=ey=**ya** kyewu ilen-ass-ta.
5 日間 ぶり=DAT=こそ やっと 起きる-PST-DECL
닷새 만에야 겨우 일어났다.
「5 日目ぶりにやっと目を覚ました.」(ホン・サマン 2002: 309)

次に (ii) について，-(a/e)se=ya は (4-93) のように条件的意味を表す場合がある．すでに -key=ya を論じる中で示した (4-11) のように，反語を表す構文に用いられる例も見られる (4-94)．(4-94) のような例を含めて，-(a/e)se=ya が条件的に解釈されるのは，主節に -ci「～だろう」や，蓋然性を表すムード接辞 -keyss- と共起するからだと考えられる．

(4-93) na ttaymwun=ey canghaksayng=i kwalak=ilato kelly-**ese**=**ya**
1SG ため=DAT 奨学生=NOM 単位を落とすこと=でも ひっかかる-ADV.SEQ=こそ
khunil=i-ci.
大変=COP-ASS

나 때문에 장학생이 과락이라도 걸려서야 큰일이지.
「わたしのせいで奨学生が単位を落としでもしたら大変だろう.」[2CE00011]

(4-94) sipwumonim=kwa ches taymyen=i-ntey nuc-**ese**=**ya** toy-keyss-e=yo.
舅姑=COM 初めの 対面=COP-ADV.AVS 遅れる-ADV.SEQ=こそ なる-PROB-INTRR=POL
시부모님과 첫 대면인데 늦어서야 되겠어요.
「舅姑と初めて会うのに，遅れたらいけないでしょう（lit. 遅れていいでしょうか）.」[2CE00003]

■ =to「も」

=to が -(a/e)se に後接する場合，複合格助詞用法の -(a/e)se，迂言的形式 -ko na-se「〜てから」がそれぞれ 355 例，123 例で，全用例 973 例の約半数を占める．これらを除いた副動詞の例としては，(4-95) のように手段を表す -(a/e)se や，(4-96) のように時間的先行を表す -(a/e)se に =to が後接する例が見られた．前者は極端を表す =to と解釈でき，後者は極端とも類似とも解釈できる例である．さらに，-(a/e)se=to には (4-97) のような逆条件を表す例があるが，これについても 4.4 以降で他の条件を表す「副動詞接辞 + 焦点助詞」とともに論じる．

(4-95) celm-ese kosayng=un sa-**se**=**to** ha-nta-canh-a=yo.
若い-ADV.SEQ 苦労=TOP 買う-ADV.SEQ=も する-DECL.QUOT-NEGQ-INTRR=POL
젊어서 고생은 사서도 한다잖아요.
「若いときの苦労は買ってでもするというじゃないですか.」[2CE00020]

(4-96) hoysa=ey ka-**se**=**to** ku=nun naynay kominha-ko tto kominhay-ss-ta.
会社=DAT 行く-ADV.SEQ=も 3SG.M=TOP ずっと 悩む-ADV.SEQ また 悩む-PST-DECL
회사에 가서도 그는 내내 고민하고 또 고민했다.
「会社に入っても彼はずっと悩みに悩んだ.」[BREO0292]

(4-97) 5si=ey manna-ki=lo hay-ss-unikka cam=i tul-**ese**=**to** antoy-ess-ta.
5 時=DAT 会う-NMLZ=INST する-PST-ADV.CSL 眠り=NOM 入る-ADV.SEQ=も 駄目だ-PST-DECL
5 시에 만나기로 했으니까 잠이 들어서도 안되었다.
「5 時に会うことにしたので，眠ってしまってもいけなかった.」[2CE00002]

■ =nun/=un「は」

=nun が -(a/e)se に付く例は，(i) =nun が対照を表す場合，(ii) -(a/e)se=nun が連続的な事態を表す場合，(iii) -(a/e)se=nun が条件を表す場合の三つに分けられる．(4-98) が =nun が単に対照を表す例で，「引っ越しに来てから」とその前とが対照されている．(4-99) は連続的な事態を表すと考えられる例で，=nun が付くことで「しぼって (から)」という先行の意味がはっきりする．(4-100) が条件を表す例で述べる．連続的な事態を表す例と条件を表す例については，-taka=nun, -ko=nun とともに 4.4 で詳しく述べる．

(4-98) isa w-**ase-nun** emma=hako ca-nun nal=i manh-ase
引っ越し 来る-ADV.SEQ-TOP お母さん=COM 寝る-ADN.NPST 日-NOM 多い-ADV.SEQ
coh-ta.
よい-DECL.NPST
이사와서는 엄마하고 자는 날이 많아서 좋다.
「引っ越して来てからはお母さんと寝る日が多くてうれしい.」[2CJ00014]

(4-99) sik-un mwulswuken=ul tasi ttukew-un mwul=ey tamk-ass-ta
冷める-ADN.PST 布巾=ACC 再び 熱い-ADN.NPST 水=DAT つける-PST-ADV.DISC
cca-**se=nun** sopha=ey anc-ass-ta.
しぼる-ADV.SEQ=TOP ソファー=DAT 座る-PST-DECL
식은 물수건을 다시 뜨거운 물에 담갔다 짜서는 소파에 앉았다.
「冷めた布巾を再び熱いお湯につけてからしぼって，ソファーに座った.」[5BE02010]

(4-100) siki=lul nohchy-**ese=nun** an tway.
時機=ACC 逃す-ADV.SEQ=TOP NEG なる:DECL.NPST.NPOL
시기를 놓쳐서는 안 돼.
「時機を逸してはいけない.」[2CE00004]

■ 「-(a/e)se + 焦点助詞」のまとめ

副動詞接辞 -(a/e)se も -key と同様，焦点助詞との結合例が多かったが， -(a/e)se が =ey tayhay-se「～について」という複合格助詞として機能する場合も多く，やはりそれほど自由に焦点助詞が結合するわけではないということが明らかになった．出現頻度に差があるため確かなことは言えないが，焦点助詞 =cocha, =ppwun との結合においてはそのほとんどが複合格助詞の例であり，その一方 =ya, =pwuthe との結合においては複合格助詞の割合が 1.25%, 0.56% と極端に少なかった．=ya, =pwuthe は時間的な意味をとりたてているために，「～について」という複合格助詞の意味とは合わなかったのだと考えることができる．

4.3.5 「-ko + 焦点助詞」の統語，意味

表 23 に示したように，継起の副動詞接辞 -ko に後接する焦点助詞は全部で 9 個であった．副動詞接辞 -(a/e)se で，焦点助詞が後接する場合は複合格助詞の用法である場合が多かったのと同様に，-ko の場合も焦点助詞が後接するのは副詞節ではなく補文節である例が多く見られた．補文節の例は本研究の主要な対象ではないため積極的には扱わず，例を挙げるにとどめる．表 32 は基礎資料から収集できた「-ko + 焦点助詞」の出現頻度であり，括弧内はそのうち -ko が補文節を形成している例の数である．例の数を見ると，-ko=pakkey や -ko=kkaci, -ko=na, -ko=man は例の大部分を補文節が占めるのに対し，-ko=lato, -ko=pwuthe, -ko=ya はほとんど補文節の例が見られない．

表 32　「-ko + 焦点助詞」の出現頻度

順位	-ko + 焦点助詞	出現頻度	（補文節）
1	-ko=nun	7,312	(975)
2	-ko=to	2,166	(390)
3	-ko=man	290	(246)
4	-ko=ya	226	(0)
5	-ko=na	181	(157)
6	-ko=pwuthe	166	(1)
7	-ko=kkaci	67	(66)
8	-ko=lato	56	(0)
9	-ko=pakkey	24	(23)

以下では，表 32 で出現頻度の低かった「-ko+ 焦点助詞」の例から考察を進めていく．

■ =pakkey「しか」

-ko に =pakkey が後接した例は，基礎資料から全部で 24 例得られたが，そのうち 1 例を除いては全て補文節としての -ko の例であった．補文節以外の 1 例は副動詞が様態を表していると考えられる例であるが，=pakkey の後にさらに焦点助詞の =nun が続いている．補文節の例を (4-101) に，副詞節の例を (4-102) に挙げる．どちらの例においても，=pakkey は「～しか +（否定）」のように限定の意味を表している．

(4-101)　ku=ka　sal-a　tolao-n　ke=n　sillo
3SG.M=NOM 生きる-ADV.SEQ 帰ってくる-ADN.PST こと=TOP 本当に
kicek=ila-**ko=pakkey**　talli phyohyenha-l　kil=i　eps-ess-ta.
奇跡=COP:DECL.QUOT-COMP=しか 他に 表現する-ADN.IRR 道=NOM ない-PST-DECL
그가 살아 돌아온 건 실로 기적이라고밖에 달리 표현할 길이 없었다.
「彼が生きて帰ってきたのは本当に奇跡としか他に表現する方法がなかった．」
[2CE00009]

(4-102)　sungki=nun yengcwu=uy tung=ey tay-**ko=pakkey**=nun　oychi-l　swu=ka
PN=TOP　PN=GEN　背=DAT　触れる-ADV.SEQ=しか=TOP 声を上げる-ADN.IRR すべ=NOM
eps-ess-ta.
ない-PST-DECL
승기는 영주의 등에 대고밖에는 외칠 수가 없었다.
「スンギはヨンジュの背中に向かってしか声を上げることができなかった．」
[CE000027]

■ =lato「でも」

-ko に焦点助詞 =lato が後接する場合の例は全部で 56 例得られた．そのうちいくつかの例

では -ko が同じ用言と結合していたのが特徴的であった．例えば (4-103) や (4-104) に示した例のように，chachiha-ko「さておいて」や chi-ko「～としても，～にしては」の例がそれぞれ 6 例と 5 例現れた．ただし，6 例の chachiha-ko=lato は基礎資料中の 2 作品にのみ現れた用例の合計であるため，実際にこの形で現れやすいかは，さらに規模の大きいコーパスを用いて調べる必要がある．前者の場合はたいてい =nun/=un chachiha-ko「～はさておき」として用いられるため，複合格助詞と見た方がよいかもしれない．また，chi-ko は 5 例中 4 例が ‘kuleh-ta(-ko) chi-ko=lato’ (そうだ-DECL.QUOT-(COMP) 見なす-ADV.SEQ=でも)「そうだとしても」で現れていたが，1 例は名詞に付き，助詞と見ることができる用法である．助詞としての chiko についてはすでに 2.3 で述べた．

(4-103) colliw-un kes=un chachiha-**ko**=**lato** wusen onmom=i mwucikha-ko
眠い-ADN.NPST こと=TOP さておく-ADV.SEQ=でも とにかく 全身=NOM 重苦しい-ADV.SEQ
ppekunha-ta.
だるい-DECL
졸리운 것은 차치하고라도 우선 온몸이 무직하고 뻐근하다.
「眠いのはさておいても，とにかく全身が重くだるい.」[BREO0094]

(4-104) mwulken=tul=un kuleh-ta-ko chi-**ko**=**lato** nay=ka ha-n
物=PL=TOP そうだ-DECL.QUOT-COMP 見なす-ADV.SEQ=でも 1SG=NOM する-ADN.PST
pwuthak=mace=to kkamek-e pely-e salam=tul heskelum=ul
頼み=さえ=も 忘れる-ADV CMPL-ADV.SEQ 人=PL 無駄足=ACC
sikhi-kon hay-ss-e.
させる-HAB-PST-DECL.NPOL
…물건들은 그렇다고 치고라도 내가 한 부탁마저도 까먹어버려 사람들 헛걸음을 시키곤 했어.
「…物はいいとしても，自分が頼んだことさえも忘れてしまって，よくみんなに無駄足をさせていたんだ.」[6BE00012]

他には，(4-105) から (4-107) のように -ko が kumantwu-「やめる」と結合した例が 9 例，kel-「かける」の例が 4 例，twu-「置く」の例が 3 例現れた．いずれの例においても -ko は手段の意味を表していると考えることができる．

(4-105) il=ul ha-ko siph-tamyen, kakey=nun kumantwu-**ko**=**lato** talu-n
仕事=ACC する-ADV DESI-ADV.COND 店=TOP やめる-ADV.SEQ=でも 異なる-ADN.NPST
il=ul ha-l swu iss-canh-a.
仕事=ACC する-ADN.IRR すべ ある-NEGQ-INTRR
일을 하고 싶다면, 가게는 그만두고라도 다른 일을 할 수 있잖아.
「仕事をしたいなら，店はやめてでも他の仕事ができるじゃないか.」[2CE00011]

(4-106) nay nam-un insayng=kwa cen caysan=ul kel-**ko**=**lato** ipen saken=ul
1SG:GEN 残る-ADN.PST 人生=COM 全 財産=ACC かける-ADV.SEQ=でも 今回 事件=ACC
kunyang teph-e peli-ci-n anh-ul ke=la-kwu=yo.
そのまま 覆う-ADV CMPL-NMLZ-TOP NEG-SPEC-COP:DECL.QUOT-COMP=POL

내 남은 인생과 전 재산을 걸고라도 이번 사건을 그냥 덮어 버리진 않을 거라구요.
「わたしの残りの人生と全財産をかけてでも，今回の事件をこのまま覆い隠すことはしませんよ.」[CJ000279]

(4-107) haciman choytalsik=un hanul=ul twu-**ko**=**lato** mayngseyha-l swu iss-ess-ta.
しかし PN=TOP 空=ACC 置く-ADV.SEQ=でも 誓う-ADN.IRR すべ ある-PST-DECL
하지만 최달식은 하늘을 두고라도 맹세할 수 있었다.
「しかし，チェ・ダルシクはお天道様に向かってでも誓うことができた.」[7BE03006]

■ =kkaci「まで」

-ko に =kkaci が後接する場合についても，これまでに見た他の焦点助詞との結合例と同様に，1 例を除いて全て補文節に焦点助詞が付く例であった (4-108)．補文節以外の例 (4-109) では副動詞は状態的な意味を表していると考えられる．いずれにしろ，どちらの例においても焦点助詞の =kkaci は極端の意味を表している．

(4-108) tespwuthy-ese ku emeni=nun nay=key mianha-ta-**ko**=**kkaci**
付け加える-ADV.SEQ その お母さん=TOP 1SG=DAT 申し訳ない-DECL.QUOT-COMP=まで
hay-ss-ta
言う-PST-DECL
덧붙여서 그 어머니는 내게 미안하다고까지 했다.
「付け加えて，そのお母さんはわたしに申し訳ないとまで言った.」[BREO0295]

(4-109) sinapulo keli=lul cep-e ka-mye tays kelum sai=lul twu-**ko**=**kkaci** amwuli
知らぬ間に 道=ACC 折る-ADV AND-ADV.SIM 五つの 歩き 間=ACC 置く-ADV.SEQ=まで いくら
kochy-ese ttutepo-ato ku=nun pilok pyeng=ey elkwul=un
直す-ADV.SEQ 凝視する-ADV.CONC 3SG.M=TOP たとえ 病気=DAT 顔=TOP
kkecy-ess-ulmangceng, ...
痩せこける-PST-ADV.CONC
시나브로 거리를 접어 가며 댓 걸음 사이를 두고까지 아무리 고쳐서 뜯어보아도 그는 비록 병에 얼굴은 꺼졌을망정, …
「知らぬ間に道に入り，5 歩ぐらい間を置いてまでどんなに凝視しなおしても，彼はたとえ病気で顔は痩せこけているといっても，…」[2BEXXX18]

■ =pwuthe「から」

-ko に焦点助詞 =pwuthe が後接する場合，=lato の例と同様に補文節の例がほとんど現れなかった．補文節の例は (4-110) の 1 例のみである．他の例については，(4-111) の例からわかるように先行の -ko に =pwuthe が後接し「～してから…」という開始，起点の意味が明示される．後者の例に関しては (4-112) のように =pwuthe にさらに焦点助詞の =nun が後接している例も多く見られ，165 例中 56 例 (34%) がそのような例であった．=pwuthe に後接した =nun は対照を表していると考えられる．

(4-110) appa=nun enceyna=chelem cha=lul nalu-nun congepwen enni=lul
お父さん=TOP いつでも=EQU お茶=ACC 運ぶ-ADN.NPST 従業員 お姉さん=ACC
thekcis=ulo pwulu-n taum miswuk=eykey mwe=l
あごで指示すること=INST 呼ぶ=ADN.PST 次 PN=DAT なに=ACC
mek-keyss-nunya-**ko**=**pwuthe** mwul-ess-ta.
食べる-PROB-INTRR.QUOT-COMP=から 尋ねる-PST-DECL
아빠는 언제나처럼 차를 나르는 종업원 언니를 턱짓으로 부른 다음 미숙에게 뭘 먹겠느냐고부터 물었다.
「お父さんはいつものようにお茶を出す従業員のお姉さんをあごで呼んだあと，ミスクになにを食べるのかということから尋ねた.」[CE000070]

(4-111) ung, emma=ka tolakasi-**ko**=**pwuthe** ccwuk imo-nim=hako kathi
うん お母さん=NOM 亡くなる-ADV.SEQ=から ずっと おばさん-HON=COM 一緒に
sal-ass-e.
暮らす-PST-DECL.NPOL
응, 엄마가 돌아가시고부터 쭉 이모님하고 같이 살았어.
「うん，お母さん亡くなってからずっとおばさんと一緒に暮らしたの.」[2CG00006]

(4-112) kule-n syngkak=ul ha-ki sicakha-**ko**=**pwuthe**=nun seysang=i cham=ulo
そうだ-ADN.NPST 考え=ACC する-NMLZ はじめる-ADV.SEQ=から=TOP 世界=NOM 本当=INST
talu-key poi-ney.
違う-ADV.MNN 見える-ADM
그런 생각을 하기 시작하고부터는 세상이 참으로 다르게 보이네.
「そんなことを考え始めてからというもの，世界が本当に違って見えるよ.」[4BE01004]

■ =na「でも」

-ko に 焦点助詞 =na が後接する場合，やはり補文節に付く例がほとんどであり，その他は =na が否定的なニュアンスを伴って例示「〜でも」を表すと考えられる例である．(4-113) は補文マーカーとしての -ko に =na が後接した例であるが，特にこの例のように主節の述語が ha-lkka(=yo) (言う-UNCT(=POL))「言いましょうか」であり「〜とでも言いましょうか？」という場合がほとんどであった．

(4-113) kyelhon=uy hyensilcek=i-n myen=ul ppalli kkaytal-ass-ta-**ko**=**na**
結婚=GEN 現実的=COP-ADN.NPST 面=ACC はやく 気づく-PST-DECL.QUOT-COMP=でも
ha-lkka.
言う-UNCT
결혼의 현실적인 면을 빨리 깨달았다고나 할까.
「結婚の現実的な面にはやく気づいたとでも言おうか？」[BREO0077]

(4-114) は -ko に否定的なニュアンスを伴う例示の =na が結合した例である．-ko が補文マーカーである例を除いた 24 例中，17 例は (4-115) のように al-ko=na (知る-ADV.SEQ=でも) の

形で慣用的に用いられる例であった．ただし，(4-115) に関しても，=na の意味は (4-114) と同様だと考えられる．

(4-114) sinalio=lul hanpen ilk-e po-**ko=na** yaykihay=yo.
シナリオ=ACC 一回 読む-ADV CNT-ADV.SEQ=でも 話す:IMPR=POL
시나리오를 한번 읽어보고나 얘기해요.
「シナリオをせめて一度読んでから話をしてください.」[풀하우스 15]

(4-115) pohemkum=i elma-nci al-**ko=na** ha-nun soli=yo?
保険金=NOM いくら(=COP)-INDQ 知る-ADV.SEQ=でも 言う-ADN.NPST 話=POL
보험금이 얼만지 알고나 하는 소리요?
「保険金がいくらなのか知ってて言っているのですか？」[6BE00008]

■ =ya「こそ」

-ko に焦点助詞 =ya が後接する用例を見ると，そのほとんどが迂言的形式の -ko mal-「～してしまう」 の -ko に焦点助詞が後接している例が大半であり，そのような例が 189 例が得られたのに対し，副詞節としての -ko に =ya が後接した例は 37 例のみであった．

国立国語院 (2005: 52-53) は -ko=ya を立項し，その用法について次のように記述している．

(4-116) a. 前節での行動が終わった後に初めて，後接の行動が進められることを表す．前節と後接が表すことにおいて，その前後関係が特に重要となる．

b. 【-a/e kaciko=ya の形で修辞疑問文で用いられて】前後の事実が，後接の内容を成す条件としては不足していることを表す．

c. 【-ko=ya mal-/iss-/siph- などの形で用いられて】ある行為において，おるいは感情を込めながら語る場合に，それを強調する．

(国立国語院 2005: 52; 韓国・国立国語院 2012: 55)

まず，下から (4-116c) の用法に関しては，最初に述べたように -ko mal-「～してしまう」の例は多く現れたが，これは副詞的な修飾機能を担う例ではないのでそもそも本研究の対象ではない．(4-116b) の例の場合，-a/e kaciko は副動詞接辞と見なせるが本研究の対象とはしていない．kaciko の縮約形 kacko で現れている例を (4-117) に挙げておく．

(4-117) ayu, ilay kac**ko=ya** nay=ka etteh-key sal-keyss-ni, etteh-key
INTJ こうだ:ADV.SEQ=こそ 1SG=NOM どうだ-ADV.MNN 生きる-PROB-INTRR どうだ-ADV.MNN
sal-keyss-nya-kwu…….
生きる-PROB-INTRR.QUOT-COMP
아유, 이래 갖고야 내가 어떻게 살겠니, 어떻게 살겠냐구…….
「はあ，こんなんじゃわたしがどうやって生きてくのか，どうやって生きてくのかって…」[5BE02010]

最後に本研究の対象である (4-116a) の用法を詳しく見てみよう．まず，(4-116a) の記述のとおり，-ko に =ya が接続すると，基本的には「～てはじめて」という意味を表し，しばしば

piloso「はじめて」, kyewu「やっと」などの副詞と共起する．この共起関係は (4-88), (4-89) で見た -(a/e)se=ya の例の場合と同様である．用例を (4-118), (4-119) に挙げる．

(4-118) kkoch=un ileh-key math-a po-**ko**=**ya** **piloso** coh-un cwul
花=TOP こうだ-ADV.MNN 嗅ぐ-ADV CNT-ADV.SEQ=こそ やっと よい-ADN.NPST こと
a-nun ke=ya.
知る-ADN.NPST こと=COP:DECL.NPOL
꽃은 이렇게 맡아 보고야 비로소 좋은 줄 아는 거야.
「花はこうやって嗅いでみてやっとよさがわかるんだ.」[2BEXXX18]

(4-119) kuliko cha-n elum#mwul=ul chenghay masi-**ko**=**ya** **kyewu** anceng=i
そして 冷たい-ADN.NPST 氷#水=ACC 請う:ADV.SEQ 飲む-ADV.SEQ=こそ やっと 安静=NOM
toy-ess-ta.
なる-PST-DECL
그리고 찬 얼음물을 청해 마시고야 겨우 안정이 되었다.
「そして冷たい氷水をもらって飲み，やっと落ち着いた.」[CE000025]

(4-118) は迂言的形式の例ではあったが，基礎資料中，(4-120) のように -ko が po-「見る」と結合した例が 36 例中 7 例と最も多かった．

(4-120) nachpich hana pyenchi anh-un kunye=lul po-**ko**=**ya** thayhwan=un ku
顔色 一つ 変わる:NMLZ NEG-ADN.PST 3SG.F=ACC 見る-ADV.SEQ=こそ PN=TOP その
hemha-n sangmal=i kunye=eykey=n amwu yenghyang=to michi-ci
ひどい-ADN.NPST 下品な言葉=NOM 3SG.F=DAT=TOP なんの 影響=も 及ぼす-NMLZ
anh-ass-um=ul kkaytat-nunta.
NEG-PST-NMLZ=ACC 気づく-DECL.NPST
낯빛 하나 변치 않은 그녀를 보고야 태환은 그 험한 상말이 그녀에겐 아무 영향도 미치지 않았음을 깨닫는다.
「顔色ひとつ変わらない彼女を見てやっと，テファンはそのひどく下品な言葉が彼女にはなんらの影響もなかったことに気づく.」[BREO0094]

(4-118) から (4-120) の例においては，-ko は先行という時間的関係を表していると考えられる．(4-118) から (4-120) のように -ko=ya が「〜てはじめて」という意味以外を表す用例も見られた．(4-121) は複合格助詞としての =lul/=ul kaciko に =ya が後接し，(4-122) は -ko が否定の指定詞 ani-「〜でない」と結合している例であるが，どちらの例においても反語を表す文において用いられている．この用法は (4-117) と類似している．

(4-121) ceycengsin=ul kaci-**ko**=**ya** etteh-key kule-n mal=ul hampwulo
正気=ACC もつ-ADV.SEQ=こそ どうだ-ADV.MNN そうだ-ADN.NPST 言葉=ACC むやみに
ha-nunya.
言う-INTRR.NPOL
제정신을 가지고야 어떻게 그런 말을 함부로 하느냐.
「正気でどうやってそんな言葉をむやみに口にするんだ.」[2CE00017]

(4-122) to-n nom ani-**ko=ya** namca=ka kwaynhi yeca mwe sa
狂う-ADN.PST 奴 NCOP-ADV.SEQ=こそ 男=NOM いたずらに 女 なにか 買う:ADV
cwu-nya?
BEN-INTRR.NPOL
돈 놈 아니고야 남자가 괜히 여자 뭐 사주냐?
「狂ったやつじゃなければ，男がやたらに女になにか買ってやるか？」[굿바이 솔로 6]

■ =man「だけ」

-ko に焦点助詞 =man が後接する場合もやはり (4-123) のように補文節としての用法が大半を占める．補文節ではない副詞節としての -ko に =man が後接した例は全部で 44 例であった．そのうちでも多かったのが，-myense=man, -(a/e)se=man の例で見たような，上位節の述語に sal-「住む，生きる」が現れる例で，44 例中 19 例 (40%) であった (4-124)．上位節の述語が sal- 以外の例としては，(4-125) のような例があった．(4-124), (4-125) のいずれの例においても，-ko で表される事態は上位節の事態に対して同時に起こると解釈でき，=man は限定の意味を表していると考えられる．

(4-123) kunyang twu tali=lul tachy-ess-ta-**ko=man** yaykihay-ss-ta.
ただ 二つの 足=ACC 怪我する-PST-DECL.QUOT-COMP=だけ 話す-PST-DECL
그냥 두 다리를 다쳤다고만 얘기했다.
「ただ両足を怪我したとだけ話した.」[CE000027]

(4-124) i salam=i sok-**ko=man** sal-ass-na.
この 人=NOM 騙される-ADV.SEQ=だけ 生きる-PST-INTRR
이 사람이 속고만 살았나.
「この人は騙されてばかりで生きてきたのか.」[BREO0091]

(4-125) na=nun kuleh-key phwul-e malha-ko siph-ess-ciman taman kunye=lul
1SG=TOP そうだ-ADV.MNN 解く-ADV.SEQ 言う-ADV DESI-PST-ADV.AVS ただ 3SG.F=ACC
palapo-**ko=man** se iss-ess-ta.
見つめる-ADV.SEQ=だけ 立つ:ADV DUR-PST-DECL
나는 그렇게 풀어 말하고 싶었지만 다만 그녀를 바라보고만 서 있었다.
「わたしはそんなふうに分かりやすく言いたかったが，ただ彼女を見つめて立っているだけだった.」[BREO0302]

■ =to「も」

-ko に焦点助詞 =to が後接した場合の意味についてはキム・チャンファ (2008) の研究がある．(4-126) はキム・チャンファ (2008: 6) で挙げられた -ko=to の三つの意味である．

(4-126) a. 二種類以上の性質，状態等を述べる際，形容詞の語幹に付き “kuliko, acwu”（そして，とても）の意味を表す．

b. 先行節は後行節の前提条件になる．このとき -koto は条件の意味を表す -ko と同等の資格を持つが，=to が付くことによって強調の意味を表しつつ，他のものは必要とせずとも先行節が表す意味だけでも後行節の実現が可能であることを強調する．

c. 先行節に付き，先行節と後行節の意味が相反する事態であることを表す．

(キム・チャンファ 2008: 6)

(4-126a) の例を基礎資料から挙げておこう．キム・チャンファ (2008: 6) は「そして，とても」と二つの意味を挙げているが，「そして」の方は異なる二つ以上の形容詞を -ko=to で結び，ある性質，状態を兼ね備えていることを表す (4-127) のような例であり，「とても」の方は同じ二つ形容詞を -ko=to で結び，ある性質，状態が甚だしいことを表す (4-128) のような例であると考えられる．

(4-127) palkalak sai=lo chakap-**ko=to** kancilew-un molay=ka mwulpaym=chelem
足の指 間=ALL 冷たい-ADV.SEQ=も くすぐったい-ADN.NPST 砂=NOM ウミヘビ=EQU
kietul-e w-ass-ta.
這い入る-ADV VEN-PST-DECL
발가락 사이로 차갑고도 간지러운 모래가 물뱀처럼 기어들어왔다.
「足の指の間に冷たくてくすぐったい砂がウミヘビのように這い入ってきた．」
[BREO0294]

(4-128) cwulki=ey ttally-e nao-nun kamca=chelem calmosha-n il=un
茎=DAT ついてくる-ADV.SEQ 出てくる-ADN.NPST じゃがいも=EQU 間違う-ADN.PST こと=TOP
manh-**ko=to** manh-ass-ta.
多い-ADV.SEQ=も 多い-PST-DECL
줄기에 딸려나오는 감자처럼 잘못한 일은 많고도 많았다.
「茎についてくるじゃがいものように間違ったことはかなりたくさんあった．」
[BREO0293]

キム・チャンファ (2008: 6) は (4-126b) に引用したように「-ko は条件の意味を表す -ko と同等の資格を持つが…」と記述しているが，-ko が条件を表す例は提示しておらず， -ko 単独で条件を表す用法があるのかは疑問である．(4-129) に条件を表す用例を挙げるが，この用法については 4.4 で詳しく論じる．

(4-129) tayhak=ul ka-ci anh-**ko=to** elma=tunci hwullyungha-n salam=i toy-l
大学=ACC 行く-NMLZ NEG-ADV.SEQ=も いくら=でも 立派だ-ADV.NPST 人=NOM なる-ADN.IRR
swu iss-e.
すべ ある-DECL.NPST.NPOL
대학을 가지 않고도 얼마든지 훌륭한 사람이 될 수 있어.
「大学に行かなくても，いくらでも立派な人になれる．」[BEXX0012]

(4-126c) のように逆接的な意味を表す -ko=to の用例を見てみよう．収集した用例の中では，-ko=to が知覚を表す po-「見る」, tut-「聞く」と結合した例が比較的多かったが，これ以外にも様々な動詞と結合して現れていた．(4-130) に po-「見る」の例を示す．ここでは「見ても，見たにもかかわらず」という逆接的な意味を表している．このとき -ko 自体は先行という時間的関係を表していると考えることができる．

(4-130) amwuthun monikha=nun encey=na po-**ko=to** mos po-n
とにかく PN=TOP いつも=でも 見る-ADV.SEQ=も IMPS 見る-ADN.PST
chekha-ki=lo cakcengha-ko iss-ess-e.
ふりをする-NMLZ=ALL 決心する-ADV PROG-PST-DECL.NPOL
아무튼 모니카는 언제나 보고도 못 본 척하기로 작정하고 있었어.
「とにかくモニカはいつも見ても見なてないふりをすることに決めていたんだ.」
[5BE02008]

この逆接的用法のとき，(4-131) のように上位節の述語が mocalu-「足りない」で現れ，「～ても足りない」という構文を成している例もいくつか見られた．

(4-131) kuleh-key phemasi-**ko=to** mocala-ss-te-nci sopha
そうだ-ADV.MNN やたらに飲む-ADV.SEQ=も 足りない-PST-IMPF-INDQ ソファー
mithpatak=ey=nun pan=nama pi-n socwu#pyeng=kwa ocinge=ka
底=DAT=TOP 半分=だけでも 空く-ADN.NPST 焼酎#瓶=COM イカ=NOM
nohy-e iss-ess-ta.
置かれる-ADV DUR-PST-DECL
그렇게 퍼마시고도 모자랐던지 소파 밑바닥에는 반나마 빈 소주병과 오징어가 놓여 있었다.
「あんなに飲みまくっても足りなかったのか，ソファーの下には半分だけ空いた焼酎の瓶とイカが置かれていた.」[4BE01004]

-ko と，焦点助詞の =to が付いた -ko=to に関してホン・サマン (2002: 224) は，(4-132) の例を挙げつつ，-ko のみの (4-132b) は単に事実を中立的に表しているのに対し，-ko に =to が付いた (4-132a) では「自立するというのは難しいが可能だ」あるいは「彼は自立するだけの生活力を持っている人だ」ということを含意しているのだという．

(4-132) a. nam=uy son=ul pilli-ci anh-**ko=to** sal-a ka-nta.
他人=GEN 手=ACC 借りる-NMLZ NEG-ADV.SEQ=も 生きる-ADV AND-DECL.NPST
남의 손을 빌리지 않고도 살아간다.
「他人の手を借りなくても生きていく.」

b. nam=uy son=ul pilli-ci anh-**ko** sal-a ka-nta.
他人=GEN 手=ACC 借りる-NMLZ NEG-ADV.SEQ 生きる-ADV AND-DECL.NPST
남의 손을 빌리지 않고 살아간다.
「他人の手を借りずに生きていく.」

(ホン・サマン 2002: 224)

ここに引用した (4-132) では -ko に =to が後接しない場合の例も文法的であるが，これに対して =to が後接しないと非文法的になる場合もあるとして，任 (2005: 184) では次の (4-133) を提示している．

(4-133) a. kuleh-key tangha-**ko=to** ku salam=ul salanghay.
そうだ-ADV.MNN やられる-ADV.SEQ=も その 人=ACC 愛する:DECL.NPOL
그렇게 당하고도 그 사람을 사랑해.
「あんなにひどい目にあってもあの人を愛してる．」

b. *kuleh-key tangha-**ko** ku salam=ul salanghay.
そうだ-ADV.MNN やられる-ADV.SEQ その 人=ACC 愛する:DECL.NPOL
* 그렇게 당하고 그 사람을 사랑해.
「あんなにひどい目にあってあの人を愛してる．」

(任 2005: 184)

このような事実は焦点助詞の任意性に関わり，-ko=to を一つの副動詞接辞と見なすことも可能かもしれない．しかし，そうした場合，(4-132a) の場合の -ko=to は副動詞接辞 -ko に焦点助詞の =to が結合したものとして分析され，(4-133a) の -ko=to は副動詞接辞と分析されることになる．このように分析した場合，(4-132a) と (4-133a) の一貫性が見えなくなってしまうと考えられるため，本研究では (4-133a) の場合も副動詞接辞に焦点助詞が後接したものと考えておく．

■ =nun/=un「は」

-ko に =nun が後接した -ko=nun の意味，統語的特徴については，ユ・ユヒョン (2014) がコーパスを用いて詳しく調査している．ユ・ユヒョン (2014) も述べているとおり， -ko=nun の意味は大きく (4-134) のように先行という時間的関係を表す場合と，(4-135) のように条件を表す場合とがある．

(4-134) sunga=nun mwul=ul masi-**ko=nun** supkwancek=ulo san=i poi-nun chang
PN=TOP 水=ACC 飲む-ADV.SEQ=TOP 習慣的=INST 山=NOM 見える-ADN.NPST 窓
ccok=ulo ka-nta.
側=ALL 行く-DECL.NPST
승아는 물을 마시고는 습관적으로 산이 보이는 창 쪽으로 간다.
「スンアは水を飲むと，習慣的に山が見える窓の方に行く．」[5BE02011]

(4-135) kkok ha-ko siph-ko cengmal ha-ci anh-**ko=nun** kyenti-l swu
必ず する-ADV DESI-ADV.SEQ 本当に する-NMLZ NEG-ADV.SEQ=TOP 耐える-ADN.IRR すべ
eps-nun il=man ha-myense sal-ko siph-e.
ない-ADN.NPST こと=だけ する-ADV.SIM 生きる-ADV DESI-DECL.NPST.NPOL
꼭 하고 싶고 정말 하지 않고는 견딜 수 없는 일만 하면서 살고 싶어.
「どうしてもしたくて，本当にしなかったら耐えられないことだけしながら生きたいんだ．」[BREO0329]

その他，研究対象外ではあるが，(4-136) のように -ko に焦点助詞の =nun が後接し，さらに後に ha-「する」が続くことで習慣の意味を表す迂言的形式が存在する．

(4-136) kulena yecenhi kunye=nun akmong=ul kkwu-**ko**=**nun** hay-ss-ta.
しかし 依然として 3SG.F=TOP 悪夢=ACC 夢見る-ADV.SEQ=TOP する-PST-DECL
그러나 여전히 그녀는 악몽을 꾸고는 했다.
「しかし，依然として彼女は悪夢を見ていた．」[BREO0290]

(4-135) は「本当にやらなければ耐えられない…」というように条件を表している．このような例については 4.4 で他の例とともに論じることにし，ここでは (4-134) のように -ko=nun が先行の意味を表す場合について少し詳しく見ていく．次の (4-137) は -ko=nun が広い意味で先行を表している例である．ユ・ユヒョン (2014: 235) によれば，(4-137a) のように上位節の事態に先行して -ko=nun で表される事態が起こる例が 299 用例中 259 で 86.62%，残りの 40 例 (13.38%) は，(4-137b) のように -ko=nun の事態が先行し，なおかつ上位節の事態と時間的な重なりがある例であったということである．しかし，他のコーパス (SJ-RIKS Corpus) を調査したところ，(4-137c) のように，-ko=nun が先行というよりも上位節の事態と同時に起こるような例も見られたが，このような例はほんのわずかであったという (ユ・ユヒョン 2014: 235).

(4-137) a. cwuin=un milyen epsi na=lul kkenay cwu-**ko**=**nun** kheyikhu=lul
主人=TOP 未練 なしで 1SG=ACC 取り出す:ADV.SEQ あげる-ADV.SEQ=TOP ケーキ=ACC
tul-ko ttenaka pely-ess-ta.
持つ-ADV.SEQ 立ち去る:ADV CMPL-PST-DECL
주인은 미련없이 나를 꺼내 주고는 케이크를 들고 떠나가 버렸다.
「主人はあっさりとわたしを取り出して渡すと，ケーキを持って立ち去ってしまった．」(돈의여행)

b. wuli=nun thayksi=lul cap-a tha-**ko**=**nun** sinay cwungsimka=lo
1PL=TOP タクシー=ACC 捕まえる-ADV.SEQ 乗る-ADV.SEQ=TOP 市内 中心街=ALL
naw-ass-ta.
出てくる-PST-DECL
우리는 택시를 잡아 타고는 시내 중심가로 나왔다.
「わたしたちはタクシーを捕まえて乗ると，市内の中心街に出てきた．」(어둠)

c. halmeni=nun sonswuley=lul kkul-**ko**=**nun** i kolmok ce kolmok=ul
おばあさん=TOP 手押し車=ACC 引く-ADV.SEQ=TOP この 小道 あの 小道=ACC
kiwuskeli-mye tolatany-ess-supnita.
のぞきこむ-ADV.SIM 歩き回る-PST-DECL.POL
할머니는 손수레를 끌고는 이 골목 저 골목을 기웃거리며 돌아다녔습니다.
「おばあさんは手押し車を押して，あちこちの小道をのぞきこみながら歩き回りました．」(종이먹는개로로)

(ユ・ユヒョン 2014: 235)

ここで重要なのは，蔡琬 (1975) が指摘しているように，焦点助詞の =nun が -ko に後接可能なのは，(4-137) の例のように，-ko で表される事態が，上位節の事態より時間的に先行する場合のみということである．-ko が先行ではなく列挙の意味の場合には，-ko=nun は用いられない (4-138).

(4-138) *swuni=ka nolay=lul pwulu-**ko**=**nun** yengi=ka phiano=lo yencwu=lul ha-nta.
PN=NOM 歌=ACC 歌う-ADV.SEQ=TOP PN=NOM ピアノ=INST 演奏=ACC する-DECL.NPST
* 순이가 노래를 부르고는 영이가 피아노로 연주를 한다.
「直訳：スニが歌を歌ってはヨンイがピアノで演奏をする.」(蔡琬 1975: 109)

また，-ko=nun の =nun について，ユ・ユヒョン (2014) は名詞句に付くときと同じように主題を表していると見ている．このことは次の (4-139), (4-140) によって例証されている．例文の下線は引用者によるものである．(4-139) の質問「顔洗ってから歯磨いたの？」に対する答えとしては，質問の解釈によって (4-139-i) から (4-139-iv) までの 4 通りの答えが可能である．(4-139-i) は「顔を洗って，歯磨きをしたか」，(4-139-ii) は顔を洗ったことは承知のうえで「そのあと歯磨きをしたか」，(4-139-iii) は歯磨きをしたことは承知のうえで「顔を洗ったあと歯磨きをしたか」，(4-139-iv) は「顔を洗ってから歯を磨くという順番を守ったか」という解釈に対する答えである (ユ・ユヒョン 2014: 240).

(4-139) Q: seyswuha-**ko** i takk-ass-ni?
洗顔する-ADV.SEQ 歯 磨く-PST-INTRR
세수하고 이 닦았니?
「顔を洗ってから歯磨いたの？」

A: i. ung, seyswu=to ha-ko i=to takk-ass-e.
うん 洗顔=も する-ADV.SEQ 歯=も 磨く-PST-DECL.NPOL
응, 세수도 하고 이도 닦았어.
「うん，顔も洗って，歯も磨いた.」

ii. ung, i takk-ass-e.
うん 歯 磨く-PST-DECL.NPOL
응, 이 닦았어.
「うん，歯磨いた.」

iii. ung, seyswuhay-ss-e.
うん 洗顔する-PST-DECL.NPOL
응, 세수했어.
「うん，顔洗った.」

iv. ani, i takk-ko seyswuhay-ss-e.
いや 歯 磨く-ADV.SEQ 洗顔する-PST-DECL.NPOL
아니, 이 닦고 세수했어.
「いや，歯磨いて，顔洗った.」(ユ・ユヒョン 2014: 240)

その反面，-ko=nun が用いられた (4-140) の質問に対しては，上の例文の (4-139-ii) の答えが期待される．

(4-140) Q: **seyswuha-ko=nun** i takk-ass-ni?
洗顔する-ADV.SEQ=TOP 歯 磨く-PST-INTRR
Q: 세수하고는 이 닦았니?
「顔を洗ってから歯磨いたの？」(ユ・ユヒョン 2014: 240)

ユ・ユヒョン (2014: 240-241) によれば，(4-139), (4-140) のような現象は，疑問文のときだけでなく，命令文のときにも当てはまるという．ユ・ユヒョン (2014: 239-242) の主張を要約すると，-ko=nun における =nun は主題を表す．主題とはつまり，情報構造的には話し手と聞き手が共有する既知の情報であり，そのため，(4-140) でいえば ‘seyswuha-ko=nun” は旧情報として扱われるので，主節の “i takk-ass-ni?” のみが疑問の焦点になるということである．

-ko=nun に関しても，-taka=nun, -(a/e)se=nun とともに 4.4 で事態の連続性を表す例，条件を表す例について詳述する．

■ 「-ko + 焦点助詞」のまとめ

副動詞接辞 -ko は焦点助詞との結合例が 9 個あったなか，-ko が補文節として機能している例が多かった．これは -(a/e)se が複合格助詞である例が多かったこととも類似している．-ko との結合において，焦点助詞 =pakkey と =kkaci はほとんどが補文節の例で，=na と =man に関しても補文節の例が多かった．その反面，=lato, =pwuthe, =ya は =pwuthe の 1 例を除いては補文節の例はなかった．-(a/e)se においても複合格助詞の例が少なかったのは =pwuthe と =ya であった．ただし -ko=ya については -ko が副詞的に振る舞う例はそれほど多くなく，補助動詞を導く場合が多かった．

4.3.6 「-nikka + 焦点助詞」の統語，意味

副動詞接辞 -nikka に結合できる焦点助詞は主題を表す =nun のみである．ナム・ギシム (1994: 121-122) は，(i) -nikka と同じく理由を表す副動詞接辞 -ni には焦点助詞 =nun が結合しないこと，(ii) -nikka=nun を副動詞接辞 -nikka と焦点助詞 =nun とに分析できる場合，=nun は「強調」を表す助詞として考えられること，(iii) コーパスの調査によると，=nun が -nikka に後接する場合は，縮約形の =n で現れる場合が多く，これは -nikka が話しことばで多く用いられためであることを指摘している．(i) について，副動詞接辞 -ni は本研究の対象ではないため扱わないこととし，先行研究の指摘 (ii), (iii) について検討してみる．

まず (iii) に関して，基礎資料に現れた例を見ると，-nikka に後接する焦点助詞としては =nun が 21 例だったの対し，その縮約形である =n は 524 例であり，たしかに先行研究の指摘のとおり =n の方が多い．ただし，この結果は (4-141) のように -nikka=nun/-nikka=n が副詞節述語の場合と，(4-142) のように「副動詞接辞 + 焦点助詞」のみで主節述語となっている場合の両方を含む．後者のような例については第 6 章で詳しく扱う．

(4-141) ta=tul hakkyo=lo moi-nta-ko ha-**nikka=n** wuli=to
みんな=PL 学校=ALL 集まる-DECL.QUOT-COMP 言う-ADV.CSL=TOP 1PL=も
ka-ca-kwu.
行く-COHR.QUOT-COMP
다들 학교로 모인다고 하니깐 우리도 가자구.
「みんな学校に集まるって言うから，うちらも行こうよ.」[BREO0078] ［副詞節］

(4-142) apenim=un kule-n pwun=i-**nikka=n**=yo.
父.HON=TOP そうだ-ADN.NPST 方=COP-ADV.CSL=TOP=POL
아버님은 그런 분이니깐요.
「父はそういう人ですから.」[2CE00012] ［主節］

次に (ii) に関して，上の (4-141), (4-142) の例でも見たように，焦点助詞の =n が付け加えられても，なんら意味の変化は見いだせない．すでに引用したようにナム・ギシム (1994) は =nun/=n は「強調」を表すと述べているが，一体なにを強調しているのかはっきりしないばかりでなく，そもそも強調というラベル自体が曖昧である．用例を見てみると，-nikka=n の用例 524 例中，306 例 (約 60%) は， (4-142) のように -nikka=n が主節として現れ，これのみで文が完結している例であった．このことから考えると，焦点助詞の =nun (=n) が後接することによって，副詞節の独立性が増し，そこでいったん切れるニュアンスを与えているのかもしれない．

4.3.7 「-myen + 焦点助詞」の統語，意味

副動詞接辞 -myen に結合しうる焦点助詞は =ya と =nun/=un の二つのみである．以下，順に見ていく．

■ =ya「こそ」

=ya が結合する例は全部で 97 例であった．そのうちの 74 例 (76%) は引用形となっている例であった．-myen が引用形となった {-nta (叙述) / -nya (疑問) / -ca (勧誘)/ -la (命令)}-myen は，日本語の「なら」のように，従属節で述べられる事柄を前提として，主節で話し手の考えを述べたりする場合に用いられる．

=ya が結合した場合の意味は，この焦点助詞の「当然」という意味と，すでに見た，反語に使われる場合の =ya のようにモーダルな意味を表す場合がある．それぞれの例を (4-143), (4-144) に挙げる．(4-143) は「先生さえ大丈夫なら (当然)」というように =ya の意味が付け加えられている． (4-144) は「お金があったらなら」という前提条件を，話者が実現可能性が低いものとして考えていると解釈できる．

(4-143) hecaypong sensayng=man kwaynchanh-ta-**myen=ya** cehuy=n mwuncey
PN 先生=だけ 大丈夫だ-DECL.QUOT-ADV.COND=こそ 1PL=TOP 問題
eps-ci=yo.
ない-ASS=POL

허재봉 선생만 괜찮다면야 저흰 문제 없지요.
「ホ・ジェボン先生さえ大丈夫なら，わたしたちは問題ないですよ.」[2CJ00029]

(4-144) ton=man iss-ta-**myen=ya** seysang=i elma=na hayngpokha-ni?
お金=だけ ある-DECL.QUOT-ADV.COND=こそ 世界=NOM いくら=でも 幸せだ-INTRR
돈만 있다면야 세상이 얼마나 행복하니?
「お金さえあったなら，世界はどれほど幸せだい？」[BREO0078]

引用形を含まない -myen=ya も上の (4-143), (4-144) と同じような意味を表していると考えられる．ちなみに，この 23 例中 5 例は 2.3 で扱った，主題を表す kath**umyen** に =ya が後接した例だった．

■ =nun/=un「は」

-myen に =un が後接した例は，話しことばの例しか現れなかった．(4-145) における =un は取り去ってしまってもなんら意味の変化はない．これらの点については -nikka に =nun が後接した例 (4-142) と類似した特徴を見せるが，-myen=un は -nikka=nun のように主節述語になっている例もなく，節の独立度という観点からも焦点助詞の有無により差異がはっきりしない．

(4-145) o-**myen=un** caseyha-n yayki=lul hayya-cyo.
来る-ADV.COND=TOP 詳しい-ADN.NPST 話=ACC する:OBLG-ASS:POL
오면은 자세한 얘기를 해야죠.
「(カンジェが) 来たらば詳しい話をしましょう.」[2CE00003]

4.3.8 「-nuntey/-ntey + 焦点助詞」の統語，意味

-nuntey/-ntey に結合する焦点助詞は，基礎資料を調査した限りでは =ya と =to のみが現れた．ただし，話しことばにおいては =n (=nun) が結合したと考えられる例も散見される．=n が結合した例については，資料の限界もあるため本研究では簡単に言及するのみとする．

■ =ya「こそ」

=ya が結合する場合，=ya の「当然」という意味が反映されると考えられる．(4-146), (4-147) を見ると，「ああまでするんだから，(当然)…」というように，=ya の意味がよく表されている．

(4-146) kuleh-key=kkaci nao-**nuntey=ya** kwuti kecelha-l swu=ka eps-ess-ta.
そうだ-ADV.MNN=まで 態度を取る-ADV.AVS=こそ 無理に 断る-ADN.IRR すべ=NOM ない-PST-DECL
그렇게까지 나오는데야 굳이 거절할 수가 없었다.
「あんな態度を取るんだから，無理に断ることもできなかった.」[CE000072]

(4-147) celeh-key=kkaci ha-**nuntey=ya** tolly-e cwu-l pakk=ey…
ああだ-ADV.MNN=まで する-ADV.AVS=こそ 返す:ADV.SEQ あげる-ADN.IRR しか=DAT

저렇게까지 하는데야 돌려 줄 밖에…
「ああまでするんだから，返してあげるしか…」[CE000025]

■ =to「も」

-nuntey/-ntey が表す意味は様々あるが，=to が結合すると，「～なのに」という逆接の意味を表す．-nuntey/-ntey=to の例は全部で 2154 例であった．用例を観察すると，時間を表す例が多いという特徴を見いだすことができる．例えば，taynac=i-ntey=to「真昼なのに」(13 例), pam=i-ntey=to「夜なのに」(10 例), hannac=i-ntey=to「真昼なのに」(6 例), ~wel=i-ntey=to「～月なのに」(6 例) などがあり，名詞述語の例の他にも [時間が] cina-ss-nuntey=to「[時間が] 過ぎたのに」(30 例) が現れた．(4-148) に taynac=i-ntey=to「真昼なのに」の例を挙げる．

(4-148) taynac=i-**ntey**=**to** sapang=i pam=chelem etwuw-ess-ta.
真っ昼間=COP-ADV.AVS=も 四方=NOM 夜=EQU 暗い-PST-DECL
대낮인데도 사방이 밤처럼 어두웠다.
「真っ昼間なのに四方が夜のように暗かった．」[2CE00008]

その他，-nuntey/-ntey=to に pwulkwuhako「かかわらず」が続く例も 69 例現れたのが特徴的だった (4-149).

(4-149) nalssi=ka kkway chwuwu-**ntey**=**to** pwulkwuhako ihuychan PD=uy
天気=NOM かなり 寒い-ADV.AVS=も かかわらず PN プロデューサー=GEN
ima=eyse ttam=i hull-ess-ta.
額=ABL 汗=NOM 流れる-PST-DECL
날씨가 꽤 추운데도 불구하고 이희찬 PD 의 이마에서 땀이 흘렀다.
「天気がかなり寒いにもかかわらず，イ・ヒチャンプロデューサーの額から汗が流れた．」[5BE01013]

■ =nun/=un「は」

今回の基礎資料を調査した結果，-nuntey/-ntey に -nun が結合する例は確認できなかったが，実際は話しことばにおいて，-nuntey/-ntey=n という形が見られることがある．次の (4-150) は「Yahoo!知恵袋」のような韓国の質問掲示板から引用した例である．このような例も (4-145) で挙げた -myen=un と同様に，特に焦点助詞がどんな機能を果たしているのか見いだせない．

(4-150) cwungko#kelay=lul hay-ss-**nuntey**=**n** nemwu mwusew-e=yo T_T
中古#取り引き=ACC する-PST-ADV.AVS=TOP とても 怖い-DECL=POL
중고거래를 했는덴 너무 무서워요ㅠㅠ
「中古取り引きをしたんですけど，かなり怖いです T_T」[NAVER 지식 iN の質問より] [6]

[6] URL は https://kin.naver.com/qna/zdetail.nhn?d1id=6&dirId=602&docId=166045060&qb=7ZaI64qU6420&enc=utf8&section=kin&rank=2&search_sort=0&spq=0.（最終閲覧日：2018 年 8 月 10 日）

4.4　条件／逆条件を表す「副動詞 + 焦点助詞」

上述したように，ここでは副動詞接辞に主題，あるいは対照を表す焦点助詞 =nun/=un が後接し条件を表す例，添加や極端の意味を表す焦点助詞 =to が後接し逆条件を表す例をより詳しく扱う．日本語で「〜してはいけない」というとき「テ + 主題標識」が条件を表し，「〜してもいい」というときに「テ + モ」が逆条件を表すような現象が朝鮮語でも見られる．以下では，「副動詞接辞 + =nun/=un」が条件を表す例と「副動詞接辞 + =to」が逆条件を表す例について，それぞれの統語，意味的特徴について記述したうえで，なぜ時間的関係を表す副動詞接辞に焦点助詞が付くことで条件や逆条件を表すのかについて論じる．そして，本研究では先行する事態が後行する事態に対して因果関係を持つと解釈されることで条件，逆条件の解釈がなされると主張し，ここで焦点助詞の =nun/=un は対照，=to は極端の意味を表していることを明らかにする．

4.4.1　条件を表す「副動詞 + =nun/=un」の統語，意味

「副動詞接辞 + =nun/=un」が条件を表す例については -(a/e)se=nun, -ko=nun, -taka=nun と，これに過去接辞が結合した -(a/e)ss-taka=nun を中心に扱う．その他，本研究の対象とはしていないものの，-(a/e)se や -ko と同様に継起的な意味を表す副動詞接辞 -kose に =nun が後接した -kose=nun も条件を表すことがあるため，このような例についても簡単に言及する．副動詞接辞に焦点助詞 =nun が結合し条件を表すのは，具体的に (4-151) から (4-153) のような例である．

(4-151)　siki=lul　nohchy-**ese=nun** an　tway.
時機=ACC 逃す-ADV.SEQ=TOP NEG なる:DECL.NPST.NPOL
시기를 놓쳐서는 안 돼.
「時機を逸してはいけない．」=(4-100)

(4-152)　kkok ha-ko　siph-ko　cengmal ha-ci　anh-**ko=nun**　kyenti-l　swu
必ず　する-ADV DESI-ADV.SEQ 本当に　する-NMLZ NEG-ADV.SEQ=TOP 耐える-ADN.IRR すべ
eps-nun　il=man　ha-myense　sal-ko　siph-e.
ない-ADN.NPST こと=だけ する-ADV.SIM 生きる-ADV DESI-DECL.NPST.NPOL
꼭 하고 싶고 정말 하지 않고는 견딜 수 없는 일만 하면서 살고 싶어.
「どうしてもしたくて，本当にしなかったら耐えられないことだけしながら生きたいんだ．」 =(4-135)

(4-153)　kkattak calmosha-**taka=nun** khu-n　kho=lul tachi-keyss-e.
うっかり 間違う-ADV.DISC=TOP　大きい-ADN.NPST 鼻=ACC　怪我する-PROB-DECL.NPOL
까딱 잘못하다가는 큰코를 다치겠어.
「うっかり間違ったらひどい目に遭うよ（lit. 大きい鼻を怪我するよ）．」[BREO0090]

これらの例が条件を表しているということは，例えば (4-151) の例において -(a/e)se=nun を典型的な条件を表す副動詞接辞 -myen と置き換えが可能なことからもわかる．

(4-154) siki=lul nohchi-**myen** an tway.
時機=ACC 逃す-ADV.COND NEG なる:DECL.NPST.NPOL
시기를 놓치면 안 돼.
「時機を逸してはいけない．」 [(4-151) を一部変更]

以下ではまず副動詞接辞に焦点助詞 =nun が付いた -(a/e)se=nun, -ko=nun, -taka=nun および -(a/e)ss-taka=nun の統語的，意味的特徴について記述する．

■ -(a/e)se=nun

金智賢 (2018: 149) でも指摘しているように，-(a/e)se=nun はほとんどの場合において後続する節の述語は antoy-「駄目だ」で現れる．主節に勧誘形や命令形は現れないものの，推量等のモダリティ表現に制限はなさそうである．例 (4-155) では主節に -l kes kath-「〜だと思う，〜(し) そうだ」が含まれている．

(4-155) haciman mwe=la-ko ha-lkka, kuce hungpwunha-n mosup=ul
しかし なに=COP:DECL.QUOT-COMP 言う-UNCT ただ 興奮する-ADN.PST 姿=ACC
poi-ki=man hay-**se**=**nun** an toy-l kes kath-a=yo.
見せる-NMLZ=だけ する-ADV.SEQ=TOP NEG なる-SMBL.IRR-DECL=POL
하지만 뭐라고 할까, 그저 흥분한 모습을 보이기만 해서는 안 될 것 같아요.
「でも，なんと言うか，ただ興奮した姿ばかり見せては駄目だと思うんです．」
[5BE02008]

(4-155) のような後続する節の述語が antoy-「駄目だ」以外の例も見られたが，やはり否定的な意味を持つものに限られる． (4-156) は， konlanha-「困る」であり，(4-157) は不可能形になっている．

(4-156) sasil, ileh-key cali=lul piw-**ese**=**nun** konlanha-ketun=yo.
事実 こうだ-ADV.MNN 席=ACC 空ける-ADV.SEQ=TOP 困る-EXPL=POL
사실, 이렇게 자리를 비워서는 곤란하거든요.
「実はこうやって席をはずしては困るんですよ．」[4BE99003]

(4-157) ike=n mal=lo hay-**se**=**nun** nukki-l swu eps-e.
これ=TOP 言葉=INST 言う-ADV.SEQ=TOP 感じる-ADN.IRR すべ ない-DECL.NPST.NPOL
이건 말로 해서는 느낄 수 없어.
「これは言葉にしたら感じることができないよ．」[BEXX0012]

-(a/e)se=nun が表す条件の意味については，金智賢 (2018) が日本語の「ては」と対照しながら詳しく調査している．その結果を表 33 に示す．

表 33　条件の「ては」と -(a/e)se=nun (金智賢 2018: 154)

	仮説的条件	事実的仮説条件	反事実的条件	一般条件	過去の評価	一回性の事実的事態	評価的用法
ては	○	○	△	○	○	△	○
-(a/e)se=nun	○	○	×	○	△	×	○

表 33 を見ると，日本語の「ては」より朝鮮語の -(a/e)se=nun が表す条件の意味は限定的だということがわかる．ただ，-(a/e)se=nun はこのようにいくつかの条件の意味を表すとはいえ，多くの例で上位節が否定的な内容になることには変わらず，antoy-「駄目だ」などを含み「評価的用法」が多いと言える．

たしかに上位節が否定的なニュアンスを持つ例が多いものの，用例の中には主に ‘maum/sayngkak/kipwun kath-ase=nun’「(自分の) 気持ち／考え／気分としては」 の形で用いられ，仮定的な条件の意味を表していると考えられる例もあった．このような例では，上位節の述語が -ko siph-「～(し) たい」のような願望や，意志／推量のモダリティを含むことが多く，特に否定的な意味を表していなくとも自然な文になるようである．

(4-158)　sayngkak kath-**ase=nun**　tangcang pakk=ulo nase-ko siph-ess-ta.
考え　同じだ-ADV.SEQ=TOP すぐに　外=ALL　出る-ADV DESI-PST-DECL
생각 같아서는 당장 밖으로 나서고 싶었다.
「自分の考えとしてはすぐに外へ出たかった．」[4BE00014]

(4-159)　yocum kath-**ase=nun**　chalali kule-nun　key　na-l kes kath-a=yo.
最近　同じだ-ADV.SEQ=TOP むしろ　そうする-ADN.NPST こと:NOM ましだ-SMBL.IRR-DECL=POL
요즘 같아서는 차라리 그러는 게 날 것 같아요.
「最近ではむしろそうした方がよさそうですよ．」[2CE00019]

■ -ko=nun

ユ・ユヒョン (2014: 251) は条件表現として -ko=nun が用いられる場合を三つに分類している．一つ目は経験的事実を一般化した場合 (4-160a)，二つ目は参照時の現状態を維持したならば，期待する状況にならないという警告を通して変化をもくろむ場合 (4-160b)，三つ目は先行する事態の起こることが確実な場合に，それを条件に行動しようとする場合 (4-160c) である．(4-160b) は -a/e kaciko が一つの副動詞接辞とみなせるため，-ko の例とは異なる．(4-160c) のような条件節に後続する節で勧誘表現を伴う例は，今回コーパスを調査した限りでは得られなかった．

(4-160) a. maum=ey mac-ci anh-nun il=ul po-**ko=nun** nay il
気持ち=DAT 合う-NMLZ NEG-ADN.NPST こと=ACC 見る-ADV.SEQ=TOP 1SG:GEN こと
nam=uy il kali-m epsi yongkamha-key tempyetul-ko=ya ma-nun
他人=GEN こと 選ぶ-NMLZ なしで 勇敢だ-ADV.MNN くってかかる-ADV=こそ CMPL-ADN.NPST
apeci=uy yupyelna-n sengkyek.
父=GEN 風変わりだ-ADN.NPST 性格
마음에 맞지 않는 일을 보고는 내 일 남의 일 가림 없이 용감하게 덤벼들고야 마는 아버지의 유별난 성격.
「気に入らないことを見ると，自分のことだろうと他人のことだろうと関係なく勇敢にくってかかってしまう父の風変わりな性格.」

b. po-ta mosha-n cwuin#acessi=ka ilay kaci**ko=nun** mos
見る-(し)きれない-ADN.PST 主人#おじさん=NOM こうだ:ADV.SEQ=TOP IMPS
kolu-nta-ko, ta kukey kuke-pnita ha-ko phincan=ul
選ぶ-DECL.QUOT-COMP 全部 それ:NOM それ(=COP)-DECL.POL 言う-ADV.SEQ 面責=ACC
cwu-ess-ta.
くれる-PST-DECL
보다 못한 주인아저씨가 이래 가지고는 못 고른다고, 다 그게 그겁니다 하고 핀잔을 주었다.
「見るにみかねた主人のおじさんに，こんなんじゃ選べないと，全部似たり寄ったりですよと責められた.」

c. kuliko ilkwa=ka kkuthna-**ko=nun** ta kathi moy-ese chengso=lul
そして 日課=NOM 終わる-ADV.SEQ=TOP みんな 一緒に 集まる-ADV.SEQ 掃除=ACC
ha-ki=lo ha-ca.
する-NMLZ=ALL する-COHR
그리고 일과가 끝나고는 다 같이 모여서 청소를 하기로 하자.
「あと日課が終わったら，みんな一緒に集まって掃除をすることにしよう.」

(ユ・ユヒョン 2014: 251-252)

ユ・ユヒョン (2014: 251-252) の挙げている (4-160) では -ko=nun 節の述語は否定形になっていないが，基礎資料を調査したところ -ko=nun は後続する節に不可能を表す内容が来る例が大半であり，条件節のほうも否定形となる例が多い．だいたいにおいて「X でなければ，Y できない」と言うことで ‘X’ の必要性を述べる．この点に関しては，今回の研究対象ではないが，(4-162) のように副動詞接辞 -kose「〜(し) てから」に =nun が後接した -kose=nun も同様の傾向を見せる．

(4-161) tangsin=un pikko-ci anh-**ko=nun** tayhwa=lul mosha-nun
あなた=TOP 皮肉る-NMLZ NEG-ADV.SEQ=TOP 対話=ACC できない-ADN.NPST
moyang=i-cyo?
様子=COP-ASS:POL
당신은 비꼬지 않고는 대화를 못하는 모양이죠?

「あなたは皮肉らなければ対話をできないようですね？」[5BE02009]

(4-162) ne=lul manna-ci anh-**kose=nun** icey=pwuthe na=n amwukes=to
2SG=ACC 会う-NMLZ NEG-ADV.SEQ=TOP 今=から 1SG=TOP なに=も
mosha-l kes=man kath-ass-e.
できない-ADN.IRR こと=だけ SMBL-PST-DECL.NPOL
너를 만나지 않고서는 이제부터 난 아무것도 못할 것만 같았어.
「お前に会わないと，もうぼくは何もできないとしか思えなかったんだ.」[7BE03005]

基礎資料にも (4-163) のように，条件節が否定形ではない例も否定形に比べると少ないが見られる.

(4-163) na=n nwukwu=eykey=to pic ci-**kose=nun** mos sa-nun
1SG=TOP 誰=DAT=も 借金 負う-ADV.SEQ=TOP IMPS 生きる-ADN.NPST
sengmi=ya.
性分=COP:DECL.NPOL
난 누구에게도 빚 지고는 못 사는 성미야.
「おれは誰に対しても借金を負っては生きていけない性分なんだ.」[2CE00001]

また，すでに挙げた例 (4-152) のように，特に -ko=nun が否定形と結合しているときは後続する節の述語が kyenti-l swu eps-, kyenti-ci mosha- 等，kyenti-「耐える」の不可能形や payki-l swu eps-, payki-ci mosha- 等，payki-「こらえる」の不可能形で現れることが多いのが特徴である.

■ -taka=nun / -(a/e)ss-taka=nun

ここでは -taka=nun と過去接辞を伴う -(a/e)ss-taka=nun をともに見ていく．先に結論を述べれば，この二つは，後者がより仮定的な意味を表すという点で差異があるようである．まずは過去接辞の付かない -taka=nun を見てよう．-taka=nun は -taka の時間的な意味「～している途中で」をある程度残しており，-taka=nun 節の出来事はすでに実現している事実である．よって -taka=nun は多くの場合「（このまま）X ならば，Y だ」といった意味を表す．後続する節の事態は，ここまで見てきた例と同じように否定的な内容が多い．(4-164) では「目が見えなくなる」という否定的なニュアンスの内容になっている.

(4-164) kule-n kunye=lul ciksiha-**taka=nun** nwun=i mel-e
そうだ-ADN.NPST 3SG.F=ACC 直視する-ADV.DISC=TOP 目=NOM 見えなくなる-ADV
peli-l kes kath-ass-ta.
CMPL-SMBL.IRR-PST-DECL
그런 그녀를 직시하다가는 눈이 멀어버릴 것 같았다.
「そんな彼女を直視していたら目が見えなくなりそうだった.」[BREO0282]

日本語の「このままいくと」のように，決まった言い回しとして ‘ilehkey / itaylo ka-taka=nun’ が見られた.

(4-165) oppa, ileh-key ka-**taka=nun** antoy-l kes kath-ay.
お兄さん こうだ-ADV.MNN 行く-ADV.DISC=TOP 駄目だ-SMBL.IRR-DECL.NPOL
오빠, 이렇게 가다가는 안될 것 같애.
「ヨンホさん，このままいくと駄目だと思うよ.」[2CE00001]

一方，-(a/e)ss-taka=nun は -(a/e)ss-taka の時間的な意味「〜してから」をある程度残しており，過去接辞を含まない -taka=nun より仮定的な意味を表す．用例を考察すると，(4-166) のように副詞 cachis「まかり間違って」と共起する例がいくつか見られた．

(4-166) **cachis** heswulha-n thum=ul namky-ess-**taka=nun** ta toy-n il=ul
まかり間違って 粗末だ-ADN.NPST 隙=ACC 残す-PST-ADV.DISC=TOP 全て なる-ADN.PST こと=ACC
mangchi-l swu=to iss-ta.
台無しにする-ADN.IRR すべ=も ある-DECL
자칫 허술한 틈을 남겼다가는 다된 일을 망칠 수도 있다.
「まかり間違ってお粗末な隙でも残したら，あと一歩というところで全部台無しになることもありえる.」[3BE00001]

-(a/e)ss-taka=nun は manyak(ey)「もしも」と共起する例がいくつか見いだせたことから，これがより仮定的な意味を表すと考えられる.[7]

(4-167) **manyak=ey** tto kwuho=lul oychy-ess-**taka=n** mocoli yenhayngha-l they-ni
もし=DAT また スローガン=ACC 叫ぶ-PST-ADV.DISC=TOP 全て 連行する-SPEC-ADV.CSL
kuli al-a!
そのように 知る-IMPR.NPOL
만약에 또 구호를 외쳤다간 모조리 연행할 테니 그리 알아!
「もしもまたスローガンを叫んだら，一人残らず連行するからそう思っておけ！」[2CE00012]

-taka=nun が manyak(ey)「もしも」と共起した例は今回の調査では見つからなかったが，(4-165) の例のように ileh-key「このように」などのダイクティックな要素を含めば，manyak(ey) とも用いられるようである．

(4-168) manyak=ey ileh-key ka-**taka=nun** antoy-l kes kath-ay.
もし=DAT こうだ-ADV.MNN 行く-ADV.DISC=TOP 駄目だ-SMBL.IRR-DECL.NPOL
만약에 이렇게 가다가는 안될 것 같애.
「もしもこのままいくと駄目だと思うよ.」[(4-165) を一部変更]

4.4.2 逆条件を表す「副動詞 + =to」の統語，意味

前節では副動詞接辞に焦点助詞 =nun が後接し条件を表す例について意味，統語的側面を記述したが，ここでは副動詞接辞に焦点助詞 =to が後接し逆条件を表す例についても同じよ

[7] ユ・ユヒョン (2014) では -ko=nun と副詞 manil「万一」が共起しないことを指摘している．

うに意味，統語的特徴を考察する．扱うのは具体的には次の (4-169), (4-170) のような例である．対象とするのは -ko=to, -(a/e)se=to と，本研究の対象ではないものの -kose=to についても簡単に触れる．

(4-169) tayhak=ul ka-ci anh-**ko=to** elma=tunci hwullyungha-n salam=i toy-l
大学=ACC 行く-NMLZ NEG-ADV.SEQ=も いくら=でも 立派だ-ADN.NPST 人=NOM なる-ADN.IRR
swu iss-e.
すべ ある-DECL.NPST.NPOL
대학을 가지 않고도 얼마든지 훌륭한 사람이 될 수 있어.
「大学に行かなくても，いくらでも立派な人になれる．」 = (4-129)

(4-170) 5si=ey manna-ki=lo hay-ss-unikka cam=i tul-**ese=to** antoy-ess-ta.
5 時=DAT 会う-NMLZ=ALL する-PST-ADV.CSL 眠り=NOM 入る-ADV.SEQ=も 駄目だ-PST-DECL
5 시에 만나기로 했으니까 잠이 들어서도 안되었다.
「5 時に会うことにしたので，眠ってしまってもいけなかった．」 = (4-97)

■ -ko=to

-ko=to を含む文は「X しても（しなくても）Y できる」という構文で用いられることが多い．逆条件を表すためには，上位節に可能や疑問などのモダリティを含む必要があり，特に (4-171) のように可能形で現れる頻度が高い．上位節が過去形などになると，(4-172) のように -ko=to は単に事実的意味を表すのみである．また，すでにキム・チャンファ (2008: 7) で指摘されているように，副詞節と上位節の主体は同一である．

(4-171) na=nun ku iyaki=ka cengmal=i-nci ani-nci hantwu mati=man tut-**ko=to**
1SG=TOP その 話=NOM 本当=COP-INDQ NCOP-INDQ 一つ二つ 節=だけ 聞く-ADV.SEQ=も
kumpang a-l swu iss-ta.
すぐ 知る-ADN.IRR すべ ある-DECL
나는 그 이야기가 정말인지 아닌지 한두 마디만 듣고도 금방 알 수 있다.
「わたしはその話が本当かどうか一言二言聞いただけでもすぐにわかる．」
[3BES0003]

(4-172) nay mal=ul tut-**ko=to** E=uy nwun=ey=nun phyoceng=i eps-ess-ta.
1SG:GEN 言葉=ACC 聞く-ADV.SEQ=も PN=GEN 目=DAT=TOP 表情=NOM ない-PST-DECL
내 말을 듣고도 E 의 눈에는 표정이 없었다.
「わたしの言葉を聞いても E の目には表情がなかった．」[BREO0307]

大抵の例は (4-171) のように上位節に可能形などを含む必要があるが，-ko=to nam-「～ても十分だ（lit. ～ても余る）」は主節にモダリティ要素がなくとも逆条件を表せる．(4-173) のような例から意味変化し，「～ても十分だ」という意味が生じたと考えられる．つまり，(4-173) のような例では，「一生使う → 残らない」という前提があり，その主節が否定されるという関係になっている．次の (4-174) はもはや具体的な物が残るという意味が薄れている．

(4-173) echaphi phyengsayng ssu-**ko=to** nam-ul caysan=i nay=key=nun iss-ta.
どうせ 一生 使う-ADV.SEQ=も 残る-ADN.IRR 財産=NOM 1SG=DAT=TOP ある-DECL
어차피 평생 쓰고도 남을 재산이 내게는 있다.
「どうせ一生使っても残る財産がわたしにはある.」[CE000019]

(4-174) kuttay emeni=uy kosayng=i elmana simhay-ss-nunci=nun cimcak=i ka-**ko=to**
そのとき 母=GEN 苦労=NOM どれほど ひどい-PST-INDQ=TOP 見当=NOM 行く-ADV.SEQ=も
nam-nunta.
残る-DECL.NPST
그때 어머니의 고생이 얼마나 심했는지는 짐작이 가고도 남는다.
「そのときの母の苦労がどれくれい大変なものだったかは十分に見当がつく.」[3BES0003]

ちなみに -ko=to は逆条件を表す最も代表的な形式 -(a/e)to と比べると，副動詞接辞が元々持つ継起の意味を残しており，副詞節の出来事が完了した状態において主節の出来事が起こる場合に用いられる．(4-175) では，単なる仮定というより「犠牲にしたあとでも」という意味が明確になる．

(4-175) nam=ul huysayng=sikhi-**ko=to** hayngpokha-l swu iss-ulkka=yo?
他人=ACC 犠牲=CAUS-ADV.SEQ=も 幸せだ-ADN.IRR すべ ある-UNCT=POL
남을 희생시키고도 행복할 수 있을까요?
「他人を犠牲にしても幸せになれるでしょうか？」[CE000072]

さらに -ko=to は -(a/e)to と比べると，反復にしにくく (4-176)，また不定語と共起すると不自然である (4-177).

(4-176) {mek-**eto** mek-**eto** / ?? mek-**ko=to** mek-**ko=to**} pay=ka
食べる-ADV.CONC 食べる-ADV.CONC 食べる-ADV.SEQ=も 食べる-ADV.SEQ=も お腹=NOM
kophu-ta.
空いている-DECL
{먹어도 먹어도 / ??먹고도 먹고도} 배가 고프다.
「食べても食べてもお腹が空いている.」

(4-177) mwues=ul {mek-**eto** / ?? mek-**ko=to**} sal=i an cci-nta.
なに=ACC 食べる-ADV.CONC 食べる-ADV.SEQ=も 肉=NOM NEG つく-DECL.NPST
무엇을 {먹어도 / ??먹고도} 살이 안 찐다.
「なにを食べても太らない.」

ちなみに，-kose=to も -ko=to と似た意味を表し，やはり主節に可能や疑問などのモダリティを含む．副動詞は専ら否定の形で現れる (4-178).

(4-178) kule-n salam=tul=hako ssawu-ci anh-**kose=to** sa-l swu
そうだ-ADN.NPST 人=PL=COM 争う-NMLZ NEG-ADV.SEQ=も 生きる-ADN.IRR すべ
iss-nun kil=un iss-e=yo.
ある-ADN.NPST 道=TOP ある-DECL.NPST=POL

그런 사람들하고 싸우지 않고서도 살 수 있는 길은 있어요.
「そんな人たちと争わなくても生きられる道はありますよ.」[BREO0313]

■ -(a/e)se=to

-(a/e)se=to は -(a/e)se=nun と同様に上位節の述語が antoy-「駄目だ」で現れることが最も多く (4-179), そうでない例は -(a/e)se=to が「〜したあとでも」のように時を表す例が見られた (4-180).

(4-179) ilha-ci anh-nun ca=nun mek-**ese**=**to** an toy-nta-ko
働く-NMLZ NEG-ADN.NPST 者=TOP 食べる-ADV.SEQ=も 駄目だ-DECL.QUOT-COMP
pwa.
見る:DECL.NPST.NPOL
일하지 않는 자는 먹어서도 안 된다고 봐.
「働かない者は食べてもいけないと思う.」[3BES0011]

(4-180) apeci=nun cwuk-**ese**=**to** kule-n saynghwal=ul kyeysokha-lkka?
父=TOP 死ぬ-ADV.SEQ=も そうだ-ADN.NPST 生活=ACC 続ける-UNCT
아버지는 죽어서도 그런 생활을 계속할까?
「父は死んでもそんな生活を続けるのだろうか？」[2CE00001]

4.4.3 「副動詞 + =nun/=un」と「副動詞 + =to」の関係

先述したように -ko=to, -kose=to は上位節の述語が可能形で現れることが多い. -ko=nun, -kose=nun は逆に不可能形で多く現れ「副動詞 + =nun」の上位節が述語の肯否が逆転するという関係になっている (4-181), (4-182). この関係を表 34 に示す.

(4-181) na=nun ku iyaki=ka cengmal=i-nci ani-nci hantwu mati=man tut-**ko**=**to**
1SG=TOP その 話=NOM 本当=COP-INDQ NCOP-INDQ 一つ二つ 節=だけ 聞く-ADV.SEQ=も
kumpang a-l swu iss-ta.
すぐ 知る-ADN.IRR すべ ある-DECL
나는 그 이야기가 정말인지 아닌지 한두 마디만 듣고도 금방 알 수 있다.
「わたしはその話が本当かどうか一言二言聞いただけでもすぐにわかる.」= (4-171)

(4-182) tangsin=un pikko-ci anh-**ko**=**nun** tayhwa=lul mosha-nun
2SG=TOP 皮肉る-NMLZ NEG-ADV.SEQ=TOP 対話=ACC できない-ADN.NPST
moyang=i-cyo?
様子=COP-ASS:POL
당신은 비꼬지 않고는 대화를 못하는 모양이죠?
「あなたは皮肉らなければ対話をできないようですね？」= (4-161)

表 34　「副動詞 + =nun」と「副動詞 + =to」の関係

	副詞節述語	上位節述語
副動詞 + =nun	否定形	不可能形
副動詞 + =to	肯定形／否定形	可能形

さらに，-(a/e)se=to も -(a/e)se=nun のどちらも上位節の述語が antoy-「駄目だ」であることが大半であり，-(a/e)se=to はそもそも -(a/e)se=nun を前提に副詞節が表す事態をとりたてているのだと言える (4-183), (4-184).

(4-183)　siki=lul　nohchy-**ese**=**nun** an　tway.
時機=ACC 逃す-ADV.SEQ=TOP NEG なる:DECL.NPST.NPOL
시기를 놓쳐서는 안 돼.
「時機を逸してはいけない.」 =(4-100)

(4-184)　ilha-ci　anh-nun　ca=nun mek-**ese**=**to**　an toy-nta-ko
働く-NMLZ NEG-ADN.NPST 者=TOP　食べる-ADV.SEQ=も 駄目だ-DECL.QUOT-COMP
pwa.
見る:DECL.NPST.NPOL
일하지 않는 자는 먹어서도 안 된다고 봐.
「働かない者は食べてもいけないと思う.」= (4-179)

4.4.4　なぜ「副動詞 + 焦点助詞」が条件／逆条件を表すのか

基本的に時間的な関係を表す副動詞接辞の -taka, -ko や -(a/e)se に焦点助詞が付いたときに，なぜ条件あるいは逆条件の意味を表すようになるのかを明らかにする．本研究では，時間関係と条件の連続性によりそのような意味が表されるのだと主張する．つまり，副動詞が表す継起的な意味が後続する事態に対して因果関係があると解釈されるとき，条件の意味が生じると考えるのである．副動詞が条件，逆条件の意味を表すとき，時間的関係と条件の連続性以外にもいくつかの統語，意味的特徴がある．以下では，まず時間的関係と条件の連続性について，次に条件，逆条件の意味とアスペクトの関係，最後に条件，逆条件の意味と焦点助詞 =nun, =to の関係について論じる．

4.4.4.1　時間的関係と条件の連続性

西光 (2006: 219) は，条件表現の隣接概念を考えるにあたって，次の表 35 のような概念空間図を提示している．

表 35　概念空間図 (西光 2006: 219)

時間関係 (when)	因果関係 (because)
条件関係 (if)（不確定）	

西光 (2006: 219-220) は次の (4-185), (4-186) のような英語の例を挙げて，時間関係は単に二つの出来事の時間的重なりを述べるのみで特別な認知プロセスを経る必要はないが，条件関係は確定していない出来事を想定し，一般的因果関係の知識を活用してどのような結果になるかを予測するという，かなり現実から離れた複雑な認知プロセスを必要とすると述べている．

(4-185)　**When** I die, I want you to bury my heart in Cordoba where I was born.

「わたしが死んだときは，わたしの心臓を生まれ故郷のコルドバに埋めてほしい．」

(4-186)　**If** I die before you, I will go to the heaven and I will wait for you there.

「もしわたしが君より先に死んだら，天国に行ってそこで君を待っているよ．」

(西光 (2006: 220) より，ボールド，日本語訳は引用者による)

Traugott (1985: 292) でも条件節のソースとして最も一般的なのは時間関係を表す語であると述べ，ヒッタイト語，スワヒリ語をはじめ様々な言語の例を挙げている．あるいは，Haiman (1986) は節の並置や等位節のみにより条件を表す例が， 英語を含めヴェトナム語など様々な言語に見られることを示している．Thompson *et al.* (2007: 257-8) はインドネシアやパプアニューギニアの言語で，予測的条件 (predictive conditionals) において未来時制になるとき ‘if’ と ‘when’ の区別がなくなる言語があるということを指摘している．この指摘は「副動詞 + 焦点助詞」において主節に可能や疑問等のモダリティ要素を含むときに条件や逆条件になるのと類似した現象と考えられる．また，Greenberg (1966) では 30 の言語を調査し「条件文においては，条件節は結果に先行するというのが全ての言語において普通の語順である」(Greenberg1966: 84) としている．朝鮮語も日本語も時間関係を表す節は，主節に先行する語順を取るため，そのことも条件表現に転用されやすい一つの要因になっていると考えられる．

風間 (2017) では「アルタイ型」言語のうちトルコ語，モンゴル語，朝鮮語，日本語において，典型的には条件形式である副動詞が表す条件的意味と継起的意味の連続性を調査している．表 36 に朝鮮語と日本語の副動詞が表す条件と継起の連続性を引用する．朝鮮語においては，比較的条件と継起の棲み分けがはっきりしているようであるが，日本語のタラとトは広い範囲にまたがっている．ここには引用しなかったトルコ語とモンゴル語にも，日本語のトのように恒常条件から継起までをカバーする副動詞がある (風間 2017).

表 36　副動詞における条件と継起の連続性 (風間 2017: 59)

	反実仮想	仮説条件	恒常条件	事実条件	原因	継起
朝鮮語	―――― -myen ――――					-teni
				―――― -(a/e)ss-teni ――		
				―――― -nikka ――		
					―― -(a/e)se ――	
日本語	―――― バ ――――					
			―――― ト ――――			
	―――― タラ ――――					
					―― テ ――	

この表 36 で見たような継起から条件の連続性は，時間関係を表す副動詞と焦点助詞の結合においても見られる．イ・ギガプ (2004) では中断の -taka の表す時間関係の用法から因果関係，条件への意味変化のプロセスを仮定している．本研究ではさらに，因果関係と条件の間をつなぐ用法として風間 (2017) にならい事実条件の意味があることを示す．この事実条件の意味を設定することにより，継起から条件までの意味変化が無理なく説明できる．(4-187) から (4-191) に，副動詞接辞 -taka を例にとって「継起」「原因」「事実条件」「恒常条件」「仮定条件」の用例を示す．

(4-187)　kamanhi iss-**taka**　nutasepsi soli=lul cilu-tela.
じっと　いる-ADV.DISC 突然　声=ACC　叫ぶ-WIT
가만히 있다가 느닷없이 소리를 지르더라.
「じっとしていたが突然声を張り上げたんだよ．」(イ・ギガプ 2004: 544)　［継起］

(4-188)　kuphi mek-**taka**　cheyhay-ss-ta.
急に　食べる-ADV.DISC もたれる-PST-DECL
급히 먹다가 체했다.
「急に食べて食もたれした．」(イ・ギガプ 2004: 544)　［原因］

(4-189)　cacwu tuleka-ss-ten intheneys　ssaithu=uy lokuin　aiti=wa phaysuwetu=to
よく　入る-PST-IMPF インターネット サイト=GEN ログイン ID=COM パスワード=も
tteolly-ess-**taka=nun**　inay ic-e　pely-ess-ta.
浮かぶ-PST-ADV.DISC=TOP すぐ　忘れる-ADV CMPL-PST-DECL
자주 들어갔던 인터넷 싸이트의 로그인 아이디와 패스워드도 떠올렸다가는 이내 잊어버렸다.
「いつも入っていたインターネットのサイトのログイン ID とパスワードも浮かんだらすぐ忘れてしまった．」[BREO0315]　［事実条件］

(4-190) yolyeng epsi him=man cw-e kkul-**taka=nun** nakksiscwul=i kkunhki-ki
要領 なしで 力=だけ あたえる-ADV.SEQ 引く-ADV.DISC=TOP 釣り糸=NOM 切れる-NMLZ
sipsang=i-ketun.
十中八九=COP-EXPL
요령없이 힘만 줘 끌다가는 낚싯줄이 끊기기 십상이거든.
「要領悪く力を入れるだけで引っ張ったら，釣り糸が切れるのは当たり前だよ.」
[BREO0296] ［恒常条件］

(4-191) ne=hanthey mathky-ess-**taka=n** namana-nun key eps-keyss-ta.
2SG=DAT 預ける-PST-ADV.DISC=TOP 残る-ADN.NPST もの:NOM ない-PROB-DECL
너한테 맡겼다간 남아나는 게 없겠다.
「おまえに預けたら残るものがなさそうだ.」[2CJ00062] ［仮定条件］

(4-189) のような事実条件を表す「副動詞 + nun」は，統語的にも日本語の事実条件を表すトと類似した特徴を有する．蓮沼 (1993) も指摘するように，副詞節の動作主体が話し手以外の場合，タラは不自然だが，トは自然となる．

(4-192) あるとき，坂口さんが，彼の家へ「乳をしぼるところを見せてくれ」といって遊びに {? 行ったら／行くと}，踊り上がるようにして彼は喜んだ．(蓮沼 1993: 81)

事実条件を表す -taka=nun についても，(4-193) のように話し手の行為の場合は不自然となる．ただ，副詞節と上位節の主体は同一でなければならない．

(4-193) na=nun {yeyyakhay-ss-**taka** / ??yeyyakhay-ss-**taka=nun**} chwisohay-ss-ta.
1SG=TOP 予約する-PST-ADV.DISC / 予約する-PST-ADV.DISC=TOP 取り消す-PST-DECL
나는 {예약했다가 / ??예약했다가는} 취소했다.
「わたしは予約してから取り消した.」

次に，主節で意志的な行為を表す場合，(4-194) のように日本語のタラとトは制約が働く．

(4-194) ゆうべ，ご飯を {* 食べたら／? 食べると}，テレビを見ました．(蓮沼 1993: 80)

事実条件を表す -taka=nun についても，(4-195) のように主節の意志的な動作や，ムード形式が制限される．(4-195) では主節に約束を表す -lkey があることにより，不自然な文となっている．

(4-195) calyo=lul {hwakinhay-ss-**taka** / ?? hwakinhay-ss-**taka=nun**} cenhwa
資料=ACC 確認する-PST-ADV.DISC / 確認する-PST-ADV.DISC=TOP 電話
tuli-lkey=yo.
さしあげる-PROM-POL
자료를 {확인했다가 / ??확인했다가는} 전화 드릴게요.
「資料を確認してからお電話さしあげます.」

さらに，ここで取り上げている事実条件を表す「副動詞 + nun」は (4-196) のように条件節の中に生起する場合に制限を受ける．副動詞が単に時間的関係を表す場合は条件節内の生起

はなんら制限を受けないにも関わらずである．事態の連続性を表す「副動詞 + nun」が条件節内の生起に制限を受けるということは，これが単純な時間的な連続ではなく，事実条件となり，条件節内に生起できないほど拡大された節となっているということを示していると考えられる．

(4-196) cip=ey {tull-ess-**taka** / ?? tull-ess-**taka=nun**} moim=ey ka-myen
家=DAT 寄る-PST-ADV.DISC / 寄る-PST-ADV.DISC=TOP 集まり=DAT 行く-ADV.COND
nuc-ul kes=i-ta.
遅れる-SPEC=COP-DECL
집에 {들렀다가 / ??들렀다가는} 모임에 가면 늦을 것이다.
「家に寄ってから集まりに行ったら遅れるだろう．」

(4-187) から (4-191) のような「継起」「原因」「事実条件」「恒常条件」「仮定条件」の意味は，副動詞接辞 -ko(=nun), -(a/e)se(=nun) でも表すことができる．(4-197) から (4-201) に -ko(=nun) の例を挙げる．事実条件が受ける統語的な制約も，-taka=nun と共通していると考えられる．

(4-197) swukcey=lul ha-**ko** nol-le ka-ss-ta.
宿題=ACC する-ADV.SEQ 遊ぶ-ADV.PURP 行く-PST-DECL
숙제를 하고 놀러 갔다.
「宿題をして，遊びに行った．」 ［継起］

(4-198) ku sosik=ul tut-**ko** noll-ass-ta.
その 知らせ=ACC 聞き-ADV.SEQ 驚く-PST-DECL
그 소식을 듣고 놀랐다.
「その知らせを聞いて驚いた．」 ［原因］

(4-199) ku=tul=un kakey pwul=ul kku-**ko=nun** pakk=ulo naka-nta.
3SG.M=PL=TOP 店 明かり=ACC 消す-ADV.SEQ=TOP 外=ALL 出ていく-DECL.NPST
그들은 가게 불을 끄고는 밖으로 나간다.
「彼らは店の明かりを消すと，外へ出る．」[2CJ00049] ［事実条件］

(4-200) mom=un, cengsin=uy sikhi-m=ul pat-ci anh-**ko=nun** amwu il=to
体=TOP 精神=GEN させる-NMLZ=ACC 受ける-NMLZ NEG-ADV.SEQ=TOP なんの こと=も
ha-ci anh-nunta.
する-NMLZ NEG-DECL.NPST
몸은, 정신의 시킴을 받지 않고는 아무 일도 하지 않는다.
「体は，精神の命令を受けなければ，なにもしない．」[2CE00017] ［恒常条件］

(4-201) ama ku=tul=i keltheanc-un kyeytan=ul kechi-ci anh-**ko=nun**
たぶん 3SG.M=PL=NOM 腰掛ける-ADN.PST 階段=ACC 経る-NMLZ NEG-ADV.SEQ=TOP
hotheyl=lo tolaka-ci mosha-l kes=i-ta.
ホテル=ALL 帰る-NMLZ IMPS-SPEC=COP-DECL

아마 그들이 걸터앉은 계단을 거치지 않고는 호텔로 돌아가지 못할 것이다.
「たぶん彼らが腰掛けている階段を経なくては，ホテルへ帰れないだろう．」
[BREO0084] ［仮定条件］

ここまで例証してきたように，本研究では時間的関係を表す副詞節が上位節に対して因果関係を持つと解釈されるときに条件的意味を帯びると結論付ける．この時間的関係と条件の間には「原因」「事実条件」「恒常条件」のような段階を設定することが可能である．このような時間的関係と条件の連続性は，風間 (2017) で示されたように，「アルタイ型」言語で典型的には条件を表す形式が継起を表す場合にも観察される特徴である．では，条件を表す場合の焦点助詞はどのような機能を果たしているのであろうか．この点について次節で検討する．

4.4.4.2　条件，逆条件の意味と焦点助詞 =nun, =to の関係

条件，逆条件を表す場合の =nun と =to は，それぞれ対照と極端の意味を表していると考えられる．

野田 (1994: 38) では，例えば (4-202) のような条件を表す「ては」の「は」は (4-203) に見られる対比の「は」に対応していると述べている．さらに野田 (1994: 38) は「対比の「は」は，「〜ては」の「は」と同じように，他のものはそうではないことを表し，否定の述語と結びつきやすいからである」と指摘している．

(4-202)　海に行っていては，勉強が進まない．(野田 1994: 37)

(4-203)　海には行きたいけど，山には行きたくない．(野田 1994: 38)

「副動詞 +nun」が条件を表す場合に，主節の内容が否定的になるのは，この野田 (1994) の指摘する主題標識の対比が関連していると考えられる． このことは朝鮮語の「副動詞 + =nun/un」のうち特に後続する節に否定形が来る -ko=nun, -kose=nun によく当てはまるものと考えられる．例はすでに (4-161), (4-162) で挙げたとおりである．野田 (1994: 36) では逆条件を表す「ても」の「も」は，「述語との結びつきが普通は考えられないような極端なものを表す」次の (4-204) のような「も」に対応していると指摘する．朝鮮語の =to にも同じような用法があり，このような意味の =to が逆条件を表す -ko=to などの =to に対応していると考えられる (4-205)．ハム・ビョンホ (2013: 129) は，-ko=to には直接言及していないが，その他の「統合形」接続語尾において譲歩の意味が生じるのは，=to の基本的な意味である「追加」により，特に「極端」な項目を追加するときだと述べている．

(4-204)　ことしの夏は，日帰りの旅行にも行かなかった．(野田 1994: 36)

(4-205)　achim=pwuthe pap=**to** mos mek-ess-ta.
朝=から　ご飯=も IMPS 食べる-PST-DECL
아침부터 밥도 못 먹었다.
「朝からご飯も食べられなかった．」

イ・グムヒ (2012) は条件の意味特徴として，主題以外に「時間性」「仮定性」を持つというク・ヒョンジョン (1989) の議論に基づき，各副動詞が時間性を持つこと，後続する節に仮定性が認められることを指摘した．さらにイ・グムヒ (2012) は =nun の排他的意味によって条件の意味が生じていると論じた.[8]しかし，上で見たように，条件を表す場合の =nun は対照の意味を表しつつ，後続する節の述語が否定的な述語が来ることと関係があると考えられる．=to の場合は，この焦点助詞が付くことによって譲歩の意味が表されているわけである．副動詞接辞 + =nun, =to の結合した形式が条件あるいは逆条件を表す理由は，主に副動詞接辞の時間的関係という意味と条件の連続性によるということはすでに述べた．本研究では =nun, =to が結合するからこそ条件的解釈が得られるというわけではないと主張するわけである．このようなことを述べる根拠として，限定的な例ではあるが，副動詞接辞になにも焦点助詞が付かずとも条件の意味を表しうる例が存在という事実がある．

(4-206) kule-**taka** cengchika toy-keyss-ney.
そうする-ADV.DISC 政治家 なる-PROB-ADM
<u>그러다가</u> 정치가 되겠네.
「そうしていたら政治家になりそうだな.」[CE000075]

(4-207) notongca=uy tayuy=wa caki yasim aph=eyse pwukkulew-un senthayk=ul
労働者=GEN 大義=COM 自分 野心 前=LOC 恥ずかしい-ADN.NPST 選択=ACC
ha-n cek=i eps-nun wuli=ka ani-**kose** nwu=ka kamhi caki
する-ADN.PST とき=NOM ない-ADN.NPST 1PL=NOM NCOP-ADV.SEQ 誰=NOM 大胆にも 自分
insayng aph=eyse tangtangha-l swu iss-supnikka.
人生 前=LOC 堂々とする-ADN.IRR すべ ある-INTRR.POL
노동자의 대의와 자기 야심 앞에서 부끄러운 선택을 한 적이 없는 우리가 <u>아니고서</u> 누가 감히 자기 인생 앞에서 당당할 수 있습니까.
「労働者の大義と自らの野心の前において恥ずべき選択をしたことのない我々でなければ，一体誰が自らの人生の前で堂々とできますか.」[BREO0312]

時間的関係を表す副動詞のみで条件を表すことができるのは日本語の「て」についても同様である．古典日本語や現代語の方言には「て」のみで条件を表す例があるし，「〜ていいですか」における「て」も条件を表していると言える．

[8] イ・グムヒ (2012: 236-240) は =nun/=un の排他的意味から条件の意味が生じたとは述べているものの，それを主節の内容が否定的になることには結びつけて論じていない．ユ・ユヒョン (2014: 249) も似ているが「=nun/un によって -ko=nun と結合できるいくつかの事態のうち，提示された事態に関しては，後続する節はあり得ないという意味を表すのである」と述べ，後続する節の特徴についても指摘している．Akatsuka & Sohn (1994) は否定的な条件を表す日本語の「ては」と朝鮮語の -taka を対照させながら論じる中で，「ては」については通言語的に完了性を表す形態素が不可逆性 (irreversibility) を表すようになるということを根拠に，「て」も「てしまう」などにおいて完了性を表すため，不可逆性を帯び，否定的な内容を表すようになったと述べている．-taka に関しては中断の意味から否定的な意味への変化を仮定しているようである．

4.4.4.3　条件，逆条件の意味とアスペクトの関係

ここまで考察してきた「副動詞 + =nun」「副動詞 + =to」では，-ko, -(a/e)se, -kose は共通しているが，=nun が付いて条件を表すのは -taka のみである．

ヤコブセン (2011) は日本語の条件表現に関して，未完了アスペクトの持つ時間的複数性によって仮定的意味が生じるということを論じている．さらに，日本語の「テモ」についてもこの分析を当てはめ，「洗っても洗っても汚れは落ちなかった」(ヤコブセン 2011: 15) のような例が表す時間的複数性により仮定的意味が生じると述べている．朝鮮語の「副動詞 + =nun/=un」の場合，継起的な副動詞よりも仮定条件の意味に用いられやすい -taka=nun は，副動詞接辞 -taka が「〜している途中で」という未完了の意味を表し，たしかにヤコブセン (2011) の主張通り未完了と仮定に関連があるようである．しかし「副動詞 + =to」の場合，-taka はとりたての =to が付いても逆条件の意味は表さない．朝鮮語の場合，逆条件はむしろ未完了よりも完了の意味と関連があるのではないかと考えられる．朝鮮語で条件と逆条件を表す副動詞のうち，最も一般的なものはそれぞれ -myen と -(a/e)to であるが，前者は副動詞の -mye「〜し，〜しながら」と主題標識によって成ると分析され，後者は副動詞 -a/e「〜し，〜して」と =to から成ったと考えられる．このような例を見ると，少なくとも朝鮮語においては未完了の副動詞と条件，完了の副動詞と逆条件には関連があるようである．

4.5　第 4 章のまとめ

この章では，まず，本研究で対象としている 11 個の副動詞接辞と，15 個の焦点助詞の結合の可否について，基礎資料から収集した用例をもとに調査した．その結果，最も結合例が多いのは副動詞接辞 -key で，12 の焦点助詞と結合可能であり，例外はあるものの，だいたいの傾向として副詞節の定形性が低いほど多くの焦点助詞が後接可能であり，副詞節の定形性が高いほど焦点助詞との結合が制限されるということがわかった．さらに，先行研究では単に副動詞接辞と焦点助詞の結合可否のみを示していたが，実際に用例を見てみると，副動詞が迂言的形式の一部になっていたり，補文マーカーになっていたりと，それほど自由に副動詞接辞に焦点助詞が結合しないということが明らかになった．

次に，「副動詞 + 焦点助詞」の各組み合わせについて，その統語，意味的特徴について記述した．焦点助詞の側から見ると，結合例が最も多かった主題，対照を表す =nun/=un は副動詞接辞に後接し様々な意味を表す．時間的関係を表す -(a/e)se, -taka, -ko に =nun/=un が後接すると，事態の連続性を表す場合と，条件を表す場合があり，このような特徴は三者に共通している．

最後に，副動詞に =nun/=un が後接し条件を表す例について注目し，さらに =to が後接し逆条件を表す例と合わせて，その統語的，意味的特徴について考察した．また，なぜ時間的な意味を表す副動詞に焦点助詞が後接することで条件，逆条件の意味を表すようになるのかに

ついて論じた．本研究では，時間的関係を表す事態が，後続する事態に対して因果関係を持つと解釈されるときに条件，逆条件の意味が生じると結論付け，「継起」「原因」「事実条件」「恒常条件」「仮定条件」の連続性ついて例示した．この根拠として，焦点助詞の =nun/=un, =to はそれぞれ対照，極端なものを取り立てており，そのことによって上位節が否定的な内容になりやすいなどの特徴が現れること，一部の例では副動詞のみで条件を表す例があるということを挙げた．

第 5 章

「副動詞 + TAM」の形態，統語，意味

第 4 章においては，副動詞と焦点助詞の結合例について考察したが，本章ではアスペクト，テンス，ムードマーカーとの結合例について，その統語，意味的特徴を明らかにする．

朝鮮語の副動詞は，その述語がテンスやムードといった，典型的には文の主節に現れる文法カテゴリを含むことができる．これまでの研究でもこのことは指摘されており，例えばそれぞれの副詞節がテンス，ムードに関して制約を持つかということが記述されてきた (クォン・ジェイル 1985, ナム・ギシム 1994, 野間 1996, イ・ウンギョン 2000 等).

このような特徴は日本語においても同様であるが，朝鮮語，日本語と同じ「アルタイ型」言語と考えられるモンゴル語やトルコ語は，様々な副動詞接辞を持ち，連辞的性格を示すという共通点を持ちながらも，副動詞接辞はほとんどテンスやムードと結合するということはない．

次の表 37 は朝鮮語の副詞節述語がどのような文法要素，具体的には過去接辞 -(a/e)ss-, ムード形式 -l kes kath-「〜ようだ，〜だろう」，蓋然性を表すムード形式 -keyss-, 推量を表すムード形式 -l kes=i-, 証拠性を表す -te- と結合可能かを調査したものである．

表 37　副詞節の述語がどのような文法要素を持ちうるか (野間 1996: 153)

	-(a/e)ss-	-l kes kath-	-keyss-	-l kes=i-	-te-
様態節 -myense	-	-	-	-	-
様態節 -taka	+	+?	-	-	-
様態節 -(a/e)se	-	-	-	-	-
条件節 -myen	+	+	-?	-?	-
理由節 -(a/e)se	-	+	-?	-?	-
理由節 -nikka	+	+	+	+	-
譲歩節 -(a/e)to	+	+	-	+?	-
反意節 -ciman	+	+	+	+	-
反意節 -nuntey/-ntey	+	+	+	+	+

表 37 を見ると，疑問符がありはっきりとしない部分はあるものの，様態節から反意節に向かうにしたがって，結合可能な文法要素が多くなることが読み取れる．ただ，これまでの先行研究では一部の研究を除いて，副詞節述語とどのような文法要素が結合可能かということについてのみ調査しており，結合したときに副詞節，TAM マーカーの意味がどのように制限されるかについては十分な研究がなかった．そこで，本章では本研究の対象である副動詞と，その述語がアスペクト形式や過去接辞と結合したときに，どのようにそれぞれの意味が制限されるかについて考察し，そこで制限される意味と，副詞節の定形性の関係について明らかにする．

本研究では，副詞節述語が結合する文法要素として，進行アスペクト形式の -ko iss-, 過去接辞の -(a/e)ss-, 大過去接辞の -(a/e)ssess-,「〜(し) そうだ，〜だろうと思う」という意味を表す迂言的な形式 [ADN kes kath-][1], 蓋然性を表すモダリティ接辞 -keyss-, 推量を表す迂言的形式である -l kes=i- との結合の可否を調査した．朝鮮語のアスペクト形式に関しては，進行を表す -ko iss- の他に結果継続を表す -a/e iss- がある．-a/e iss- は ssu-「書く」を除けば結合するのは自動詞だけであるのに対し，-ko iss- はほとんどの動詞と結合可能なため，今回は -ko iss- を代表させて調査することにした．表 38 にその結果を示している．表 5 ですでに表 38 と似た表を提示したが，表 38 では否定と証拠性マーカーを含めておらず，その代わりに大過去接辞と [ADN kes kath-]「〜(し) そうだ，〜だろうと思う」が追加されている．

改めて表 38 を見ると，時間的関係を表す副動詞は，ほとんど当該の TAM マーカーとの結合が制限されるということがわかる．継起を表す -ko は TAM マーカーとの結合はできないが，研究対象とはしなかった列挙を表す -ko は，(5-1) のように進行アスペクトの -ko iss- から，推量の -l kes=i- まで結合が可能である．しかし，これ以下では特に言及しないことにする．

(5-1) ku ai=nun i cip=eyse sal-ko iss-**ko** yeki=eyse hakkyo=ey tani-ko
その 子=TOP この 家=LOC 暮らす-ADV PROG-ADV.SEQ ここ=ABL 学校=DAT 通う-ADC
iss-**ko** tto yangpwu=uy pap=ul mek-ko iss-e=yo.
PROG-ADV.SEQ また 養父=GEN ご飯=ACC 食べる-ADV PROG-DECL=POL
그 아이는 이 집에서 살고 있고 여기에서 학교에 다니고 있고 또 양부의 밥을 먹고 있어요.
「その子はこの家で暮らしていて，ここから学校に通っていて，あと養父に食べさせてもらっています.」[CE000024]

以下では，アスペクト (5.1)，テンス (5.2)，ムード (5.3) の順に，副動詞がこれらと結合したときの統語，意味的特徴について明らかにしていく．なお，大過去については今回は十分な用例が収集できなかったため，詳しい検討は今後の課題とする．

[1] この迂言的形式は用言の連体形 + 形式名詞（もの，こと）+ 形容詞（同じだ）から成る．これ以降，この迂言的形式を [ADN kes kath-] のように表記する．

表 38　副動詞と TAM マーカーの結合可否

ラベル	副動詞接辞	-ko iss-	-(a/e)ss-	-(a/e)ssess-	[ADN kes kath-]	-keyss-	-l kes=i-
様態	-key$_1$	×	×	×	×	×	×
継起	-(a/e)se$_1$	×	×	×	×	×	×
同時	-myense$_1$	△	×	×	×	×	×
時間	-(a/e)se$_2$	×	×	×	×	×	×
目的	-key$_2$	×	×	×	×	×	×
継起	-ko	×	×	×	×	×	×
契機	-myense$_2$	×	×	×	×	×	×
契機	-nikka$_1$	○	×	×	×	×	×
中断	-taka	○	○	×	○	×	×
契機	-teni	○	○	×	○	○	×
譲歩	-(a/e)to	○	○	○	○	○	×
逆接	-myense$_3$	○	○	×	○	×	○
原因	-(a/e)se$_3$	○	○	×	○	○	○
条件	-myen	○	○	○	○	○	○
理由	-nikka$_2$	○	○	○	○	○	○
逆接	-ciman	○	○	○	○	○	○
逆接	-nuntey/-ntey	○	○	○	○	○	○

5.1　「副動詞 + アスペクト」の統語的制約

進行アスペクトの -ko iss- と結合可能な副動詞は表 38 に示したとおりである．進行アスペクトの場合は，結合するか否かによって副動詞やアスペクトの意味が変化をこうむるようなことはないが，一部の例で結合に制限が見られる．具体的な例を挙げながら考察していく．

■ -myense

副動詞接辞 -myense が進行アスペクトと結合する場合は，逆接の -myense$_3$ であることがほとんどである．基礎資料のうち，-myense が -ko iss- と結合していた例は全部で 36 例あったが，そのうち副動詞が逆接ではなく同時の意味を表していると解釈できる例は 1 例しか見られなかった．ちなみに，36 例中 11 例が，述語に al-「知る」を取っている例であった．-myense と -ko iss- が結合し逆接を表す例を (5-2) に，同時を表す例を (5-3) に挙げる．

(5-2)　ta　tut-ko　iss-**umyense**　way taytap=ul an　hay!
全部 聞く-ADV PROG-ADV.SIM なぜ 答え=ACC　NEG する:INTRR
다 <u>듣고 있으면서</u> 왜 대답을 안 해!

「全部聞いてるくせに，なんで答えないんだ！」[시크릿 가든 12]

(5-3) conglo eti=ey-nka kenmwul=ul myech chay kaci-ko iss-**umyense** cipsey=lul
鍾路 どこ=DAT(=COP)-INDF 建物=ACC いくつか 軒 持つ-ADV PROG-ADV.SIM 家賃=ACC
pat-a mek-ko tto yekiceki ton=ul pilly-e cwu-ko ica=lul
受ける-ADV 食べる-ADV.SEQ また あちこち お金=ACC 借りる-ADV BEN-ADV.SEQ 利子=ACC
pat-a mek-nun koli#taykum#epca=i-ki=to ha-n
受ける-ADV 食べる-ADN.NPST 高利#大金#業者=COP-NMLZ=も する-ADN.PST
moyang=i-ess-supnita.
様子=COP-PST-DECL.POL
종로 어디엔가 건물을 몇 채 가지고 있으면서 집세를 받아먹고 또 여기저기 돈을 빌려주고 이자를 받아먹는 고리대금업자이기도 한 모양이었습니다.
「鍾路のどこかに建物を何軒も持っていながら家賃をもらい，またあちこちにお金を貸して利子をもらっている高利貸しでもあるようでした.」[CE000078]

■ -(a/e)se

-(a/e)se の場合，継起の -(a/e)se$_1$ や時間の -(a/e)se$_2$ は進行アスペクトの -ko iss- と結合することはできないが，原因の -(a/e)se$_3$ は (5-4) のように結合が可能である.

(5-4) sanay=nun kokay=lul kiphi swuki-ko **iss-ese** ku phyoceng=ul a-l
男=TOP 首=ACC 深く うつむく-ADV PROG-ADV.SEQ その 表情=ACC 知る-ADN.IRR
swu=ka eps-ta.
すべ=NOM ない-DECL
사내는 고개를 깊이 숙이고 있어서 그 표정을 알 수가 없다.
「男は深くうなだれていて，その表情を知ることはできない.」[CE000033]

■ -taka

副動詞接辞 -taka は基本的には進行アスペクトの -ko iss- との結合には問題がないが，過去接辞がさらに結合した場合には制限が生じる．例えば，次の (5-5) のような文は非文となる.

(5-5) *wuntong=ul ha-ko iss-**ess-taka** tachy-ess-ta.
運動=ACC する-ADV PROG-PST-ADV.DISC 怪我する-PST-DECL
* 운동을 하고 있었다가 다쳤다.
「運動をしていて怪我した.」(を意図)

また，朝鮮語母語話者の方 1 名に -taka と -ko iss-ess- (進行アスペクト + 過去接辞) を使って文を作れるか尋ねたところ，やはり難しいということであった．ただし，基礎資料には次の (5-6) のような例が 1 例のみ現れた．(5-6) で -ko iss-ess- が可能なのは否定形になっていることが関係するかもしれない．いずれにしろ -ko iss-ess- はほとんど用いられないということが言える.

(5-6) ne=uy apeci=ka ton=ul ss-ess-nunci wuli-tele ku mal=ul aniha-ko
2SG=GEN お父さん=NOM お金=ACC 使う-PST-INDQ 1PL-DAT その 言葉=ACC 言わない-ADV
iss-ess-taka onul saypyek=ey cheum=ulo ku mal=ul ha-si-tela.
PROG-PST-ADV.DISC 今日 明け方=DAT 初め=INST その 言葉=ACC 言う-HON-WIT
너의 아버지가 돈을 썼는지 우리더러 그 말을 아니하고 있었다가 오늘 새벽에 처음으로 그 말을 하시더라.
「あなたのお父さんがお金を使ったのか，わたしたちにそのことを言わないでいたけど，今日の明け方に初めてそのことを言ったよ.」[BREO0080]

-ko iss-ess-taka は不自然になることが多いが，結果状態アスペクトの -a/e iss- に過去接辞 -(a/e)ss- が結合した -a/e iss-ess- は比較的用例が簡単に見付かる．例えば次の (5-7) のように言うことが可能である．ただし，この例文の場合であれば，あえて anc-a iss-ess-taka と過去接辞を付けて表さずとも anc-a iss-taka と言う方が自然である．

(5-7) han sikan-ccum anc-a **iss-ess-taka** ilen-ass-ta.
一つの 時間-ほど 座る-ADV DUR-PST-ADV.DISC 起きる-PST-DECL
한 시간쯤 앉아 있었다가 일어났다.
「1 時間くらい座っていてから立ち上がった.」

■ -teni, -nikka, -myen, -(a/e)to, -ciman, -nuntey/-ntey

残りの -teni, -nikka, -myen, -(a/e)to, -ciman, -nuntey/-ntey に関しては，基本的に進行アスペクトの -ko iss- との結合に制約はない．ただ，-ko iss- の結合によって副詞節のテンス解釈に差異が生じることもある．この点については次節以降で詳しく述べることにする．以下にこれらの副動詞が -ko iss- と結合した例を挙げておく．

(5-8) kuttay hemsangkwuc-key sayngki-n elkwul=ul ha-n hyengsa=ka
そのとき とても険しい-ADV.MNN 生じる-ADN.PST 顔=ACC する-ADN.PST 刑事=NOM
cephyen=eyse mwe-nka=lul ssu-ko **iss-teni** ceng#hyengsa=eykey
あちら側=LOC なに(=COP)-INDF=ACC 書く-ADV PROG-ADV.FCTC PN#刑事=DAT
mal=ul kel-ess-ta.
言葉=ACC かける-PST-DECL
그때 험상궂게 생긴 얼굴을 한 형사가 저편에서 뭔가를 쓰고 있더니 정형사에게 말을 걸었다.
「そのとき険しい顔をした刑事があちら側でなにかを書いたかと思うと，チョン刑事に話しかけた.」[CE000072]

-nikka については，契機を表す -nikka$_1$ も理由を表す -nikka$_2$ も，ともに -ko iss- との結合には問題ない (5-9), (5-10).

(5-9) ileh-key ket-ko **iss-unikka** yeysnal sayngkak=i na-nunkwuna.
こうだ-ADV.MNN 歩く-ADV PROG-ADV.FCTC 昔 考え=NOM でる-ADM
이렇게 걷고 있으니까 옛날 생각이 나는구나.
「こうやって歩いていると，昔のことを思いだすなあ.」[2CE00018] ［契機］

(5-10) pothong ttay=n nay=ka hayntuphon kke noh-ko **iss-unikka** thonghwa an
普通 とき=TOP 1SG=NOM 携帯電話 切る:ADV CMPL-ADV PROG-ADV.CSL 通話 NEG
toy-telato kekcengha-ci ma.
なる-ADV.CONC 心配する-NMLZ PROH:IMPR
보통 땐 내가 핸드폰 꺼 놓고 있으니까 통화 안 되더라도 걱정하지 마.
「普段ぼくは携帯を切っているから，つながらなかったとしても心配しないで.」
[CJ000278] ［理由］

(5-11) mwues=itun olay palapo-ko **iss-umyen** cenghuy=ka tteoll-ass-ta.
なに=でも 長く 眺める-ADV PROG-ADV.COND PN=NOM 思い浮かぶ-PST-DECL
무엇이든 오래 바라보고 있으면 정희가 떠올랐다.
「なんでもずっと眺めていると，チョンヒが思い浮かんだ.」[CE000031]

(5-12) amwuli wus-ko **iss-eto** kuttay=mankhum=un ssulssulha-n nukkim=ul
いくら 笑う-ADV PROG-ADV.CONC そのとき=ほど=TOP 寂しい-ADN.NPST 感じ=ACC
cwu-ess-ta.
あたえる-PST-DECL
아무리 웃고 있어도 그때만큼은 쓸쓸한 느낌을 주었다.
「いくら笑っていても，そのときだけは寂しい感じがした.」[6BE00012]

(5-13) cenhwa#peyl kyeysok wulli-ko **iss-ciman** pat-ci anh-nunta.
電話#ベル ずっと 鳴る-ADV PROG-ADV.AVS 受ける-NMLZ NEG-DECL.NPST
전화벨 계속 울리고 있지만 받지 않는다.
「電話のベル，鳴り続けているが取らない.」[미안하다 사랑한다 6]

(5-14) acwu phyenha-n sopha=ka iss-nun kipwun coh-un khaphey=lul
とても 楽だ-ADN.NPST ソファー=NOM ある-ADN.NPST 気分 よい-ADN.NPST カフェ=ACC
al-ko **iss-nuntey** ka po-lkka=yo?
知る-ADV PROG-ADV.AVS 行く:ADV CNT-UNCT=POL
아주 편한 소파가 있는 기분 좋은 카페를 알고 있는데 가볼까요?
「とても楽なソファーがある，感じのいいカフェを知っているんですが，行ってみましょうか？」[3BES0006]

5.2 「副動詞 + 過去接辞」のテンス解釈

副動詞と過去接辞 -(a/e)ss- との結合は，大きく分けて次の三つの場合がありうる．(i) そもそも過去接辞とは結合しない，(ii) 過去接辞とは結合するものの，発話時を基準とした過去を表すのではなく，主節時を基準とした相対テンスを示す，(iii) 過去接辞と結合し，発話時を基準とした絶対テンスを示す場合である．朝鮮語においては，副動詞の述語もテンスマーカーと結びつくことができ，すでに述べたように，その事実については先行研究において記述されてきた．副詞節のテンスについて扱った研究にはキム・ジョンデ (1999), キム・ミニョン

(2009), イ・ウンギョン (2015a), 李恩卿 (2015b) などがあるが，副動詞の表す意味があまり考慮されておらず，キム・ジョンデ (1999) を除くと相対テンス，絶対テンスという見方もしていない．従来の研究ではテンスに関して制約があるかないかの二分法的な記述が多かったが，一方で副動詞がテンスと結合するとき，そのテンスの意味はどのように解釈されるのかということについて論じているのが李智涼 (1982), 崔東柱 (1994), ハン・ドンワン (1996) らの研究である．[2]崔東柱 (1994), ハン・ドンワン (1996) において，副動詞が過去接辞と結合した際のテンス解釈がどのように論じられているかを表 39 に整理しておく．

表 39　「副動詞 + 過去接辞 -(a/e)ss-」のテンス解釈 (崔東柱 1994, ハン・ドンワン 1996)

	崔東柱 (1994)	ハン・ドンワン (1996)
-key	結合不可	結合不可
-(a/e)se	結合不可	結合不可
-ko [継起]	結合不可	結合不可
-taka	相対テンス	相対テンス
-myense [逆接]	相対テンス	相対テンス
(-ni)	—	相対／絶対テンス
-myen	相対／絶対テンス	相対テンス
-(a/e)to	相対／絶対テンス	—
-ko [羅列]	絶対テンス	絶対テンス
-ciman	—	絶対テンス
-nuntey/-ntey [逆接]	絶対テンス	絶対テンス
-nuntey/-ntey [背景]	相対／絶対テンス	相対テンス

崔東柱 (1994) と ハン・ドンワン (1996) の見解はだいたいにおいて一致しているが，-myen と -nuntey/-ntey に関しては多少異なる見解を示している．本研究で対象としている副動詞接辞のうち，契機を表す -teni と理由を表す -nikka は先行研究で扱われていないため，以下で詳しく考察する．先行研究で検討されている副動詞接辞についても再検討を加えながら，副動詞と結合したときの過去接辞が相対テンスとして解釈されるのか，絶対テンスとして解釈されるのかを明らかにする．そして，副詞節の定形性が高いほど絶対テンスとして解釈されやすいということを示す．

■ -taka

崔東柱 (1994), ハン・ドンワン (1996) でも指摘されているとおり，副動詞接辞 -taka は過去接辞と結合するか否かに関わらず，主節時を基準とした相対テンスを示すものとして解釈される．例 (5-15) では，副詞節は過去接辞を含むが，主節と同じく発話時以降の事態を表していると解釈できる．

[2] ハン・ドンワン (1996) は参考文献に崔東柱 (1994) を入れているものの，本文中では言及がない．

(5-15) com swi-**ess-taka** ka=yo, senhuy ssi!
少し 休む-PST-ADV.DISC 行く:COHR=POL PN 氏
좀 쉬었다가 가요, 선희 씨!
「ちょっと休んでから行きましょう，ソニさん！」[CE000019]

■ -teni

副動詞接辞 -teni は，過去接辞が結合するか否かに関わらず相対テンスを示す．-teni 節に対する主節では話し手の認識や発見が表されるため，主節のテンスは発話時現在以降ということはありえない．(5-16) は -teni に過去接辞が結合せず，副詞節の主体が 3 人称になっている例，(5-17) は過去接辞が結合し，主体が 1 人称になっている例である．どちらの例においても，-teni 節は主節時を基準として先行を表す相対テンスとして解釈されると考えられる．

(5-16) ku=nun kuce chenchenhi kokay=lul kkutekkeli-**teni** ileh-key malhay-ss-ta.
3SG.M=TOP ただ ゆっくりと 首=ACC 縦に振る-ADV.FCTC こうだ-ADV.MNN 言う-PST-DECL
그는 그저 천천히 고개를 끄덕거리더니 이렇게 말했다.
「彼はただゆっくりとうなずくと，こう言った.」[CE000071]

(5-17) swul=ul masi-l cwul a-nya-ko nay=ka mwul-**ess-teni** swul=to
酒=ACC 飲む-ADN.IRR こと 知る-INTRR.QUOT-COMP 1SG=NOM 尋ねる-PST-ADV.FCTC 酒=も
mos masi-nta-nun ke=ya.
IMPS 飲む-DECL.QUOT-ADN.NPST こと=COP:DECL.NPOL
술을 마실 줄 아냐고 내가 물었더니 술도 못마신다는 거야.
「酒を飲めるかっておれが聞いたら，酒も飲めないって言うんだ.」[CE000033]

■ -myense

同時的関係を表す -myense$_1$ は過去接辞との結合は許されないが，逆接の -myense$_3$ は過去接辞と結合しうる．崔東柱 (1994: 61) は次の (5-18) のような例を挙げつつ，-myense が過去接辞を含むときには相対テンスとして解釈されると述べている．崔東柱 (1994: 61) は (5-18) では主節が発話時以降であっても -myense の述語が過去接辞を持つことを根拠に相対テンスであることを指摘しているが，そのことは直接的に相対テンスであることと関係がない．さらに，朝鮮語母語話者 1 名によると，この (5-18) のような例はやや不自然であるという．基礎資料のうち，-myense が過去接辞と結合した用例 46 例を調査すると，(5-19) のように -myense 節の事態が発話時以前の事態を表し，絶対テンスを示すと解釈できる例しか現れなかった．

(5-18) kyay=nun pap=ul mek-**ess-umyense** tto mek-ulke=ya.
その子=TOP ご飯=ACC 食べる-PST-ADV.SIM また 食べる-SPEC=COP:DECL.NPOL
걔는 밥을 먹었으면서 또 먹을거야.
「あいつはご飯を食べたくせにまた食べるだろう.」(崔東柱 1994: 61)

(5-19) 5nyen tongan yenlak han pen eps-**ess-umyense** icey w-ase yaksok
5 年 間 連絡 一つの 回 ない-PST-ADV.SIM いま 来る-ADV.SEQ 約束
cikhi-keyss-ta-kwu?
守る-PROB-DECL.QUOT-COMP

5 년 동안 연락 한 번 없었으면서 이제 와서 약속 지키겠다구?
「5 年の間, 連絡の一回もなかったくせに, 今になって約束守るだって？」[CE000067]

しかし，次の (5-20) のように，主節が習慣的な意味を表す場合には主節時を基準として先行を表す相対テンスとして解釈できる例も可能なようである．そのため，-myense の述語が過去接辞と結合するときは，相対テンスも絶対テンスも表すものと考えておく．

(5-20) ku salam=un hangsang kongpwuhay-**ss-umyense** an ha-n chek
その 人=TOP いつも 勉強する-PST-ADV.AVS NEG する-ADN.PST ふり
ha-nta.
する-DECL.NPST
그 사람은 항상 공부했으면서 안 한 척 한다.
「あの人はいつも勉強しておきながら，していないふりをする.」

■ -(a/e)se

-(a/e)se は継起を表すときも，理由を表すときも過去接辞とは結合しないという見解はこれまでの先行研究で一致している．しかし，実際に話されたことばを観察すると，-(a/e)se と過去接辞が結合した形がしばしば用いられることがある．(5-21) では発話時以前の過去を表しており，絶対テンスを示していると解釈できる．ただし，-(a/e)se が過去接辞と結合可能なのは，あくまで (5-21) のように -(a/e)se が原因，理由を表すときであって，継起を表すときは不可能である．

(5-21) hwaantang=eyse elusin=tul=hako=man naynay sal-**ass-ese** sewul saynghwal
PN=LOC 大人=PL=COM=だけ ずっと 暮らす-PST-ADV.SEQ ソウル 生活
etteh-key cekung ha-lkka siph-ess-nuntey, hoysa=to cal tani-ko...
どうだ-ADV.MNN 適応 する-UNCT 思う-PST-ADV.AVS 会社=も よく 通う-ADV.SEQ
화안당에서 어르신들하고만 내내 살았어서 서울 생활 어떻게 적응 할까 싶었는데, 회사도 잘 다니고...
「ファアン堂 (宗家) で大人たちとばかりずっと暮らしていたから，ソウルの生活にどうやったら馴染めるかと思ってたけど，会社もちゃんと行っているし…」[헬로! 애기씨 8]

■ -myen

条件を表す -myen は，その表す意味によってテンス解釈も異なり，基本的に仮定的な意味を表す場合は絶対テンスとして，事実的な意味を表す場合には相対テンスとして解釈されるようである．-myen が絶対テンスも相対テンスも示すという考えは崔東柱 (1994)，キム・スジョン, チェ・ドンジュ (2018) にも見られるが，その詳細は異なる．以下，まず先行研究について見てみる．

崔東柱 (1994: 66-67) は次の (5-22), (5-23) を挙げながら， -myen 節は主節時を基準とする相対テンスが成立すると述べている．(5-22) が過去接辞を含まない例， (5-23) が過去接辞を含む例である．(5-22a) の例であれば，「わたしが宿題をしていると，宿題をしているわたしを

お母さんが褒めてくれた，あるいは宿題をしおわると，お母さんが褒めてくれた」と解釈できるため， -myen は相対テンスを表すという (崔東柱 1994: 66)．崔東柱 (1994:66-67) は同様に -myen が過去接辞を含む例でも相対テンスが成り立つとしているが，この解釈には疑問が残る．(5-23b) の例を朝鮮語母語話者 1 名に確認したところ，この例はやや不自然であり，副詞節の事態は崔東柱 (1994: 66-67) が述べるように相対テンスとして発話時以降とは解釈できず，発話時以前，つまり絶対テンスの解釈になるという．

(5-22) a. nay=ka swukcey=lul ha-**myen** emenim=kkeyse chingchanhay
1SG=NOM 宿題=ACC する-ADV.COND お母さん=NOM.HON 褒める:ADV
cwu-sy-ess-ci.
BEN-HON-PST-ASS
내가 숙제를 하면 어머님께서 칭찬해 주셨지.
「わたしが宿題をすると，お母さんが褒めてくれたんだよ．」

b. nay=ka swukcey=lul ha-**myen** emenim=kkeyse chingchanhay
1SG=NOM 宿題=ACC する-ADV.COND お母さん=NOM.HON 褒める:ADV
cwu-si-lke=ya.
BEN-HON-SPEC=COP:DECL.NPOL
내가 숙제를 하면 어머님께서 칭찬해 주실거야.
「わたしが宿題をすると，お母さんが褒めてくれるだろう．」

(崔東柱 1994: 66)

(5-23) a. nay=ka swukcey=lul hay-**ss-umyen** emenim=kkeyse chingchanhay
1SG=NOM 宿題=ACC する-PST-ADV.COND お母さん=NOM.HON 褒める:ADV
cwu-sy-ess-ci.
BEN-HON-PST-ASS
내가 숙제를 했으면 어머님께서 칭찬해 주셨지.
「わたしが宿題をしたら，お母さんが褒めてくれたろう．」

b. nay=ka swukcey=lul hay-**ss-umyen** emenim=kkeyse chingchanhay
1SG=NOM 宿題=ACC する-PST-ADV.COND お母さん=NOM.HON 褒める:ADV
cwu-si-lke=ya.
BEN-HON-SPEC=COP:DECL.NPOL
내가 숙제를 했으면 어머님께서 칭찬해 주실거야.
「わたしが宿題をしたら，お母さんが褒めてくれるだろう．」

(崔東柱 1994: 66)

(5-22), (5-23) のような例に対して，崔東柱 (1994: 68) は次の (5-24) のように過去の状況に対する仮定条件を表す場合，過去接辞と結合した -myen は絶対テンスとして解釈されると指摘する．

(5-24) nay=ka swukcey=lul ta hay-**ss-umyen** emenim=kkeyse chingchan=ul hay
1SG=NOM 宿題=ACC 全部 する-PST-ADV.COND お母さん=NOM.HON 称賛=ACC する:ADV
cwu-sy-ess-ulthey-ntey.
BEN-HON-PST-SPEC-ADV.AVS
내가 숙제를 다 했으면 어머님께서 칭찬을 해 주셨을텐데.
「ぼくが宿題を済ませていたらお母さんが褒めてくれただろうに」(崔東柱 1994: 68)

キム・スジョン, チェ・ドンジュ (2018) では，Bak (2003) による -myen の意味分類を基に，これを Sweetser (1990) の提案する三つの領域[3]によって再編し，-myen 条件文が内容領域として解釈されるときは相対テンス，認識領域，言語行為領域として解釈される場合は絶対テンスとして解釈されると述べている．

内容条件

(5-25) a. nayil nalssi coh-**umyen**, sophwung=ul ka-nta.
明日 天気 よい-ADV.COND 遠足=ACC 行く-DECL.NPST
내일 날씨 좋으면, 소풍을 간다. (Hypothetical)
「明日天気が良かったら，遠足に行く．」

b. cenwen=ul nwulu-**myen** choki hwamyen=i ttu-nta.
電源=ACC 押す-ADV.COND 初期 画面=NOM 浮かぶ-DECL.NPST
전원을 누르면 초기 화면이 뜬다. (Generic)
「電源を押すと，起動画面がつく．」

c. insatong=ey ka po-**myen**, koltongphwum=i manh-ta.
仁寺洞=DAT 行く:ADV CNT-ADV.COND 骨董品=NOM 多い-DECL
인사동에 가 보면, 골동품이 많다. (Spatial setting)
「仁寺洞に行ってみると，骨董品が多い．」

d. pom=i o-**myen** kkoch=i phi-nta.
春=NOM 来る-ADV.COND 花=NOM 咲く-DECL.NPST
봄이 오면 꽃이 핀다. (Temporal *myen*)
「春が来ると，花が咲く．」

(キム・スジョン, チェ・ドンジュ 2018: 212)

認識条件

(5-26) a. nay=ka nalkay=ka iss-**umyen**, nal-a ka-l they-ntey.
1SG=NOM 翼=NOM ある-ADV.COND 飛ぶ-ADV AND-SPEC-ADV.AVS
내가 날개가 있으면, 날아갈 텐데. (Counterfactual)
「わたしに翼があったら，飛んでいくのに．」

[3] Sweetser (1990) は英語の if, because などの接続詞を分析し，それらの多義性は，内容領域 (content domain)，認識領域 (epistemic domain)，言語行為領域 (conversational domain) という三つの領域のうちどの領域で解釈されるかによって生じると述べている．

b. na=to, 40nyentay=ey thayena-ss-**umyen**, cikum-ccum=un mwe hana
1SG=も 40 年代=DAT 生まれる-PST-ADV.COND 今-ごろ=TOP なにか 一つ
iss-eya ha-nun ke-ntey.
ある-OBLG-ADN.NPST こと(=COP)-ADV.AVS
나도, 40 년대에 태어났으면, 지금쯤은 뭐 하나 있어야 하는 건데. (Factual)
「わたしも 40 年代に生まれたからには，今頃はなにか一つなければならないのに.」

(キム・スジョン, チェ・ドンジュ 2018: 212)

言語行為条件

(5-27) a. keki se kyeysi-**myen** wihemha-pnita.
そこ 立つ:ADV DUR.HON-ADV.COND 危険だ-DECL.POL
거기 서 계시면 위험합니다. (Deictic)
「そこにお立ちになっていると危険です.」

b. solcikhi malha-**myen**, con=un sihem=ey ttelecy-ess-ta.
正直に 言う-ADV.COND PN=TOP 試験=DAT 落ちる-PST-DECL
솔직히 말하면, 존은 시험에 떨어졌다. (Speech act)
「正直に言うと，ジョンは試験に落ちた.」

(キム・スジョン, チェ・ドンジュ 2018: 212)

本研究では，前田 (2009) の日本語の条件文の分類を参考にして，条件節と帰結節の関係から仮説条件，反事実条件，事実条件，一般条件，習慣条件，連続を区別する．-myen の各意味について，それぞれ過去接辞 -(a/e)ss- の結合の可否と -myen 節のテンス解釈を示すと，表 40 のようになる．結局，絶対テンスと相対テンスを分けるのは，条件節と帰結節の realis/irrealis である．どちらの節においても事実を表す習慣条件，連続の例が相対テンスとして解釈されることから，このように考えることができる．

表 40 -myen の意味と過去接辞の結合可否

-myen の意味	節間の関係	ー過去接辞	+ 過去接辞	テンス解釈
a. 仮説条件	［仮説 ― 仮説］	○	○	絶対テンス
b. 反事実条件	［反事実 ― 反事実］	×	○	絶対テンス
c. 事実条件	［事実 ― 仮説］	○	○	絶対テンス
d. 一般条件	［不問 ― 不問］	○	×	絶対テンス
e. 習慣条件	［事実 ― 事実］（多回）	○	×	相対テンス
f. 連続	［事実 ― 事実］（一回）	○	×	相対テンス

表 40 のそれぞれの場合について，具体例を見ていこう．まず，(5-28) が仮説条件の例である．条件節においても帰結節においても未実現の事態を述べるのが仮説条件である．仮説条件においては (5-28a) に見るように帰結節のテンスが発話時以降であれば条件節も過去接辞は

結合せず，逆に (5-28b) のように帰結節が過去の事態に対する仮説であれば，条件節の方にも過去接辞が結合することから -myen が絶対テンスを示すと考えることができる．

(5-28) a. com swi-**myen** kwaynchanh-ul ke=ya...
少し 休む-ADV.COND 大丈夫-SPEC=COP:DECL.NPOL
좀 쉬면 괜찮을 거야...
「少し休めば大丈夫だよ…」[헬로!애기씨 11]

b. ihonha-nta kulay-**ss-umyen** na cengmal emma=hanthey
離婚する-DECL.QUOT そう言う-PST-ADV.COND 1SG 本当に お母さん=DAT
hon#na-ss-ul ke=ya.
魂#でる-PST-SPEC=COP:DECL.NPOL
이혼한다 그랬으면 나 정말 엄마한테 혼났을 거야.
「離婚するって言ってたら，わたし本当にお母さんに怒られてたと思う．」
[웨딩 6]

［仮説条件］

先に示したようにキム・スジョン, チェ・ドンジュ (2018) では仮定的意味 (Hypothetical) を内容条件に含め，相対テンスと解釈されると述べているが，仮定的意味の場合はこのように絶対テンスとして解釈される．

(5-29) は反事実条件の例である．反事実条件は，条件節でも帰結節でも発話時から考えてすでに実現しないことが明らかな反事実を述べる．反事実の場合は，過去のことを仮定して述べるのに -myen に過去接辞が結合するため絶対テンスである．

(5-29) cincak kule-n yaykihay cwe-**ss-umyen** na cengmal coh-ass-ul they-ntey.
前もって そうだ-ADN.NPST 話す:ADV BEN-PST-ADV.COND 1SG 本当に よい-PST-SPEC-ADV.AVS
진작 그런 얘기해줬으면 나 정말 좋았을 텐데.
「もっと前にその話をしてくれたら，わたし本当によろこんだと思うんだけど．」
[웨딩 9]

［反事実条件］

(5-30) は事実条件の例である．事実条件は (5-28) の仮説条件と異なり，条件節の方はすでに実現している事実を条件として持つ．帰結節は未実現の事態であるが，(5-30a) のように発話時と同時，あるいは以降のことであれば -myen に過去接辞が結合せず，(5-30b) のように発話時以降に成立した事態であれば過去接辞が結合するため，この例も絶対テンスを示している．

(5-30) a. … ileh-key cangnan#cenhwa ha-l sikan iss-**umyen** ka-se
こうだ-ADV.MNN いたずら#電話 する-ADN.IRR 時間 ある-ADV.COND 行く-ADV.SEQ
ni-ney pwumonim ekkay=lato cwumwull-e tuli-sey=yo.
2SG-ところの 両親 肩=でも 揉む-ADV BEN.HUM-HON:IMPR=POL

…이렇게 장난전화 할 시간 있으면 가서 니네 부모님 어깨라도 주물러드리세요.
「こうやってイタズラ電話する時間あるなら，あんたの両親のところに行って肩でも揉んであげなさいよ.」[달자의봄 5]

b. ca, ta moy-**ess-umyen** colyey sicakha-keyss-supnita.
INTJ みんな 集まる-PST-ADV.COND 朝礼 始める-PROB-DECL.POL
자, 다 모였으면 조례 시작하겠습니다.
「さあ，全員集まったなら朝礼始めたいと思います.」[2CJ00017]

［事実条件］

(5-31) は一般条件の例であり，「水は 100 ℃になると沸騰する」のような一般的にある条件のもと成り立つ（と考えられている）事態を表す．よって，条件節と帰結節は事実でも仮説でもなく不問となっている．一般条件の場合は -myen に過去接辞が結合せず，条件節は少なくとも帰結節以降の事態は表さないため絶対テンスを示すものと考えておく．

(5-31) paykselki mek-**umyen** phipwu hayay-ci-nta.
蒸し餅 食べる-ADV.COND 肌 白い-INTRZ-DECL.NPST
백설기 먹으면 피부 하얘진다.
「蒸し餅食べると肌が白くなるんだよ.」[헬로!애기씨 4]

［一般条件］

(5-32) は習慣条件の例である．習慣条件は条件節も帰結節も事実を表し，「…すると，いつもこうなった」という話者の経験から導き出される習慣を表す．(5-32) を見るとわかるように，帰結節が過去のことであっても -myen には過去接辞が結合しないので相対テンスを示す例である．

(5-32) wenlay yakkan suthuleysu=lul pat-**umyen** yel=i na-kon hay-ss-e=yo
もともと 若干 ストレス=ACC 受ける-ADV.COND 熱=NOM 出る-HAB-PST-DECL=POL
yeycen=pwuthe.
以前=から
원래 약간 스트레스를 받으면 열이 나곤 했어요 예전부터.
「もともとちょっとストレス受けると，よく熱が出たんですよ以前から.」[웨딩 9]

［習慣条件］

最後に，(5-33) は連続する動作を表す例である．上の (5-32) と同じく条件節も帰結節も事実を述べるが，(5-32) が多回的な事態であるのに対して，(5-33) は一回的な事態である．この例では，-myen 節が主節に先行する事態を表しているため相対テンスであると考える．

(5-33) tongkyu, nwun=ul ttu-**myen** kwang mwun=i yelli-nta.
PN 目=ACC 開ける-ADV.COND 倉 門-NOM 開く-DECL.NPST
동규, 눈을 뜨면 광 문이 열린다.
「トンギュ，目を開けると倉の門が開く.」[헬로!애기씨 12] ［連続］

ただし，-myen の上位節の述語が (5-34) のように coh-「よい」(特に coh-keyss- (よい-PROB-) が多い) で「〜になったらうれしい」，ha-「する」や siph-「思う」で「〜したらと思う」という意味を表し，構文的に用いられるときは，-myen の述語が過去接辞と結合していても，発話時以降の事態に言及することができる．

(5-34) cengmal kule-n… kicek=i ilena-**ss-umyen** coh-keyss-ta.
本当に そうだ-ADN.NPST 奇跡=NOM 起きる-PST-ADV.COND よい-PROB-DECL
정말 그런… 기적이 일어났으면 좋겠다.
「本当にそんな…奇跡が起こったらいいな.」[시크릿 가든 16]

■ -(a/e)to

-myen と同様に条件的意味を表す譲歩の -(a/e)to は，テンス解釈において -myen より複雑な様相を見せる．-(a/e)to が表す意味によっては相対テンスを表すのか絶対テンスを表すのかはっきりしない場合がある．

崔東柱 (1994: 74-75) は，-(a/e)to は基本的に相対テンスを示すものの，過去の状況に対する仮定を表すときには過去接辞と結合し，絶対テンスを示すと述べている．さらに，崔東柱 (1994: 75) は，他の条件形式と異なり -(a/e)to は，事実的な譲歩を表す場合に過去接辞の結合の有無による意味的な差がなくなると述べつつ，過去接辞と結合した場合には絶対テンスを，結合しない場合は，テンスが削除されたと見ることができると指摘している (ibid.: 75)．-(a/e)to が基本的には相対テンスを示し，事実的譲歩の場合，過去接辞の結合の有無を問わないという崔東柱 (1994: 74-75) の見解には同意できるが，過去の状況に対する仮定に対する見解には同意できない．本研究では -(a/e)to が表す意味を -myen の意味分類にならい大きく六つに分けて，それぞれの場合にテンスがどのように解釈されるかを検討する．-(a/e)to が表す六つの意味と，それぞの意味について過去接辞が結合しうるかを表 41 に提示する．

表 41 -(a/e)to の意味と過去接辞の結合可否

-(a/e)to の意味	節間の関係	ー過去接辞	＋過去接辞	テンス解釈
a. 仮説譲歩	［仮説 ― 仮説］	○	○	相対／絶対テンス
b. 反事実譲歩	［反事実 ― 反事実］	×	○	絶対テンス
c. 事実譲歩	［事実 ― 仮説］	○	○	絶対テンス
d. 一般譲歩	［不問 ― 不問］	○	×	絶対テンス
e. 習慣譲歩	［事実 ― 事実］(多回)	○	×	相対テンス
f. 確定譲歩	［事実 ― 事実］(一回)	○	○	相対／絶対テンス

まず，(5-35) が仮説譲歩の例である．仮説譲歩は譲歩節でも帰結節でも仮説を述べる．(5-35a) のように未来の事態についての仮説を述べる場合，-(a/e)to に過去接辞が結合すると不自然になる．その一方，(5-35b) のように過去の事態に対しての仮説を述べる場合には過去接辞との結合は自由である．(5-35a) は絶対テンスを示す例だが，(5-35b) は相対テンスとも絶対テンスとも解釈できる．

(5-35) a. pi=ka {w-**ato** / ??w-**ass-eto**} kyengki=nun ha-l kes=i-ta.
雨=NOM 来る-ADV.CONC / 来る-PST-ADV.CONC 競技=TOP する-SPEC=COP-DECL
비가 와도 / ??왔어도 경기는 할 것이다.
「雨が降っても競技はするだろう.」

b. pi=ka {w-**ato** / w-**ass-eto**} kyengki=nun hay-ss-ul kes=i-ta.
雨=NOM 来る-ADV.CONC / 来る-PST-ADV.CONC 競技=TOP する-PST-SPEC=COP-DECL
비가 와도 / 왔어도 경기는 했을 것이다.
「雨が降っても競技はしただろう.」

[仮説譲歩]

次に (5-36) が反事実譲歩の例である．この例では譲歩節でも帰結節でも発話時の事態に照らしてもう起こりえないことを述べる．反事実譲歩の場合，-(a/e)to は過去接辞との結合のみ可能で，発話時以前のことを表すのに過去接辞が結合するため絶対テンスと解釈できる．

(5-36) cokum=man te kakkaw-**ass-eto** cikwu=eyse=n amwu kes=to sa-l swu
少し=だけ もっと 近い-PST-ADV.CONC 地球=LOC=TOP なんの もの=も 生きる-ADN.IRR すべ
eps-ess-ul ke-pnita.
ない-PST-SPEC-DECL.POL
조금만 더 가까왔어도 지구에선 아무 것도 살 수 없었을 겁니다.
「(地球と太陽が) あと少し近かったとしても，地球ではなにも生きることができなかったでしょう.」[2CJ00052]

[反事実譲歩]

(5-37) は事実譲歩の例である．事実譲歩は，譲歩節ですでに実現している事実を述べ，それにも関わらず帰結節が生じることを表す．(5-37a) は発話時と同時に起こっている事態を述べ，過去接辞が結合しない．一方，(5-37b) は発話時以前のことを述べるのに過去接辞が結合している．よって，事実譲歩の場合も絶対テンスである．

(5-37) a. papp-**ato** i il=pwuthe cheliha-si-o.
忙しい-ADV.CONC この 仕事=から 処理する-HON-IMPR
바빠도 이 일부터 처리하시오.
「忙しくてもこの仕事から処理してください.」[2CE00008]

b. kulim=i cal an naw-**ass-eto** ponay cwu-sy-eya tway=yo.
画=NOM よく NEG 出てくる-PST-ADV.CONC 送る:ADV BEN-HON-OBLG:DECL=POL
그림이 잘 안 나왔어도 보내주셔야 돼요.
「(写真の) 画の出来がよくなかったとしても，送ってくださらないと.」[BREO0084]

[事実譲歩]

(5-38) は一般譲歩の例であり，これは時間的限定性がなく，いつでも成り立つことを述べるものである．よって，譲歩節と帰結節はともに事実であるか仮説であるかを問わない．一

般譲歩の場合は -(a/e)to に過去接辞が結合せず，譲歩節は発話時基準で同時的な事態と考えられるため，絶対テンスを示すものと解釈しておく．

(5-38) i khep=un ttelettuly-**eto** kkayci-ci anh-nunta.
この コップ=TOP 落とす-ADV.CONC 割れる-NMLZ NEG-DECL.NPST
이 컵은 떨어뜨려도 깨지지 않는다.
「このコップは落としても割れない．」

［一般譲歩］

最後に (5-39) が習慣譲歩，(5-40) が確定譲歩の例である．どちらも譲歩節と帰結節が事実に関わる点は共通しているが，前者の場合は多回的に起こり習慣となっており，後者は一回的な事態である．(5-39) のような習慣譲歩では，帰結節が過去の事態であっても -(a/e)to に過去接辞が結合しないため，相対テンスを示すと考えられる．(5-40) のような確定譲歩の場合，帰結節が過去の事態について述べる場合，譲歩節は過去接辞の結合が任意的である．よって，仮説譲歩と同様に相対テンスの場合も絶対テンスの場合もあると言いうる．

(5-39) ... myech sikan tongan amwuli kwi=lul ccongkus seywu-ko tul-**eto**
いくつの 時間 間 いくら 耳=ACC ぴんと 立てる-ADV.SEQ 聞く-ADV.CONC
yocem=ul nohchi-kon hay-ss-ta.
要点=ACC 逃す-HAB-PST-DECL
…몇 시간 동안 아무리 귀를 쫑긋 세우고 들어도 요점을 놓치곤 했다.
「何時間いくら耳をぴんと立てて聞いても要点を逃してばかりだった．」[5BE02009]

［習慣譲歩］

(5-40) ku=nun khephi#syop=ey {naw-**ass-eto** / ᵒᵏ naw-**ato**} kipwun=i
3SG.M=TOP コーヒー#ショップ=DAT 出てくる-PST-ADV.CONC / 出てくる-ADV.CONC 気分=NOM
wulcekhay-ss-ta.
憂鬱だ-PST-DECL
그는 커피숍에 {나왔어도 / ᵒᵏ나와도} 기분이 울적했다.
「彼はコーヒーショップに出てきても，気分が憂鬱だった．」[6BE00008]

［確定譲歩］

条件の -myen の場合，絶対テンスか相対テンスかを決める要因は (ir)realisness であったが，譲歩の -(a/e)to の場合は帰結節が過去の場合に -(a/e)to と過去接辞の結合が自由になるという特徴があるようである．ただしこの特徴は反事実譲歩や習慣譲歩には当てはまらない．

■ -nikka

-nikka は基本的に絶対テンスを示すが，主節のスコープによっては，相対テンスとなる場合もある．考察にあたっては，主節のテンスがどうであるかに留意する必要があるため，主節のテンスが非過去の場合 (5-41) と過去の場合 (5-42) を区別する．まず，主節が非過去の場

合について見ると，副詞節のテンスは絶対テンスとなる．(5-41b) の場合，副詞節の事態は主節が非過去でも発話時以降とはならず，発話時以前と解釈される．

(5-41)　主節のテンス：非過去

a. chinkwu=tul=i ta　ka-**nikka**　na=to　ttalaka-nta.
友達=PL=NOM　みんな 行く-ADV.CSL 1SG=も ついていく-DECL.NPST
친구들이 다 가니까 나도 따라간다.
「友達がみんな行くから，わたしもついていく．」

b. chinkwu=tul=i ta　ka-**ss-unikka**　na=to　ttalaka-nta.
友達=PL=NOM　みんな 行く-PST-ADV.CSL 1SG=も ついていく-DECL.NPST
친구들이 다 갔으니까 나도 따라간다.
「友達がみんな行ったから，わたしもついていく．」

これに対し主節のテンスが過去で，副詞節は過去接辞を持たない (5-42a) のような場合，副詞節のテンスは相対テンスとして解釈される．ただし，副詞節が過去接辞を含んでいる (5-42b) の場合は日本語の「カラ」とは異なり不自然な文になるという．この場合，主節時と同時（あるいは後行）の場合も先行の場合も (5-42a) で表現することができるからだという．

(5-42)　主節のテンス：過去

a. chinkwu=tul=i ta　ka-**nikka**　na=to　ttalaka-ss-e.
友達=PL=NOM　みんな 行く-ADV.CSL 1SG=も ついていく-PST-DECL.NPOL
친구들이 다 가니까 나도 따라갔어.
「友達がみんな行くから（行ったから），わたしもついていった．」

b.??chinkwutul=i ta　ka-**ss-unikka**　na=to　ttalaka-ss-e.
友達=PL=NOM　みんな 行く-PST-ADV.CSL 1SG=も ついていく-PST-DECL.NPOL
?? 친구들이 다 갔으니까 나도 따라갔어.
「友達がみんな行ったから，わたしもついていった．」

ただ，(5-42b) の主節述語に確言を表す -ci「〜だよ，〜だろう」を付加すると，自然となる．[4]これは -nikka 節の理由のスコープの問題だと考えられる．つまり，(5-42b) では -nikka 節が主節のスコープ内に収まっているが，(5-43) ではブラケットで囲ったように，-nikka 節は主節のスコープ外になり，より独立性が増すために独自のテンスを持つことが可能になる．スコープの違いによる -nikka 節のテンス解釈の違いについては，さらに詳しい調査が必要である．

(5-43)　[chinkwu=tul=i ta　ka-**ss-unikka**] na=to　ttalaka-ss-ci.
友達=PL=NOM　みんな 行く-ADV.CSL　1SG=も ついていく-PST-ASS
[친구들이 다 갔으니까] 나도 따라갔지.
「友達がみんな行ったから，わたしもついていったんだよ．」

[4] 五十嵐 (2000) では実際の言語資料の調査から，副詞節の -nikka と主節の -ci が高い頻度で呼応することを指摘している．主節のモダリティによる -nikka 節の解釈については，これからさらに研究される必要がある．

日本語の「カラ」の研究を参照すると，次のようなこともわかる．日本語の「カラ」の研究では，相対テンスが不適格になる例が報告されている．[5]それは，副詞節の述語が状態性を持つ場合であり，この場合は副詞節のテンスは絶対テンスと解釈される．

(5-44) 太郎は原稿を｛* 書いている／書いていた｝から，電話に出なかった．(井上 1976: 197)

次の (5-45) は，(5-44) を朝鮮語に翻訳した例であるが，朝鮮語も同様に，述語が進行のアスペクト形式 -ko iss- を取り，状態性を持つと不自然になる．

(5-45) a.??chelswu=nun wenko=lul ssu-ko iss-**unikka** cenhwa=lul mos pat-ass-ta.
PN=TOP 原稿=ACC 書く-ADV PROG-ADV.CSL 電話=ACC IMPS 受ける-PST-DECL
?? 철수는 원고를 <u>쓰고 있으니까</u> 전화를 못 받았다.
「チョルスは原稿を書いているから電話に出られなかった」

b. chelswu=nun wenko=lul ssu-ko iss-**ess-unikka** cenhwa=lul mos
PN=TOP 原稿=ACC 書く-ADV PROG-PST-ADV.CSL 電話=ACC IMPS
pat-ass-ta.
受ける-PST-DECL
철수는 원고를 <u>쓰고 있었으니까</u> 전화를 못 받았다.
「チョルスは原稿を書いていたから電話に出られなかった」

岩崎 (1995: 73) が日本語のノデ，カラ節について行った分析によると「主節主語が agent および patient なら同一主語でテイル（従属節・主節事態同時）が不可能，異主語なら可能」である．このこともまた，朝鮮語にあてはまると言える． (5-45) は主体が同一の例であったが，次の (5-46) では主体が異なる．そして (5-46) は (5-45) とは違い，-ko iss- の使用が自然である．

(5-46) a. chelswu=ka wenko=lul ssu-ko iss-**unikka** na=nun mal=ul kel-ci
PN=NOM 原稿=ACC 書く-ADV PROG-ADV.CSL 1SG=TOP 言葉=ACC かける-NMLZ
moshay-ss-ta.
できない-PST-DECL
철수가 원고를 <u>쓰고 있으니까</u> 나는 말을 걸지 못했다.
「チョルスが原稿を書いているから，わたしは声をかけられなかった．」

b. chelswu=ka wenko=lul ssu-ko iss-**ess-unikka** na=nun mal=ul kel-ci
PN=NOM 原稿=ACC 書く-ADV PROG-PST-ADV.CSL 1SG=TOP 言葉=ACC かける-NMLZ
moshay-ss-ta.
できない-PST-DECL
철수가 원고를 <u>쓰고 있었으니까</u> 나는 말을 걸지 못했다.
「チョルスが原稿を書いていたから，わたしは声をかけられなかった．」

[5] 井上 (1976: 196) ではこのような現象を「時制の一致」と捉えている．

-nikka のテンス解釈については現段階では一般化が難しいが，基本的には絶対テンスとして解釈されるものの，主節が過去で -nikka 節が主節のスコープに収まっている場合は相対テンスとして解釈されると考えておく．

■ -ciman

-ciman はハン・ドンワン (1996) も指摘するように，上位節，主節のテンス如何に関わらず，絶対テンスを示すものとして解釈される．(5-47) の例では時間を表す nayil「明日」と共起し，副動詞は過去接辞を結合させることはできない．一方 (5-48) の例では ecey「昨日」と共起し，副動詞は過去接辞が結合することが必須になる．(5-47) は副詞節と主節の主語が異なる例，(5-48) は主語が同一の例であるが，主語の異同は副詞節のテンス解釈には影響を及ぼさない．また，この二つの例では主節のテンスが過去であるが，主節のテンスが発話時以降である場合もまた，副詞節のテンス解釈は変わらない．

(5-47) hyeng=un nayil kohyang=ul {ttena-**ciman** / *ttena-**ss**-**ciman**}, awu=nun ecey imi
兄=TOP 明日 故郷=ACC 発つ-ADV.AVS / 発つ-PST-ADV.AVS 弟=TOP 昨日 すでに
ttena-ss-ta.
発つ-PST-DECL
형은 내일 고향을 {떠나지만/*떠났지만}, 아우는 어제 이미 떠났다.
「兄は明日故郷を｛発つが／*発ったが｝，弟は昨日すでに発った．」(ハン・ドンワン 1996: 155)

(5-48) hyeng=un ecey pwusan=ey {*ka-**ciman** / ka-**ss**-**ciman**}, sensayngnim=ul manna-ci
兄=TOP 昨日 釜山=DAT 行く-ADV.AVS / 行く-PST-ADV.AVS 先生=ACC 会う-NMLZ
moshay-ss-ta.
できない-PST-DECL
형은 어제 부산에 {*가지만/갔지만}, 선생님을 만나지 못했다.
「兄は昨日釜山に｛*行くが／行ったが｝，先生に会えなかった．」(ハン・ドンワン 1996: 156)

■ -nuntey/-ntey

-nuntey/-ntey は基本的に絶対テンスとして解釈されるが，時を表す用法のみ過去接辞が結合せず，相対テンスとして解釈される．崔東柱 (1994) はこの副動詞接辞 -nuntey/-ntey を -nuntey/-ntey$_1$ と -nuntey/-ntey$_2$ に分けて考察している．前者は副詞節と上位節の事態が対照的な例であり，後者はここで「背景提示」の機能を持つとされている例である．崔東柱 (1994: 55) は次の (5-49) の例を挙げつつ， -nuntey/-ntey$_1$，つまり対照的な意味を表す場合，副詞節は絶対テンスを表すと指摘している．

(5-49) na=nun kuttay yelsimhi *ilha-**nuntey** / ilhay-**ss**-**nuntey**, thumthumi nol-ki=to
1SG=TOP そのとき 一生懸命 働く-ADV.AVS / 働く-PST-ADV.AVS ときどき 遊ぶ-NMLZ=も
hay-ss-e.
する-PST-DECL.NPOL

나는 그때 열심히 *일하는데/일했는데, 틈틈이 놀기도 했어.
「わたしはそのとき一生懸命 *働くけど／働いたけど，ときどき遊びもしたんだ.」
(崔東柱 1994: 55)

崔東柱 (1994: 55) は (5-50) の二つの例を対比させながら，背景を提示する -nuntey/-ntey$_2$ は相対テンスとして解釈されるとしている．しかし，朝鮮語母語話者 1 名の判断によると，この例は絶対テンスとしてしか解釈されないという．さらに，背景提示の (5-51) のような例が絶対テンスとなるのは，話者が対話を意図する方向に持っていこうとする「対話上の策略 (strategy)」の一つだと述べているが，この説明は説得力に欠ける．

(5-50) a. yenghwa=ka kot kkuthna-**nuntey** / *kkuthna-**ss**-**nuntey** phyo=lul
映画=NOM すぐ 終わる-ADV.AVS / 終わる-PST-ADV.AVS チケット=ACC
phal-ass-e. nappu-n salam=tul=iya.
売る-PST-DECL.NPOL 悪い-ADN.NPST 人=POL=COP:DECL.NPOL
영화가 곧 끝나는데/*끝났는데 표를 팔았어. 나쁜 사람들이야.
「映画がもうすぐ終わるのに／ *終わったのにチケットを売ったんだ．悪いやつらだ.」

b. yenghwa=ka imi *kkuthna-**nuntey** / kkuthna-**ss**-**nuntey** phyo=lul
映画=NOM すでに 終わる-ADV.AVS / 終わる-PST-ADV.AVS チケット=ACC
phal-ass-e. nappu-n salam=tul=iya.
売る-PST-DECL.NPOL 悪い-ADN.NPST 人=POL=COP:DECL.NPOL
영화가 이미 *끝나는데/끝났는데 표를 팔았어. 나쁜 사람들이야.
「映画がすでに *終わるのに／終わったのにチケットを売ったんだ．悪いやつらだ.」

(崔東柱 1994: 78)

(5-51) nay=ka cikcep hwakinhay-**ss**-**nuntey**, chelswu=nun ka-ss-e.
1SG=NOM 直接 確認する-PST-ADV.AVS PN=TOP 行く-PST-DECL.NPOL
내가 직접 확인했는데, 철수는 갔어.
「ぼくが直接確認したけど，チョルスは行ったよ.」(崔東柱 1994: 79)

-nuntey/-ntey は基本的には絶対テンスとして解釈されるが，これがある事態の起こる「時」を表す場合に相対テンスとして解釈されるようになると説明するほうが妥当だと考えられる．池 (2013: 147) が副詞節と上位節の間に時間的関係がある場合は「前件のテンスは後件のテンスによって決まる」と述べているように，やはり -nuntey/-ntey はある事態の起こる時を表す場合に相対テンスになると考えるのが妥当である．次に池 (2013: 147) で挙げられている例を示しておく．

(5-52) ecey achim=ey ney=ka malwu=ey kel-e nao-**nuntey** nehuy
昨日 朝=DAT 2SG=NOM 板の間=DAT 歩く-ADV.SEQ 出てくる-ADV.AVS 2PL
apeci-n cwul al-ass-ta.
お父さん(=COP)-ADN.NPST こと 知る-PST-DECL

어제 아침에 네가 마루에 걸어 나오는데 너희 아버진 줄 알았다.
「昨日の朝あなたがリビングに出てくる時あなたのお父さんだと思ったよ.」(池 2013: 147)

ハン・ドンワン (1996: 170-173) も基本的には -nuntey/-ntey の表す意味を「対照，対立関係」と「話題，状況提示」の二つに分け，前者の場合は絶対テンス，後者の場合は相対テンスとして解釈できると述べている．ただ，ハン・ドンワン (1996: 170-173) は「話題，状況提示」の例として (5-52) のような -nuntey/-ntey が時を表す例しか検討していない．

■「副動詞 + 過去接辞」のテンス解釈のまとめ

ここまで副詞節が相対テンスとして解釈されるか，絶対テンスとして解釈されるかを考察してきた．ここで明らかになったことを表 42 にまとめておく．この表において副詞節は上から下に行くほど定形性が高い節になるように配置している．

表 42　「副動詞 + 過去接辞」のテンス解釈

副詞節	基本的なテンス解釈	条件付きの解釈
-taka	相対テンス	—
-teni	相対テンス	—
-(a/e)to	相対／絶対テンス	
-myense$_3$	絶対テンス	相対テンス（習慣を表す場合）
-(a/e)se$_3$	絶対テンス	—
-myen	絶対テンス	相対テンス（条件節が realis）
-nikka$_2$	絶対テンス	相対テンス（主節のスコープ内）
-ciman	絶対テンス	—
-nuntey/-ntey	絶対テンス	相対テンス（時を表す場合）

表 42 を見るとわかるとおり，過去接辞 -(a/e)ss- と結合可能な副動詞といえども，その内実は異なっている．定形性が低い -taka 節，-teni 節は過去接辞と結合したときも相対テンスを表すものとして解釈され，これらに次ぐ -(a/e)to も絶対テンスと相対テンスの場合は半々であった．その他の定形性の高い節はだいたいにおいて絶対テンスを示すものとして解釈されるが，ある条件のもとでは相対テンスを示す節もあることが明らかになった．

5.3　「副動詞 + ムード」の意味，ムードの認識主体

5.1 と 5.2 で副動詞がアスペクトとテンスを含む場合を見たように，ここではムード形式を含む場合を考察していく．ムード形式としては主に話者の主観的な判断や推量，意志が関り，かつ副動詞とも結合可能な [ADN kes kath-], -keyss-, -l kes=i- を対象とする．それぞれのムード形式の詳しい意味に関しては以下で述べる．

副動詞が -keyss-, -l kes=i- と結合する例を考察する際には，出現頻度として，どれくらいこれらのムード形式と結合可能かということ以外に，ムード形式の意味と副詞節の主体がどのように制限されるかということに注目する必要がある．テンスの場合は大きく分けて相対テンスと絶対テンスとして解釈される場合があったように，ムード形式の場合は副動詞と結合するとき，主節と比べると意味に制限がかかる場合がある．さらに，いくつかの先行研究で指摘されているように，副動詞がムード形式と結びつくと，副詞節の主体に偏りが見られる場合があり，この点についても記述する必要がある．

このようなムード形式の意味や主体の制限は特に -keyss- と -l kes=i- が副動詞と結びつくときに顕著であり，同じムード形式である [ADN kes kath-] と比較することでよりその傾向がはっきりと見てとれる．よって，先に [ADN kes kath-] が副動詞と結びついた場合の意味や統語的特徴について考察し，次いで -keyss-, -l kes=i- へと進んでいく．

-ko がムード形式と結合するときは，アスペクト形式 -ko iss- や過去接辞 -(a/e)ss- と結合したときと同様に列挙を表す．本研究では列挙を表す -ko については研究対象としていないため，以降 (5-53) のような例は扱わない．

(5-53) cip cengli=to com hay-ya ha-**l kes kath-ko** tangpwunkan swi-ko siph-ki=to
家 整理=も 少し する-OBLG-SMBL.IRR-ADV.SEQ 当分の間 休む-ADV DESI-NMLZ=も
ha-kwu=yo.
する-ADV.SEQ=POL
집 정리도 좀 해야 할 것 같고 당분간 쉬고 싶기도 하구요.
「家の整理も少ししなきゃならないと思いますし，しばらく休みもしたいですし．」
[BREO0287]

5.3.1 「副動詞 + [ADN kes kath-]」の統語，意味

[ADN kes kath-] は用言の連体形 + 形式名詞 kes「こと，もの」+ kath-「同じだ」という構成の迂言的形式であり，日本語の「みたいだ」「ようだ」のようにモーダルな意味を表す．

村田 (1998: 29) は [ADN kes kath-] を「現実に呈している様相を話し手なりに捉えて述べる」形式であると述べている．また，金美玹 (2012: 79) では「〈推測〉〈推量〉のような，話し手の〈考え，思い〉などの主観に限定されるだけの mood 形式ではなく，話し手の知覚，視覚などを通して事態を第 3 者的スタンスから捉えて述べるという〈客体化〉の mood 形式」とされている．

[ADN kes kath-] は連体形のテンス対立と，述語 kath- のテンス対立を持つ． [ADN kes kath-] の連体形は過去の連体形 -n, 非過去の連体形 -nun, 非現実の連体形 -l のどれもがありうる．述語の kath- 「同じだ」もテンスを持ちうる． 金美玹 (2012: 82) では [ADN kes kath-] における連体形の対立，つまり「事態と関わる用言の時制〈内のテンス〉」と呼び，kath- のテンス対立，つまり「発話時と関わる時制を〈外のテンス〉」と呼んでいる．副詞節の述語が [ADN kes kath-] と結合した例を収集するにあたっては，先行する連体形は全て，kath- が過去形になる場合に

ついても用例を収集している．ただし，連体形のテンスや kath- のテンスによって意味に差が出てくることも考えられるため，この点については区別して考察する．

金美玹 (2012: 79) は副動詞の述語が [ADN kes kath-] を持つときの副動詞の出現頻度について報告している．金美玹 (2012) が調査した [ADN kes kath-] の例は全部で 1280 例で，そのうち 418 例が，副動詞となっている例である．表 43 の結果は，本研究で用いる基礎資料から収集した，「副動詞 +[ADN kes kath-]」の数とも類似している．基礎資料から収集した，研究対象の副動詞が [ADN kes kath-] と結合した例の出現頻度を示すと表 44 のとおりである．表 44 では，数が少なかったため同時の -myense$_1$ と逆接の -myense$_3$ はまとめて示している．副詞節の定形性の観点から表 44 の結果を見ると，原因の -(a/e)se$_3$ や逆接の -nuntey/-ntey の頻度が高く，比較的定形性の高い副詞節が [ADN kes kath-] と結合しやすいと言える．しかし，比較的定形性の高い節である -ciman 節の例は少ない．

表 43 と表 44 を比べると -(a/e)se と -nuntey/-ntey の出現頻度がきわだって多いのは共通しているが，その順番が異なっている．これは，金美玹 (2012) と本研究で扱う言語資料の差に起因するものと考えられる．金美玹 (2012) では映画やドラマのスクリプトに限定して用例を収集しているため，話し言葉が中心であるのに対し，本研究では話し言葉の資料も扱っているものの，1.4 で示したとおり，その割合はそれほど多くない．後述するように -nuntey/-ntey が [ADN kes kath-] と結びつく場合，特に話し言葉での用例が多い．そのために，話し言葉を中心に扱っている金美玹 (2012) では -nuntey/-ntey の割合が多くなったと考えられる．

表 43　「副動詞 +[ADN kes kath-]」の出現頻度 (金美玹 2012: 79)

副動詞接辞	頻度
-nuntey/-ntey	213 (51.0%)
-(a/e)se	124 (29.7%)
-ko	29 (6.9%)
-nikka	16 (3.8%)
-a/e	11 (2.6%)
-myen	8 (1.9%)
-ciman	6 (1.4%)
-(a/e)to	3 (0.7%)
その他	8 (1.9%)
合計	418 (100.0%)

表 44　基礎資料における「副動詞 +[ADN kes kath-]」の出現頻度

副動詞接辞	頻度
-(a/e)se$_3$	290 (41.9%)
-nuntey/-ntey	164 (23.7%)
-ko	60 (8.7%)
-myen	58 (8.4%)
-ciman	53 (7.7%)
-teni	25 (3.6%)
-nikka$_2$	19 (2.7%)
-(a/e)to	16 (2.3%)
-myense$_{1,3}$	5 (0.7%)
-taka	2 (0.3%)
合計	692 (100.0%)

以下では，各副動詞が [ADN kes kath-] と結合する例について，副動詞接辞ごとに考察していく．考察する際には表 44 で示したように，出現頻度の低い例から扱うことにする．

■ -taka

中断を表す -taka が [ADN kes kath-] と結合する場合，基礎資料に現れた例は (5-54) のように -taka 節が反復して用いられた例のみであった．そこで，母語話者の方に反復でない例文の作成をお願いしたところ，(5-55) のような例も可能とのことであった．

(5-54) ankay sok=ul ket-**nun kes kath-taka** cinhulkthang sok=ul ket-**nun kes kath**-taka
霧 中=ACC 歩く-SMBL.NPST-ADV.DISC ぬかるみ 中=ACC 歩く-SMBL.NPST-ADV.DISC
ppel sok=ulo tuleka-nun kes kathi toy-ess-ta.
泥土 中=ALL 入っていく-ADN.NPST こと ように なる-PST-DECL
안개 속을 걷는 것 같다가 진흙탕 속을 걷는 것 같다가 뻘 속으로 들어가는 것같이 되었다.
「霧の中を歩いているようでもあり，ぬかるみの中を歩いているようでもあったが，泥土の中に入っていくようなことになった．」[BREO0075]

(5-55) iyaki=lul ha-lyeko ha-**nun kes kath-taka** inay kumantw-ess-e.
話=ACC する-ADV.VOL する-SMBL.NPST-ADV.DISC すぐ やめる-PST-DECL
이야기를 하려고 하는 것 같다가 이내 그만뒀어.
「話をしようとしているようだったが，すぐやめてしまった．」

■ -myense

同時を表す -myense が [ADN kes kath-] を含む例は基礎資料中 5 例しか現れなかったため確かなことはわからないが，(5-56) のように -myense が同時的な意味を表すこともあれば，(5-57) のように逆接的な意味を表すこともあるようである．ただし，5 例とも全て連体形は非過去形のみであった．

(5-56) mokcec=i tha-**nun kes kath-umyense** simcang=i kotong chy-ess-ta.
のどちんこ=NOM 焼ける-SMBL.NPST-ADV.SIM 心臓=NOM 鼓動 打つ-PST-DECL
목젖이 타는 것 같으면서 심장이 고동쳤다.
「のどちんこが焼けるようであり，心臓が鼓動を打った．」[4BE01001]

(5-57) pakyelki=ka tongkeha-ko iss-nun cencik taynse=nun namphyen=eykey
PN=NOM 同居する-ADV PROG-ADN.NPST 前職 ダンサー=TOP 旦那=DAT
calha-**nun kes kath-umyense** cilthwu=ka kangha-ko pakaci=lul pakpak
よくする-SMBL.NPST-ADV.SIM 嫉妬=NOM 強い-ADV.SEQ パガジ (ひさご)=ACC がりがり
kulk-nunta.
ひっかく-DECL.NPST
박열기가 동거하고 있는 전직 댄서는 남편에게 잘하는 것 같으면서 질투가 강하고 바가지를 박박 긁는다.
「パク・ヨルギが同居している元ダンサーは旦那にやさしいようで嫉妬が強く，がみがみ言っている．」[CE000072]

基礎資料に現れた例は全て連体形が非過去形であったが，朝鮮語母語話者の方に [ADN kes kath-] の連体形が非現実である -l kes kath-umyense の例文作成をお願いしたところ，次の (5-58) のような例は可能であるということだった．

(5-58) ling=ey kong=i tuleka-**l kes kath-umyense** an tuleka-nta.
リング=DAT ボール=NOM 入る-SMBL.IRR-ADV.SIM NEG 入る-DECL.NPST
링에 공이 들어갈 것 같으면서 안 들어간다.
「リングにボールが入りそうで入らない.」

■ -(a/e)to

譲歩を表す -(a/e)to が [ADN kes kath-] と結合する例では，連体形は過去，非過去，非現実の全てが現れた．-(a/e)to 節は仮定的というよりは (5-59) のように事実的な事態を表す．

(5-59) pata=ka, cekey celeh-key ttokkath-un moyang=i-**n kes kath-ato**
海=NOM あれ:NOM ああだ-ADV.MNN まったく同じだ-ADV.NPST 模様=COP-SMBL.NPST-ADV.CONC
sasil=un kuleh-ci anh-supnita.
事実=TOP そうだ-NMLZ NEG-DECL.POL
바다가, 저게 저렇게 똑같은 모양인 것 같아도 사실은 그렇지 않습니다.
「海が，あれがああやってまったく同じ模様のようでも，実はそうじゃないんです.」[3BES0002]

■ -nikka

理由を表す -nikka が [ADN kes kath-] と結合した例は，表 44 に示したように全部で 19 例であり，そのうちの 18 例は会話文における例であった．-nikka の場合も連体形に特に制限はないようである．

(5-60) nuc-**ul ke kath-unikka** mence ca=yo.
遅れる-SMBL.IRR-ADV.CSL 先に 寝る:IMPR=POL
늦을 거 같으니까 먼저 자요.
「遅れそうだから，先に寝てください.」[풀하우스 13]

■ -teni

-teni が [ADN kes kath-] と結合する場合も，連体形に制限はないようである．上述したように，-teni は基本的に過去接尾辞と結合する場合に主体が話し手になり，結合しない場合に第三者になる．[ADN kes kath-] は，村田 (1998)，金美玹 (2012) を引用しつつ述べたように，話し手の感覚によるムード形式である．そのため，[ADN kes kath-] に過去接尾辞が付かなくとも，「〜ようだ」と考える主体はあくまで話者である．例 (5-61) では，主体はあくまで話し手であるが，統語的な主語は melissok「頭の中」で 3 人称となっている．また，松尾 (1997: 88) も指摘するように会話文では主体が聞き手となることがあり，(5-62) がそのような例にあたる．-teni 自体の意味に関しては，(5-61) のような順接的な接続の場合も，(5-62) のような逆接的な接続の場合もありうる．

(5-61) kapcaki melissok=i theng pi-**n kes kath-teni** hyenkicung=i il-ess-ta.
突然 頭の中=NOM がらんと 空く-SMBL.PST-ADV.FCTC 目眩=NOM 起こる-PST-DECL
갑자기 머릿속이 텅 빈 것 같더니 현기증이 일었다.
「突然頭の中が真っ白になったと思ったら，目眩がした.」[2CE00008]

(5-62) na=hanthey hwa nay-l ttay=n melccengha-**n ke kath-teni** kapcaki chwihay-se
1SG=DAT 怒り 出す-ADN.IRR とき=TOP 健康だ-SMBL.NPST-ADV.FCTC 急に 酔う-ADV.SEQ
nollay-ss-e.
驚く-PST-DECL.NPOL
나한테 화낼 땐 멀쩡한 거 같더니 갑자기 취해서 놀랬어.
「わたしに怒ってるときは大丈夫そうだったのに，いきなり酔っ払ってびっくりしたよ.」[웨딩 17]

■ -ciman

逆接の -ciman が [ADN kes kath-] と結合する場合も連体形に制限はなく，副動詞接辞自体の意味も特に制限を受けることはないようである (5-63).

(5-63) kangha-**n kes kath-ciman** enni=uy maum=un yakhay.
強い-SMBL.NPST-ADV.AVS お姉さん=GEN 心=TOP 弱い:DECL.NPOL
강한 것 같지만 언니의 마음은 약해.
「強いようだけど，お姉ちゃんの心は弱いの.」[2CE00002]

■ -myen

-myen が [ADN kes kath-] と結合する場合，連体形は非現実の連体形 -l で現れることが多く，その中には =lo/=ulo {malha-l/malssum tuli-l} kes kath-umyen「～に関して言うなら／申し上げるなら」という決まった言い回しが含まれる．基礎資料から収集できた [ADN kes kath-] の例は全部で 58 例であり，そのうち 54 例，約 93% が (5-64), (5-65) のように非現実の連体形で現れる例であった．(5-64), (5-65) のように連体形が非現実の -l の場合，-myen の意味は条件というよりも，日本語のナラのように事態の時間的な前後関係に関わらず，主節に対する前提を述べる場合に用いられる．

(5-64) theyleypi=ey han pen naw-ass-ta-kwu yenkica ha-**l ke kath-umyen**
テレビ=DAT 一つの 回 出る-PST-DECL.QUOT-COMP 役者 する-SMBL.IRR-ADV.COND
phayn=pota sutha=ka te manh-keyss-ta.
ファン=CMPR スター=NOM さらに 多い-PROB-DECL
테레비에 한 번 나왔다구 연기자 할 거 같으면 팬보다 스타가 더 많겠다.
「テレビに一度出たといって役者になれるなら，ファンよりスターの方が多いだろうな.」[CJ000274]

(5-65) ci-**l kes kath-umyen** celtay twu-ci anh-ci.
負ける-SMBL.IRR-ADV.COND 絶対に 打つ-NMLZ NEG-ASS
질 것 같으면 절대 두지 않지.
「負けるようなら絶対に（囲碁を）打たないさ.」[BREO0297]

また，上述したように =lo/=ulo {malha-l/malssum tuli-l} kes kath-umyen という決まった言い回しで用いられることがあり，[ADN kes kath-] の用例全 58 例中，12 例がこのような例であった．

(5-66) na=lo malha-**l kes kath-umyen** kuttay=kkaci=n cek-eto 'wuli=tul'
1SG=INST 言う-SMBL.IRR-ADV.COND そのとき=まだ=TOP 少ない-ADV.CONC 1PL=PL
phyen=uy sosok=i-ess-ta.
側=GEN 所属=COP-PST-DECL
나로 말할 것 같으면 그때까진 적어도 '우리들' 편의 소속이었다.
「わたしに関して言うなら，そのときまでは少なくとも「わたしたち」の側の所属だった．」[BREO0294]

(5-67) ce=lo malssum tuli-**l ke kath-umyen** emeni=nun kyothong#sako=lo
1SG=INST お言葉 さしあげる-SMBL.IRR-ADV.COND 母=TOP 交通#事故=INST
tolakasi-ko apeci=nun pyengsek=ey nwuw-e kyeysi-mye...
亡くなる-ADV.SEQ 父=TOP 病床=DAT 伏す-ADV DUR.HON-ADV.SIM
저로 말씀드릴 거 같으면 어머니는 교통사고로 돌아가시고 아버지는 병석에 누워계시며...
「わたしに関して申し上げるなら，母は交通事故で亡くなって，父は病床に伏していて…」[봄의 왈츠 15]

■ -nuntey/-ntey

-nuntey/-ntey が [ADN kes kath-] と結合する場合，すでに述べたように話しことばの例が多い．-nuntey/-ntey の用例全 164 例中，122 例が話し言葉からの例であった．-nuntey/-ntey は逆接や背景，前提など様々な意味を表すが，[ADN kes kath-] と結合した例においては (5-68), (5-69) に見るように後続する発話の前提を表す例が多かった．

(5-68) cam#tul-ki=ka swip-ci anh-**un kes kath-untey** swul=ul han can
眠り#入る-NMLZ=NOM 簡単だ-NMLZ NEG-SMBL.NPST-ADV.AVS お酒=ACC 一つの 杯
kacyetacwu-lkka?
持ってきてあげる-UNCT
잠들기가 쉽지 않은 것 같은데 술을 한잔 가져다줄까?
「なかなか眠れないようだけど，お酒を一杯持ってきてあげようか？」[2CE00018]

(5-69) kulay, pappu-**n ke kath-untey** panghayhay-se mianha-ta.
そうだ:DECL.NPOL 忙しい-SMBL.NPST-ADV.AVS 邪魔する-ADV.SEQ 申し訳ない-DECL
그래, 바쁜 거 같은데 방해해서 미안하다.
「そうだな，忙しいそうなのに，邪魔して悪いな．」[풀하우스 4]

■ -(a/e)se

基礎資料中，用例数が最も多かった -(a/e)se が [ADN kes kath-] と結合すると，継起の意味は表せず，原因，理由を表すことになる．連体形の制約はない．(5-70) は連体形が非過去，(5-71) は連体形が非現実の例である．

(5-70) maywunthang naymsay=ka nemwu na-**nun kes kath-ase** changmwun=ul motwu
メウンタン鍋 におい=NOM とても でる-SMBL.NPST-ADV.SEQ 窓=ACC 全て
yel-e noh-ass-ta.
開ける-ADV CMPL-PST-DECL
매운탕 냄새가 너무 나는 것 같아서 창문을 모두 열어놓았다.
「メウンタン鍋のにおいがすごくしている気がして，窓を全部開け放った．」
[5BE01013]

(5-71) yeki o-myen caymiiss-**ul ke kath-ase** w-ass-ci.
ここ 来る-ADV.COND おもしろい-SMBL.IRR-ADV.SEQ 来る-PST-ASS
여기 오면 재미있을 거 같아서 왔지.
「ここに来ればおもしろそうだから来たんだよ．」[2CJ00076]

■ 副動詞 + [ADN kes kath-] のまとめ

副動詞が [ADN kes kath-] と結合する場合，その出現頻度は異なるものの，連体形の制限もほとんどなく，副動詞接辞の意味もあまり制限が見られない．ただ，考察の結果 [ADN kes kath-] は条件の -myen と結合するときは連体形が非現実の -l で現れる傾向にあるということが明らかになった．「〜みたいだ」と思うムードの認識主体はどの例においても 1 人称であると解釈でき，ムードの認識主体は次に考察する -keyss- と -l kes=i- とは異なった様相を見せる．また，-myen 節と -nuntey/-ntey 節は後続する主節を発話するための前提条件的意味を表すことが多いようである．

5.3.2 「副動詞 + -keyss-」におけるムード接辞の意味，認識主体

前節で考察したムード形式の一つ [ADN kes kath-] は副動詞との結合において，連体形にやや偏りがあったものの，ムードの意味自体に制限はなかった．これに対し，蓋然性を表す -keyss- は生起する副詞節によってその意味にも制限が見られ，ムードを認識する主体も異なってくる．

副詞節述語がムード接辞 -keyss- と結合したとき，-keyss- がどの副動詞内に生起するかによって，-keyss- の意味が制限されることがあり，またムード形式の認識主体も異なりうる．本節では副動詞が蓋然性を表すムードマーカーである -keyss- と結合する例を考察し，-keyss- の意味は生起する副詞節によって制限があることを論じ，定形性の低い副詞節内にムードマーカーが生起した場合には，ムードの認識主体は主節の発語内効力との相互作用によって聞き手になりやすいということを明らかにする．

5.3.2.1 -keyss- の意味

-keyss- の意味については様々な先行研究があるが，ここでは野間 (1988) にならい，(5-72) から (5-75) のように四つの意味を区別しておく．野間 (1988) はそれぞれ「去就を述べる文」

(5-72),「境遇を述べる文」(5-73),「評価を述べる文」(5-74),「帰結を述べる文」(5-75) と意味分類しつつも，これらの意味は明確に区別されるわけではなく，それぞれゆるやかにつながっていると述べ，-keyss- を「将然判断」の形式と呼んでいる．

(5-72) nay=ka sacangnim=hanthey hanguy phyenci=lul ssu-**keyss**-e=yo.
1SG=NOM 社長=DAT 抗議 手紙=ACC 書く-PROB-DECL=POL
내가 사장님한테 항의 편지를 쓰겠어요.
「私が社長に抗議の手紙を書きます．」(野間 1988: 15)

(5-73) a. te isang mos cham-**keyss**-e=yo.
さらに 以上 IMPS 耐える-PROB-DECL=POL
더 이상 못참겠어요.
「これ以上我慢できないよ．」(野間 1988: 24)

b. mom=un pyelil eps-nuntey kasum sok=i aph-a cwuk-**keyss**-so.
体=TOP 別事 ない-ADV.AVS 胸 中=NOM 痛い-ADV 死ぬ-PROB-DECL
몸은 별일 없는데 가슴 속이 아파 죽겠소.
「体は平気なんだが胸が痛くて死にそうだよ．」(野間 1988: 27)

(5-74) na=n tuleka-se com swi-eya-**keyss**-e.
1SG=TOP 帰る-ADV.SEQ 少し 休み-OBLG-PROB-DECL.NPOL
난 들어가서 좀 쉬어야겠어.
「わたしは帰ってちょっと休まないと．」(野間 1988: 34)

(5-75) ile-taka=n cengmal mikwung=ey ppaci-**keyss**-e.
こうする-ADV.DISC=TOP 本当に 迷宮=DAT 落ちる-PROB-DECL.NPOL
이러다간 정말 미궁에 빠지겠어.
「このままじゃ本当に迷宮入りしそうだ．」(野間 1988: 39)

最初の (5-72) の例においては,「主体は話し手自身を含む」「用言は意志動詞である」という条件のもとで話し手の去就を述べるとされる (野間 1988: 15)．次の (5-73) のような例は「用言が話し手の意志で左右できない非随意的な性格を帯びている」「主体は話し手自身を含んでいる」という条件のもとで話し手の境遇を述べる用法として分類されている (ibid.: 23)．このような話し手の境遇を表す文では，述語は (i) 一部の遂行動詞，(ii) (5-73a) の例のように不可能を表す副詞 mos とともに用いられ主体の不利な状況を表す用言，(iii) al-「知っている，分かる」, molu-「知らない，分からない」などの認識動詞，(iv) (5-73b) の例のように cwuk-「死ぬ」 , ssuleci-「倒れる」, michi-「狂う」など主体に不利な状況を表す用言を典型例とするという (ibid.: 23)．その次の (5-74) のような例は主観的な評価を表すが，このような例の場合，用言は coh-「よい」などの形容詞，antoy-「駄目だ」等の形容詞的な性格が強い動詞や，可能を表す -l swu iss-, 不可能を表す -l swu iss-eps-, -(a/e)ya-keyss- (-OBLG-PROB)「〜なければならないだろう」などの迂言的形式を含む (ibid.: 30-31)．最後に，(5-75) は，まさにこれから起ころうとする事態を主観的に表す用法であり，帰結を述べる文と分類されている (ibid.: 38)．本研

究では (5-72) のような用法を，次節で考察するムードマーカー -l kes=i- との比較において同様の基準を用いるために去就という用語は用いず意志と呼ぶことにする.[6]また，(5-73) の用法は便宜的に境遇，(5-74) は評価，(5-75) は判断と呼ぶ.

5.3.2.2 -keyss- の認識主体に関する先行研究

副動詞が -keyss- と結合した場合の認識主体に関する問題は，ナム・ギリム (1998), パク・チェヨン (2006: 128-143) において扱われている．ナム・ギリム (1998) では，-keyss- の認識主体が話し手になる副動詞接辞と，後続する主節の主語と同一となる副動詞接辞とに分類した．ここでナム・ギリム (1998) は前者を「主語中心接続語尾 (주어 중심 접속어미)」，後者を「話し手中心接続語尾 (말하는이 중심 접속어미)」と呼んでいる．ナム・ギリム (1998) の主張を整理すると (5-76) のようになる.

(5-76) 主語中心接続語尾 (subject-oriented modality)
-keyss- の主体は主節と同一：-myen「〜たら，〜れば」, -ketun「〜たら，〜れば」, -killay「〜なので」, -nunci「〜のか」, -telato「〜としても」, -nikka「〜から」
話し手中心接続語尾 (speaker-oriented modality)
-keyss- の主体は主節の主体に関係なく話し手：-ni「〜から」, -nuntey「〜けど」, -ciman「〜が」, -na「〜が」, -toy「〜だが，〜けれども」, -nunpa「〜するところ (の)」

また，ナム・ギリム (1998) では -keyss- の意味についても考察しているが，意味の点については再考が必要であると考えられる．パク・チェヨン (2006: 128-143) ではナム・ギリム (1998) の議論を発展させ，副動詞と -keyss- が結合した場合，モダリティの認識主体がどの人称になるかを，文の機能（平叙文，疑問文，命令文，勧誘文，約束文）別に分けて考察している．次の表 45 がパク・チェヨン (2006: 128-143) の考察結果である．表 45 では本研究で対象としている副動詞接辞以外（-ni「〜から」, -killay「〜ので」, -ketun「〜たら」）も参考として引用してある．表 45 の結果を見ると，例えば理由を表す -nikka はどちらかというと話し手中心の副動詞接辞であるということがわかる．主節の文のタイプによっても副詞節の主体が左右されうるのであれば，ナム・ギリム (1998) の主張をそのまま受け入れることはできない.

[6] 野間 (1988) では，それまでの先行研究で用いられてきた意志=推量という用語を避けようとしているが，次節で考察するムード形式 -l kes=i- との比較がしやすいように去就ではなく意志という用語を使うことにする.

表 45　文類型による -keyss- の主体 (パク・チェヨン 2006: 142)

副動詞接辞＼後行節の文類型	平叙文	疑問文	命令文	勧誘文	約束文
-ni, -ciman, -ntey	話し手	話し手	話し手	話し手	話し手
-nikka	話し手	聞き手	話し手	話し手	話し手
-killay	話し手	聞き手	×	×	×
-ketun	×	×	聞き手	聞き手	話し手
-myen	話し手	話し手 （後行節の主語が 1 人称） 聞き手 （後行節の主語が 2 人称）	聞き手	聞き手 （or 話し手／聞き手）	話し手
-(a/e)to	×	×	聞き手	聞き手 （or 話し手／聞き手）	話し手

5.3.2.3　「副動詞 + -keyss-」におけるムードの意味，認識主体

ここから，副動詞が -keyss- と結合したときの副詞節の統語，意味的特徴および，ムードの意味や認識主体について考察していく．まず，表 46 に，基礎資料から収集した副動詞と -keyss- が結合した例の出現頻度を示す． 副動詞が [ADN kes kath-] と結合したときの出現頻度と比べると，[ADN kes kath-] の場合は -(a/e)se が 41.9%, -nuntey/-ntey が 23.7% で全体の 6 割以上を占めていたのに対し，-keyss- の場合は -ciman のみで約 8 割を占めている．-nuntey/-ntey は -keyss- の場合 2 番目に多いが，その割合は 1 割程度に留まる．表 46 を見ると，-ciman 節や -nuntey/-ntey 節といったかなり定形性の高い節が -keyss- と結合した例が多いということができる．時間的関係を表す -myense$_1$ や -taka は結合例がなかった．

表 46　基礎資料における「副動詞 + -keyss- 」の出現頻度

副動詞接辞	頻度
-ciman	969 (79.4%)
-nuntey/-ntey	138 (11.3%)
-ko	50 (4.1%)
-myen	58 (2.4%)
-(a/e)se$_3$	29 (1.4%)
-nikka$_2$	17 (0.9%)
-teni	4 (0.3%)
-(a/e)to	3 (0.2%)
合計	1221 (100.0%)

以下では表 46 で出現頻度の低かった副動詞接辞から「副動詞 + -keyss- 」の統語，意味的特徴を考察していくことにする．-ko についてはやはり -keyss- と結合した場合は列挙の意味にしかならないためここでは扱わない．

■ -(a/e)to

張京姫 (1985: 53) は -keyss- が -(a/e)to と結合した場合，-keyss- は「可能性内包状態発生」[7] の意味を表すと述べている．この -keyss- の用法は，本研究で境遇と呼んでいる用法と同一であると考えられ，話者の現在の内的状態に述語で表される事態が発生する可能性が内包されていると説明されている (張京姫 1985: 50)．-(a/e)to の例は 3 例しか現れなかったが，張京姫 (1985: 53) の指摘のとおり用例は -keyss- が境遇を表す例であった．(5-77) 以外の 2 例は述語が molu-「知らない」の例である．-keyss- の認識主体は (5-77) では聞き手であるが，他の 2 例は話し手であった．

(5-77) kulenikka ttelly-e cwuk-**keyss-eto** cham-a.
だから 震える-ADV 死ぬ-PROB-ADV.CONC 耐える-IMPR:NPOL
그러니까 떨려 죽겠어도 참아.
「だから震えて死にそうでも我慢しろ.」[시크릿가든 1]

■ -teni

-teni が -keyss- と結合した場合も，このムード形式の表す意味に関しては，境遇を表す例のみであった．また，副詞節の事態の主体は (5-78) であれば話し手，(5-79) であれば聞き手であるが，-keyss- の認識主体は全ての例で話し手であると考えられる．-teni の主体は，過去接辞と結合するときに話し手となることについてはすでに述べたが，過去接辞ではなく -keyss- と結合した (5-78) でも主体は話し手となっている．

(5-78) oppa=uy son=eyse=nun cal molu-**keyss-teni** kyeycipay=uy son=eyse=nun poli
兄=GEN 手=LOC=TOP よく 知らない-PROB-ADV.FCTC 女の子=GEN 手=LOC=TOP 麦
phili=ka phalah-key pich=ul nay-ss-ta.
笛=NOM 青い-ADV.MNN 光=ACC 出す-PST-DECL
오빠의 손에서는 잘 모르겠더니 계집애의 손에서는 보리 피리가 파랗게 빛을 냈다.
「兄さんの手ではよくわからなかったが，女の子の手では麦笛が青く光りを放った.」[CE000031]

(5-79) ccom cen=kkaci cwuk-**keyss-teni** enusay kwaynchanh-ney?
少し 前=まで 死ぬ-PROB-ADV.FCTC いつの間にか 大丈夫だ-ADM
쫌 전까지 죽겠더니 어느새 괜찮네?
「ちょっと前まで死にそうだったのに，いつの間にか大丈夫だね？」[시크릿가든 13]

[7] 張京姫 (1985) は -keyss- の意味を「結果推量」「推量」「意図」「可能性内包状態発生」「能力」「意見」に分類している．

■ -nikka

-nikka が -keyss- と結合した例は全部で 11 例であったが，-keyss- は境遇あるいは評価を表していた．さらに，11 例中 9 例は (5-80) のように -keyss- と結びつく述語が否定形，不可能形になり境遇を表している．基礎資料に現れた用例 11 例のうち (5-81) を除く 10 例は認識主体が話し手と解釈できる例であった．(5-81) の場合は，認識主体は話し手でも聞き手でもない第三者（ここでは salam=tul「人たち」）であると解釈できる．

(5-80) te#isang selmyeng mosha-**keyss-unikka** naka cw-e.
さらに#以上 説明 できない-PROB-ADV.CSL 出ていく:ADV BEN-IMPR.NPOL
더이상 설명 못하겠으니까 나가줘.
「これ以上説明できそうにないから出てってくれ.」[CJ000285]

(5-81) keytaka teyli-ko iss-nun salam=tul=i tocehi ttalao-ci=l
しかも 連れる-ADV PROG-ADN.NPST 人=PL=NOM 到底 ついてくる-NMLZ=ACC
mosha-**keyss-unikka** nemwu~nemwu mal=i manh-un kes kath-a=yo.
できない-PROB-ADV.CSL とても~RDP 言葉=NOM 多い-SMBL.NPST-DECL=POL
게다가 데리고 있는 사람들이 도저히 따라오질 못하겠으니까 너무너무 말이 많은 것 같아요.
「しかも，取り巻きたち（lit. 連れている人たち）が到底ついてこられないから，すごく文句が多いみたいです.」[2CE00007]

キム・ヨンギョン (1994: 82) は -ni(kka) に -keyss- が結合するとき，主節は命令形，勧誘形，疑問形になりやすいということを指摘している．ただし，キム・ヨンギョン (1994) は理由を表す副動詞接辞 -ni と -nikka を区別していないため，この傾向が -nikka にそのまま当てはまるかは定かではない．基礎資料に現れた例には主節が勧誘形，疑問形の例は現れなかったが，11 例中 5 例は命令形であった．主節が疑問形の例は得られなかったが，表 45 に示したとおり主節が疑問形の場合は (5-82) のように認識主体が聞き手になることも可能なようである．ただし，この場合にも -keyss- が境遇を述べる例が最も自然である．

(5-82) amwulayto honca-se mosha-**keyss-unikka** kuman twu-nun ke-ni?
やはり 一人-(何)人で できない-PROB-ADV.CSL やめる-ADN.NPST こと-INTRR
아무래도 혼자서 못하겠으니까 그만 두는 거니?
「やっぱり一人じゃできそうにないからやめるのか？」

■ -(a/e)se

-(a/e)se が -keyss- と結合する場合，-(a/e)se は継起の意味では解釈されず，原因，理由を表すものとして解釈される．-keyss- の意味は (5-83) のような判断の例も 29 例中 2 例見られたが，ほとんどが (5-84) のように境遇，あるいは (5-85) のように評価を表している例であった．

(5-83) sonu=n khe-se ecci=na manhi sa w-ass-nunci ta mek-ci=to
手=TOP 大きい-ADV.SEQ あまりに=でも たくさん 買う:ADV VEN-PST-INDQ 全部 食べる-NMLZ=も
mosha-ko sangha-**keyss-ese** yeki nanw-e w-ass-e=yo.
IMPS-ADV.SEQ 傷む-PROB-ADV.SEQ ここ 分ける-ADV VEN-PST-DECL=POL

손은 커서 어찌나 많이 사왔는지 다 먹지도 못하고 상하겠어서 여기 나눠 왔어요.
「気前よくあまりにもたくさん買ってきて全部食べきれもせずに傷みそうだったから，ここに分けに来ました.」[CE000024]

(5-84) kikyey=man swulihay-se=nun pap mos mek-ko sal-**keyss-ese**
機械=だけ 修理する-ADV.SEQ=TOP ご飯 IMPS 食べる-ADV.SEQ 生きる-PROB-ADV.SEQ
tulyenw-ass-e=yo.
買い入れる-PST-DECL=POL
기계만 수리해서는 밥 못 먹고 살겠어서 들여놨어요.
「機械ばかり修理していては生活できなさそうだから（農業用品を）買い入れたんですよ.」[BREO0295]

(5-85) antoy-**keyss-ese** pyengwen=ey ka-ss-teni
駄目だ-PROB-ADV.SEQ 病院=DAT 行く-PST-FCTC
kwaminseng#taycang#cunghwukwun=ilay.
過敏性#大腸#症候群=COP:DECL.QUOT:言う:DECL
안되겠어서 병원에 갔더니 과민성대장증후군이래.
「駄目だと思って病院に行ったら過敏性腸症候群だって.」[BREO0293]

ナム・ギシム (1994: 70) は -(a/e)se と -keyss- の結合制約について，次の 4 点を指摘している．(i) 結合するのは -(a/e)se が原因を表すときのみ．(ii) 主節の主語は平叙文であれば 1 人称，疑問文であれば 2 人称となる．(iii) 副詞節のみならず，主節にも -keyss- が生起すると非文となる．(iv) 主節には命令形や勧誘形は許容されない．(i) については上で述べたとおり，基礎資料の例からも確認できた．(iv) は -(a/e)se と -keyss- が結びついたときの制約というよりも，-(a/e)se 自体の統語的な制約である．(ii) についてはユン・ピョンヒョン (2005: 174) も同様の指摘をしつつ，(5-86) のような例を挙げている．(5-86a), (5-86b) のように，副詞節の主体が 1, 2 人称であれば自然だが，(5-86c) のように 3 人称になると不自然ということである．

(5-86) a. pap=i tha-**keyss-ese** nay=ka pwul=ul kk-ess-ta.
ご飯=NOM 焦げる-PROB-ADV.SEQ 1SG=NOM 火=ACC 消す-PST-DECL
밥이 타겠어서 내가 불을 껐다.
「ご飯が焦げそうだから，わたしが火を消した.」

b. pap=i tha-**keyss-ese** ney=ka pwul=ul kk-ess-nunya?
ご飯=NOM 焦げる-PROB-ADV.SEQ 2SG=NOM 火=ACC 消す-PST-INTRR
밥이 타겠어서 네가 불을 껐느냐?
「ご飯が焦げそうだから，お前が火を消したのか？」

c. *pap=i tha-**keyss-ese** ku=ka pwul=ul kk-ess-ta (kk-ess-nunya?)
ご飯=NOM 焦げる-PROB-ADV.SEQ 3SG.M=NOM 火=ACC 消す-PST-DECL (消す-PST-INTRR)
* 밥이 타겠어서 그가 불을 껐다 (껐느냐?)
「ご飯が焦げそうだから，彼が火を消した（消したのか？）」

(ユン・ピョンヒョン 2005: 174)

基礎資料から得られた (5-84) から (5-83) の例では認識主体が話し手であるが，次の (5-87) は主節が疑問文で，ナム・ギシム (1994: 70) の主張のとおり認識主体が聞き手になっていることが確認できる．

(5-87) na=chelem calsayngki-n namca chem pw-ase ttelly-e cwuk-**keyss-ese**
1SG=EQU 整っている-ADN.PST 男 初めて 見る-ADV 震える-ADV.SEQ 死ぬ-PROB-ADV.SEQ
tte-nun ke=ya?
震える-ADN.NPST こと=COP:INTRR.NPOL
나처럼 잘생긴 남자 첨 봐서 떨려죽겠어서 떠는 거야?
「おれみたいなイケメンの男初めて見たから，震えて死にそうで震えてるのか？」
[시크릿가든 1]

また，チェ・ジェヒ (1991: 105), キム・ヨンギョン (1994: 82-83) は -(a/e)se との結合においては -keyss- よりも非現実連体形を含む -l kes kath- ([ADN kes kath-])「〜だろう」の方が自然であると指摘している．すでに表 44 に示したように，-(a/e)se は [ADN kes kath-] との結合においては最も出現頻度が高かった．

■ -myen

-myen が -keyss- と結合した例でも -keyss- は境遇を表す例が特に多かった．パク・チェヨン (2006: 136) は，(5-88c) のような -keyss- が「能力」を表す例が最も自然ではあるものの，(5-88a) のような「蓋然性判断」，(5-88b) のような「意図」を表すことも可能だと述べている．-keyss- が表す意味を【】に入れて表記したが，意味のラベルはパク・チェヨン (2006) に従ったものである．(5-88c) のような例では能力を表すのは -keyss- というより不可能を表す副詞 mos であると考えられるため，あまり適当なラベルとはいえない．(5-88a) から (5-88c) はそれぞれ本研究のラベルでは判断，意志，境遇にあたる．すでに副動詞接辞 -(a/e)to のところで述べたように，張京姫 (1985: 53) は -keyss- が -myen と結合した場合にも -keyss- は「可能性内包状態発生」の意味を表すと述べている．

(5-88) a. ney sayngkak=ey yenghuy=ka ka-**keyss-umyen** chelswu=nun ponay-ci
2SG:GEN 考え=DAT PN=NOM 行く-PROB-ADV.COND PN=TOP 送る-NMLZ
mal-a.
PROH-IMPR.NPOL
네 생각에 영희가 가겠으면 철수는 보내지 마라.【蓋然性判断】
「おまえがヨンヒが行きそうだと思うなら，チョルスは行かせるな.」

b. yeki=se pap=ul mek-**keyss-umyen** coh-un siktang=eyse
ここ=LOC ご飯=ACC 食べる-PROB-ADV.COND よい-ADN.NPST 食堂=LOC
mek-ela.
食べる-IMPR.NPOL
여기서 밥을 먹겠으면 좋은 식당에서 먹어라.【意図】
「ここでご飯を食べるつもりなら，いい食堂で食べろ.」

c. ceng mos sal-**keyss-umyen** ihon=ilato ha-kela.
本当に IMPR 生きる-PROB-ADV.COND 離婚=でも する-IMPR
정 못 살겠으면 이혼이라도 하거라.【能力】
「本当に我慢ならないなら，離婚でもしなさい.」

(パク・チェヨン 2006: 136)

基礎資料の例を考察すると，パク・チェヨン (2006: 136) の指摘するとおり， -keyss- が判断と意志を表す例よりも，境遇を述べる例が多かった．具体的には境遇 (23/29 例)，意志 (3/29 例)，評価 (2/29 例)，判断 (1/29 例) のようであった．次の例は順に，(5-89) は境遇，(5-90) は意志，(5-91) は評価，(5-92) は判断を表す例である．境遇を表す例の場合，(5-89) のように述語が mit-「信じる」である例が多く 29 例中 10 例を占めていた．認識主体に関して，表 45 に示したパク・チェヨン (2006) の研究では主体が話し手になる例もあるとされていたが，基礎資料の中には 1 例もそのような例は現れず，全て聞き手の例であった．

(5-89) mos mit-**keyss-umyen** po-nun kes=uy celpan=man mit-usipsio.
IMPS 信じる-PROB-ADV.COND 見る-ADN.NPST もの=GEN 半分=だけ 信じる-IMPR.POL
못 믿겠으면 보는 것의 절반만 믿으십시오.
「信じられないなら，見ているものの半分だけを信じてください.」[BREO0089]
［境遇］

(5-90) kitali-**keyss-umyen** taymwun pakk=eyse kitali-tunci mal-tunci maum=taylo
待つ-PROB-ADV.COND 正門 外=LOC 待つ-ADV.ALT やめる-ADV.ALT 気持ち=とおり
ha-sey=yo.
する-HON.IMPR=POL
기다리겠으면 대문 밖에서 기다리든지 말든지 마음대로 하세요.
「待つつもりなら正門の外で待つなりなんなり，勝手にしてください.」[BREO0290]
［意志］

(5-91) ... yakhon=ul phakihay-ya-**keyss-umyen** ha-ko mikwuk ka-ko
婚約=ACC 破棄する-OBLG-PROB-ADV.COND する-ADV.SEQ アメリカ 行く-ADV
siph-umyen ka-kela.
DESI-ADV.COND 行く-IMPR
... 약혼을 파기해야겠으면 하고 미국 가고 싶으면 가거라.
「…婚約を破棄しなきゃならないと思うならすればいいし，アメリカに行きたければ行きなさい.」[CE000024] ［評価］

(5-92) ettekha-kka, yayki kil-eci-**keyss-umyen** yo aph=ey chascip=ulwu ka-kwu―.
どうする-UNCT 話 長い-INTRZ-PROB-ADV.COND この 前=DAT 喫茶店=ALL 行く-ADV.SEQ
어떡하까, 얘기 길어지겠으면 요 앞에 찻집으루 가구―.
「どうしようか, 話が長くなりそうならこの前にある喫茶店に行って….」[2CJ00023]
［判断］

■ -nuntey/-ntey

-nuntey/-ntey が -keyss- と結合する場合， -keyss- はやはり境遇，評価を表す例が多いものの，意志や判断を表している例もいくつか現れた．-nuntey/-ntey と結びつく用言は特定の用言が多く，全 139 例中 cwuk-「死ぬ」が 25 例 (25/139; 約 18%)，molu-「知らない」が 22 例 (22/139; 約 16%)，coh-「よい」が 18 例 (18/139; 約 13%)，al-「知る，知っている」が 10 例 (10/139; 約 7%) で，この四つだけで全用例の約半数を占めていた．(5-93) に境遇，(5-94) に評価，(5-95) に意志，(5-96) に判断を表す場合の例を挙げておく．意志の例は (5-95) のように -nuntey/-ntey 節が聞き手への宣言や忠告のような意味を持っていると考えられる例が多かった．他には chwungkoha-**keyss**-nuntey (忠告する-PROB-ADV.AVS)「忠告するけど」, malhay twu-**keyss**-nuntey (言う:ADV PREP-PROB-ADV.AVS)「言っておくけど」のような例がある．

(5-93) nam-un aph-ase cwuk-**keyss-nuntey** mwe=ka wusup-ni?
他人=TOP 痛い-ADV.SEQ 死ぬ-PROB-ADV.AVS なに=NOM おかしい-INTRR
남은 아파서 죽겠는데 뭐가 우습니?
「他人が痛くて死にそうなのに，なにがおかしいんだ？」[BREO0299] ［境遇］

(5-94) com pyenhay-ss-umyen coh-**keyss-nuntey** kukes=i antway
少し 変わる-PST-ADV.COND よい-PROB-ADV.AVS それ=NOM 駄目だ:ADV.SEQ
komin=iya.
悩み=COP:DECL.NPOL
좀 변했으면 좋겠는데 그것이 안돼 고민이야.
「少し変わってくればいいんだけど，それができなくて困る．」[2CE00019] ［評価］

(5-95) kulem chinkwu=lose hanmati ha-**keyss-nuntey** yocum ne=l po-ko
それでは 友達=として ひとこと 言う-PROB-ADV.AVS 最近 2SG=ACC 見る-ADV
iss-umyen hwa=ka na.
PROG-ADV.COND 怒り=NOM でる:DECL.NPOL
그럼 친구로서 한마디하겠는데 요즘 널 보고 있으면 화가나.
「じゃあ友達としてひとこと言わせてもらうけど，最近おまえを見てるといらつくんだ．」[CJ000255] ［意志］

(5-96) eti-nka=eyse ankay=ka kki-ki=nun kki-**keyss-nuntey** kukey
どこ(=COP)-INDF=LOC 霧=NOM かかる-NMLZ=TOP かかる-PROB-ADV.AVS それ:NOM
eti=i-nci=nun cal molu-keyss-ta…
どこ=COP-INDQ=TOP よく 知らない-PROB-DECL
어딘가에서 안개가 끼기는 끼겠는데 그게 어디인지는 잘 모르겠다…
「どこかで霧がかかってはいると思うけど，それがどこかはよくわからないな…」[6BE00012] ［判断］

-keyss- の認識主体に関しては，パク・チェヨン (2006) の指摘のとおり，主節のタイプに関係なく話し手となる．上の (5-93) から (5-96) の例からも認識主体は全て話し手であることが

確認できる．

■ -ciman

逆接の -ciman が -keyss- と結合する場合，-keyss- は境遇，評価，意志，判断の全ての意味を表す．これまで見てきたどの例とも異なり，境遇の例が突出して多いというわけではない．また，-keyss- に加えて過去接辞 -(a/e)ss- がさらに結合した例が現れたのが特徴である．-keyss-ciman と結びつく用言のタイプは，全用例 970 例中，molu-「知らない」(164 例), al-「知る，知っている」(102 例) が特に多かった．あるいは可能／不可能を表す -l swu iss-/eps- という分析的な形を取る例もそれぞれ 51 例，18 例と比較的多く現れた．

-ciman の場合，-keyss- の認識主体は話し手でありながらも，副詞節の主体は聞き手であることが多い．つまり，聞き手のことについて話し手が推し量って述べるということである．次の (5-97) を見ると，述語に主体尊敬の接辞 -si- が付き，主体が聞き手であることが明示されている．ここで，「面倒だろう」と -keyss- によって推し量っているのはあくまで話し手である．この例 (5-97) では -keyss- が評価を表していると考えられるが，その一方，例 (5-98) では話し手が「わかるだろう」と判断を述べているとも，聞き手の境遇を表しているとも考えられ，判断と境遇の連続的な例と解釈できる．

(5-97) chwusin. penkelow-usi-**keyss-ciman** tapcang=ul kkok ponay cwu-sey=yo.
追伸 面倒だ-HON-PROB-ADV.AVS 返信=ACC 必ず 送る:ADV BEN-HON:IMPR=POL
추신. 번거로우시겠지만 답장을 꼭 보내주세요.
「追伸．ご面倒かと存じますが，返信を必ずお送りください．」[3BI00006]

(5-98) po-si-myen al-**keyss-ciman** wuli cip=ey phiano=ka eps-e=yo.
見る-HON-ADV.COND 知る-PROB-ADV.AVS 1PL 家=DAT ピアノ=NOM ない-DECL=POL
보시면 알겠지만 우리 집에 피아노가 없어요.
「ご覧になればわかると思いますが，わたしの家にはピアノがありません．」[5BE02010]

次の (5-99) は意志，(5-100) は境遇を表している例である．

(5-99) tamim=i-n cey=ka choytayhan nolyek=un ha-**keyss-ciman** nemwu
担任=COP-ADN.NPST 1SG=NOM 最大限 努力=TOP する-PROB-ADV.AVS とても
kitay=nun ma-sipsiyo.
期待=TOP やめる-IMPR.POL
담임인 제가 최대한 노력은 하겠지만 너무 기대는 마십시요.
「担任であるわたしが最大限努力はするつもりですが，あまり期待はしないでください．」[BEXX0012]

(5-100) cenghwakha-n iyu=nun molu-**keyss-ciman** ama nay sayngkak=i
正確だ-ADN.NPST 理由=TOP 知らない-PROB-ADV.AVS たぶん 1SG:GEN 考え=NOM
mac-ul ke=yey=yo.
合う-SPEC=COP:DECL=POL

정확한 이유는 모르겠지만 아마 내 생각이 맞을 거예요.
「正確な理由はわかりませんが，たぶんわたしの考えが合っていると思いますよ.」
[5BE02010]

すでに述べたように，-ciman の場合，過去接辞 -(a/e)ss- がさらに結合することが可能である．この場合，話し手が過去の事態に対して評価を述べたり判断を述べたりすることになる．よって，境遇や意志の例は見られず，(5-101) のように評価，あるいは (5-102) のように判断を表す.

(5-101) tangsin=un kaltung=i eps-**ess-keyss-ciman** na=nun mwuchek
あなた=TOP 葛藤=NOM ない-PST-PROB-ADV.AVS 1SG=TOP とても
kominhay-ss-ta-kwu=yo.
悩む-PST-DECL.QUOT-COMP=POL
당신은 갈등이 없었겠지만 나는 무척 고민했다구요.
「あなたは葛藤がなかったでしょうが，わたしはとても悩んだんですよ.」
[BREO0308]

(5-102) yenlak=iya ka-**ss-keyss-ciman** pwumo=tul=to sokswumwuchayk=i-l ke-kwu.
連絡=こそ 行く-PST-PROB-ADV.AVS 両親=PL=も お手上げ=COP-SPEC(=COP)-ADV.SEQ
연락이야 갔겠지만 부모들도 속수무책일 거구.
「連絡は当然いったと思うけど，両親たちもどうしようもないだろうし.」
[BREO0085]

-ciman の例においてもやはり，パク・チェヨン (2006) の指摘のとおり，主節のタイプに関係なく認識主体は話し手になっていることがわかる.

■ 「副動詞 + -keyss-」のまとめ

ここでこれまで考察してきたことをまとめておこう．各副動詞が -keyss- と結合したときの意味をまとめると表 47 のようになる．ここで，○は結合例があったこと，△は結合例があったものの出現頻度が低かったことを，×は結合例がなかったことを示している．×について，結合例がなかったというのは，あくまで基礎資料から得られた例にそのような例がなかっただけの可能性がある．よって，×のところはさらに調査をして，本当に結合が不可なのか確認する必要がある.

表 47 の副動詞接辞は節の定形性の低いものほど上に，高いものほど下に配置して示している．境遇の意味は全ての場合で可能であり，節の定形性が高い副詞節ほど多くの意味を表すことができるとも解釈できるが，それほどはっきりした傾向があるわけではない．ただ，特に話し手の意志を表すには副詞節がある程度の定形性を備えている必要があるとはいえるかもしれない．条件の -myen も意志を表すことができるが，次の表 48 にも示したように，-myen の場合は主体が聞き手であるからである.

表 47　副動詞と結合したときの -keyss- の意味

副動詞接辞 ＼ -keyss- の意味	境遇	評価	判断	意志
-teni	○	×	×	×
-(a/e)to	○	×	×	×
-(a/e)se$_3$	○	○	△	×
-myen	○	△	△	△
-nikka$_2$	○	○	×	×
-ciman	○	○	○	△
-nuntey/untey	○	○	△	△

次に，副動詞と -keyss- が結合したときの，認識主体について考察したことを表 48 にまとめる．✓ は，その認識主体になることが可能であることを示す．-nikka$_2$ のところで，括弧書きにしたのは主体が第三者になる例は極めて少ないためである．このことは単文における -keyss- とも事情は変わらないと考えられる．-(a/e)to, -(a/e)se$_3$, -myen, -nikka$_2$ については，主体が聞き手になる場合があるが，このような例では主節が疑問形や命令形といった，聞き手への発語内効力を持つ．これらの副詞節は主節の発語内効力との相互関係によって，認識主体が聞き手になっていると解釈できる．よって，-teni の場合を別にすれば，定形性の高い副詞節は，主節の発語内効力の影響を受けずに，認識主体が話し手になるということができるだろう．

表 48　副動詞と結合したときの -keyss- の主体

副動詞接辞 ＼ -keyss- の主体	話し手	聞き手	第三者
-teni	✓		
-(a/e)to	✓	✓	
-(a/e)se$_3$	✓	✓	
-myen		✓	
-nikka$_2$	✓	✓	(✓)
-ciman	✓		
-nuntey/untey	✓		

5.3.3　「副動詞 + -l kes=i-」におけるムード形式の意味，認識主体

すでに述べたように -l kes=i- は非現実の連体形 -l，依存名詞 kes「もの，こと」とコピュラ =i- からなる迂言的なムード形式である．まずは表 49 に基礎資料から得られた，副動詞と -l kes=i- の結合した例の出現頻度を示す．-keyss- は八つの副動詞と結合し合計出現頻度も 1221 例であったのに対し，-l kes=i- は七つの副動詞で 293 例しか現れなかった．

表 49　基礎資料における「副動詞 + -l kes=i-」の出現頻度

副動詞接辞	頻度
-ko	126 (43.0%)
-myen	68 (23.2%)
-nuntey/-ntey	40 (13.7%)
-nikka$_2$	35 (11.6%)
-myense$_3$	12 (4.1%)
-ciman	10 (3.4%)
-(a/e)se$_3$	3 (1.0%)
合計	293 (100.0%)

5.3.3.1　-l kes=i- の意味

-l kes=i- について野間 (1988: 61) はこれを「蓋然推量」を表すムード形式と呼び，-l kes=i- の意味を「事態をいま・ここで証明できぬ非現場的なもの・蓋然的なものとして想像の上で展開する，すなわち推量する．関心は展開され対象化された結果にある」としている．-l kes=i- は基本的に推量を表すが，主体が話し手あるいは聞き手で，なおかつ用言が意志動詞の場合は意志を表すことができる．ただし，野間 (1990) は -l kes=i- の意味は推量を基本としながら，意志的な意味に緩やかに連なっていると考えた方が妥当だろうと述べている．本研究では野間 (1990) の見解を受け入れつつも，便宜的に -l kes=i- の表す意味を「推量」と「意志」におおまかに分けておく．以下の (5-103), (5-104) がそれぞれの典型的な例である．

(5-103)　cengswuki mwul=i-ni　thullim epsi　kkaykkusha-**l kes=i**-ta.
浄水器　水=COP-ADV.CSL 間違い　なしで きれいだ-SPEC=COP-DECL
정수기 물이니 틀림없이 깨끗할 것이다.
「浄水器の水だから，間違いなく清潔だろう．」(国立国語院 2005: 772; 韓国・国立国語院 2012: 873)［推量］

(5-104)　ipen=ey=nun kkok tampay=lul kkunh-**ul ke=ya**.
今回=DAT=TOP 必ず　煙草=ACC　断つ-SPEC=COP.DECL.NPOL
이번에는 꼭 담배를 끊을 거야.
「今度は必ず，たばこをやめるつもりだ．」(国立国語院 2005: 772; 韓国・国立国語院 2012: 873)［意志］

5.3.3.2　「副動詞 + -l kes=i-」におけるムードの意味，認識主体

以下，これまでと同じように表 49 に示した，出現頻度の低い副動詞接辞から考察を進めていく．-l kes=i- との結合においては -ko が最も多く現れたが，-ko は列挙の意味しか表さない

ためここでは扱わない．ちなみに -ko と結合した場合 -l kes=i- の意味は意志よりも推量が多かった．

■ -(a/e)se

-(a/e)se と -l kes=i- が結合する例は表 49 にも示したように全部で 3 例，-l kes=i-ese という形でしか現れなかった．コピュラに副動詞接辞 -(a/e)se が付く場合，=i-ese と =ila-se のように二つの活用のパターンがあり，後者の方がどちらかというと話しことば的でよく用いられる形だが，これについては前者の場合しか例が現れなかった．副動詞接辞の意味は理由であり，ムードの意味に関しては，推量 2 例，意志が 1 例であった．(5-105) は推量の例である．

(5-105) ... ile-l ttay khephi=lul masi-myen sinkyeng=i tewuk
こうだ-ADN.IRR とき コーヒー=ACC 飲む-ADV.COND 神経=NOM さらに
nalkhalow-eci-**l kes=i-ese** yengse=nun kokay=lul ce-ess-ta.
鋭い-INTRZ-SPEC=COP-ADV.SEQ PN=TOP 首=ACC 横に振る-PST-DECL
…이럴 때 커피를 마시면 신경이 더욱 날카로워질 것이어서 영서는 고개를 저었다.
「こういうときコーヒーを飲むと神経がより鋭敏になるので，ヨンソは首を横に振った．」[2CE00018]

基礎資料からは得られなかったが，話しことば的な -l ke=la-se という形も用いられる．

(5-106) na=nun honca mek-**ul ke=la-se** 1inpwun=man sikhy-ess-ta.
1SG=TOP 一人 食べる-SPEC=COP-ADV.SEQ 1 人前=だけ 注文する-PST-DECL
나는 혼자 먹을 거라서 1 인분만 시켰다.
「わたしは一人で食べるつもりなので 1 人前のみ注文した．」

基礎資料から得られた例は 3 例のみであるが，-l kes=i- によって表される推量や意志の主体は全て話し手であった．

■ -ciman

-ciman 節は節の定形性が高く，ムード形式である -l kes=i- との結合も自由であることが予測できる．しかし，表 49 にも示したとおり -l kes=i- との結合例は 10 例しかなく，表 46 ですでに見たように，本研究で対象としている副動詞接辞の中でも -ciman が最も -keyss- と結合した例が多かったのとは正反対である．例は -(a/e)se と似て書きことばの例ばかりであった．-l kes=i- が表すのは (5-107) のように推量がほとんどである．(5-108) のように主体が 1 人称，用言が意志動詞で意志を表している例として解釈できる例もこの 1 例のみ現れたが，結果状態のアスペクト形式を取っていることで，どちらかというと事態を客観的に述べており推量に近い例と考えられる．-l kes=i- の主体は全て話し手であった．

(5-107) phwuskochwu=ka iss-ess-umyen mas=i hankyel na-aci-**l kes=i-ciman**
青唐辛子=NOM ある-PST-ADV.COND 味=NOM 一層 ましだ-INTRZ-SPEC=COP-ADV.AVS
phwuskochwu=nun eps-ess-ta.
青唐辛子=TOP ない-PST-DECL

풋고추가 있었으면 맛이 한결 나아질 것이지만 풋고추는 없었다.
「青唐辛子があれば味がより一層引き立つだろうけど，青唐辛子はなかった.」[4BE01002]

(5-108) talu-n ttay kathumyen camyengcong suwichi=lul kku-ko=to hancham=ul
違う-ADN.NPST とき だったら アラーム スイッチ=ACC 切る-ADV.SEQ=も しばらく=ACC
ephtuly-e iss-**ul ke-ciman** onul=un saceng=i tall-ass-ta.
うつ伏せになる-ADV DUR-SPEC-ADV.AVS 今日=TOP 事情=NOM 違う-PST-DECL
다른 때 같으면 자명종 스위치를 끄고도 한참을 엎드려 있을 거지만 오늘은 사정이 달랐다.
「いつもだったらアラームのスイッチを切ってもしばらくは横になっているが，今日は事情が違った.」[BREO0095]

■ -myense

-myense と -l kes=i- が結合するとき，副動詞接辞は逆接的な意味を表し，ムード形式は「～つもり」という意志的な意味を表す．認識主体は全て聞き手である．主節は (5-109) のようにほぼ疑問形で現れた．主節の疑問形の影響で副詞節の認識主体が聞き手になっていると考えられる．主節の発語内効力の影響に関しては，-keyss- の考察のまとめで述べたとおりである．

(5-109) heyeci-**l ke-myense** cip=un tto way sa-ss-tay?
別れる-SPEC-ADV.SIM 家=TOP また なんで 買う-PST-DECL.QUOT:言う:INTRR
헤어질 거면서 집은 또 왜 샀대?
「別れるつもりなのに，家はまたどうして買ったんだって？」[BREO0303]

■ -nikka

-nikka と -l kes=i- が結合した場合，-l kes=i- は (5-110), (5-111) のように推量を表すことも，(5-112) のように意志を表すこともできる．推量する事態は (5-110) のように第三者の事態のこともあれば，(5-111) のように聞き手のこともある．ここに挙げた例を見てもわかるとおり，-l kes=i- の認識主体は話し手となる．なお，-nikka は契機の意味は表せず，理由のみを表す．

(5-110) kule-n il celtay eps-**ul ke-nikka** kekceng mallay-ss-ci?
そうだ-ADN.NPST こと 絶対 ない-SPEC-ADV.CSL 心配 やめる:IMPR.QUOT:言う-PST-ASS
그런 일 절대 없을 거니까 걱정 말랬지?
「そんなこと絶対にないだろうから，心配するなって言ったろう？」[2CJ00015]

(5-111) inceng an ha-si-**l ke-nikka** kunyang thongpoha-lkey=yo.
認定 NEG する-HON-SPEC-ADV.CSL そのまま 通報する-PROM=POL
인정 안 하실 거니까 그냥 통보할게요.
「お認めにならないでしょうから，このまま通報しますよ.」[시크릿 가든 20]

(5-112) cey=ka myengswu taysin nam-**ul ke-nikka** kekceng ma-sipsiyo.
1SG=NOM PN 代わりに 残る-SPCE-ADV.CSL 心配 やめる-IMPR.POL

제가 명수 대신 남을 거니까 걱정마십시요.
「わたしがミョンスの代わりに残りますから心配しないでください.」[3BN20014]

なお，-nikka の例，全 34 例中 20 例は (5-110), (5-112) のように主節が命令形を含む例であった．-nikka との結合において主節が命令形で現れた例が多いのはムードマーカーの -keyss- も同様であった．

■ -nuntey/-ntey

-nuntey/-ntey が -l kes=i- と結合した例では，-l kes=i- は (5-113) のように推量も (5-114) のように意志も表すことができる．認識主体は 1 例を除いて全て話し手であった．

(5-113) aph=ulo hoysa=eyse kyeysok macwuchi-**l ke-ntey** ile-n il=lo selo
前=ALL 会社=LOC ずっと 顔を合わせる-SPEC-ADV.AVS こうだ-ADN.NPST こと=INST 互いに
kkelkkulep-ci anh-ass-um coh-keyss-ney=yo.
気まずい-NMLZ NEG-PST-ADV.COND よい-PROB-ADM=POL
앞으로 회사에서 계속 마주칠 건데 이런 일로 서로 껄끄럽지 않았음 좋겠네요.
「これから会社でずっと顔を合わせるだろうに，こんなことでお互い気まずくならないといいですね.」[봄의 왈츠 10]

(5-114) myechil mwuk-**ul ke-ntey** coyongha-ko kkaykkusha-n pang=ulo
何日 泊まる-SPEC-ADV.AVS 静かだ-ADV.SEQ きれいだ-ADN.NPST 部屋=ALL
cwu-sey=yo.
くれる-HON:IMPR=POL
며칠 묵을 건데 조용하고 깨끗한 방으로 주세요.
「何日か泊まるつもるなんですが, 静かできれいな部屋をお願いします.」[2CE00019]

-l kes=i- の認識主体が聞き手である例は次の (5-115) だけである．この例では主節が疑問形であるため，主節の発語内効力との相互作用で認識主体が聞き手と解釈されると考えられる．

(5-115) mwe mantu-si-**l ke-ntey** ileh-key manhi sa-sey=yo?
なに 作る-HON-SPEC-ADV.AVS こうだ-ADV.MNN たくさん 買う-HON:INTRR=POL
뭐 만드실 건데 이렇게 많이 사세요?
「なにをお作りでこんなたくさん買われるんですか？」[2CJ00015]

ムード形式だけでなく，述語がさらに過去接辞と結びついている -(a/e)ss-ul kes=i- (-PST-SPEC=COP-) の例については，(5-116) のように -l kes=i- は全て推量を表す．

(5-116) tangsin=i naka-ss-umyen talu-n salam=i pelsse tulew-ase ton=ilato
あなた=NOM 出ていく-PST-ADV.COND 違う-ADN.NPST 人=NOM もう 入る-ADV.SEQ お金=でも
pat-ass-**ul kes=i-ntey** way ilay ay=lul meki-nun ke=yo?
受ける-PST-SPEC=COP-ADV.AVS なぜ こうだ:ADV.SEQ 苦労=ACC 食わせる-ADN.NPST こと=POL
당신이 나갔으면 다른 사람이 벌써 들어와서 돈이라도 받았을 것인데 왜 이래 애를 먹이는 거요?

「あなたが出ていったら他の人がとっくに入ってお金をもらっているだろうに，なんでこんな面倒をかけるんです？」[CG000035]

■ -myen

-myen が -l kes=i- と結合する場合， -l kes=i- が推量を表している例はなく，1 例を除き意志を表していると解釈できる例であった．意志以外の意味を表していると考えられる 1 例は，(5-118) のように不可能形になっている例で，-keyss- の意味について見たように，話者の境遇を表す例と考えることができる．-l kes=i- の認識主体は -myen が -keyss- と結合した例と同様，全て聞き手であった．-myen と -l kes=i- の結合する例においては，主節は (5-117) のように主節が命令形である例が多く，67 例中 22 例が命令形であった．その他，主節が当為や疑問の例も多く見られ，-l kes=i- の認識主体が聞き手であるのは主節の発語内効力との相互作用によるものと考えられる．副詞節全体は仮定を表すというよりも，すでに起きている事態を取り上げ，後続する発話の前提を表す．また，(5-117) の例のように副詞 iwang/kiwang「どうせ」と共起する例が 12 例と比較的多く現れた．

(5-117) ya, **kiwang** phiw-**ul ke-myen** coh-un tampay phiw-ela.
INTJ どうせ 吸う-SPEC-ADV.COND よい-ADN.NPST 煙草 吸う-IMPR.NPOL
야, 기왕 피울 거면 좋은 담배 피워라.
「おい，どうせ吸うならいい煙草吸えよ．」[3BES0003]

(5-118) kyewu twu tal=to mos pethi-**l ke-myen** mwe ha-le nao-n
たった 二つの 月=も IMPS 耐える-SPEC-ADV.COND なに する-ADV.PURP 出てくる-ADN.PST
ke=ya?
こと=COP:DECL.INTRR
겨우 두 달도 못 버틸 거면 뭐 하러 나온 거야?
「たった 2 ヶ月も耐えられないなら，いったいなんで出てきたんだ？」[BREO0308]

■ 「副動詞 + -l kes=i-」のまとめ

ここまで考察したことをまとめておく．副動詞が -l kes=i- と結合する場合のムード形式の意味を表 50 に整理した．○はその意味を表すことを，×はその意味を表さないことを意味する．-ciman のところに '?' を付したのは，すでに述べたように (5-108) の例は意志というより推量と解釈できるため，基礎資料から得られた例には -l kes=i-ciman における -l kes=i- が意志を表す例はないことになるからである．副動詞接辞は表 50, 51 ともに副詞節の定形性が低いほど上に，定形性が高いほど下に配している．

副動詞と結合した場合の -l kes=i- の意味は，下の表 51 に示した -l kes=i- の主体と関連があると考えられる．つまり，認識主体が聞き手になる場合は推量を表さないということである．-nuntey/-ntey に関しては -l kes=i- の認識主体が聞き手になる例はあったが，1 例のみであった．-keyss- が表す意志と，-l kes=i- の表す意志の意味はもちろん同じ性質のものではないが，-keyss- では意志の意味が制限される傾向にあったのとは反対に， -l kes=i- では推量の意味が制限されるように見える．

表 50　副動詞と結合したときの -l kes=i- の意味

副動詞接辞 ＼ -l kes=i- の意味	意志	推量
-myense$_3$	○	×
-(a/e)se$_3$	○	○
-myen	○	×
-nikka$_2$	○	○
-ciman	×?	○
-nuntey/-ntey	○	○

それぞれの副動詞について -l kes=i- の認識主体がどのように解釈されるかを考察した結果を表 51 にまとめる．-nuntey/-ntey のところで括弧書きにしているのは，今回の調査では例が 1 例しか見付からなかったためである．ムードの認識主体に関してはそれほどはっきりした傾向は見いだせないが，基本的には蓋然性の -keyss- の場合と同じように副詞節内の定形性が低いと，主節の発語内効力との関連で主体が聞き手となるようである．これらの副動詞接辞が -l kes=i- と結合したときに主節に偏りが生じるのかについては，さらに考察が必要である．

表 51　副動詞と結合したときの -l kes=i- の主体

副動詞接辞 ＼ -l kes=i- の主体	話し手	聞き手	第三者
-myense$_3$		✓	
-(a/e)se$_3$	✓		
-myen		✓	
-nikka$_2$	✓		
-ciman	✓		
-nuntey/-ntey	✓	(✓)	

5.4　第 5 章のまとめ

本章では，副動詞とアスペクト，テンス，ムードマーカーとの結合可否について示し，さらに単なる結合可否の提示に留まらず，結合頻度についても明らかにした．そのうえで，TAM マーカーの意味の制限のされ方などについても論じた．

進行アスペクトを表す -ko iss- との結合においては，時間的な関係を表す副動詞に結合制限があることを明らかにし，同時の -myense$_1$ は一部の用言のみアスペクトマーカーと結合できること，中断の -taka はさらに過去接辞が結合するときに制限が生じることについて指摘した．

過去接辞との結合においては，副動詞と結合したときに，主節を基準とする相対テンスとして解釈されるか，発話時を基準として絶対テンスとして解釈されるかについて考察した．

本研究では先行研究で扱われていなかった契機の -teni と理由の -nikka$_3$ について特に新たに考察をし，その他の副動詞についても実際の用例をもとにより詳しく副詞節とテンスの関係を示した．そして，定形性の低い副詞節は相対テンスとして，比較的定形性の高い節は絶対テンスとして解釈されることを明らかにした．ただ，定形性を備えた節が必ず絶対テンスとして解釈されるわけではなく，相対テンスとして解釈される場合もあることを述べた．

ムードマーカーについては「〜ようだ，〜と思う」といった話者の主観的な考えを表す [ADN kes kath-], 蓋然性を表す -keyss- と推量を表す -l kes=i- について，副動詞と結合するときの統語や意味の制限について考察した．[ADN kes kath-] に関しては条件の -myen を除いてこの迂言的形式が含む連体形にも偏りはないことがわかった．一方，-keyss- と -l kes=i- は結合する副動詞によってムードの意味が制限されるだけでなく，ムードを認識する主体も影響を受けることが明らかになった．さらに調査が必要ではあるものの，副詞節が定形性を増すと，主節の発語内効力の影響を受けずに副詞節述語のムード認識主体は聞き手にならず話し手となるようである．

第 6 章

副詞節の主節用法

副詞節は本来主節中に現れるが，主節を伴わずに，副詞節それ自体が主節として現れることがある．第 5 章まではあくまで主節の中に副詞節が現れる例について分析してきたが，第 6 章では副詞節が主節として現れる現象に注目し，定形性に関わる形態的観点から副詞節の主節用法を分類，記述する．その過程で副詞節の定形性と主節としての現れやすさについて明らかにする．本研究では，比較的定形性の高い副詞節はそのまま意味を変えることなく主節として現れることができることを述べる．さらに，その他の副詞節の主節用法に関しても記述する．

以下，まず 6.1 で従属節の主節化の定義を確認し，6.2 で朝鮮語の従属節の主節化に関する研究を概観する．本研究では副詞節の定形性という観点からこれまで論を進めてきたが，6.3 では主節化した節の定形性を論じるにあたって，さらに丁寧さという観点を導入する．そして 6.4 では，テンスと丁寧さという観点から朝鮮語における副詞節の主節化について，6.5 では引用節を含む副詞節と接続詞の主節化についても論じる．6.6 では主節化した節に付加することができる要素があることを指摘する．6.7 はこの章のまとめである．

6.1　従属節の主節化 (insubordination)

Evans (2007) は様々な言語で本来従属節であったものが主節として用いられる現象に注目し，これを ‘insubordination’ と呼んでいる．Evans (2007: 367) は insubordination を「形式的には一見明白な基準で従属節のように見えるものの慣習化された主節用法」[1]と定義する．Evans (2007: 380) では insubordination の例として，英語の次のような例を挙げている．この例 (6-1) では本来従属節である ‘if’ が主節化して用いられており，Evans (2007: 380) によれば丁寧な依頼を表しているという．日本語訳は引用者による．

(6-1)　a. (I wonder) If you could give me a couple of 39c stamps please

　　b. If you could give me a couple of 39c stamps please, (I’d be most grateful)

[1] 日本語訳は堀江・プラシャント (2009:126) を引用する．

「いくつか 39 セントの切手をくださいませんか.」(Evans 2007: 380)

また，Ohori (1995) は日本語についての研究であるが，はやくから同様の構文を取り上げ，これを ‘suspended clause’（中断節）と呼んでいる．白川 (2009) では，主節を伴わずに従属節のみで現れる文を「言いさし文」としている．さらに白川 (2009: 11) は「言いさし文」を 3 種類のタイプ「関係づけ（関係づけられるべき事態が文脈上に存在する文）」(6-2a),「言い尽くし（関係づけられるべき事態が文脈上に存在しない文）」(6-2b),「言い残し（言うべき後件を言わずに中途で終わっている文）」(6-2c) に大別し，前者二つを狭義の「言いさし文」と定義する．

(6-2) a. 耕作　「美味いッ。」
ともみ「おいしいネ。」
耕作　「今日はよく働いたから。」
ともみ「お腹空いていると何でもおいしい。」
耕作　「いや、料理、上手だよ。」
ともみ「田舎料理は得意なんや。もともと百姓の娘やから。」

(白川 2009: 9)

b. こずえ「ほかにつきあってる女の子いるのかしら？」
響子　「さあ……あなただけみたいですけど。」
こずえ「ほんとですか！！」
響子　「ええ。」

(白川 2009: 10)

c. 恵子　恋愛なんてサ、恥かかないでモノにできるほどナマやさしくないよ。
みのり　わかってるけど……

(白川 2009: 8)

本研究では Evans (2007) の insubordination の定義に従う．insubordination の日本語訳として定着したものはないようである．本研究では insubordination の意味で従属節の主節化という術語を使用する．しかし，本研究で考察対象とする -ko や -ciman は等位節と呼ばれ従属節と区別されることもあるが，ここでは等位節も finite form（定形）ではないという意味で便宜上従属節の主節化として扱うこととする．[2]

6.2　朝鮮語の従属節の主節化に関する先行研究

これまでの朝鮮語における従属節の主節化に関する研究としては，文法化 (grammaticalization) という観点からの研究 (キム・テヨプ 2000, Koo & Rhee 2000, Rhee 2002)，従属節の主

[2] Cristofaro (2016) は insubordination（従属節の主節化）の様々な経路を示しつつ，‘and’ のようないわゆる等位節の例も挙げている．

節化に関して，その原理や，意味について論じた研究 (チョン・ヨンジン 2002)，(間) 主観化 ((inter)subjectification)) という観点からの研究 (Sohn 2003, Rhee 2011) などがあった他，個別の副動詞に関する研究の中で従属節の主節化用法が言及されることがあった．風間 (2012) では「アルタイ型」言語との対照という観点から朝鮮語にも言及している．

このように様々な先行研究があり，意味的な記述が多かったが，本研究では意味よりもまず形態的な側面から主節化した節の定形性を明らかにしたい．本来副詞節だった節が主節として現れるとき，その定形性の程度は一様ではない．本研究では一貫して副詞節の定形性という観点から考察を進めてきたが，主節化した節の定形性を明らかにするために次節で丁寧さという観点を追加する．また，副詞節の主節化について，主観化からの研究はあったものの，モダリティの観点からのアプローチは見られなかった．[3]このような先行研究で扱われていない点を補うため，モダリティの観点からも朝鮮語の副詞節の主節用法の分類を試みる．

6.3 主節化した節の定形性

本研究では，過去接辞が結合できるか，丁寧さを表す =yo が付加できるかを基準にして副詞節の主節用法の定形性を記述する．副詞節の定形性に関してはすでに 1.6.2 で述べたが，主節の定形性を論じるにあたっては，丁寧さの観点からも考察することが重要である．Bisang (2007) においても通言語的な観点から定形性に関わるカテゴリとして次のものを提示している．[4]強調は引用者による．

(6-3) 通言語的な観点から見た定形性と関連しうるカテゴリ：
テンス (tense)
発語内効力 (illocutionary force)
人称 (person)
丁寧さ (politeness)

(Bisang 2007: 124)

定形性に関わる丁寧さについて堀江・プラシャント (2009: 122) では次のように述べている．

> 日本語の丁寧形は主節の文末のみならず，様々な従属度の従属節に広く生起可能である．一方，韓国語の上称形[5]は基本的に主節の文末にその生起が限定され，-man による副詞節以外は生起不可能である．

[3] 朝鮮語にはないようであるが，日本語の従属節の主節化に関しては，白川 (2015) がモダリティの観点からの分析を示している．白川 (2015) は他の終助詞との機能の類似性という観点から，主節化した文の表す対人的モダリティや対事的モダリティを論じている．

[4] 朝鮮民主主義人民共和国 科学院言語文学研究所言語学研究室 (1963: 6-7) は述語性（陳述性）を示す要素として，(i) 様態性（モダリティ），(ii) 時制，(iii) 階称（待遇法），(iv) 尊称を挙げ，これらと同じく重要なものとして言語的環境や語調を挙げている．(6-3) とも共通するところが多く，注目される．

[5] 現代朝鮮語では待遇法を上称，略体上称，中称，等称，下称，半言 (panmal) に分けることがあるが，上称は最も丁寧な待遇法である．

上称形が，本研究で言う副詞節に現れる場合，-pnita-man (DECL.POL-ADV.AVS) の形を取ることができるが，他の副詞節内には生起不可能である．日本語は「〜ますから」「〜ますけど」など，比較的自由に副詞節内に丁寧形を含むことができるのに対し，朝鮮語ではそうではない．つまり，朝鮮語においては丁寧さを表せるかどうかが，文の定形性の一つの指標になりうるということを示唆している．このことは，キム・テヨプ (1998) の指摘するところともつながってくる．キム・テヨプ (1998) は，補助的な接続語尾から機能転用された終結語尾 -e, -ci, -key, -ko は，丁寧さを表す =yo が，いかなる制約もなく結合することを一つの根拠として，終結語尾と認めるべきだとしている．

副詞節の定形性の度合いを示すためには否定やアスペクトなども考慮に入れていたが，ここでは (6-3) に示したテンスと丁寧さをひとまずの基準として主節化した節の定形性を論じることにする．

6.4 副詞節の主節用法

6.4.1 定形性の観点から見た副詞節の主節用法

基礎資料を調査すると，研究対象である副詞節のうち主節として現れるのは中断の -taka と譲歩の -(a/e)to 以外の 11 個の副詞節であることがわかった．以下では，副詞節としての用法とあまり差異がないものから -ciman, -nuntey/-ntey, -myense, -myen, -teni, -nikka, -(a/e)se, -ko, -key の順で考察していくことにする．

■ -ciman

-ciman が主節として現れるときは，副詞節のときと同様，逆接を表す．(6-4) のように過去接辞と丁寧さの =yo は自由に結合することができる．独立した主節として -ciman 節のみで発話が完結しているというよりも，あとから情報を追加するような場面で用いられる．

(6-4) nan cacangmyenul ceyllwu cohahaketunyo.

hakin talu-n ke=n pyellwu mek-e po-ci=to moshay-**ss-ciman=yo**.
もっとも 異なる-ADN.NPST もの=TOP あまり 食べる-ADV CNT-NMLZ-も IMPS-PST-ADV.AVS=POL
난 자장면을 젤루 좋아하거든요. 하긴 다른 건 별루 먹어보지도 못했지만요.
「わたしはジャージャー麺が一番好きなんですよ．まあ他のものはあんまり食べてみたこともないですけど．」[3BE00004]

■ -nuntey/-ntey

-nuntey/-ntey は主節として現れるときも副詞節の場合と同様，前後の文脈などによって様々な意味解釈がありうる．過去接辞と丁寧さの =yo との結合には問題がない．[6]Rhee (2009: 7) は -nuntey/-ntey が主節化した意味を (6-5) のように整理している．それぞれの例が表す意味

[6] 菅野 (1988: 1024) では -nuntey/-ntey を接続形以外にも「婉曲形 I」として終止形の中に含めている．

は Rhee (2009: 7) が示しているものである．ここに挙げられている例は全て過去接辞が結合しない例だが，過去接辞を結合させることもできる．

(6-5) a. chelswu=ka o-**nuntey**?
チョルス=NOM 来る-ADV.AVS
철수가 오는데?
「チョルスが来るぞ．」[驚異 (Surprise)]

b. na=to cal molu-keyss-**nuntey**.
1SG=も よく 知らない-PROB-ADV.AVS
나도 잘 모르겠는데.
「わたしもよくわからないけど．」[躊躇 (Reluctance)]

c. pelsse achim=i-**ntey**=yo.
もう 朝=COP-ADV.AVS=POL
벌써 아침인데요.
「もう朝なんですけど．」[理由 (Reason)]

d. [nwukwu-nya?] ney, chelswu chinkwu-**ntey**=yo.
はい PN 友達(=COP)-ADV.AVS=POL
thonghwa com ha-ko siph-**untey**=yo.
通話 ちょっと する-ADV DESI-ADV.AVS=POL
[누구냐?] 네, 철수 친군데요. 통화 좀 하고 싶은데요.
「[どちらさん？] あの，チョルスの友達なんですが．ちょっと電話したいんですけれども．」[背景 (Background)]

(Rhee 2009: 7)

Rhee (2009: 7) は挙げていないが，(6-6) のように -nuntey/-ntey は疑問を表すときもある．この場合についても過去接辞，=yo の有無によって主節用法としての意味は変わらない．

(6-6) yengcay: kulay, hyengilangun mwe masissnun ke mekesse?
ciun: ney...
yengcay: mwe mek-**ess-nuntey**?
PN なに 食べる-PST-ADV.AVS
ciun: pimilinteyyo.

영재: 그래, 형이랑은 뭐 맛있는 거 먹었어?
지은: 네...
영재: 뭐 먹었는데?
지은: 비밀인데요.
「ヨンジェ：で，ミニョクさんとはなにかおいしいもの食べた？」
「チウン：はい…」
「ヨンジェ：なに食べたの？」
「チウン：秘密です．」[풀하우스 11]

Rhee (2002) では (6-5) のような意味は -nuntey/-ntey が主節になり新たに獲得した用法のように説明している．ただ，本研究では主節として発話されることで副詞節のときとは異る語用論的解釈を受けることはあっても，-nuntey/-ntey 節自体の意味はそれほど変わらないものと考えたい．1.7 で -nuntey/-ntey の意味を示したように，この副動詞は前後の文脈などによって，様々な意味解釈がありうる．例えば，例 (6-7) では -nuntey/-ntey 節自体は同じだが，(6-7a) と (6-7b) では主節の違いによって，理由と逆接のような意味として解釈される．

(6-7) a. pi=ka o-**nuntey** wusan=ul ssu-psita.
雨=NOM 来る-ADV.AVS 傘=ACC さす-COHR
비가 오는데 우산을 씁시다.
「雨が降っているから傘をさしましょう．」

b. pi=ka o-**nuntey** wusan=ul an ssu-nta.
雨=NOM 来る-ADV.AVS 傘=ACC NEG さす-DECL.NPST
비가 오는데 우산을 안 쓴다.
「雨が降っているけど傘をささない．」

(池 2018: 1; グロスは本稿の方式に改めた)

(6-5) で挙げられた意味も，語用論的に生じる意味であって，-nuntey/-ntey が主節として現れることによって獲得する意味とは言えないだろう．(6-6) の例についても第 5 章で挙げた (5-115) のような例に連なる例であると考えられる．

■ -myense

-myense に関しては，同時の -myense$_1$ や契機の -myense$_2$ が主節として現れることはなく，逆接の -myense$_3$ が「〜くせに」という意味を表す場合がほとんどである．-myese は，過去接辞との結合は任意であるが，丁寧さは付加できない．-myense が「〜くせに」の意味を表す条件はいくつかあり，例えば否定と共起するとき，述語がアスペクト，テンスと結合するときなどである．アスペクトやテンス形式と結合する場合の例については，すでに第 5 章で詳しく考察した．(6-8) の例では不可能を表す副詞 mos と共起することで逆接的意味を表している．一方，(6-9) の例では -myense の述語に過去接辞が結合し主節化して用いられている．

(6-8) sukheycyul hana ceytaylo kwanli mos ha-**myense**!
スケジュール 一つ ちゃんと 管理 IMPS する-ADV.SIM
스케쥴 하나 제대로 관리 못 하면서!
「スケジュールの一つも満足に管理できないくせに！」[헬로! 애기씨 6]

(6-9) kuliko cakinun mwe kanghyeywenssi cipey ankassnya?
keki=se hayphali nayngchay=to mek-**ess-umyense**...
そこ=LOC クラゲ 冷菜=も 食べる-PST-ADV.SIM
그리고 자기는 뭐 강혜원씨 집에 안갔냐? 거기서 해파리 냉채도 먹었으면서...
「それに自分はなんだ？ カン・ヘウォンさんの家に行かなかったのか？ そこでクラゲの冷菜も食べたくせに…」[풀하우스 14]

Rhee (2002) は主節用法の (6-8) や (6-9) に関して ‘Derisive’（あざけりの）という意味を与えているが，基本的には (6-10) のような副詞節の用法と連続的なものと考えていいだろう．

(6-10) caki=ka calmos=ul hay-ss-**umyense** kkuth=kkaci anila-ko wuki-ney.
自分=NOM 間違い=ACC する-PST-ADV.SIM 最後=まで NCOP:DECL.QUOT-COMP 言い張る-ADM
자기가 잘못을 했으면서 끝까지 아니라고 우기네.
「自分が過ちを犯しながら，最後まで違うと言い張るね.」=(1-19)

■ -myen

条件の -myen の場合，主節用法が見られるのは，話者の希望を表す場合だけである．この場合は (6-11) のように，-myen 節の述語が過去接辞と結合し，後に coh-keyss- (よい-PROB-) などの述語が続く例と連続的だと考えられる．よって，過去接辞との結合はありうるが，丁寧さの =yo との結合はない．(6-12) に基礎資料からの例を挙げる．国立国語院 (2005) は (6-12) のような例について「話し手の希望や願い，惜しむ気持ちを表したりする」と述べている．

(6-11) cengmal kule-n… kicek=i ilena-**ss-umyen** coh-keyss-ta.
本当に そうだ-ADN.NPST 奇跡=NOM 起きる-PST-ADV.COND よい-PROB-DECL
정말 그런… 기적이 일어났으면 좋겠다.
「本当にそんな…奇跡が起こったらいいな.」=(5-34)

(6-12) onul kath-un nal=man nul kyeysoktoy-**ess-umyen**…
今日 同じだ-ADN.NPST 日=だけ いつも 続く-PST-ADV.COND
오늘 같은 날만 늘 계속되었으면…
「今日みたいな日ばっかりずっと続いたらなあ.」[CE000022]

■ -teni

契機の -teni は話し手の意外性を表す例において主節化が見られ，過去接辞の結合は任意だが，丁寧さの =yo は付加できない．松尾 (1997) でも確認されたように，テンス形式を含まない -teni の主体は第三者か事物であるのに対し，過去接辞を含む -(a/e)ss-teni では主体はほぼ話し手である．しかし，松尾 (1997: 88) によれば，従属節の主体が聞き手の場合もあるという．松尾 (1997: 97) が挙げている例 (6-13) では終止形に直接副動詞接辞が付いている例であり，この例では「意外性が強く表されている」と指摘されている．

(6-13) ani hyekcwu-ssi tampay kkunh-ess-ta-**teni**?
INTJ PN-氏 たばこ やめる-PST-DECL.QUOT-ADV.FCTC
아니 혁주씨 담배 끊었다더니?
＜たばこを吸うのを見て＞「あら，ヒョクチュさん，たばこ，やめたとかいってたのに？」）(松尾 1997: 97)

(6-13) のような -teni の主節用法も，(6-14) のような副詞節としての用法と連続的であると考えられる．

(6-14) eti=tun nuc-key o-**teni** kyelhon#sikcang=ey=to nuc-key nao-nunkwun uikwu~
どこ=でも 遅い-ADV.MNN 来る-ADV.FCTC 結婚#式場=DAT=も 遅い-ADV.MNN 出てくる-ADM INTJ
…어디든 늦게 오더니 결혼식장에도 늦게 나오는군 으이구~
「…どこにでも遅れて来ていたけど，結婚式場にも遅れてくるのか，まったく…」
(松尾 1997: 88; 日本語訳は引用者による)

-teni 節が引用節を含まず主節化する場合も見られる．過去接辞の結合の有無はやはり節の主体に影響を与える．(6-15) のように過去接辞が結合しない場合は主体が聞き手になり，話し手の意外性を表すようである．一方 (6-16) の例では過去接辞と結合し，副詞節のときと同じように主体は話し手になる．この例では話し手の意外性とともに，話し手の予想が裏切られたことに対する聞き手への批難が表されているようである．

(6-15) （チュヒ，箸をもてあそんでいるが頭の中では別の考えごと）
khoti: himtulese kulayyo?
cwuhuy: ney?
khoti: ecey=nun cal mek-**teni**―.
PN 昨日=TOP よく 食べる-ADV.FCTC
cwuhuy: a, neyey―. sayngkakpota com himtuneyyo.
코디: 힘들어서 그래요?
주희: 네?
코디: 어제는 잘 먹더니―.
주희 아, 네에―. 생각보다 좀 힘드네요.
「コーディネーター：大変ですか？」
「チュヒ：はい？」
「コーディネーター：昨日はよく食べてたのに…．」
「チュヒ：ああ，はい…．ちょっと思ってたより大変ですね．」[2CJ00025]

(6-16) eyi, nay=ka ne-n kuleh-key an pwa-**ss**-**teni**.
INTJ 1SG=NOM 2SG=TOP そうだ-ADV.MNN NEG 見る-PST-FCTC
에이, 내가 넌 그렇게 안 봤더니.
「まったく，おれはおまえのことをそんな風に思ってなかったのに．」[2CJ00018]

■ -nikka

-nikka が主節化して用いられるときは，基本的に副詞節と同じく理由を表す．つまり，理由の -nikka$_2$ の主節用法ということである．副詞節の例はすでに (1-26) などで挙げたとおりである．主節用法は副詞節のときと同じように過去接辞の結合も可能で，丁寧さの =yo の付加も可能である．-nikka には契機の -nikka$_1$ が主節化したと考えられる限定的な用法があり，この場合は過去接辞も =yo の結合も許さない．(6-17), (6-18) が理由を表す -nikka の例で，副

詞節として用いられたときと同様，ここでも理由の意味を表している.[7](6-17) は過去接辞のない例であり，(6-18) は過去接辞と結合した例である．それぞれが会話の中で担う機能に異なりはあるものの，過去接辞の有無によって意味は変わらないことがわかる.

(6-17) nenikka te solcikhakey malhanunkeya.

kukey ne=ey tayha-n yeyuy=la-ko sayngkakha-**nikka**.
それ:NOM 2SG=DAT 対する-ADN.PST 礼儀=COP:DECL.QUOT-COMP 考える-ADV.CSL

너니까 더 솔직하게 말하는거야. 그게 너에 대한 예의라고 생각하니까.
「おまえだからもっと正直に話すんだ．それがおまえに対する礼儀だと思うからな.」[달자의 봄 22]

(6-18) laim: sangtam com patul swu issulkkayo?

cihyen: cepswuha-ko ton nay-sy-**ess-unikka**. ancuseyyo.
PN 受付けする-ADV.SEQ お金 出す-HON-PST-ADV.CSL

라임: 상담 좀 받을 수 있을까요?
지현: 접수하고 돈 내셨으니까. 앉으세요.
「ライム：ちょっと相談に乗ってもらえますか？」
「チヒョン：受付けしてお金を払われましたから．お座りになってください」[시크릿 가든 8]

また，すでに例を挙げたように，-nikka 節が主節として現れる際，焦点助詞の =n (=nun/=un) が後接する例が多く見られる (6-19).

(6-19) apenim=un kule-n pwun=i-**nikka**=**n**=yo.
父.HON=TOP そうだ-ADN.NPST 方=COP-ADV.CSL=TOP=POL

아버님은 그런 분이니깐요.
「父はそういう人ですから.」=(4-142)

Evans (2007: 390) によれば (6-17), (6-18) のように結果を表す主節が省略され，理由を表す従属節のみが用いられるのは，従属節の主節化に典型的なパターンであるという．Evans (2007: 390-391) は Kayardild 語の例を挙げているし，日本語の理由を表す「から」も同様のことが言える.

このような理由を表す -nikka の他にも，主節化する例があり，それが “poca poca ha**nikka**” 「黙って見ていれば」, “tutca tutca ha**nikka**”「黙って聞いていれば」という慣用的な表現である．従属節として用いられた例について国立国語院 (2005: 848) では「【poca poca hanikka, tutca tutca hanikka の形で，反復的に用いられて】ある状況を耐えようとしても，あまりに行き過ぎていて，耐えられないことを表す」と述べている．この場合の -nikka は契機的用法であると考えられる.

[7] 権 (1992: 50) の調査によれば，文末に生起する -nikka は「契機」の意味ではなく全て「理由」を表していたということである．しかし，後述するように理由を表す以外の例も少しは見られる.

(6-20) po-ca po-ca ha-**nikka** caney nemwuha-ney.
見る-COHR 見る-COHR する-ADV.FCTC 2SG やり過ぎる-ADM
보자 보자 하니까 자네 너무하네.
「黙って見てたら，君，やり過ぎだよ．」(国立国語院 2005: 848; 韓国・国立国語院 2012: 963)

(6-20) のような -nikka は主節としても用いられ「黙って見ていれば，黙って聞いていれば（いい気になりやがって）」のような聞き手に対する非難というニュアンスがある．

(6-21) cwuwen: i yeca=ka po-ca po-ca ha-**nikka**!
PN この 女=NOM 見る-COHR 見る-COHR する-ADV.FCTC
laim: tongcak kuman. ttak kamanisse.
주원: 이 여자가 보자보자 하니까!
라임: 동작 그만. 딱 가만있어.
「チュウォン：この女，こっちが黙ってればいい気になりやがって！
ライム：ストップ．じっとしてなさい．」[시크릿 가든 20]

■ -(a/e)se

-(a/e)se の場合，(6-22) のように理由，原因を表す場合に主節用法が見られる．これは原因の -(a/e)se$_3$ に対応する用法である．先行研究では -(a/e)se は過去接辞と結合しえないとされるが，すでに第 5 章で指摘したように，話しことばにおいてはこの副動詞が理由を表すとき過去接辞と結合しうる．過去接辞と結合した例についてはすでに (5-21) で挙げた．(6-23) に見るように，このことは主節用法においても変わらない．理由を表す場合は (6-22) のように丁寧さの =yo も結合する．

(6-22) kangkica: cham, iyengcayssinun cipan il, cal towacwusinun phyenieyyo?
yengcay: kulay cwu-ko=nun siph-untey, papp-**ase=yo**.
PN そうする:ADV BEN-ADV=TOP DESI-ADV.AVS 忙しい-ADV.SEQ=POL
강기자: 참, 이영재씨는 집안 일, 잘 도와주시는 편이에요?
영재: 그래주고는 싶은데, 바빠서요.
「カン記者：そうだ，イ・ヨンジェさんは，家事をよく手伝われるほうですか？」
「ヨンジェ：そうしてあげたいんですが，忙しくて．」[풀하우스 8]

(6-23) yocum=ey tto myechil tongan nwun=i com w-**ass-ese**... com=i ani-cyo.
最近=DAT また 何日 間 雪=NOM 少し 来る-PST-ADV.SEQ 少し=NOM NCOP-ASS:POL
요즘에 또 며칠 동안 눈이 좀 왔어서... 좀이 아니죠.
「最近また何日かの間雪がちょっと降ったので…ちょっとじゃないですね．」(ラジオ番組 “별이 빛나는 밤에” 2017. 1. 23. 07:17 あたりから)

次の例 (6-24), (6-25) に見るように，-(a/e)se が主節化した例で ettay-se (どうだ-ADV.SEQ) は反語的に用いられ，聞き手への批判的なニュアンスを持つこともあるが，丁寧さを表す =yo は

承接可能である．(6-25) が =yo の付いた例である．この例もやはり原因の -(a/e)se$_3$ と対応する用法だが，過去接辞は結合しない．

(6-24) sinhyeng: nen mwetun cal ewullye. nato nechelem mallassumyen cohassul theyntey. kulem mwel hayto ewullil theyntey.
hyenswu: enni=ka mwe=ka ettay-**se**.
PN お姉さん=NOM なに=NOM どうだ-ADV.SEQ
mesisskiman hantey. nan ennichelem khi com khessumyen soweni epskeyssta.

신형: 넌 뭐든 잘 어울려. 나도 너처럼 말랐으면 좋았을 텐데. 그럼 뭘 해도 어울릴 텐데.
현수: 언니가 뭐가 어때서. 멋있기만 한데. 난 언니처럼 키 좀 컸으면 소원이 없겠다.
「シニョン：あなたはなんでもよく似合うよ．わたしもあなたみたいに痩せていたらよかったのに．そしたらなんでも似合うのに．」
「ヒョンス：シニョンさんがどうだって言うの．本当に素敵なのに．わたしはシニョンさんみたいにもう少し背が高かったら他になにもいらないのに．」[2CJ00078]

(6-25) unyeng: yuncayhassinun elyessulttaypwuthe sengkyeki com kulaysseyo?
cayha: ani, nay sengkyek=i ettay-**se=yo**?
PN INTJ 1SG:GEN 性格=NOM どうだ-ADV.SEQ=POL

은영: 윤재하씨는 어렸을때부터 성격이 좀 그랬어요?
재하: 아니, 내 성격이 어때서요?
「ウニョン：ユン・チェハさんは小さいときからそんな性格だったんですか？
チェハ：いや，わたしの性格がどうだって言うんですか？」[봄의 왈츠 11]

(6-24), (6-25) は (6-26) のような例から主節化したと考えられるものの，複文となっている例はほとんどがこの例のように主節述語が kule-「そうする，そう言う」の例であった．詳しいことは明らかでないが，kule- は副詞節が主節として現れうる環境で，しばしば主節述語を補うように用いられることがある．(6-24), (6-25) のような例は (6-26) のような例から主節化したとしても，共時的には副詞節の主節化として現れることの方が多くなっているのかもしれない．

(6-26) way, nay elkwul=i ettay-**se** kule-nun ke=ya?
INTJ 1SG:GEN 顔=NOM どうだ-ADV.SEQ そう言う-ADN.NPST こと=COP:INTRR.NPOL

왜, 내 얼굴이 어때서 그러는 거야?
「なに，わたしの顔が一体どうだって言うの？」[2CG00006]

最後に，(6-27) のような例では，原因の -(a/e)se$_3$ が主節化した例でありながらも過去接辞の結合も =yo の承接も許さない．(6-21) で見た -nikka の例のように生産性のない限定的な用法である．

(6-27) emememe ki=ka makhy-**ese**. ku kicipayka acwu michyesse michyesse.
INTJ 気=NOM つまる-ADV.SEQ

어머머머 기가 막혀서. 그 기집애가 아주 미쳤어 미쳤어.
「まったくあきれた(lit. 気がつまって)．あの女, 本当にどうかしてるわ.」[2CJ00079]

■ -ko

-ko は従属節の主節化において多用な意味を表す．過去接辞が結合可能なのは聞き手へ追加の疑問を投げかける場合 (6-28) や，情報を付加し，例示するような場合 (6-29) である．どちらの例においても丁寧さの =yo を付加することができる．これらの例は本研究で対象としていない列挙を表す場合の -ko (6-30) に対応する例である．継起の -ko と区別するために，継起用法を $-ko_1$，列挙用法を $-ko_2$ として区別しておこう．

(6-28) macimak chwalyengilayssci? minihako....
hohup=un cal mac-**ass**-**ko**?
呼吸=TOP よく 合う-PST-ADV.SEQ
마지막 촬영이랬지? 민이하고.... 호흡은 잘 맞았고?
「最後の撮影だったって？ ミニとは…呼吸はちゃんと合ったの？」[러빙유 8]

(6-29) cwuwen: wuli emman pwayssko, ipwunun wuli imoya. wuyengi hyeng emma.
laim: wa… toykey miinisita.
cwuwen: issi, imonun ta kochin keya. wul emma=n an kochy-**ess**-**ko**.
1PL お母さん=TOP NEG 直す-PST-ADV.SEQ
주원: 우리 엄만 뵀고, 이분은 우리 이모야. 우영이 형 엄마.
라임: 와… 되게 미인이시다.
주원: 이씨, 이모는 다 고친 거야. 울 엄만 안 고쳤고.
「チュウォン：お母さんには会って，こっちは母方のおばさん．ウヨン兄さんのお母さん.」
「ライム：わあ，すごい美人.」
「チュウォン：おい，おばさんは全部整形だよ．うちのお母さんはしてないけど.」[시크릿 가든 7]

(6-30) taumnal=to kulay-**ss**-**ko** ku taumnal=to kulay-ss-ta.
次の日=も そうだ-PST-ADV.SEQ その 次の日=も そうだ-PST-DECL
다음날도 그랬고 그 다음날도 그랬다.
「次の日もそうだったし，その次の日もそうだった.」[3BE00001]

次の (6-31) のように疑問詞に続けて話者が反語的に聞き手を問いただす用法，(6-33) のように “ta V-ko” の形で話者の予想に反し意外な状況を発見したことを表す用法の場合には過去接辞とは結合しえない．(6-31) のような例について，二つの文法辞典では次のように説明している．

「【疑問文の形式の一部を省略したり，置き換えたりして】すでに言及したか，知っている内容に関して，問い詰めたり，関連するような状況を強調したりする場合に用い

る．」(国立国語院 2005: 36; 韓国・国立国語院 2012: 38)
「〔疑問文の形式だが答えを要求しない形で用いられ〕（思っていたことと違うので）問いただすことを表す」(イ・ヒジャ，イ・ジョンヒ 2006: 54; 李姫子・李鍾禧 2010: 64)

(6-31) maynnal tansokpan ttu-nun ke cikyep-ta-ko phocangmacha an
いつも 取り締まり 出る-ADN.NPST こと うんざりだ-DECL.QUOT-COMP 屋台 NEG
ha-nta-ko ha-l ttay=nun encey-**ko**.
する-DECL.QUOT-COMP 言う-ADN.IRR とき=TOP いつ(=COP)-ADV.SEQ
맨날 단속반 뜨는 거 지겹다고 포장마차 안한다고 할 때는 언제고.
「いつも取り締まりが来るのがうんざりだって，屋台やらないって言ってたのに．(lit. 屋台やらないって言うときはいつで)」[봄의 왈츠 13]

(6-31) のような例については，(6-32) のように対応する複文が見付かる．

(6-32) peli-l ttay=nun encey-**ko** cikum w-ase way po-ko siph-usi-cyo?
捨てる-ADN.IRR とき=TOP いつ-ADV.SEQ 今 来る-ADV.SEQ なぜ 会う-ADV DESI-HON-ASS:POL
버릴 때는 언제고 지금와서 왜 보고싶으시죠?
「捨てたくせに（lit. 捨てるときはいつで）今になってどうして会いたいなんて言うんですか？」[봄의 왈츠 19]

(6-33) のような例については，先の文法辞典では次のように記述している．

「【質問に付け加えて】その質問と関連した状況や，付け加えて話す内容を表す．主に，関連した状況について，意外に思うことを表す」(国立国語院 2005: 36; 韓国・国立国語院 2012: 38)
「〔疑問文を含む文と共に用いられ〕そうしたことがあったことを疑わしく思うときに用いられる」(イ・ヒジャ，イ・ジョンヒ 2006: 55; 李姫子・李鍾禧 2010: 64)

(6-33) pyel iliney.
ney=ka hakkyo tosekwan=ey=l ta ka-**ko**.
1SG=NOM 学校 図書館=DAT=ACC 全て 行く-ADV.SEQ
nayilun hayka seccokeyseto ttukeyssta.
별 일이네. 네가 학교 도서관엘 다 가고. 내일은 해가 서쪽에서도 뜨겠다.
「一体どうしたんだ．おまえが学校の図書館に行くなんて（lit. 学校の図書館に全部行って）．明日はお日様が西から昇るんじゃないか．」[봄의 왈츠 13]

(6-33) のような例は，複文として現れる例は見付けることができなかった．

国立国語院 (2005: 53-54) は疑問詞に続けて話者が反語的に聞き手を問いただす用法 (6-31) や，‘ta V-ko’ の形で話者の予想に反し意外な状況を発見したことを表す用法 (6-33) のときも丁寧の =yo が付いた -ko=yo の場合も立項しているが，イ・ヒジャ，イ・ジョンヒ (2006: 64) ではしていない．今回の基礎資料でも (6-31) と (6-33) のような場合はイ・ヒジャ，イ・ジョ

ンヒ (2006: 64) の記述と同様，=yo が付いた例は見られなかった．ただ，朝鮮語母語話者の方に判断していただいたところ，(6-31) と (6-33) のような例では国立国語院 (2005: 53-54) の記述通り丁寧の =yo が承接可能であるという．

さらに，(6-34) のように命令を表す場合には，命令文という文のタイプの性質上，過去接辞とは結合しないが，=yo は付加することができる．

(6-34) kwupwucengha-n casey NG=ey=yo, heli phye-**ko**!
曲がった-ADN.NPST 姿勢 NG=COP:DECL.NPST=POL 腰 伸ばす-ADV.SEQ
구부정한 자세 NG 에요, 허리 펴고!
「曲がった姿勢は NG ですよ，腰を伸ばして！」[달자의 봄 4]

命令を表す場合は，(6-35) のように，命令という主節の発語内効力が -ko 副詞節まで及ぶような例と連続的だと考えられる．この例は「電気を消しなさい，そしてはやく寝なさい」と解釈される．

(6-35) pwul kku-**ko** ppalli ca!
電気 消す-ADV.SEQ はやく 寝る:IMPR.NPOL
불 끄고 빨리 자!
「電気消してはやく寝なさい！」

最後に，-ko にも -nikka と -(a/e)se の場合と同様に慣用的な表現があり，(6-36) のような聞き手に対する批判的な態度を伴った発話に関しては，丁寧さを付加すると不自然になる．

(6-36) salam=ul mwe=llo po-**ko**! nayka kuttan maley nemekal cwul ala?
人=ACC なに=として 見る-ADV.SEQ
사람을 뭘로 보고! 내가 그딴 말에 넘어갈 줄 알아?
「人のことなんだと思ってるの！（lit. 人をなんだと見て）わたしがそんな言葉に騙されると思ってるの？」[헬로! 애기씨 3]

(6-36) の場合，(6-37) のように複文として現れる例もあるが，-(a/e)se のところで見た例 (6-26) のように，主節述語に偏りがあった．(6-37) のように，主節述語は全て ile-, kule-「こうする，そうする」で現れていた．この例もやはり複文で現れることはあってもそれほど自由に主節をつなげることはできず，むしろ主節化用法が主なのではないかと考えることができる．

(6-37) salam mwe=llo po-**ko** ilay?
人 なに=として 見る-ADV.SEQ こうする:INTRR.NPOL
사람 뭘로 보고 이래?
「人のことなんだと思ってこんなことするの？」[2CE00004]

(6-33), (6-34) と (6-36) の例は継起の -ko$_1$ が主節化した例と考えられるが，(6-31) に関してはまだ判断材料がない．

■ -key

-key も -ko のように主節化において様々な用法を持ち，-key の主節用法はほとんど副詞節の用法と対応しない．副詞節の場合は過去接辞との結合が不可能であるが，主節として現れる場合は可能なことがある．過去接辞と結合可能なのは「〜だろうと思うか？」と聞き手の推測を尋ねる場合が多いようである．(6-38) は選択疑問，(6-39) は疑問詞疑問文の例である．どちらも丁寧さの =yo が付加できる．

(6-38) acessi na ssangkhephwul swuswul hay-**ss-key** an hay-ss-**key**?
おじさん 1SG 二重 手術 する-PST-ADV.MNN NEG する-PST-ADV.MNN
아저씨 나 쌍커풀 수술 했게 안 했게?
「おじさん，わたし二重の手術したと思う？ してないと思う？」[2CJ00078]

(6-39) kwiyewun thokkilang cinccacincca ppalun kepwukilang talliki sihapul haysseyo. nwu=ka iky-**ess-key=yo**?
誰=NOM 勝つ-PST-ADV.MNN=POL
귀여운 토끼랑 진짜진짜 빠른 거북이랑 달리기 시합을 했어요. 누가 이겼게요?
「かわいいウサギと本当に本当に素早いカメがかけっこ競争をしました．どっちが勝ったでしょう？」[풀하우스 6]

また，基礎資料中には見られなかったが，国立国語院 (2005: 23) によれば「実際には起こっていない状況を，反語的に尋ねる場合に用いる」ときにも過去接辞が結合する例が存在するようである．下線は引用者による．

(6-40) ton=i iss-ess-umyen cip=ul pelsse kyeyyakhay-**ss-key**?
お金=NOM ある-PST-ADV.COND 家=ACC すでに 契約する-PST-ADV.MNN
돈이 있었으면 집을 벌써 계약했게?
「お金があったら，家をすでに契約しただろうさ.」(国立国語院 2005: 23; 韓国・国立国語院 2012: 24)

次の (6-41) は (6-38) から (6-40) とは異なり，丁寧さは付加できるが過去接辞とは結合できない．この例の場合，目の前で進行中の聞き手の行動に対して疑問を投げかけるために用いられる．

(6-41) eme, yepoo, pelsse naka-si-**key=yoo**?
あら あなた もう 出る-HON-ADV.MNN=POL
어머, 여보오, 벌써 나가시게요오?
「あら，あなた，もうお出になるんですか？」[달자의 봄 10]

次の (6-42), (6-43) のような例では，過去接辞も丁寧さも付加できず，聞き手を批難するようなニュアンスがあることで共通している．これらは -nikka (6-21), -(a/e)se (6-27), -ko (6-36) のような限定的な例とは異なり生産的な用法である．(6-42) は聞き手が話し手に対して驚くように (nolla-key) したことに対して批難するような例である．(6-43) は聞き手の行動を形容詞によって表される属性で否定的に評価している．

(6-42) （中に入るソニョン．突然その前を遮るスヒョン．びくっと驚くソニョン．スヒョン，ソニョンを壁の方に追いやりながら)

swuhyen: camkkan.

senyeng: mwusun cisiya. salam nolla-**key**.
人　　驚く-ADV.MNN

수현: 잠깐.

선영: 무슨 짓이야. 사람 놀라게.

「スヒョン：ちょっと待って.」

「ソニョン：なにするの．びっくりするじゃない．（lit. 人が驚くように）」[CJ000258]

(6-43) unyeng: ike ipullayyo?

cayha: (pon chekto an hanta)

unyeng: com ipecwuci.

cayha: ilen kel ettehkey ipeyo? yuchiha-**key**.
幼稚だ-ADV.MNN

은영: 이거 입을래요?

재하: (본 척도 안 한다)

은영: 좀 입어주지.

재하: 이런 걸 어떻게 입어요? 유치하게.

「ウニョン：これ着ますか？」

「チェハ：(見向きもしない)」

「ウニョン：ちょっと着てちょうだいよ.」

「チェハ：こんなのをどうやって着るっていうの？ 幼稚すぎ．（lit. 幼稚に）」[봄의 왈츠 1]

この 2 例のような場合，例えば (6-43) の例では，次の (6-44) のような例で yuchiha-key「幼稚に」が右方転移したとも考えられる．(6-44) では yuchiha-key は述語のみを修飾しているわけではなく，文全体を修飾している．そのため独立性が高く，主節用法のようにも現れるのだと考えられる．

(6-44) yuchiha-**key**　kkoch tul-ko　mwuluph=ilato kkwulh-e?
幼稚だ-ADV.MNN 花　持つ-ADV.SEQ ひざ=でも　ひざまづく-INTRR.NPOL

유치하게 꽃 들고 무릎이라도 꿇어?

「幼稚な感じで花持ってひざまづきでもする？」[시크릿 가든 11]

■ 定形性の観点から見た副詞節の主節用法のまとめ

ここまで考察したきたことを，表 52 にまとめて示す．左の列から，副動詞接辞は主節用法が複数ある場合に下付きのギリシア文字 ($_{\alpha}$, $_{\beta}$, $_{\gamma}$) を付して区別した．過去テンス，丁寧さはそれぞれ '+' が結合必須なこと，'–' が結合不可なこと，'±' が結合任意なことを表

す．-myense と -teni のところで過去テンスの結合が (±) となっているのは，過去接辞が結合するといっても，真にテンス的な意味を表さないからである．主節用法の意味ではそれぞれの意味と，例文の番号を提示した．最後に対応する副詞節用法を本研究の枠組みに添って示した．

表 52　形態的観点から見た副詞節の主節用法

副動詞接辞	過去テンス	丁寧さ	主節用法の意味	対応する副詞節用法
-key$_{\alpha}$	−	−	非難 (6-42), (6-43)	-key$_1$ [様態]
-(a/e)se$_{\alpha}$	−	−	非難 (6-27)	-(a/e)se$_3$［原因］
-nikka$_{\alpha}$	−	−	非難 (6-21)	-nikka$_1$［契機］
-ko$_{\alpha}$	−	−	非難 (6-36)	-ko$_1$［継起］
-myense	(±)	−	非難 (6-8), (6-9)	-myense$_3$［逆接］
-teni	(±)	−	意外性 (6-15), (6-16)	-teni［契機］
-myen	+	−	希望 (6-12)	-myen［条件］
-key$_{\beta}$	−	±	疑問 (6-41)	?
-(a/e)se$_{\beta}$	−	±	反語 (6-24), (6-25)	-(a/e)se$_3$［原因］
-ko$_{\beta 1}$	−	±	反語 (6-31), 意外性 (6-33)	?
-ko$_{\beta 2}$	−	±	命令 (6-34)	-ko$_1$［継起］
-key$_{\gamma}$	+	±	推測疑問 (6-38), (6-39), 反語 (6-40)	?
-(a/e)se$_{\gamma}$	±	±	理由 (6-22), (6-23)	-(a/e)se$_3$［原因］
-nikka$_{\beta}$	±	±	理由 (6-17), (6-18)	-nikka$_2$［理由］
-ko$_{\gamma}$	±	±	追加疑問 (6-28), 付加情報 (6-29)	-ko$_2$［列挙］
-ciman	±	±	逆接的な付加情報 (6-4)	-ciman［逆接］
-nuntey/-ntey	±	±	驚きや背景，疑問など (6-5), (6-6)	-nuntey/-ntey［逆接］

6.4.2　感情モダリティ

表 52 において -key$_{\alpha}$ から -myen は丁寧さの =yo が基本的に付かない．意味的にはほとんどが聞き手への非難を表す．本研究ではこのような話し手の感情（非難，意外性，望み）を表すモダリティ的意味を澤田 (2006) にならい感情モダリティと規定する． 澤田 (2006: 21-22) は感情的モダリティ (emotive modality) を評価的モダリティ (evaluative modality) と願望的モダリティ (desiderative modality) に分け，前者は，英語の should や，日本語の「なんて」によって，後者は英語の may や日本語の「ますように」「てほしい」によって表されると述べている．(6-45) に英語の should が評価モダリティを表す例を挙げておく．

(6-45)　It's **suprising** that she **should** say that to you.

「彼女があなたにそんなことを言うなんて驚きだ．」(Swan 2005: 512) [8]

[8] これは澤田 (2006: 22) が引用している例だが，ここでは "It's astonishing that she *should* say that to you." となっていたため，Swan (2005: 512) を参照し改めた．

仁田 (1991: 27) では日本語モダリティの分類のなかで「表出」を立て，これを「話し手の意志や希望といった自らの心的な情意を，取り立てて他者への伝達を意図することなく発するといった発話・伝達態度を表したものである」と説明している．仁田 (1991) の表出という発話・伝達のモダリティを帯びた文には，意志，希望，願望を表す文が存在する．感情モダリティはこの表出モダリティとも近い概念だと考えられる．

また，感情モダリティという分類を用意しておくことは，朝鮮語の連体節の主節用法を記述する際にも有用だと考えられる．朝鮮語には (6-46) のような連体節の主節化の例があり，この例では非現実の連体形で終止している．(6-46) のような例はそれほど多いわけではないが，その意味からも副詞節が表す感情モダリティに分類されうるだろう．

(6-46) pil-e mek-ul!
乞う-ADV 食べる-ADN.IRR
빌어먹을!
「くそったれ！（lit. 乞食する！）」

6.4.3 副詞節の定形性と主節化

副詞節の定形性は，主節化のしやすさとも関連がある．表 52 に示した -(a/e)se$_{\gamma}$ から -nuntey/-ntey はもともと定形性を備えた節であり，これらはあまり意味の変化を経ずに主節として現れることができる．列挙の -ko$_2$ は証拠性を持つ -te- を除く TAM マーカーと結合することができ，定形性の高い副詞節である．–ko$_{\beta 1}$ は継起の -ko$_1$ に対応する例とも考えられるが，命令を表す例を除いては形式が固まった構文として用いられることからも，-nuntey/-ntey のように自由に主節として現れることができないことがわかる．前節で分類した -key$_{\alpha}$ から -myen の感情モダリティを表す例は，-teni, -ko$_1$ のように定形性がそれほど高くない節で表される．

副詞節の定形性と主節化したときの意味の傾向についても知ることができる．つまり，節の定形性が高い場合は感情モダリティは表しにくいということである．非難を表す -(a/e)se$_{\alpha}$, -nikka$_{\alpha}$ はもともとある程度定形性の高い節であり，これらは感情モダリティを表すといっても生産性のない例のみであった．このように副詞節の定形性という観点から主節用法を観察すると，主節としての現れやすさと主節化したときの意味の傾向もある程度説明ができるのである．

6.5 その他の主節化

以下では，典型的な副詞節以外の主節用法について概観しておく．まず 6.5.1 で引用副詞節の主節用法，次に 6.5.2 で接続副詞の主節用法について考察する．

6.5.1　引用副詞節の主節用法

朝鮮語は引用節を内部にかかえた副詞節が主節としてよく用いられる．まずは朝鮮語の引用構造について概観しておく．朝鮮語の引用構造は日本語と少し異なる．終止形である -ta（叙述形）, -nya（疑問形）, -ca（勧誘形）, -la（命令形）に副動詞接辞が直接付き，引用節を成すことができる．ここでは -ko の例を挙げたが，他の -myense, -nuntey/-ntey などの副動詞接辞が付くこともある．

(6-47)　cip=ey {ka-nta　/ ka-nya　/ ka-ca　/ ka-la}-ko
家=DAT 行く-DECL.QUOT / 行く-INTRR.QUOT / 行く-COHR.QUOT / 行く-IMPR.QUOT-COMP
hay-ss-ta.
言う-PST-DECL
집에 {간다 / 가냐 / 가자 / 가라}고 했다.
「家に｛行く/行くのか/行こう/行け｝と言った.」

本研究では (6-47) のような引用節を成す接辞を区別して扱うこととする．日本語とは異なるものの，引用節を成す接辞はその内部に対他的ムードまで含みうるという点で，節内部はより文に近い形をしていると考えることができる．このような引用節が上位節を伴わずに主節として用いられることがある．この場合，さきに述べたように，-ko ではなく他の副動詞接辞が付くことが可能である．

(6-48)　cip=ey ka-nta　{-ko　/ -myense / -nikka　/ -nuntey...etc.}
家=DAT 行く-DECL.QUOT -COMP / -ADV.SIM / -ADV.CSL / -ADV.AVS
집에 간다{고/면서/니까/는데...etc.}.
「家に帰る｛と／と言いながら／と言うから／と言うけど…etc.｝」

(6-48) のような例は，(6-49) のように補文節を導く -ko と述語 ha-「言う（する）」が省略され，終止形に副動詞接辞が付いているように見えるのだと説明されることが多い．

(6-49)　終止形 + [-ko　+ ha-] + 副動詞接辞
COMP　言う

たしかに成立過程はそのように説明できるかもしれないが，主節化した節においては，もはや (6-49) のような構造を想定する必要はなく，終止形に付く-ko, -myense, -nikka は再分析され，終助詞のようになっていると考えることができる．Sohn (2003), Kim (2008), Rhee (2011) らの研究でも，主節用法において終止形に付く -ko などを終助詞 (sentence final particle) として扱っている．[9]

6.3 で述べたように，朝鮮語の場合，終止形に直接副動詞接辞が接続しうる．副動詞接辞が接続した節自体は通常副詞節として機能するが，この副詞節もまた，主節として現れる場合がある．ここではそのような，終止形を内部に含む副詞節の主節用法について考察する．

[9] Sohn (2015) では utterance-final particle と呼んでいる．

-ko が引用節マーカーとして用いられ主節化して現れるときは，本来の引用という機能を残していることが多い．使われ方は日本語の「って」に似ている．(6-50) は “etisstako?”「どこにあるって」の後に「言ったっけ？」のような言語活動を表す述語を補うことができるような例である．(6-50) では丁寧さの =yo がないが，=yo を付加することができる．これ以降挙げる引用副詞節の主節化の例においても =yo の付加には制限がない．

(6-50) mili: enni, kimchi=ka et(i) iss-ta-**ko**?
PN お姉さん キムチ=NOM どこ ある-DECL.QUOT-COMP
yengswuk: nayngcangko olunccok patakey huynthong!

미리: 언니, 김치가 어딨다고?
영숙: 냉장고 오른쪽 바닥에 흰통!
「ミリ：ヨンスク，キムチがどこにあるって？」
「ヨンスク：冷蔵庫の右側下の白いパック！」[굿바이 솔로 8]

一方 (6-51) の例はこのあと取り上げる引用節マーカーとしての -nikka の「念押し」の用法とも類似した用法であり，話者が既に話題に出ている事柄ついて再度主張するような場合に用いられる．

(6-51) cwuwen: cikum mwe hanya? imkamtoknim kitalisintan maliya.
laim: an kitalye. nayil kantako cenhwa haysse nayka.
cwuwen: nwukwu mamtaylo! na yenghwa otisyen cwunpihayya hantan maliya.
yeki=se ile-l sikan eps-ta-**ko**!
ここ=LOC こうする-ADN.IRR 時間 ない-DECL.QUOT-COMP

주원: 지금 뭐 하냐? 임감독님 기다리신단 말이야.
라임: 안 기다려. 내일 간다고 전화 했어 내가.
주원: 누구 맘대로! 나 영화 오디션 준비해야 한단 말이야. 여기서 이럴 시간 없다고!
「チュウォン：今なにしてんの？ イム監督がお待ちなんだよ.」
「ライム：待ってないよ．明日は行かないって電話したんだ，おれが.」
「チュウォン：なにを勝手に！ わたしは映画オーディションの準備しなきゃならないんだから．ここでこうしてる時間ないの！」[시크릿 가든 8]

-myense, -nikka については先行研究でもしばしば取り上げられている (Sohn 1996, Sohn 2003, Kim 2008, Rhee 2011)．Rhee (2009: 7) は，終止形に接続する場合の -myense の用法を「聴者確認」(Addressee Confirmation) と「挑戦」(Challenge) の二つに分けている．それぞれの用法について基礎資料から用例を挙げておこう．Rhee (2009: 7) ではそれぞれの意味について詳しいことは述べていないが，「聴者確認」は話し手が聞き手に足して伝聞情報を確認する用法だと考えられる．「挑戦」は話し手が聞き手に伝聞情報を確認するというよりも，現状が伝聞情報と異なることに対して聞き手を問いただすような用法である．

聴者確認 (Addressee Confirmation)

(6-52) halmeni=lang emma, cip=ey w-ass-ta ka-sy-ess-ta-**myense**=**yo**?
おばあさん=COM お母さん 家=DAT 来る-PST-ADV.DISC 行く-HON-PST-DECL.QUOT-ADV.SIM=POL
할머니랑 엄마, 집에 왔다 가셨다면서요?
「おばあちゃんとお母さん，家に来てたんだって？」[풀하우스 5]

挑戦 (Challenge)

(6-53) ciun: pap epsnuntey?
yengcay: mwe?
ciun: nuc-key tuleo-lke=la-**myense**=**yo**?
PN 遅い-ADV.MNN 入ってくる-SPEC=COP:DECL.QUOT-ADV.SIM=POL
kulem lamyen mekullayyo?
지은: 밥 없는데?
영재: 뭐?
지은: 늦게 들어올거라면서요? 그럼 라면 먹을래요?
「チウン：ご飯ないけど？」
「ヨンジェ：え？」
「チウン：遅くなるって言ったじゃないですか？ じゃあラーメン食べますか？」[풀하우스 4]

Rhee (2009: 7) は -nikka の用法についても次のように聞き手再確認／抗議 (Addressee Conf./Protest) と断言 (Assertion) の二つに分けている．-nikka についても基礎資料から用例を挙げておく．「聞き手再確認／抗議」は話し手が聞き手に再度主張あるいは抗議する場合の用法である．権 (1992: 40-42) では文末に生起する -nikka は「念押し」の意味を表すと述べている．(6-54) では登場人物のライムが最初の発話で「探して」と言ったことに対しユンスルが拒む場面で，ライムが再度探せということを念押し，抗議する場合である．

聞き手再確認／抗議 (Addressee Conf./Protest)

(6-54) laim: chaca.
yunsul: i ssuleykithong aniketun?
laim: kule-nikka chac-ula-**nikka**?
PN そうだ-ADV.CSL 探す-IMPR.QUOT-ADV.CSL
라임: 찾아.
윤슬: 이 쓰레기통 아니거든?
라임: 그러니까 찾으라니까?
「ライム：探して.」

「ユンスル：このゴミ箱じゃないよ.」
「ライム：だから探してって言ってるでしょう？」[시크릿 가든 1]

一方,「断言」は (6-55) のような話し手が聞き手に再度なにかを主張するというわけではなく，話し手の考えを断言して聞き手に伝える用法である.

断言 (Assertion)

(6-55) tongkyu: way cakinun nollekamyense wulihantheyn hemhan il sikhinun keya?
a~ sayngkakhalswulok yel patney.
chanmin: ku-chi? kule-nikka nay mal=i mac-ta-**nikka**!
PN そうだ-ASS そうだ-ADV.CSL 1SG:GEN 言葉=NOM 合っている-DECL.QUOT-ADV.CSL
tomang ka-nun key choyko-ci, sikhi-nta-ko ha-nun
逃亡 行く-ADN.NPST こと:NOM 最高=(COP)-ASS させる-DECL.QUOT-COMP する-ADN.NPST
wuli=ka papo=la-**nikka**!
1PL=NOM バカ=COP:DECL.QUOT-ADV.CSL

동규: 왜 자기는 놀러가면서 우리한텐 험한 일 시키는 거야? 아 생각할수록 열 받네.
찬민: 그치? 그러니까 내 말이 맞다니까! 도망가는 게 최고지, 시킨다고 하는 우리가 바보라니까!
「ドンギュ：自分は遊びに行ってるくせに，なんでうちらにはきつい仕事をさせるわけ？ あ〜考えれば考えるほど腹が立つ.」
「チャンミン：だろ？ だからおれの言うことが正しいって！ 逃げるのが一番だよ，言われるがまま働くうちらがバカだって！」[헬로! 애기씨 8]

ここまでの考察結果を表 53 にまとめておこう.

表 53 引用副詞節の主節用法

	丁寧さ	引用終止形としての用法
-ko	±	再確認 (6-50)，聞き手への主張 (6-51)
-myense	±	伝聞情報を聞き手へ確認 (6-52)，伝聞情報と異なる状況に対して抗議 (6-53)
-nikka	±	聞き手再確認／抗議 (6-54)，断言／念押し (6-55)

6.5.2 接続副詞の主節用法

副動詞形だけでなく，kule-「そうする」に副動詞接辞が付いて形成された接続副詞にも主節用法が見られる．すでに 2.7 でも少し接続副詞が単独で用いられ感嘆詞のようになっている例を示したが，ここで他の例についても見ておきたい.

(6-56) は (2-56c) で挙げた例の類例である．条件の -myen が縮約された -m が付き接続副詞となっている．この接続副詞が単独で用いられて「もちろんだ」という意味を表す.

(6-56) com ancato toykeyssnya.

ney kule-**m**=**yo**. kuntey apeci mwusun ilieyyo?
はい そうだ-ADV.COND=POL

좀 앉아도 되겠냐.

네 그럼요. 근데 아버지 무슨 일이에요?

「ちょっと座ってもいいか.」

「はい，もちろんです．ところでお父さん何の用ですか？」[BREO0329]

次に (6-57) は様態の -key が付いた例である．この例の場合,「そうだな，そうですね」というように聞き手に対する同意を表すようになっている．

(6-57) （屋台にて）

yengswuk: tekpwuney kathi onikka, cohneyyo. masisscyo?

mincay: kule-**key**=**yo**.
PN そうだ-ADV.MNN=POL

영숙: 덕분에 같이 오니까, 좋네요. 맛있죠?

민재: 그러게요.

「ヨンスク：おかげで一緒に来てみると，いいもんですねえ．おいしいでしょう？」

「ミンジェ：そうですね.」[굿바이 솔로 9]

最後の (6-58) は理由の -nikka が結合した例で，聞き手への同意を表しつつ，話者のある事態に対する強い断定のニュアンスがある．この例は (6-55) で見た「断言」の例にも似ている．

(6-58) cwuwen: taychey ilen caywenul etten nomi calun keya?

ayeng: kule-**nikka**=**yo**!
PN そうだ-ADV.CSL=POL

주원: 대체 이런 재원을 어떤 놈이 자른 거야?

아영: 그러니까요!

「チュウォン：一体こんな才女をどんなやつが切ったんだ？」

「アヨン：そうですよね！」[시크릿 가든 2]

ここまで見てきた接続副詞も (6-56) から (6-58) に挙げたように，他の文法要素との結合はしないが，丁寧さの =yo を付加することはできる．

6.6 主節化した節に付加できる要素

ここまで第 6 章で見てきた副詞節の主節用法は，それ自体が独立して用いられ定形性を備えているものであった．ただ，日本語の終助詞「よ」「ね」などのように，定形節にさらに付加できる要素が朝鮮語にも存在する．菅野 (1988: 1025) は，用言の「終止形に付く特殊な要素」として，mwe「なに」や kule-「そうする」などを挙げている．mwe「なに」に関しては

副詞節が主節として用いられる場合にも，主節の後に続いて現れることができる．さらに，この他には「〜のだ」と似たような意味を表す mal=i(-ta) がある．これは mal「ことば」にコピュラの =i- が結合している．

(6-59) は逆接の -ntey が主節として現れ，そのさらに後に mwe「なに」が付加された例である．mwe「なに」が加えられることで，話し手の嘆息や諦めといった感情を表すことができる．

(6-59) nul ha-nun il=i-**ntey**=yo **mwe**.
いつも する-ADN.NPST こと=COP-ADV.AVS=POL なに
늘 하는 일인데요 뭐.
「いつもしていることですから．」[헬로!애기씨 1]

(6-60) と (6-61) は mal=i(-ta)「〜のだ」が付加された例である．(6-60) は原因を表す -(a/e)se が主節として用いられた例，(6-61) は (6-57) で見た接続副詞としての kulekey「そうだな」の例である．

(6-60) soktolul cokum nucchwunun key cohci anhkeyssnunyako.
yengin=i nemwu setwu-nun kes kath-**ase mal=i**-ya.
PN=NOM とても 急ぐ-SMBL.NPST-ADV.SEQ ことば=COP-DECL.NPST.NPOL
속도를 조금 늦추는 게 좋지 않겠느냐고. 영인이 너무 서두는 것 같아서 말이야.
「速度を少し遅くする方がいいんじゃないかって．ヨンインがあまりにも急いでるみたいだからさ．」[3BE00001]

(6-61) e, i nyesek way ilehkey an oci?
kule-**key** **mal=i**-ta.
そうだ-ADV.MNN ことば=COP-DECL.NPST
어, 이 녀석 왜 이렇게 안 오지?
그러게 말이다.
「ああ，こいつなんでこんなに来ないんだ？」
「そうだな．」[BREO0291]

定形節のあとに現れる mwe「なに」や mal=i(-ta) は終助詞として分析することもできる．今後はこのような観点からさらに研究が必要である．

6.7 第 6 章のまとめ

第 6 章では，第 5 章までとは異なり，本来的な副詞節が主節として現れる現象に着目し，研究対象の副動詞接辞の中でも主節用法が見られる -key, -myense, -(a/e)se, -ko, -teni, -myen, -nikka, -ciman, -nuntey/-ntey の主節用法について記述した．記述するにあたっては形態的な側面を重視し，主節用法において過去接辞と丁寧さを表す =yo との結合可否について検討した．

その結果，丁寧さの =yo の結合が不自然となる主節用法は，話者の感情を表出する感情モダリティとして捉えられることが明らかになった．そして，本研究では副詞節として定形性の高い節ほど意味変化をすることなく主節として現れることを示し，もともと定形性の高い節は感情モダリティを表しにくく，表したとしても生産性のない用法に限定されることを主張した．

この他，引用節を含む引用副詞節と接続副詞の主節用法を記述した．また，主節となった節にさらに付加することが可能な要素について検討し，今後研究の必要があることを述べた．

第 7 章

結論

本章ではこれまで述べてきたことをまとめ，本研究で残された今後解決すべき課題と，この研究の成果を受けてどのような研究が可能かという展望を述べる．

7.1　本研究のまとめ

第 1 章ではまず，本研究を貫く観点である副詞節の定形性について整理した．副詞節の定形性は，述語が結合可能な，過去接辞などの文法要素によって決まるということを述べた．

第 2 章では副詞節の定形性の観点から，副動詞の多様な機能について述べ，本研究で扱う副動詞の対象を限定した．副動詞形は複合動詞の前部要素になるように従属度の高い場合から，副詞，接続副詞になるような従属度の低い場合まで様々な統語的環境で現れる．本研究では，続く第 3 章から第 6 章も従属度が高い方から低い方に向かって配置した．研究対象としなかった第 2 章で扱った事例も従属度の観点から整理することで，朝鮮語の副動詞の多様な機能を，一貫した観点から概観することができるようになった．

第 3 章では副動詞接辞と結合する用言のどのような語彙的性質によって，どのように副動詞の意味が影響を受けるかについて考察した．まずは，本研究で対象としている副動詞接辞が，動詞，形容詞，指定詞（コピュラ）のいずれと結合するかについて述べた．副詞節の定形性が低いほど副動詞接辞は形容詞，指定詞との結合に制限があり，副詞節が定形性を増すほど形容詞，指定詞との結合にも制限がなくなるのである．この傾向についてはすでに野間秀樹 (1993) でも述べられていたことだが，本研究ではその詳細について示すことができた．おおまかな傾向として，契機の -teni までの時間的関係を表す副動詞接辞は形容詞と指定詞の結合に制限があるということができる．このような制限は，そもそも動作でなく状態を表す形容詞や指定詞は具体的な動作の先行，後行といったタクシスを表しえないことに起因する，ある意味当然の帰結だとも言える．本研究ではさらに，このような副動詞接辞が結合する用言の品詞の区別を越えて，さらに用言のどのような性質が副動詞の意味と相互関係があるか

について検討した．そして，-key は形容詞と結合するか，動詞と結合するか，つまり状態性用言であるか動作性用言であるかが，副動詞の意味を左右するということ，同時の -myense$_1$，中断の -taka は動詞のアスペクト的性質，継起を表す -ko と -(a/e)se は動詞の他動性や結果状態性と関連があることを主張した．

第 4 章では副動詞に主題，対照の =nun/=un や添加，極端の =to などの焦点助詞が後接する場合に，どのような結合の組み合わせが可能なのかについて調査し，焦点助詞が付くことによってどのように副動詞の意味が制限されるのかについて記述した．さらに時間的関係を表す副動詞接辞に =nun/=un, =to が後接することで条件／逆条件を表す例について，その統語，意味的特徴だけでなく，なぜ時間的関係を表す副動詞が条件／逆条件を表すことができるのかを明らかにした．副詞節の定形性から見ると，焦点助詞は定形性が低い節ほど結合しやすく，定形性が増すほど結合しにくいことがわかった．先行研究においては単に「副動詞 + 焦点助詞」の結合可否のみを示していることが多かったが，焦点助詞の結合には制限があることについて明らかにした．例えば様態の -key には 12 個の焦点助詞が後接する例が現れたが，かなりの結合例で用言は指示形容詞や nuc-「遅い」およびその複合語であることが明らかになった．そして，時間的関係を表す副動詞に焦点助詞が後接し条件／逆条件を表すのは，節間に因果関係があると解釈されることによるものだと論じた．その場合の焦点助詞は対照や極端の意味を表しており，そのために上位節が否定的な内容を表すのだと結論付けた．

第 5 章では副動詞にアスペクト，テンス，ムードマーカーが結合する際の副動詞の統語，意味的特徴とともに，TAM マーカーの意味の制限のされ方について考察した．アスペクトに関しては進行アスペクトの -ko iss- は比較的定形性の低い節である，時間節との結合に制限があることを示した．テンスに関しては副詞節内の過去接辞が主節を基準とした相対テンスとして解釈されるか発話時を基準とした絶対テンスとして解釈されるかを論じ，定形性の高い節であれば絶対テンスとして解釈される傾向があることを明らかにした．ムードに関してはムードの意味がどのように制限されるかに加えて，ムードの認識主体がどのように左右されるかを考察した．[ADN kes kath-]「～ようだ，～と思う」は副動詞との結合において，結合しやすい副動詞はあるものの条件を表す -myen 以外にはあまり制限がないことがわかった．一方，蓋然性を表す -keyss- と推量を表す -l kes=i- はその意味にもムードの認識主体にも制限が見られる．まず意味の観点から，-keyss- の場合，話者の境遇を表す意味にはどの副動詞との結合においても制限がないが，その他の評価，判断，意志には制限があることを示した．-l kes=i- の場合，-keyss- とは異なり意志よりも推量の意味により制限があることが明らかになった．どちらの場合にも定形性の低い副詞節ほど意味の制限があるようである．次にムードの認識主体の観点からは，-keyss- の場合も -l kes=i- の場合も共通して，定形性の高い副詞節ほど主節の発語内効力の影響を受けずに認識主体が聞き手ではなく話し手となるという傾向があることを述べた．

第 6 章では本来副詞的に働く節が，主節として現れる従属節の主節化 (insubordination) に着目し，節の定形性と主節としての現れやすさについて論じた．まずは副詞節の主節用法を定形性に関わるテンスと丁寧さの観点から記述した．そして，主節用法において丁寧さを表す =yo の結合が不自然となる用法を，感情モダリティとして分類した．結果として本研究では副詞節として定形性を備えた節は主節として現れる際に意味の変化がなく，過去接辞と丁寧さの =yo との結合にも問題がないことを明らかにした．さらに，本来的に定形性を備えた節は感情モダリティを表しにくいことを指摘し，その用法があったとしても生産性のない限定的な用法であることを述べた．この章では，引用副詞節と接続副詞の主節用法についても記述した．最後に主節化した節に付加することが可能な要素である mwe「なに」と mal=i(-ta)「〜のだ」があることを指摘した．

7.2　節の定形性から見た朝鮮語の副動詞

第 3 章から第 6 章までの考察で明らかになった，副詞節の定形性と関連する現象を表 54 にまとめる．副動詞は，第 1 章で提示したように，定形性の高い節ほど下に配置している．表 54 中の用言の種類，用言の性質は第 3 章にて論じた．用言の種類については，副動詞接辞と結合する際に，用言の偏りがあれば△，なければ◎，少しある場合に○を付けて示した．用言の性質は副動詞と結合したときに意味解釈に影響を与える性質や，結合しやすい用言を示している．焦点助詞は第 4 章で論じた．副動詞接辞に焦点助詞が後接する場合，9 個以上で◎，5 個以上 8 個以下で○，1 以上 4 個以下で△，結合例がない場合に×を示した．アスペクトから推量認識までは第 5 章で論じた．アスペクトは進行アスペクトの -ko iss- が結合可能なら○，結合に制約がある場合は△，結合不可能な場合×で示した．過去テンスは結合不可能な場合×，その他は相対テンスとして解釈されるか，絶対テンスとして解釈されるかを示した．絶対テンスが括弧に入っているところは，ある条件のもとで相対テンスとしても解釈されうることを表している．蓋然性意味と推量意味は，副動詞とムードマーカーの -keyss- と -l kes=i- が結合した場合に，それぞれのムードマーカーの意味がどれほど制限を受けるかを表している．制限がまったくない場合に◎，制限が少しある場合に○，制限が多い場合に△で示した蓋然性認識と推量認識については，副動詞と -keyss- と -l kes=i- が結合した場合に，ムードの認識主体がどの人称になるかを表している．1, 2, 3 はそれぞれ 1 人称，2 人称，3 人称である．最後に主節化は第 6 章で論じた．ここには本来副詞節であるものが主節として現れやすく，主節として現れたときも意味変化がない場合に○，制約があるものに△，主節としては現れない場合に×を示した．本研究では表 54 にまとめた現象の他にも，様々なことを論じた．詳細は各章を参照されたい．

表 54　副詞節の定形性と関連する文法現象

ラベル	副動詞	用言の種類	用言の性質	焦点助詞	アスペクト	過去テンス	蓋然性意味	蓋然性認識	推量意味	推量認識	主節化
様態	-key$_1$	△	状態性用言	◎	×	×	—	—	—	—	△
継起	-(a/e)se$_1$	△	他動性 [低]	◎	×	×	—	—	—	—	×
同時	-myense$_1$	△	限界/非限界	○	△	×	—	—	—	—	×
時間	-(a/e)se$_2$	○	時間用言	△	×	×	—	—	—	—	×
目的	-key$_2$	○	動作性用言	×	×	×	—	—	—	—	×
継起	-ko	△	他動性 [高]	◎	×	×	—	—	—	—	△
契機	-myense$_2$	△	限界動詞	△	×	×	—	—	—	—	×
契機	-nikka$_1$	△	動作動詞	△	○	×	—	—	—	—	△
中断	-taka	△	限界/非限界	△	△	相対	—	—	—	—	×
契機	-teni	△	—	×	○	相対	△	1	—	—	○
譲歩	-(a/e)to	◎	—	×	○	相対／絶対	△	1/2	—	—	×
逆接	-myense$_3$	◎	—	△	○	(絶対)	—	—	△	2	○
原因	-(a/e)se$_3$	◎	—	△	○	絶対	○	1/2	○	1	○
条件	-myen	◎	—	△	○	(絶対)	△	2	△	2	○
理由	-nikka$_2$	◎	—	△	○	(絶対)	○	1/2 /(3)	○	1	○
逆接	-ciman	◎	—	×	○	絶対	◎	1	△	1	○
逆接	-nuntey/-ntey	◎	—	△	○	(絶対)	○	1	○	1/(2)	○

表 54 を見ると，定形性の低い節ほど結合する用言の影響を受けやすく，焦点助詞も結合しやすい．そして TAM マーカーは結合しないか，定形性が低いとなんらかの制限を受け，主節としても現れにくいということがわかる．その逆もまた然りである．おおまかな傾向はあるものの，副動詞間の関係は連続的である．ただ，契機を表す -teni あたりを境に時間的な意味を担う副動詞と，それ以外の論理的な意味を表す副動詞を区切ることができる．-teni は副詞節の事象をきっかけに主節で話者の発見を表し，単純に時間的な関係を表す副動詞とは言えない．そういった意味で特殊な副動詞と言えるだろう．

7.3　今後の課題と展望

本研究で扱いきれなかった問題については，次の 4 点が挙げられる．

1 点目は各章の問題のつながりである．例えば第 4 章では副動詞接辞に焦点助詞が後接する例について，第 5 章では副動詞に TAM マーカーが結合する例について論じたが，焦点助詞とも TAM マーカーとも結びつく例については詳しく述べることができなかった．逆接の -nuntey/-ntey に焦点助詞 =to「〜も」と過去接辞が付いた例などは挙げたが，詳しい結合可否については示していない．副動詞が TAM マーカーと結合している場合，焦点助詞の結合がさらに制限されると予想される．この相互承接の問題は朝鮮語の連辞性がよく現れており，さらなる研究が必要である．

2 点目は副詞節の定形性という基準だけでは説明しきれない現象をどのように扱うかという問題である．第 4 章で指摘したように，副動詞接辞と焦点助詞の結合可否は，単純に節の定形性だけで決まるのではなく，副動詞接辞の由来などにも関わると考えられる．第 5 章で扱った副動詞と TAM マーカーが結合する例について，特にムードマーカーは結合頻度の高い副動詞がそれぞれ異なっていた．その要因は副動詞の意味にあると考えられるが，意味については詳しく考慮することができなかった．今後は定形性という基準に加え，意味の観点からも考察しなければならない．

3 点目は節連結の問題である．本研究では主に副詞節について扱い，その節を包含する上位節や主節についてはあまり詳しく論じることができなかった．第 4 章では，時間関係の副動詞に主題，対照の焦点助詞 =nun/=un が結合し条件を表す例は，他の条件節に包含されない例を挙げ，第 5 章では，副動詞にムードマーカーが結合する例について扱いながら，主節に命令形などが現れやすい例について言及した．しかし，包括的な議論はできておらず，節連結も今後の課題である．

4 点目は，他の副動詞接辞の問題である．本研究では 11 個の副動詞接辞について扱ったが，朝鮮語にはさらにいくつもの副動詞接辞が存在する．第 4 章では継起を表す -kose について少し扱ったものの，他の副動詞接辞については検討できなかった．今後その他の副動詞接辞についても本研究の枠組みが有効であるのか，研究を発展させていく必要がある．

本研究にはこのような問題点が残っているものの，この成果は言語類型に近似性が見られる「アルタイ型」言語の研究にも応用が可能だと考えられる．本研究ではわずかに日本語の

研究を参照した程度であるが，副動詞を多く抱える「アルタイ型」言語，特に日本語との対照によってさらに副詞節の研究を発展させることができるだろう．

参照文献

朝鮮語で書かれた文献（著者가나다라順）

구현정 [ク・ヒョンジョン] (1989) ‘조건과 주제’, “언어” 14: 53-75. 한국언어학회.

국립국어원 [国立国語院] (2005) “외국인을 위한 한국어 문법 2 ― 용법 편”. 서울: 커뮤니케이션 북스. （韓国・国立国語院 (2012)『標準韓国語文法辞典』東京：アルク）

권재일 [クォン・ジェイル] (1985) “국어의 복합문 구성 연구”. 서울: 집문당.

권재일 [クォン・ジェイル] (1991) ‘한국어 접속문 연구사’, “언어학 연구사” 493-536. 서울: 서울대학교 출판부.

김동수 [キム・ドンス] (2011) “순서 표현 연결어미 ‘-고’ 와 ‘-어서’ 연구”. 경희대학교 석사학위 논문.

김민영 [キム・ミニョン] (2009) ‘한국어 접속문의 시제 해석’, “한국어학” 43: 69-104. 한국어학회.

김수정, 최동주 [キム・スジョン，チェ・ドンジュ] (2018) “-면’ 조건문의 유형과 시제’, “언어” 43 (2): 201-221. 한국언어학회.

김용경 [キム・ヨンギョン] (1994) “국어의 때매김법 연구”. 서울: 박이정.

김정대 [キム・ジョンデ] (1999) ‘한국어 접속문에서의 시제구 구조’. “언어학” 24: 75-108. 한국언어학회.

김진수 [キム・ジンス] (1987) “국어 접속조사와 어미 연구”. 서울: 塔出版社.

김찬화 [キム・チャンファ] (2008) ‘련결어미 “-고도” 의 의미양상과 통사적제약’, “중국조선어문” 4: 5-9. 길림성민족사무위원회.

김태엽 [キム・テヨプ] (1998) ‘국어 비종결어미의 종결어미화에 대하여’, “언어학” 22: 171-181. 한국언어학회.

김태엽 [キム・テヨプ] (2000) ‘국어 종결어미화의 문법화 양상’，“語文研究” 33: 47-68. 어문연구학회.

남기심 [ナム・ギシム] (1994) “국어연결어미의 쓰임”. 서울: 서광학술자료사.

남길임 [ナム・ギリム] (1998) “-겠-’ 결합 양상에 따른 종속접속문 연구’，남기심 (편) “국어 문법의 탐구 IV” 423-451. 서울: 태학사.

남윤진 [ナム・ユンジン] (2000) “현대국어의 조사에 대한 계량언어학적 연구”. 서울: 태학사.

野間秀樹 (노마 히데키) (1993) ‘現代韓國語의 接續形 <-다가>에 對하여 ――aspect・taxis・用言分類――’, “朝鮮学報” 149: 1-62. 朝鮮学会.

노마 히데키 [野間 秀樹] (1996) ‘한국어 문장의 계층구조’, “언어학” 19: 133-180. 한국언어학회.

박소영 [パク・ソヨン] (2002) “한국어 부사절과 접속문 체계 다시 보기”, “언어학” 34: 49-73. 한국언어학회.

박재연 [パク・チェヨン] (2006) “한국어 양태 어미 연구”. 서울: 태학사.

백낙천 [ペク・ナクチョン] (2003) “국어의 통합형 접속어미”. 서울: 도서출판 月印.

서정수 [ソ・ジョンス] (1982) '연결어미 {-고}와 {-어(서)}', "言語와 言語學" 8: 53-74. 한국외국어대학교 언어연구소.

서정수 [ソ・ジョンス] (1996) "국어문법" (수정증보판). 서울: 한양대학교 출판원.

徐泰龍 [ソ・テヨン] (1979) "國語 接續文에 대한 研究 —接續語尾의 意味機能을 중심으로 —". 國語研究會.

徐希姃 [ソ・ヒジョン] (2015) "(이)라면', '같으면', '하면' 의 助詞化 研究', "어문연구" 43 (2): 151-177. 한국어문교육연구회.

손세모돌 [ソン・セモドル] (1996) "국어 보조용언 연구". 서울: 한국문화사.

안정아 [ア・ジョンア] (2010) "형용사 + -게도' 형의 양태성 고찰', "한국어학" 46: 229-251. 한국어학회.

유유현 [ユ・ユヒョン] (2014) '연결어미 '-고' 에 결합하는 조사 '는' 의 의미와 결합 환경 분석', "텍스트언어학" 36: 231-255. 한국텍스트언어학회.

유현경 [ユ・ヒョンギョン] (2006) '형용사에 결합된 어미 '-게' 연구', "한글" 273: 99-123. 한글학회.

윤평현 [ユン・ピョンヒョン] (1988) "-게, -도록' 의 의미에 대하여', "국어국문학" 100: 307-318. 국어국문학회.

윤평현 [ユン・ピョンヒョン] (1989) "국어의 접속어미 연구". 서울: 翰信文化社.

윤평현 [ユン・ピョンヒョン] (2005) "현대국어 접속어미 연구". 서울: 박이정.

李錦姬 [イ・グムヒ] (2011) '統辭的 構成에서 語彙化한 副詞에 대하여', "어문연구" 39 (1): 117-135. 한국어문교육연구회.

이금희 [イ・グムヒ] (2012) '조건을 나타내는 '-다가는, -고는, -어서는, -고서는' 에 대하여', "언어와 문화" 8 (3): 227-250. 한국언어문화교육학회.

이기갑 [イ・ギガプ] (2001) '사태의 연속성을 강조하는 '는' 과 '을랑", "국어학" 37: 149-175. 국어학회.

Rhee, Seongha (2009) "한국어의 문법화", Invited lecture at the World Class University Program, Chonnam National University. 1-10.

이은경 [イ・ウンギョン] (1994) '텍스트에서의 접속어미의 기능 — 단편 소설 "나의 가장 나종 지니인 것" 을 대상으로 —', "텍스트언어학" 2: 287-317. 한국텍스트언어학회.

이은경 [イ・ウンギョン] (2000) "국어의 연결 어미 연구". 서울: 태학사.

이은경 [イ・ウンギョン] (2015a) '대등 접속문의 시제 표현', "국어학" 73: 141-172. 국어학회.

李恩卿 [イ・ウンギョン] (2015b) '배경・이유・조건・양보 접속문의 시제 표현', "진단학보" 123: 145-171. 진단학회.

이은경 [イ・ウンギョン] (2015c) '한국어 연결 어미의 의미 기술에 대하여', "한국학연구" 38: 333-359. 인하대학교 한국학연구소.

李智涼 [イ・ジリャン](1982) '現代國語의 時相形態에 대한 研究 —'-었-', '-고 있-', '-어 있-' 을 중심으로—', '國語研究" 51: 1-83. 國語研究會.

이카라시 고이치 [五十嵐 孔一] (2000) '연결어미와 종결어미의 호응관계에 대하여 —{-(으)니까

}를 중심으로一', "형태론" 2 (2): 289-305. 서울: 박의정.
이희자・이종희 [イ・ヒジャ，イ・ジョンヒ] (2006) "한국어 학습용 어미・조사 사전". 서울: 한국문화사. (李姫子・李鍾禧 (2010) 『韓国語文法　語尾・助詞辞典』五十嵐孔一・申悠琳訳. 東京：スリーエーネットワーク)
張京姫 [チャン・ギョンヒ] (1985) "現代國語의 樣態範疇研究". 塔出版社.
장소원 [チャン・ソウォン] (2008) '현대국어의 생략 부사어', "국어학" 52: 55-84. 국어학회.
전영진 [チョン・ヨンジン] (2002) "국어 연결어미의 종결어미화 연구", 경성대학교 교육대학원 석사학위논문.
조선 민주주의 인민 공화국 과학원 언어 문학 연구소 언어학 연구실 [朝鮮民主主義人民共和国科学院言語文学研究所言語学研究室] (1963) "조선어 문법 2". 평양: 과학원 출판사.
蔡琬 [チェ・ワン] (1975) '助詞 '는' 의 意味', "국어학" 4: 93-113. 국어학회.
蔡琬 [チェ・ワン] (1977) "現代國語 特殊助詞의 研究" 39. 國語研究會.
崔東柱 [チェ・ドンジュ] (1994) 國語 接續文에서의 時制現象', "국어학" 24: 45-86. 국어학회.
최재희 [チェ・ジェヒ] (1991) "국어의 접속문 구성 연구". 서울: 탑출판사.
한동완 [ハン・ドンワン] (1996) "國語의 時制 研究". 서울: 태학사.
함병호 [ハム・ビョンホ] (2013) '보조사 '도' 통합형 접속어미에 대한 연구', "동악어문학" 60: 107-148. 동악어문학회.
洪思滿 [ホン・サマン] (1983) "國語特殊助詞論". 서울: 學文社.
홍사만 [ホン・サマン] (2002) "국어 특수조사 신연구". 서울: 역락.

日本語で書かれた文献（著者あいうえお順）

五十嵐孔一 (1997)「「原因・理由」を表す接続形 "-(아/어)서" と "-(으)니까" について――従属節の包含構造を中心にして――」『朝鮮学報』162: 15-60. 朝鮮学会.
五十嵐孔一 (2011)「現代朝鮮語の '-다 보면' と '-다 보니까' について」『東京外国語大学論集』82: 35-49. 東京外国語大学.
五十嵐孔一 (2012)「現代朝鮮語の '-고 보면' と '-고 보니까' について」『東京外国語大学論集』84: 35-57. 東京外国語大学.
井上和子 (1976)『変形文法と日本語（下）』東京: 大修館書店.
任明秀 [イム・ミョンス] (2005)「現代朝鮮語の特殊助詞 '-도' について」『韓国語学年報』1: 155-214. 神田外語大学韓国語学会.
任明秀 [イム・ミョンス] (2006)「現代朝鮮語の特殊助詞の目録について」『韓国語学年報』2: 49-99. 神田外語大学韓国語学会.
岩崎卓 (1995)「従属節のテンスと視点」『現代日本語研究』2: 67-84. 大阪大学文学部現代日本語講座.
内山政春 (1997)「現代朝鮮語における合成用言について――＜用言第 III 語基 + 用言＞の分析――」『朝鮮学会』165: 39-114. 朝鮮学会.
内山政春 (1999)「現代朝鮮語の接続形 -어서と -고について」『朝鮮学報』173: 19-52. 朝鮮学会.

内山政春 (2004)「現代朝鮮語の接続形 -다가について」『朝鮮学会』190: 53-99. 朝鮮学会.
大堀壽夫 (2002)『認知言語学』東京：東京大学出版会.
尾上圭介 (1999a)「南モデルの内部構造」『言語』28 (11): 95-102. 東京：大修館書店.
尾上圭介 (1999b)「南モデルの学史的意義」『言語』28 (12): 78-83. 東京：大修館書店.
風間伸次郎 (1991)「ナーナイ語テキスト」黒田信一郎・津曲敏郎編『ツングース言語文化論集 1』北海道大学文学部.
風間伸次郎 (1999)「ツングース諸語における指定格について」『語学研究所論集』4: 51-79. 東京外国語大学語学研究所.
風間伸次郎 (2012)「アルタイ型言語における準動詞と言いさしについて」『北方言語研究』2: 139-162. 北海道大学大学院文学研究科.
風間伸次郎 (2014)「［テーマ企画：特集 他動性］まえがき」『語学研究所論集』19: 33-70. 東京外国語大学語学研究所.
風間伸次郎 (2017)「条件と継起の連続性について―疑似条件形式を中心として―」『北方言語研究』7: 35-68. 北海道大学大学院文学研究科.
亀井孝・河野六郎・千野栄一編 (1996)『言語学大辞典 第 6 巻 術語編』東京：三省堂.
菅野裕臣 (1988; 1991)「文法概説」，菅野裕臣・早川嘉春・志部昭平・浜田耕策・松原孝俊・野間秀樹・塩田今日子・伊藤英人『コスモス朝和辞典』(第 2 版) 所収, 1007-1048, 東京：白水社.
菅野裕臣 (2006a)「朝鮮語の形態論的単位について」『韓国語学年報』2: 159-177. 神田外語大学韓国語学会.
菅野裕臣 (2006b)「朝鮮語の分析的な形について」『アルタイ語研究 I』109-124. 大東文化大学語学教育研究所.
金智賢 [キム・ジヒョン] (2018)『現代日本語と韓国語における条件表現の対照研究：語用論的連続性を中心に』東京：ひつじ書房.
金美玹 [キム・ミヒョン] (2012)「現代朝鮮語の “連体形 + 것같다” 形について――〈“-ㄴ가보다” 形〉との比較を中心に――」『朝鮮学報』222: 67-106. 朝鮮学会.
黒島規史 (2010)「現代朝鮮語の接続形〈hamyense〉について――アスペクト (aspect)，タクシス (taxis) の観点から――」東京外国語大学卒業論文（未公刊）.
黒島規史・崔正熙 [チェ・ジョンヒ] (2017)「現代朝鮮語の情報表示の諸要素」『語学研究所論集』22: 139-153. 東京外国語大学語学研究所.
権在淑 [クォン・ジェスク](1992)「現代朝鮮語の用言の接続形 -니까について」『Lingua』3: 37-59. 上智大学一般外国語主事室.
権在淑 [クォン・ジェスク](1994)「現代朝鮮語の接続形 III-서について」『朝鮮学報』152: 1-46. 朝鮮学会.
河野六郎 (1979)『河野六郎著作集 第 1 巻』東京：平凡社.
澤田治美 (2006)『モダリティ』東京：開拓社.
柴公也 (1994)「「～(으)면서」の意味と用法について」『熊本学園大学 文学・言語学論集』1(1/2):

1-21. 熊本学園大学.
白川博之 (2009)『「言いさし文」の研究』. 東京：くろしお出版.
白川博之 (2015)「「言いさし文」の文法」『日本語学』34(7): 2-13. 東京：明治書院.
須田義治 (2003)『現代日本語のアスペクト論』東京：海山文化研究所.
高橋太郎 (2003)『動詞九章』東京：ひつじ書房.
池玟京 [チ・ミンギョン] (2013)「現代韓国語の接続語尾「는데 neunde」について」『朝鮮語研究』5: 129-161. 東京：ひつじ書房.
池玟京 [チ・ミンギョン] (2017)「韓国語接続語尾 '-지만' ― '-는데' との比較を中心に ―」『朝鮮語研究』7: 73-94. 東京：ひつじ書房.
池玟京 [チ・ミンギョン] (2018)『接続表現の多義性に関する日韓対照研究』東京：ひつじ書房.
鄭鉉淑 [チョン・ヒョンスク] (1996)「現代朝鮮語接続形 -고について ――その意味・用法をめぐって――」『朝鮮学会』161: 1-93. 朝鮮学会.
鄭玄淑 [チョン・ヒョンスク] (2002)「I-고, III-서と動詞のアスペクト的特徴との関連性 ――アスペクト形式による用言分類を通して――」『朝鮮学会』180: 1-51. 朝鮮学会.
鄭玄淑 [チョン・ヒョンスク] (2005)「現代朝鮮語の II-면서について」『韓国語学年報』1: 43-72. 神田外語大学韓国語学会.
塚本秀樹 (2012)『形態論と統語論の相互作用：日本語と朝鮮語の対照言語学的研究』東京：ひつじ書房.
角田太作 (1991; 2009)『世界の言語と日本語』改訂版. 東京：くろしお出版.
角田太作 (2007)「他動性の研究の概略」角田三枝・佐々木冠・塩谷亨 (編)『他動性の通言語的研究』3-11. 東京：くろしお出版.
西光義弘 (2006)「条件表現とは何か？」益岡隆志編『条件表現の対照』217-226. 東京：くろしお出版.
仁田義雄 (1991)『日本語のモダリティと人称』東京：ひつじ書房.
野田尚史 (1989)「文構成」『講座 日本語と日本語教育 1』67-95. 東京：明治書院.
野田尚史 (1994)「仮定条件のとりたて――「～ても」「～ては」「～だけで」などの体系――」『日本語学』13(9): 34-41. 東京：明治書院.
野田尚史 (2015)「日本語とスペイン語のとりたて表現の意味体系」『日本語文法』15(2): 82-98. 日本語文法学会.
野間秀樹 (1988)「〈하겠다〉の研究――現代朝鮮語の用言の mood 形式をめぐって――」『朝鮮学報』129: 1-73. 朝鮮学会.
野間秀樹 (1990)「〈할것이다〉の研究――再び現代朝鮮語の用言の mood 形式をめぐって――」『朝鮮学報』134: 1-64. 朝鮮学会.
野間秀樹 (1994)「現代朝鮮語の語彙分類の方法」『言語研究 IV』45-68. 東京外国語大学.
野間秀樹 (1997)「朝鮮語の文の構造について」国立国語研究所『日本語と外国語との対照研究 IV 日本語と朝鮮語 下巻 研究論文編』103-138. 東京：くろしお出版.
蓮沼昭子 (1993)「「たら」と「と」の事実的用法をめぐって」『日本語の条件表現』73-97. 東

京：くろしお出版.
浜之上幸 (1991)「現代朝鮮語のアスペクト的クラス」『朝鮮学報』138: 1-93. 朝鮮学会.
堀江薫・プラシャント=パルデシ (2009)『言語のタイポロジー――認知類型論のアプローチ――』東京：研究社.
前田直子 (2009)『日本語の複文 ――条件文と原因・理由文の記述的研究――』東京：くろしお出版.
松尾勇 (1997)「朝鮮語の接続語尾 -더니について」国立国語研究所『日本語と外国語との対照研究 IV 日本語と朝鮮語 下巻 研究論文編』83-102. 東京：くろしお出版.
南不二男 (1974)『現代日本語の構造』東京：大修館書店.
南不二男 (1993)『現代日本語文法の輪郭』東京：大修館書店.
村田寛 (1998)「＜連体形＋것 같다＞をめぐって――現代朝鮮語のムード形式の研究――」『朝鮮学報』168: 1-37. 朝鮮学会.
ヤコブセン, ウェスリー・M (2011)「日本語における時間と現実性の相関関係 ―「仮定性」の意味的根源を探って―」『国語研プロジェクトレビュー』5: 1-19. 国立国語研究所.
山越康裕 (2012)『詳しくわかるモンゴル語文法』東京：白水社.
油谷幸利・門脇誠一・松尾勇・高島淑郎編 (1993)『朝鮮語辞典』東京：小学館.

英語で書かれた文献（著者 abc 順）

Akatsuka, Noriko and Sohn Sung-Ock S. (1994) Negative conditionality: The case of Japanese -tewa and Korean -taka. In Noriko Akatsuka (ed.) *Japanese/Korean Linguistics* 4: 203-219. Stanford: CSLI.
Bak, Sung-Yun (2003) Conditionals in Korean Revisited. “담화와 인지” 10(2): 25-52. 담화・인지언어학회.
Bisang, Walter (2007) Categories that make finiteness: discreteness from a functional perspective and some of its repercussions. In Irina Nikolaeva (ed.) *Finiteness*, 115-137. Oxford: Oxford University Press.
Cristofaro, Sonia. (2016) Routes to insubordination. In Nicholas Evans and Honoré Watanabe (eds.) *Insubordination*, 393-422. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins.
Croft, William (2013) *Radical Construction Grammar: Syntactic Theory in Typological Perspective*. Oxford: Oxford University Press.
DeLancey, Scott (1987) Transitivity in grammar and cognition. In Russel S. Tomlin (ed.) *Coherence and grounding in discourse*, 53-68. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins.
Evans, Nicholas (2007) Insubordination and its uses. In Irina Nikolaeva (ed.) *Finiteness*, 366-431. Oxford: Oxford University Press.
Garey, Howard B. (1957) Verbal Aspect in French, *Language* 33: 91-110.
Givón, Talmy (1990) *Syntax: A Functional-Typological Introduction*, vol. 2. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins.

Greenberg, Joseph H. (1966) Some Universals of Grammar, with Particular Reference to the Order of Meaningful Elements. In Joseph Greenberg H. (ed.) *Universals of Language*, 73-113. Cambridge and Massachusetts: MIT Press.

Haiman, John (1986) Constraints on the form and meaning of the protasis. In Elizabeth Closs Traugott, Alice ter Meulen, Judy Snitzer Reilly & Charles A. Ferguson (eds.) *On conditionals*, 215-227. Cambridge: Cambridge University Press.

Haspelmath, Martin (1995) The converb as a cross-linguistically valid category. In Martin Haspelmath & Ekkehard König (eds.) *Converbs in Cross-Linguistic Perspective*, 1-55. Berlin: Mouton de Gruyter.

Haspelmath, Martin (1996) Word-class-changing inflection and morphological theory. In Geert Booij and Jaap van Marie (eds.) *Yearbook of morphology 1995*, 43-66. Dordrecht: Kluwer.

Hopper, Paul J. and Sandra A. Thompson (1980) Transitivity in grammar and discourse. *Language* 56 (2): 251-299.

Kim, Minju (2008) A corpus-based study of the grammaticalization of the Korean connectives mye and myense to sentence final particles. In M. Endo Hudson, S. Jun, P. Sells, P. M. Clancy, S. Iwasaki, and S-O. Sohn (eds.) *Japanese/Korean Linguistics* 13: 335-345. Stanford: CSLI.

Koo, Hyun Jung & Rhee, Seongha (2000) Grammaticalization of a Sentential End Marker from a Conditional Marker, 1-6. SECOL LXII.

König, Ekkehard & Kortmann, Bernd (1991) On the reanalysis of verbs as prepositions. In Gisa Rauh (ed.) *Approaches to Prepositions*, 109-125. Tübingen: Gunter Narr Verlag.

Lehmann, Thomas (1989; 1993) *A Grammar of Modern Tamil*. Pondicherry: Pondicherry Institute of Linguistics and Culture.

Malchukov, Andrej L. (2005) Case pattern splits, verb types, and construction competition. In Mengistu Amberber Helen de Hoop (eds.) *Competition and Variation in Natural Languages: the Case for Case*. 73-117. London/New York: Elsevier.

Nikolaeva, Irina (2007) Introduction. In Irina Nikolaeva (ed.) *Finiteness*, 1-19. Oxford: Oxford University Press.

Ohori, Toshio (1995) Remarks on suspended clauses: a contribution to Japanese phraseology. In Masayoshi Shibatani and Sandra A. Thompson (eds.) *Essays in Semantics and Pragmatics*, 201-219. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins.

Rhee, Seongha (2002) From silence to grammar: grammaticalization of ellipsis in Korean, 1-13. New Reflections on Grammaticalization II Conference, University of Amsterdam, The Netherlands.

Rhee, Seongha (2011) Context-induced reinterpretation and (inter)subjectification: the case of grammaticalization of sentence-final particles, *Language Sciences* 34(3): 284-300. Elsevier.

Sohn, Ho-min (1999) *The Korean Language*. Cambridge: Cambridge University Press.

Sohn, Sung-Ock, S. (1996) On the development of sentence-final particles in Korean. In Noriko

Akatsuka, Shoichi Iwasaki and Susan Strauss (eds.) *Japanese/Korean Linguistics* 5: 219-234. Stanford: CSLI.

Sohn, Sung-Ock, S. (2003) On the emergence of Intersubjectivity: An analysis of the sentence-final nikka in Korean. In W. McClure (ed.) *Japanese/Korean Linguistics* 12: 52-63. Stanford: CSLI.

Sohn, Sung-Ock (2015) The emergence of utterance-final particles in Korean. In Sylvie Hancil, Alexander Haselow and Margje Post (eds.) *Final Particles*, 181-195. Berlin: De Gruyter Mouton.

Swan, Michael (2005) *Practical English Usage* (Third Edition). Oxford: Oxford University Press.

Sweetser, Eve E. (1990) *From Etymology to Pragmatics: Metaphorical and Cultural Aspects of Semantic Structure*. Cambridge: Cambridge University Press.（『認知意味論の展開―語源学から語用論まで』澤田治美訳，東京：研究社，2000）

Thompson, Sandra A., Robert E. Longacre and Shin Ja J. Hwang (2007) Adverbial clauses. In Timothy Shopen (ed.) *Language Typology and Syntactic Description, Volume 2: Complex Constructions* [2nd edition], 237-300. Cambridge: Cambridge University Press.

Traugott, Elizabeth Closs (1985) Conditional markers. In John Haiman (ed.) *Iconicity in Syntax*, 289-307. Amsterdam: John Benjamins.

Wallace, Stephen (1982) Figure and Ground: The Interrelationships of Linguistic Categories. In Hopper, Paul J. (ed.) *Tense-Aspect: Between Semantics & Pragmatics*, 201-223. Amsterdam: John Benjamins.

ロシア語で書かれた文献（著者 abv 順）

Džanmavov, Jusup D. (1967) *Deepričastija v kumykskom literaturnom jazyke (sravnitel'no s drugimi tjurkskimi jazykami)*. [クムク語標準語における副動詞（他のチュルク諸語との比較から）] Moskva: Nauka.

Račkov, G. E. (1962) Predel'nye glagoly v korejskom jazyke. [朝鮮語における限界動詞] *Filologija Stran Vostoka* No. 306: 32-45. Leningrad: LGU.

Xolodovič, A. A. (1954; 2010) *Očjerk grammatiki korejskogo jazyka*. [朝鮮語文法概説] Moskva: URSS.

用例収集に用いた資料

문화관광부・국립국어원 (2007) DVD-ROM "21 세기 세종계획 최종 성과물" 말뭉치

KBS ドラマ台本 (http: //tv.kbs.co.kr/): "굿바이 솔로", "달자의 봄", "러빙유", "미안하다, 사랑한다", "백설공주", "봄의 왈츠", "웨딩", "풀하우스", "헬로! 애기씨"

방송대본열람 (http://db.kocca.kr/db/broadcastdb/scriptList.do?menuNo=200462): "시크릿 가든"

謝辞

本論文を完成させるまでに，様々な方から指導や助言，協力を賜りました．ここに記して感謝もうしあげます．

指導教員である趙義成先生には，博士課程 2 年目から指導をお願いし，学問に限らず様々な場面でお世話になりました．北朝鮮の研究にも詳しい先生からは，博士論文に関して様々な角度から助言をいただきました．副指導教員である南潤珍先生には言語学のみならず朝鮮語母語話者としていろいろなことを教えていただきました．同じく副指導教員である風間伸次郎先生には博士課程 2 年目から指導をお願いし，朝鮮語を含めた「アルタイ型」言語の観点からも多くの意見をいただきました．

この論文を書き上げることができたのは，なんといっても趙義成先生，南潤珍先生を含む東京外国語大学朝鮮語専攻の先生方のご指導の賜物だと思っております．筆者は学部から博士課程までずっと東京外国語大学で学び，朝鮮語の基礎から先生方にご教授いただきました．博士論文の審査員を引き受けていただいた五十嵐孔一先生にも学部 1 年生のときからお世話になりました．また，元東京外国語大学准教授の伊藤英人先生には修士課程から博士課程 1 年目まで指導教員としてご指導いただき，朝鮮語学にとどまらず様々なことを学びました．この博士論文のアウトラインは先生の指導の下に作成しています．

他にも，東京外国語大学で学びをともにした方々には，授業やゼミの中に限らず，数え切れないほどの助言や刺激をもらうことができました．朝鮮語の言語事実に関しては，特に林恒秀さんと金恵珍さんにたくさんの質問に答えていただきました．ここに全ての方のお名前は書けませんが，その他多くの母語話者の方に協力していただきました．

これらの方々からの学恩に少しでも報いることができていれば，これ以上の喜びはありません．

なお，本研究は一部 JSPS 科研費 JP16J07745「現代朝鮮語における接続形の構造と意味に関する総合的研究」の助成を受けて行われました．ご支援くださった方々にも感謝の意を表します．